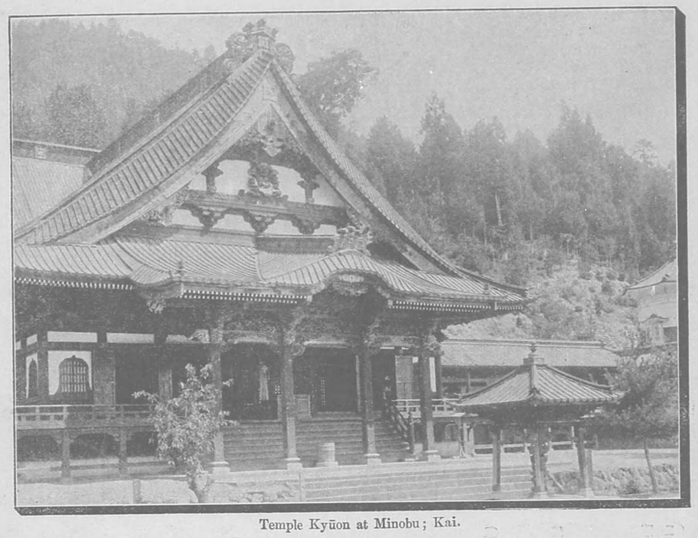
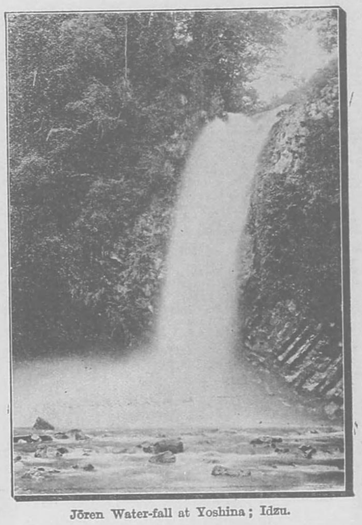


（甲斐）身延山久遠寺

Temple Kyūon at Minobu; Kai.

（甲斐松里村）惠林寺内武田信玄の墓並供養塔

Tomb of Takeda Shingen,
Matsusato-village at Kai.



（伊豆芳名）淨蓮の瀧

Jōren Water-fall at Yoshina; Idzu.

身延山久遠寺（甲斐）

日蓮宗總本山にして、甲州南巨摩郡身延村に在り、文永十一年、日蓮上人、鎌倉より此地に來り、草庵を西ケ谷に結び居ること數年、弘安四年に至り始めて一堂を構へて久遠寺と稱せしを文明六年、第十一世日朝上人、之を今の地に移して大伽藍を建立せり、總門は村の入口に在りて、門内老松列を爲し、左側の丘上に淡島祖師堂あり、行くこと二町にして、橋を度れば商家連甍一市街を爲すあり、是れ即ち身延村にして下町、中町、上町等を過ぎ、右折して石階を登り盡せば、祖師堂、眞骨堂、位牌堂の三棟巍然として連なり、彫鏤彩彤共に精美を極めて、其壯觀筆舌の能く盡す所にあらず其他鐘樓、寶淨龕、諸侯納骨堂、奥殿、大庫裡等あり、其支坊に至つては枚擧するに遑あらず、毎歳陰暦十月の賽日には、信徒群聚境内爲めに立錐の地を餘さずと云ふ

Minobu-san.

This is a mountain in the province of Kai, west of Tōkyō, which is the seat of the Buddhist temple Kyūon-ji, the head-quarters of the Nichiren sect. Kyūon-ji was founded in 1281 by Nichiren himself. The annual festival is held in November and is attended by great crowds of worshippers.

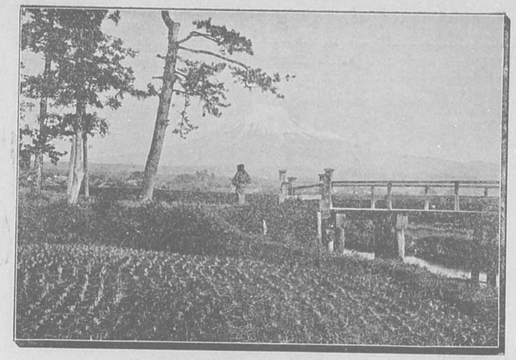
淨蓮瀧（伊豆芳名）

天城の高峰巍巍として豆州の中央に聳え、北麓に湯ケ島の溫泉場あり、狩野川の急流崖を嚙んで奔駛し、樹綠に溪幽に自ら溪間の一小仙境をなす、湯ケ島溫泉の大字淨蓮寺に、淨蓮瀧あり、高さ八十尺餘、幽邃なる溪間にかゝりて滔々として流下す、瀑水奔騰、岩に微し崖に衝り、飛沫散亂して雨の如く、水氣澎湃として霧を生ず、加之に、地塵埃を遠ざかりて境自ら幽に盛夏の候と雖も、一度びこの地に遊べば、冷氣心骨に浸みて、また炎熱あるを知らざらむ、湯ケ島は三島町を去ること八里、豆相鐵道の便をかりて大仁に着し、これより馬車の便をかるとを得べし。

武田信玄墓（甲斐）

甲州東山梨郡秩父道の松里村、字小屋敷と謂へる處に、乾德山惠林寺と號せる古刹ありて、寺内に武田信玄の墓あり、抑も此寺は、元德二年、二階道入道道蘊の創建に係り、夢想國師の開山なるも、永祿二年、武田晴信寺領三百貫を附して、壽藏所とし、改めて臨濟宗古規關山派となせし等の由緣ある機山信玄大居士と曰ひ、終に祠を立てゝ之を祭るに至れり、祠中に晴信の像あり、即ち京都の佛工、弘清をして彫刻せしめたるものにして、容貌不動明王に似たるより、里人之を武田不動尊と稱せり、此他、尙ほ武田信玄の墓と謂へるもの、西山梨郡相川村圓光院境内、幷に同村字岩窪田圃の中にあり、何れか眞、何れか僞、考證まだ定らず、姑らく記して攷古家の敎を待つ。

（甲斐）戻り橋上より富士を見る

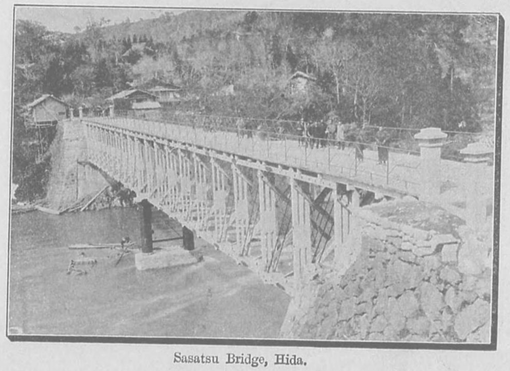


Modori Bridge; Kai.

（甲斐）猿橋

High Bridge, Kai.

（飛彈）笹津橋



Sasatsu Bridge, Hida.

笹津橋（飛彈）

飛彈の國たる、山嶽重疊して、淺溪幽谷所在に通じ、行旅の客往々征途に惱むとあり、笹津橋の架せらるゝところは、行通の要に當りて、この國を旅行するものこの渡によらざる少し、然るに、架設以前は、渡越のこと不完全にして、困難するもの多かりしが、土地の豪家佐藤助九郎といへる人、深くこれを憂ひ、遂に獨力を揮ふて橋梁架設の事を企計し、二万餘圓の巨金を投じて、全く其工事を完成せり、開橋の當日は、縣の大官貴人ことゞくく臨場して、其儀式頗る盛大なりしとぃふ。

猿橋（甲斐）

甲州北都留郡大里村に在りて、甲州街道の通路に架す、桂川の流れ此地に來りて、幅最も窄く、兩岸相迫りて斷崖壁立、水勢最も急激にして、奔湍宛ら白玉を轉ばすが如く、觀望極めて雄偉なり、橋は長さ十七間、幅三間にして、橋下一柱の支ふるものなく、奇工眞に驚くべきものあり、傳へて飛驒の内匠の造る所なりと云ひ、構造自から泰西の建築法に適へりと稱す、橋上より俯瞰すれば、水は數丈の脚下に在りて、兩岸皆岩より成り、雜樹其間を點綴して景致頗る妙なるのみならず、見る人をして大に氣魄を動かさしむるものあり由來妙景は危地に多し、此橋も亦其一に洩れざるもの乎。

189 **Saru-hashi.**

This is a bridge over the Katsura River on the Kōshū-kaidō. The river at this point is very narrow and the current is correspondingly rapid. The bridge is suspended high above the surface of the river and affords a picturesque view of the valley.

中教院大神宮（飛驒高山）

高山町は、世に小京都と呼ばれ、土地の風景に富みたるを以て名あり、宮川の流、町の中央を貫いて、瀟洒なる橋梁之に架せられ、東方の丘陵は、東山の名を冠して、神社佛閣所在にたちならび、京都の東山に髣髴たるものあり、城山は、恰も嵐山の如く、宮川の清流は、鴨川の淙々たるに匹敵するものなり、神社の中にても、中教院大神宮は規摸宏壯にして社地の景色頗る見るべく、土地の鎮守として參詣の者常に絶ゆるとなし、高山町を訪ふものは、先づこの神祠に詣して、境内の風景を賞し、更に、四近の勝景を巡覽せば、恰も、仙境に入りし感あらん。

長瀨旅館（飛驒高山）

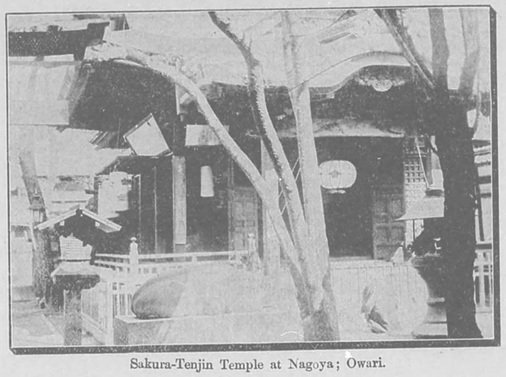
高山町が、飛驒の中央にありて、繁昌を極むるは、其地の產物に饒なるに因る、隨ふて、四方の旅客のこの地に入るもの頗る多し、長瀨清作の營める旅館は、これらの旅客の爲めに便利と安靜を與ふるはいふを待たず、質朴にして費費を貪らず、たゞ、旅客の意に盈たんことを旨とするとなれば、江湖の信用も淺からず、又同旅館は、兼て運輸の業をも營むものなれば、この地の商業に關係ある旅客には、尤も便利なるものなりといふ。

櫻天滿宮（尾張）

名古屋市、菅原町四丁目の南側にありて、菅原道眞の靈を祭る。社殿の構造頗る古雅にして、神威の莊嚴なるを覺えしめ、參詣のもの襟を正さゞるはなし。この神社の境内に、一株の老櫻ありて、其趣き頗るたゞそかなりしより、これを祠りて神木となせしにより、櫻天滿宮の名を以て知らるゝにいたれりとぞ。昔し、織田信秀深く菅丞相を尊崇し、北野より其木像を移して、この處に奉祀し、後遂に現今の境に宮居を定めしものなり。二月廿五日の例祭は、非常に繁華を極め、花木をひさぐもの群集して、甚だ壯觀を極むといふ。

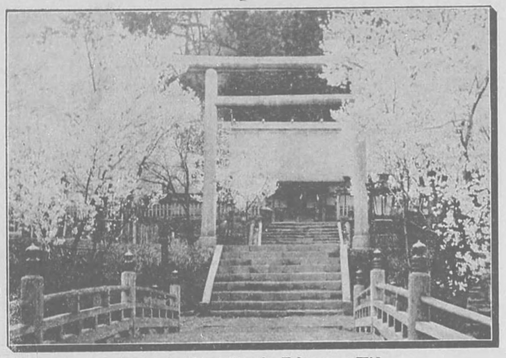
豐川稻荷（三河）

豐橋町を北方に距ること二里餘、寶飯郡豐川村の妙嚴寺境内にあり、堂宇莊嚴にして裝飾の美をつくし、凡ての規摸は、神社の体裁を備ふと雖も、本尊は、吒枳尼天の佛像にして稻荷の本体にはあらずといへり、この稻荷は世俗の信奉するもの頗る多くして、四時參詣者の絶ゆるときなく、各地に、支社の數亦た多し、境内は、即ち、妙嚴寺域にして數多の佛室いづれも輪奐の美をつくし、庭園の結搆配置は、人力の巧を極めて、假山泉石より、奇木佳樹に至るまで、觀るものをして目を驚かしむるものあり、豐川稻荷の名稱とゝもに夙に世の賞讃するところなり。



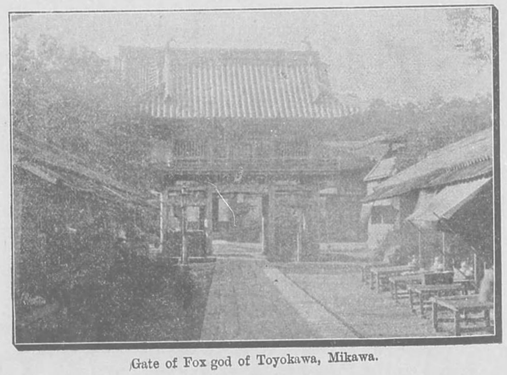
（尾張名古屋）櫻天神社

Sakura-Tenjin Temple at Nagoya; Owari.



（飛驒高山）中教院太神宮

Chūkyō-in Shintō-Temple, Takayama; Hida.



（三河豐川）稻荷神社山門

Gate of Fox-god of Toyokawa, Mikawa.

（飛驒高山）長瀨旅館

Nagase Inn at Takayama, Hida.

柏原沼の富士（駿河）

駿州富士郡浮島ヶ原の近傍に、柏原沼と云へるあり、地は一畝の廣原にして、東海國道の標木たる青松の、形ち面白く打並べる中に、麥漉柴畦の打續きたるなど、其形勝得も言はれざる趣きあるに、近く富士が根の全形を望み得て、白扇到懸の有樣宛然たる後ろには、箱根足柄の諸山、相對して拱立せる光景など、筆舌に盡すべうもあらず、眞に東海道中の絶勝なるべし、沼には形ち普通のものより稍や大なる、蜆貝を生し、當世の名物として持囃さるれば、旗亭杯を嗔びて、蜆汁の羹に舌鼓うたせつゝ、三國一の富士の山を眺むるも妙ならん。

Kashiwabara Marsh.

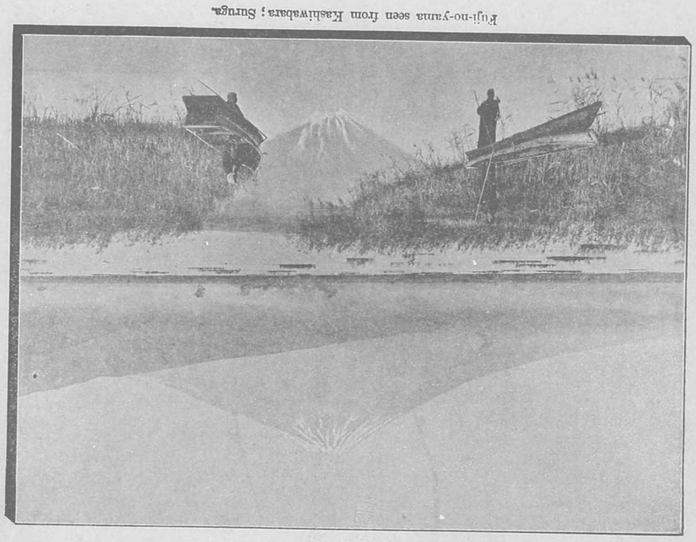
This Marsh is situated near the foot of Mt. Fuji in Fuji-gōri, not far from the Tōkai-dō. It is chiefly noted for the beautiful view of Mt. Fuji which it affords.

織田信長之墓（美濃）

岐阜市と、長良川を隔てたる福光村に、一宇の古刹あり、崇福寺といふ、境内の風光頗る佳にして、堂宇樓塔參差として立ち並び、自ら其靈境たるを想はしむ。この寺は、文明年中の創始にして、本尊は、地藏願王菩薩なりといふ。境内に織田信長の墳墓及び、其廟宇あり、信長英邁の資を以て群雄中に頭角を抽んで、志業僅に成るに垂んとして賊手に斃る、其遺恨想ふべし、遺骸は、始め起りし本土に葬られしも、魂魄は必ず京師の天に飛び迷びしならん、今日、これを吊へば、自ら、懷古の念に堪へざるものあり。寺には寶物として織田氏に關する書類等多く保存せらる、まさに考古家の好資料たるべし。

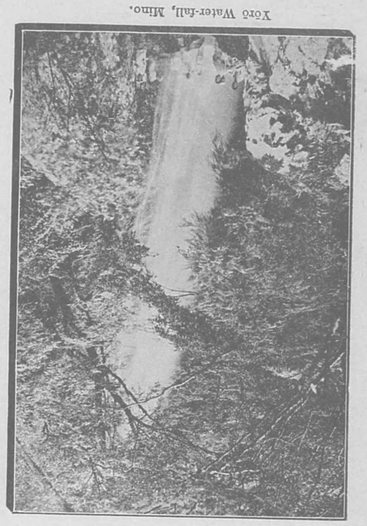
養老瀑布（美濃）

濃州多藝郡白石村、養老山中に在り、高田町の坤位、一里にして山村に達し、是より瀑布に至るまで、山路十町、崎嶇たる山道を歩し、翳蔚たる老樹を潛りて巨巖の處々に起伏せる處に至れば、飛泉の響蓼々として松籟に和し宛も仙境に入るが如し、瀧に近けば、石滑かにして苔封じ冷風衣を吹き、飛沫面を侵して三伏の熱さを知らず、瀧の高さは直下九丈、幅九尺にして、斷崖の上より落ち、下は只だ一枚の巖石にして其の深さ漸く人の脛を浸すに過ぎず、而も其水極めて甘、且つ冷かにして、之を飲み浴すれば、能く人の病を治すと言へり、近傍の山中には櫻楓多く、四季折々の詠め亦妙なり、此瀧養老年中孝子何がしの發見に係ること、大日本史にも見へて、世の人皆知る所なり。



（駿河）柏原よりの富士を見る

Fuji-no-yama seen from Kashiwabara; Suruga.



（濃美）瀧の養老

Yoro Water-fall, Mino.

（濃美）長良村織田信長の墓

Tomb of Nobunaga at Sōfukū-ji, Nagara-village; Mino.

横藏寺（美濃横藏）

濃州大野郡横藏村に在り、延暦二十四年僧最澄の草創に係り、天台宗比叡山延暦寺の末寺なり伽藍都て三十八坊、本尊は本と唐の貞觀年中、女弟三藏、西天笠大王より得たるものにして、延暦二十二年、最澄の唐に渡りし時、臺州國清寺道邃和尚より授りしものありしが、後、元龜年中之を本山中堂に安じ別に最澄一刀三體の藥師佛を此寺に安置したりと傳ふ、寺記によれば蓮生坊熊谷直實、亦、此山に上り、四十八世の學頭となれるよし、明かに誌されたり、寺寶の佛像書畫幅は、孰れも皆希世の逸品にして、藻鑑家の激賞して措く能はざるもの多く、中にも入定妙心法師の肉身像は、特に有名なるものにして、明治十三年叡覽に供したるものなりと云ふ、寺堂一千五百坪、堂舍極めて壯嚴を極め一見城郭の如く老松古杉森然として之を圍繞し、幽清の趣言ふべからず洵に濃州屈指の大刹なりとす。

伊奈波神社（美濃）

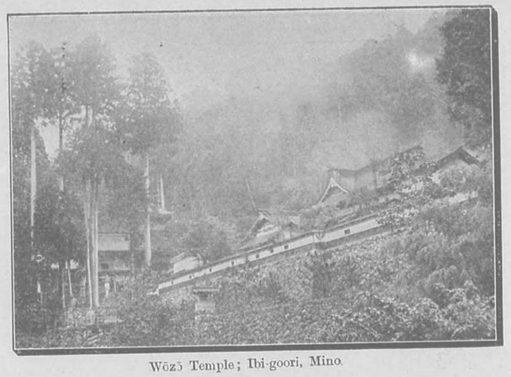
岐阜市内の稻葉山の山腹にあり、垂仁天皇第一の皇子五十瓊入彦命を奉祀せる古祠なり、域内甚だ廣くして、千歳の老松は、萬年の古檜と梢を連ねて樹立し、邂逅たる磴道清らかにして、社頭の光景いと神寂びたり、春にいたれば、山櫻の花萬緑の間に點綴して、色彩の配合名工の畫も及び難く、秋風の冷なる頃よりは、青女楓葉を染め出して、萬段の彩錦社頭にかゝる、夏は綠蔭、冬は雪曉、いづれも心を樂しましめぬはなし。殿宇は、其數甚だ多くして、末社の數も亦た十四社の多きに及びしが、往年の震災にて、これ等の末社は鳥有に歸しぬ。社の緣起古きを以て、什寶甚だ多く、歴史家考古家の參考となるもの枚擧に遑あらず、參詣のものは、乞ふて一覽するも、亦た利益するところ多かるべし。

養老公園、菊水樓（美濃）

東海道の氣車に乘じて美濃の大垣に下車し、二里半にして高田町に着し、更に行くと卅町許にして山路に入り、崎嶇羊腸の坂路を上れば、両邊は千樹万木の綠滴らんとする如く、一條の溪流珠を散らし雪を噴いて、景色極めて佳ろしく、又脚の疲るゝを覺ゆざるべし、流の迎ふるに任せて歩を進むれば、忽ちに雷霆の山中に轟くをきくべく、四境の有樣また人寰に非ざるを覺ふ、歴史に名を得たる養老の瀧は、高くかゝりて孝子の美行をつたへ、春は梅花、秋は錦楓、おの〳〵勝概をかざりて、其幽遠雅致なること、筆紙のよくすべきにあらず、菊水樓は、この仙境にありて、遊覽の行客を待つもの、結搆瀟洒にして、よく天然の風光と一致し、四邊の山水、遠近の雲烟こぞりて擔頭にかゝれり。樓上に上りて四顧杯を含めば、俗子と雖も、腋下に仙風の生ずるを感ずるならん。

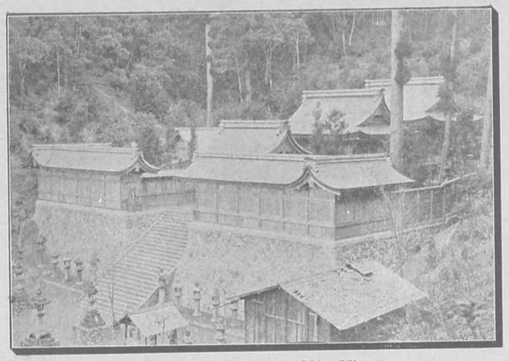
長良川の鵜飼（美濃）

源を濃州大日岳に發し、同州武儀郡にて藍見川と云ひ、厚見郡に入りて長良川と云ふ、岐阜市の西北を回流する長河なり、此河の鵜飼は、養老瀑布と共に、濃州の二奇觀として世に名高く、毎年五月上旬に始まり、十月中旬に終る、鵜舟は舟毎に一つの篝火を點じ、數百艘の舟、流れに從ひて下りつゝ、鵜を放ちて魚を呑ましめ、回旋して以て進む、篝火の影波上に浮びて、壯觀言ふべからず、鵜匠は一人にして鵜十二羽を使ひ、一羽の得る所百二十尾より二百尾に及ぶと云ふ、此地は貞享中俳人松尾芭蕉東都より歸りて草菴を結び、十八樓と名けて住したる所にして、今尚は其樓址を存せり、翁が長良川の記は、名文として古へより藝林に喧し。



（美濃根尻郡）横藏寺

Wōzō Temple; Ibi-goori, Mino.

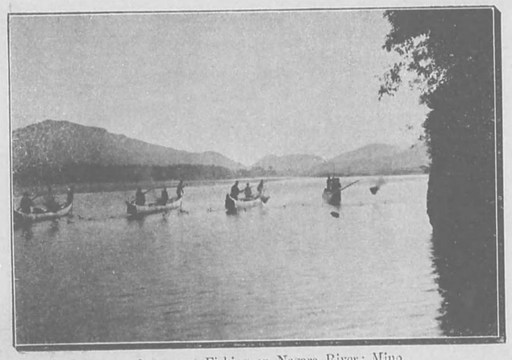


（美濃岐阜）稻葉の宮

Inaba Shintō-Temple at Gifu; Mino.

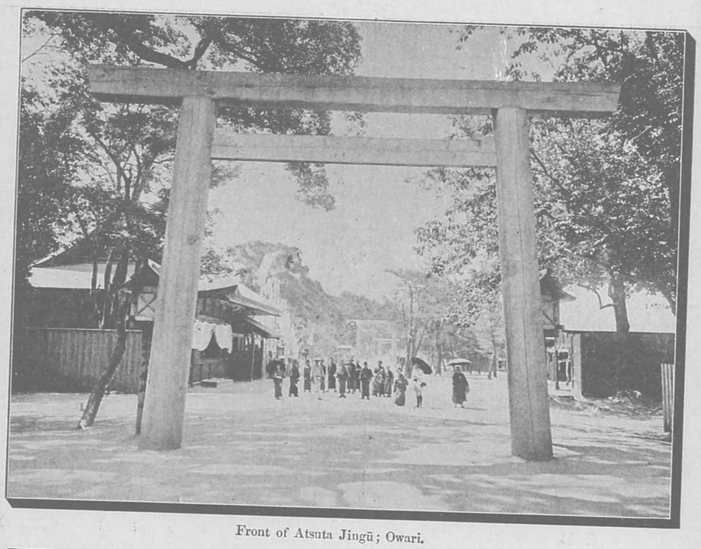
（美濃養老）菊水樓

Kikusui-rō Inn at Yōro; Mino.



（美濃）長良川の鵜飼

Cormorant Fishing on Nagara River; Mino.



（尾張）熱田神宮

Front of Atsuta Jingū; Owari.

（美濃）虎溪山

Temple of Kokei-san, Mino.

熱田神宮（尾張）

尾州熱田旗屋町に鎮す、祭神五座、日本武尊を中央とし、左右に天照太御神、素盞嗚尊、宮簀媛命、及び建稻種命を祀り、正殿の東方土用殿に、草薙の寶劍を齊祀して其神體とす、彊域極めて廣濶、八方に華表を設け、四壇に鎮皇、春敲、賀藏等の諸門を築き、社地に入らずして已に神德の高きを仰ぐべし、本殿の前には、渡殿、釣殿、祭文殿、拜殿、透牆、神樂所、神庫等相連りて壯嚴を盡し、加ふるに攝末社は、到る所に點在して其數を知らず、神社は道路を擁して、風趣を添ふるなど、皆稜威を加ふるの種ならざるはなく、眞に伊勢大廟に亞ぐの大社たるを覺ふに足れり、神境の內外には、不實梅、雲見山、下馬橋、玉の井の里、中の社、泪川あど、歷代の撰集に詠歌を載せたるもの多くあれど、くだ〳〵しければ今は略しぬ、尙ほ熱田七社と云へるもあれど、紙幅限りあれば省きつ。

Atsuta Temple.

Atsuta is a suburb of Nagoya on the east. The temple is dedicated to Yamato-take-no-mikoto, who led the Imperial forces against the northern barbarians, about the middle of the second century of the Christian era. In this temple is preserverd the famous sword, *Kusanagi-no-tsurugi*, or "the grass-cutting sword". It is related that the barbarians endeavored to destroy the Prince by burning the dry grass aronnd his camp; but he saved himself and his company by cutting the grass with his sword. This sword is now honored as one of three sacred emblems of the Imperial House.

虎溪山（美濃）

尾張名古屋市より、東春日井郡の內津神社に詣して、更に美濃の田中に出で、半里餘を進めば、有名なる虎溪山の勝地に達すべく、行程六里半に過ぎず、高山町より行くものは、西に向ふて一里半を進み、直にこの地に着すべし、境は土岐川の沿岸にある深溪にして、其支那の廬山の絕勝に似たるより、虎溪山の名を冠せり、寺あり永保寺といふ、夢窓國師の開基にかゝる。土岐川の流れは、この處にいたり盤蛇をなし、危岩怪崖突兀として、峭樓崩閣其間に聳へ、風景奇拔なること筆紙に盡し難し、附近の景色は、雅なるもの、閑なるもの、奇なるもの、怪なるもの、其他あらゆる山水の勝概一としてあらざるなく、美濃の地形勝に富むと雖も、この地を觀れば、終に他を訪ふに及ばざるを感せしむ、寺境は七千餘坪に及び、全溪の面積は一里に及ぶといふ。

Kokei-san.

Kokei-san is a Buddhist temple just within the borders of Mino Province, about sixteen miles north of Nagoya. The special attraction here is not the temple, but the beautiful ravine in which it stands.

丸三麥酒株式會社（尾張半田）

カブトビールの醸造所として有名なる、丸三麥酒株式會社は、其本社は愛知縣尾張國知多郡半田町に在りて、東京、大阪、其他、各縣要地に出張處、若くは代理社などを設置し、盛んに販路の擴張を圖りつゝあり、其創立は明治二十九年にして、資金は六十萬圓なりと稱す、機械は獨逸國に於て、最新改良のものを採擇し、醸造技師、亦歐洲に於て、最も麥酒の醸法に精熟したりと傳へらるゝ、獨逸人を雇聘し、其原料も、亦同國に於て最も精選したる、マルツ、及びホップスのみを使用したれば、其香味色澤、宛然獨逸製の麥酒を飲むが如し、一嚥何人も快哉を叫ばざるものなし、同社の社員某々の語る所を聞けば、近時獨逸に於て嘖々の名聲ある、ドールトムンドビールと謂へるは、全く此のカブトビールと、同一の性質を有するものなりと云ふ、左れば同社が、自ら廣告して、東洋唯一の飲料なりと誇稱するもの、敢て誣妄にあらざるべきか、讀者、若し夏夜舟中に凉を納るの時、一瓶を喚んで其喝を醫し、冬日爐邊に恭を圍むの折、一壺を傾けて其勇を鼓せば、玄妙の味、洵に言ふべからざるものあらん。

The Kabuto Brewery.

This brewery situated at Handa in the province of Owari, began business in 1896. The business is under the superintendence of a German expert and the materials are imported from Germany. The capital is Y. 600,000. The beer is similar to that of Dortmund.

丸三麥酒株式會社（尾張半田）

Marusan Beer Manufactory, Handa; Owari.

名古屋城（尾張）

名古屋市は尾州愛知郡の乾位に在り、四方幾んど一里半、市坊の數二百七十、戸數五万、人口十八万に近く、擧げて市制の下に立てり、此地、天文年間に在りて已に織田氏の城邑たりしも、當時尚ほ空漠なる曠野に過ぎざりしが、慶長十五年東照公其子義直を此に封じて大に城郭を築さしより、漸く市街の繁盛を加へ來り、今は本邦三都に亞ぐの大都邑となるに至れり、城郭は天下無比の壯觀にして、崇牆高く市の北邊に屹立せり、殊に五層の天主閣は、加藤清正自ら望んで其工事を擔任し、部下を率ひて一手に造營せし所に係り、層閣巍々として雲表に秀立し、閣上には一雙の金鯱、昂然として尾參兩州を睥睨す、其高さ八尺五寸、胴の周圍七尺三寸、黃金一千九百四十枚を熔銷して鑄造せしものなりと云ふ、明治四年舊藩主德川義宣一たび之を宮中に献納し、後、澳國博覽會に出陳せられて光りを全世界に耀かしたることありしが、先年市民の請願に因りて再び之を閣上に移し今や金鱗復た高く天邊に輝くに至れり。

Nagoya Castle.

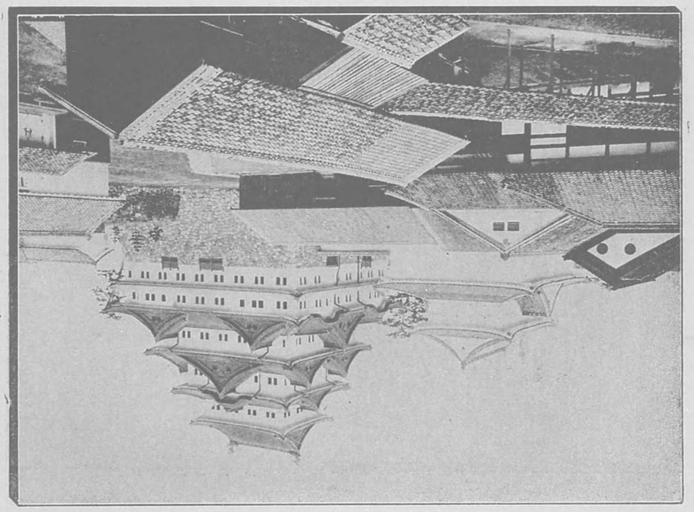
Nagoya is the fourth city in Japan in point of population. Iyeyasu gave the province of Owari, of which Nagoya is the capital, to one of his sons in 1610. The Castle was built by Katō Kiyomasa, who seems to have had a special interest in such architecture, with the purpose of making it a strong outlying defense against the western daimyōs. Among the interesting features of this Castle, were two golden grampuses of a conventional form, which stood as terminal decorations on the ridge of the main roof. It is said that 1940 *o-ban*, worth in the currency of to-day not far from *yen*, 200,000, were melted down to form these decorations. They were taken to the Vienna Exposition, and were later placed in a Museum at Tōkyō; but they are now preserved on the Nagoya Castle.

若宮八幡宮（尾張）

名古屋市末廣町三丁目にあり、祭神は、仁德天皇にして、應仁天皇をも合祀せり。勸請は、天武天皇の白鳳年中にして、其後、幾多の變遷を經て、天文元年に兵火にかゝりて燒失せしを、同じ八年に之を再建せり。境内は、現今は、名古屋市の公園となり、子女の遊覽を兼ねて參拜するもの頗る多く、常に人影の絶ゆることなく。四時ともに、遊歩に適せざるはなきも、樹木生ひ茂りて、枝梢互に相交じはり、殆んど日光を洩らさぬばかりなれば、夏日に、暑を避くるには、尤も適當せりといふ、加之に、境内の清潔にして廣濶なる、東海道の大市邑たる名古屋市の公園地として、やゝ稱するに足るものあり。

陶工元祖の碑（尾張）

東春日井郡瀨戸村は、古來より著名の陶器製造所にして、近年にいたり、製法ますゝ完備して、海外にまで輸出するに至れり。初め貞應年間に加藤四郎左衛門なるものあり、山城深草に住居して陶器を製造せしが、未だ藥品の用法を知らざるより、越前永平寺の僧道元に伴ふて渡宋し、業を修むること六年にして歸朝し、偏く日本國中を歷遊して、陶土の適當せるを求め、終にこの地に至りて、土質の良好なるを認め、即ち業をはじめたり、これ實に瀨戸陶工の起原にして、其後ますゝ盛大となり、終に瀨戸物といふ名が、一般に陶器の稱號となるに至れり。碑はその事蹟を傳へん爲めに建てられたるものにて、陶器を以て作り、周圍に土塀を繞らし、植うるに櫻楓を以てし、其觀甚だ壯麗なりといふ。

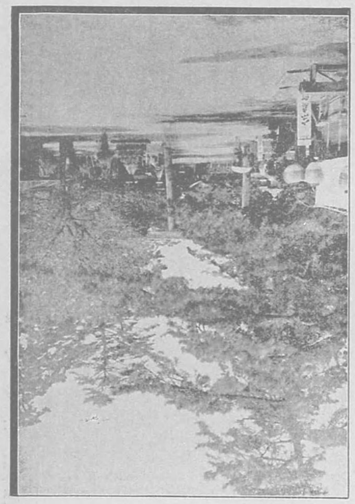


名古屋城

Nagoya Castle, Owari.

（尾張瀨戸）陶祖藤四郎の碑

Monument of Tōsiro, Inventor of Seto Crockery-ware; Owari.



（尾張名古屋）若宮八幡社

Wakamiya-Hachiman Shinto-Temple at Nagoya; Owari.

野間大坊（尾張）御車寄御門

大坊の堂塔伽藍は、概ね皆建久年間、源頼朝の再建する所にして。實に七百餘年を經過したる古建築物に屬し、寺寶亦珍奇の什物少しとせず、何れも尚古家の垂涎する所なるが、此に圖せる御車寄御門と云へるは、承暦元年白河天皇の勅建に係り、文治二年平康頼之を修理し、建久元年更に源頼朝の再建を經たるに、享祿四年豊臣秀吉再び、之を築造し後ち慶長元年に及び、再び九鬼嘉隆の兵火に罹りて、慶長三年三たび德川家康の修造を經たりと傳ふる、由緒古き寺門にして、其建築は豊大閤の別第たりし、桃山舊城の車寄に摸したるものなりと傳へ、素朴にして趣味多く、殊に其彫刻の如きは、高尚優雅、現時工匠の摸範とされり、往昔勅使の衣冠正しく、警蹕の聲厳かに、輦輿に御して此の門牆に出入したることを思へば、誰か懐舊の情に堪へざらんや。

専修寺（伊勢）

奄藝郡一身田村にありて、眞宗高田派の總本山なり、寺域一萬八百餘坪にして、堂塔參差として相連なり、近郷に稀なる大伽藍なり、開基は嘉祿二年にして、其後寛正六年にいたり、現今の地に移せり。歴代の　皇室の御歸依も淺からず、又た、武將なども頗る崇敬を加へたり、祖師堂の前にある枝垂柳と菩提樹は親鸞上人が靈夢に感じて植えられたるものにして、共に、高さ三間、周圍三尺に及び枝葉蔚々として生ひ茂り、世に珍らしき名木たり。當今この寺の直末寺は、六百二十五箇寺の多きに及び、法燈の光ます〳〵明かに、世人の歸依參拜するもの少からずといふ。

野間大坊（尾張）源義朝の墓

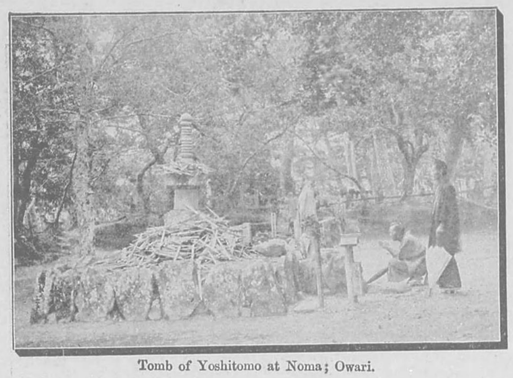
尾州知多郡野間村に在り、承暦年間、白河天皇の勅願により創建せし所にして、山門の總稱を大御堂寺と曰ひ、中に大坊、密藏院、安養院、法山寺の四個寺を存す、就中大坊は、其最も巨大なるものなりと聞ゆ、平治の亂に源義朝臣下を率ひ、逃れて此地に來り、長田忠致の亭に入りしに、忠致之を浴室に誘ひ、力士を伏して逆殺せしめたるは、史上に明かなる所にして、其浴室の古蹟、今尚ほ東寺の東方に在り、其地名を御湯殿と稱し、法山寺と云へる禮刹を設けたり、當時義朝の首を洗ひたりと傳ふる小池、亦寺門の前に在り、又本堂の東方には義朝の墓ありて、墓地石垣を遶らし、樹木蒼然之を掩ひ、中央にあるを義朝の靈位とし、北方にあるを鎌田政家の墳墓とす寺内の結搆は源頼朝天下を平定するに及んで、大に土工を起し、之を造營したるものにして、義朝主從の墳冢亦當時の修築に係るものなりと云へり。

瑞巌寺（伊勢）

飯高郡岩内村にあり、往昔弘法大師海内を遊錫してこの地に來り、山巓に祥雲の棚引けるを見て、谿間に立てる巨岩に觀音の尊像を刻し、下に一宇の寺院を建立せしは、即ち當寺の創始なり、寺境は山に凭り池に枕し、寺の名の瑞巌といへるに背かず、種々の奇岩怪石縱横に起伏し、其形狀一々筆にすべからず、其間には、老松生ひ立て、千年の翠色したゝるが如く、池水の清澄なるに映じて、絶景いはん方なく、世俗呼んで小松島といへり、境内には、この地に、櫻花を以て名高き櫻繩手あり、又半町程をさりて、山之神岩洞と稱せる洞穴あり、いづれも、世に稀なる名勝奇境にして、行客の杖を曳くに價値あり、この寺は、世俗に、石觀音の名を以て知られたり。

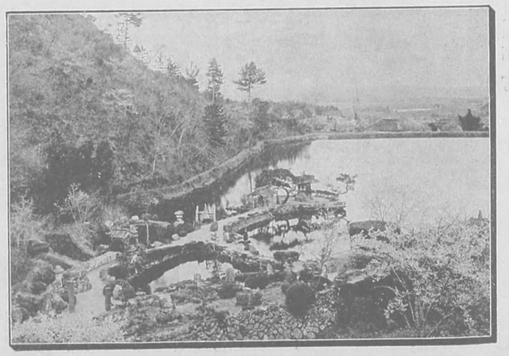
（尾張）野間大坊御車寄御門

Mikurumayose Gate at Noma; Owari.



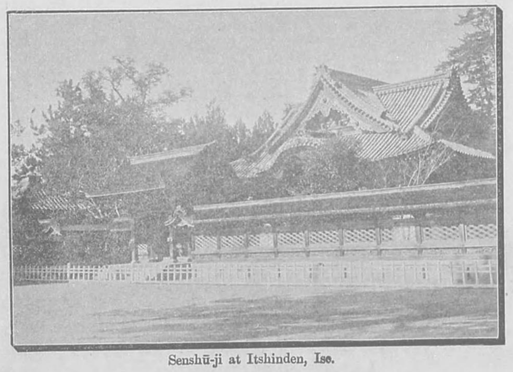
（尾張野間）源義朝の墓

Tomb of Yoshitomo at Noma; Owari.



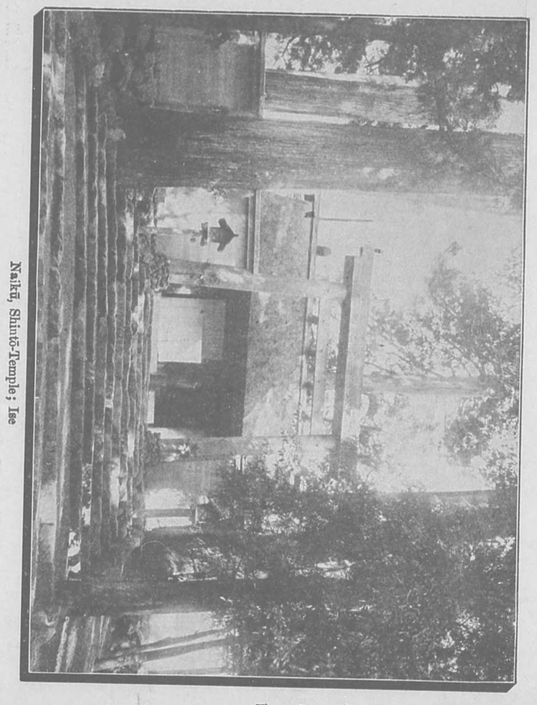
（伊勢岩内）瑞巌寺

Zuigan Temple at Iwauchi; Ise.



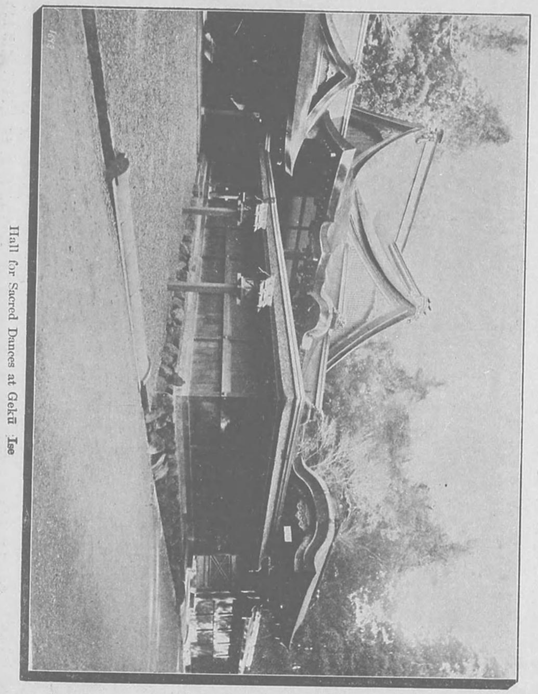
（伊勢一身田）専修寺の祖廟

Senshū-ji at Itshinden, Ise.



（伊勢）内宮正面

Naiku, Shintō-Temple; Ise



（伊勢）外宮神殿

Hall for Sacred Dances at Gekū Ise

內宮（伊勢）

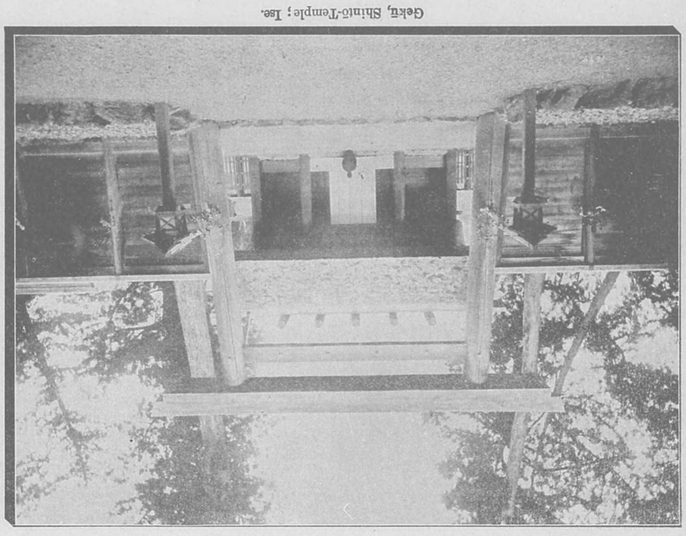
勢州度會郡宇治町の南端、五十鈴川の上流に在りて、外宮を距ること幾んと一里、實に吾邦の總廟にして、天照皇太神を祭り、天手力雄命、萬豊秋津師姫を合祀す、此の大神は、人皇十代、崇神天皇の御宇に至るまで、宮中に奉祀せられ給ひしに、天皇其神威を瀆さんことを恐れ、大和の笠縫の里に移し給ふ、後ち人皇十一代、垂仁天皇の二十五年、倭姫尊神誨を受けて、祠を此の五十鈴川の川上に建つ、今に至るまで實に一千九百年を經たり、御神禮は八咫の御鏡にして、歷代の天皇、御崇敬あらせらるゝは固より、日本臣民として其神德を仰がざるはなし、人皇四十代、天武天皇の二年、外宮と共に御遷宮式を定められ爾後每二十一年に此式を擧行せられ、宮域は六十七町餘、附屬神苑は九千六百三十餘步、別宮を荒祭宮、月讀宮、月讀荒御總宮、伊佐奈岐宮、瀧原宮、甲雜宮、風日新宮と稱し、其他攝社二十五座、末社十六座あり、又重なる建物は、時雍館、廳舍、一殿、申貴殿、酒殿、忌火屋殿、坂垣御門、玉垣御門、四丈門、玉串御門、正殿、東寶殿、西寶殿、外幣殿等なり、宮域の東南に在る丘陵を神路山と云ひ、古杉老の、蓊蔚として天を衝き、五十鈴川は其麓を繞る、五十鈴川は其名上古より高く、川中に神足石と名くる奇石を產せり、其他神苑八勝などあれど煩はしければ畧しぬ。

The Naiku of Ise.

This is the famous temple of Yamada, in the Province of Ise, dedicated to the Goddess Amaterasu Ō-Kami, the legendary Ancestress of the Imperial Family. The shrine of Amaterasu Ō-Kami was in early times maintained in the Imperial Palace, and afterwards, it was established in Yamato. It was transferred to Ise in the year B. C. 5, by the Emperor Suinin. It is the custom to rebuild the temple every twenty years. The term Naiku means the Interior Temple, in contradiction to Gekū, the Exterior Temple, which was built A. D. 478, and dedicated to Toyouke Ō-Kami, the patron God of Agriculture. Since its foundation, this last named temple has been looked upon as on an equal footing with the shrine of Amaterasu Ō-Kami.

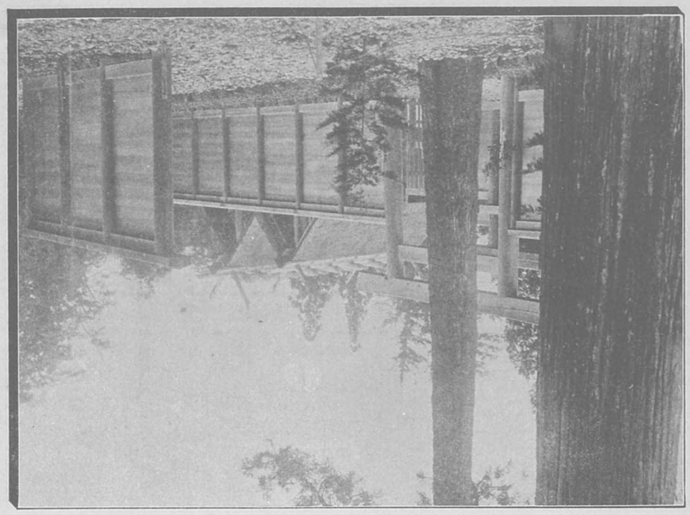
外宮（伊勢）

勢州度會郡山田町の南端、山田の原に在りて、其近傍の丘陵を、高倉山と稱せり、宮殿廣闊、社殿左殿にして、本社には豊受大神を祀り、天皇の二十二年七月之を創建す、皇太神宮に後ること、實に四百八十二年なり、多賀宮、土宮、月讀宮、風宮、之を四所の宮と稱し、其他攝社十六所、末社八座あり、宮域は八十一萬五千餘坪、其域中重なる建物は、神庫、駕天皇の二十二年七月之を創建す、皇太神宮に後ること、實に四百八十二年なり、多賀宮、土宮、月讀宮、風宮、之を四所の宮と稱し、其他攝社十六所、末社八座あり、宮域は八十一萬五千餘坪、其域中重なる建物は、神庫、九丈殿、五丈殿、瑞垣御門、玉串御門、第三五門、榊垣御門、第四御門、瑞垣御門、寒賞殿、西賞殿、正殿、御裏御門、御饌殿、外幣殿、御裏御門、第四御門、瑞垣御門、寒賞殿、西賞殿、正殿、御裏御門、御饌殿、外幣殿、内宮遙拜所、子良館、鳳谷等にして、其他各所旅館の觀るべきもの枚からず、抑も當社は、内宮と共に、日本帝國の總廟として崇められ、歴代の天皇、御尊崇あらせらるゝは申すも畏こく、臣民の各縣各地より參拜するもの、亦四時共に引きも切らず、殊に二十一年回の遷宮式を行はせらるゝ時の如きは、宇治山田の市坊幾んど雲人を以て包まれんとするに至るこゝろ、其神德の弼や高く、御殘風の弼の弼や赫々なること、畏くも尊とみまつることにこそ。



（伊勢）外宮正面

Gekū, Shinto-Temple; Ise.



（伊勢）外宮側面

Inner of Gekū, Ise.

鳥羽港（志摩）

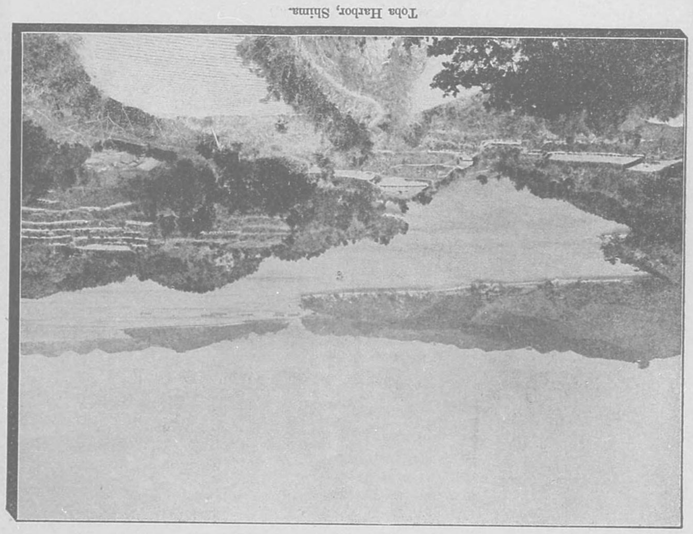
志州答志郡に在り、東京を距ること海路凡そ百八里、伊勢の海の口に當り、港灣紆餘曲折し、長濶各々五町餘にして、東北に向ふ所は、深さ三仞より五仞に至り、桃取、菅、坂手等の諸島、其前に並び、恰も天然の波止場を成す、其以東には遠州洋あり、西には熊野浦ありて、共に險海なれば、航海の船舶風雨の時には、常に此港に避くるを例とす、實に有名なる良港なり、戸數一千三百餘、人口五千餘人にして、警察署、郡役所、裁判所、郵便電信局、鐵工場、商船學校などあり、又本町、大里町には妓院ありて、絃歌の聲湧くが如し、府城址は海に枕し、諸島を望て、風光絶佳、韻士騷客の風好に價ひするものあり、濱ゆふ、東海嬉人は、此地特有の名物にして、最も著名なるものとす。

Toba.

The port of Toba is situated at the entrance to Ise Bay, not far from 250 miles south-west of Tōkyō. The town has a population of about 5500.

上宮寺（三河）

碧海郡佐々木にあり、推古天皇の御宇に聖德太子の草創し玉ひし古刹なり、廿四代の寺主は、源氏の勇將佐々木三郎盛綱入道蓮朝にして、眞宗に歸依せり。其後、代々の住職皆な豪邁のもの多く、三十代の如光は、叡山より見眞大師の木像をとり返し、三十四代勝祐は、石山合戰の味方をなして、尾洲長島に敵十三騎を討ちとりて切腹せりといふ、三十七代教祐は、强力にして强弓の名譽高く、現今に至るまで四十七代、其名附近にとゝろき、勇猛精進の招提境として、世の信仰淺からず、境内の廣さは一町歩餘にして、四時の景色に富み、遠近の眺望に佳なり。この寺の境内に阿漕塚と稱する古塚あり、口碑に名高き舊蹟にして、來り詣するもの頗る多し、本圖は其阿漕塚を寫したるものなり。因に言ふ寫眞に伊勢津とせるは編者の謬りなり。

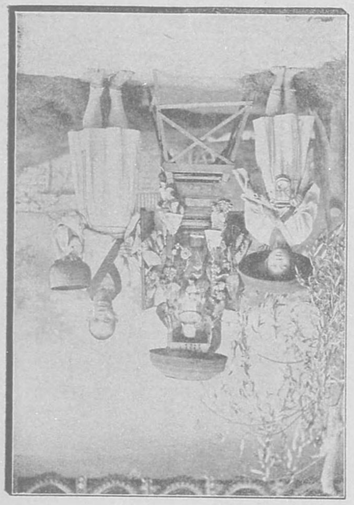


（志摩）　鳥羽港

Toba Harbor, Shima.

（伊勢津）　上宮寺の阿漕塚

Akogi Monument of Jōgu-ji at Tsu, Ise.



巡禮

Pilgrims.

二見ヶ浦（伊勢）

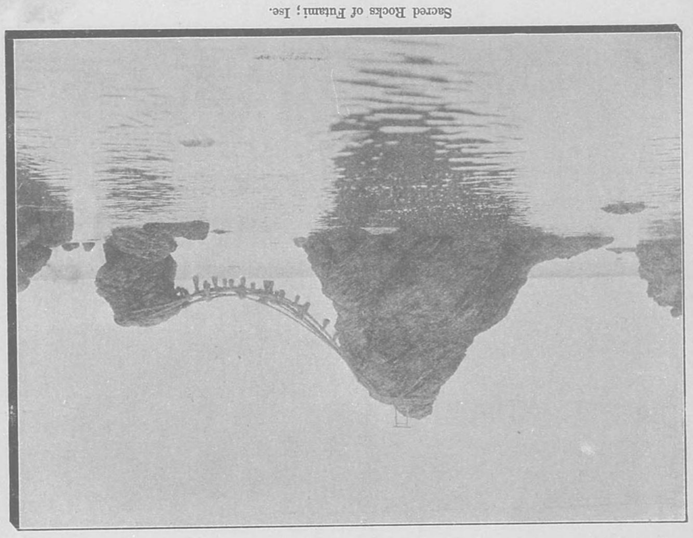
度會郡東二見村の海濱にありて、山田町を隔ること凡そ二里許、前面は伊勢海を控え後方に音無山を負ひ、尾張參河の翠黛遠く雲際に隱見し、眺望甚だ佳なり、海岸には、岩石起伏して其配列恰も人工を加へしが如く、頗る奇觀たり、就中、二ツ岩と稱するものは、海岸より數間を離れて對峙し、相距ること三間餘、大なるものは高さ二十九尺、小なるものは高さ十二尺にして、岩面蒼黑色にして、木の理紋のごとき狀をなす。この二ツ岩は、恰も關門をなしたる如く峙ち、常に注連繩を張りてこれを祀る、旭日のこの岩間よりさし上るは、尤も鮮麗壯觀にして、自ら神聖なる觀念を生せしむるより、元日には、初日出を拜せんとするもの群集す海岸には、海水浴場の設けありて、遊覽の客の絡を曳くもの四時ともに絶ゆることなし。

Futami-ga-ura.

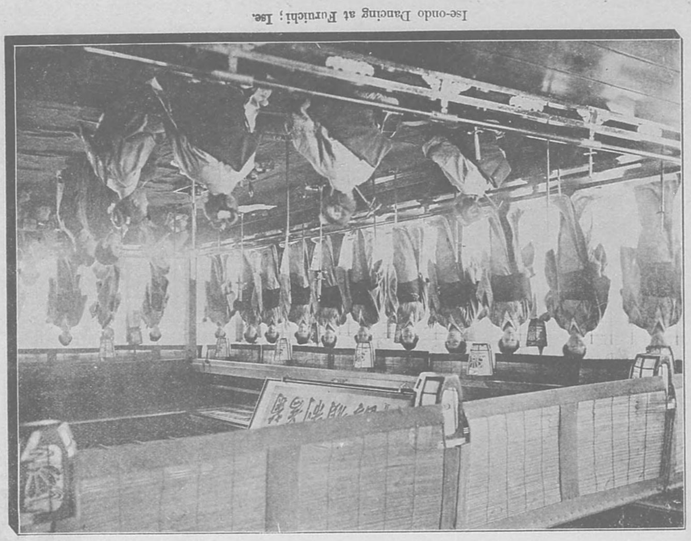
Futami-ga-ura is situated a little east of Yamada in the province of Ise. It is especially noted for certain pictuesque rocks in the bay a little off the shore. There is in particular a fissure through which pilgrims on the Morning of New Year's Day, hope to see the sun-rise. To do so is thought to be a good omen for the opening year.

伊勢の音頭（伊勢）

踊りはみやこ、浪花のあしべ、長崎など、其名多く、其類ひもまた少からねど、伊勢古市の踊りほど、世に名高く、持囃さるゝはなし、地は勢州の度會郡、山田と云へば神宮の配下にして、教院、大秡局、皇學館など、儼めしきものあるが中に、古市の花街紅閣高く青樓連り、絲聲肉音湧くが如きはなは、蔚葱たる松ばやしに、櫻の一もとを栽へたらんが如し、凡そ伊勢神宮に詣するもの、來つて古市に遊ばずんば、粹にあらず、通にあらず、野暮の骨頂、凡俗の行どまりなるべし、樓々皆舞臺ありて、天女の如き歌舞の菩薩、脛もあらはに踊り狂ふさま、久米仙ならねど通力を失ひ、喜撰法師にあらざれど、雲のかよひ路吹とぢよ、乙女の姿しばしどころか、百年、千年、億萬年も、己が膝もとに止めたくなるべし。

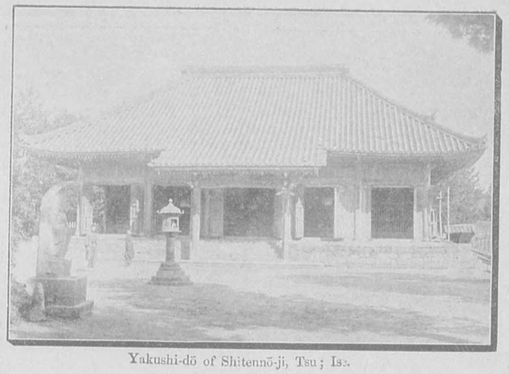


Sacred Rocks of Futami; Ise.



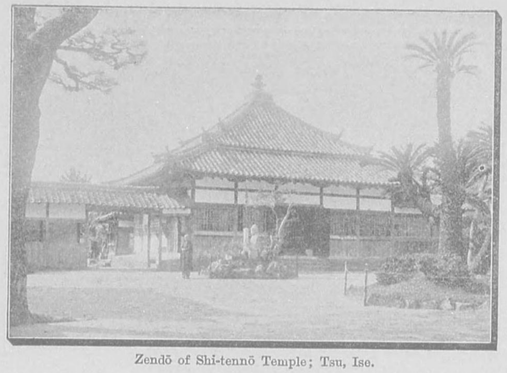
Ise-ondo Dancing at Furuichi; Ise.

（伊勢津）四天王寺藥師堂



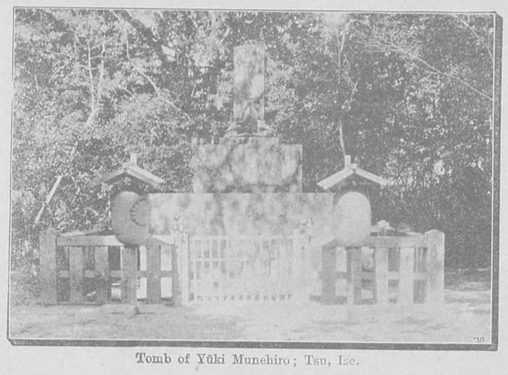
Yakushi-dō of Shitennō-ji, Tsu; Ise.

（伊勢津）四天王寺の禪堂



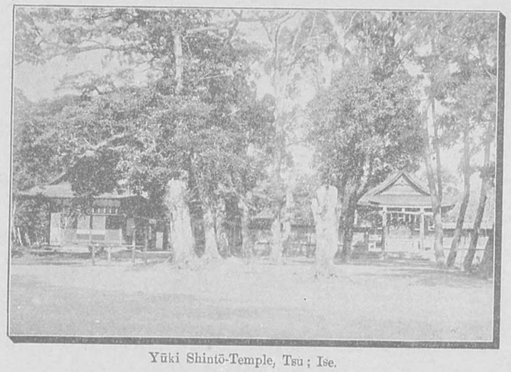
Zendō of Shi-tennō Temple; Tsu, Ise.

（伊勢津）結城宗廣朝臣の墓



Tomb of Yūki Munehiro; Tsu, Ise.

（伊勢津）結城神社



Yūki Shintō-Temple, Tsu; Ise.

四天王寺（伊勢）

津市榮町にありて、聖德太子の創建せられたる古刹なり、其後しば〳〵兵燹にかゝりて、堂塔の烏有に歸せしとありしも、其度毎に建築され、現今の堂宇は、元の藩祖藤堂高虎の經營せしものにて、頗る宏壯なるものなり。境内は、古より名蹟に富み、七不思議の稱ありしが、今は傳はるもの少なく、特に、龍燈松といひしは、世に珍らしき奇木なりしが、枯朽して其形だに存せざるにいたれり、されど由緒ある名刹なれば、境内に、織田信長の母土岐氏の墓、藤堂高虎の室一色氏の墓等あり本尊は、大日如來にして、靈現の顯著なるより、庶民の信奉はなはだ厚く、常に參詣のものを絶たず。

結城宗廣の墓（伊勢）

結城神社の境内にあり、宗廣の病んで將に死せんとするや、僧あり、枕頭に坐して爲に佛名を稱へ、告げて曰く、死に臨んでたゞ佛を念ずるとをなせ、遺囑すべきとあらば、予これを郎君に傳へん。と宗廣目を開き慷慨して曰く、我年七十にいたり百事遺憾あるなし、たゞ、國家の爲に逆賊を亡ぼす能はざるを恨みとす、願くは、兒親朝に語れ、我死するも經を誦し佛を念ずるとをなさずして、たゞ、賊を討ずるを以て念とし、賊首を斬りて我墓前にかくれば、孝これより大なるなけん、と言ひ訖りて、佩刀を拔いてこれを撫し、慷慨切齒して瞑目せりといふ、其忠勇義烈想ふべし、文政七年藤堂高兌この墓を修理し、碑を樹て刻するに結城神君之碑の七字を以てせり。

結城神社（伊勢）

一志郡藤水村、大字藤方八幡宮の林中にありて、結城宗廣及び其子親光の靈を祭祀す、そもそも建式の歳にあたり足利氏の暴逆に由り後醍醐帝の芳野に蒙塵し玉ひしは、日本の史上に、尤も痛憤すべき事の一なりとす、當時勤王の士多かりしと雖も、結城氏の如きは、其首たるものにして、楠、新田、北畠、名和の諸氏と、決して上下あらざるなり、明治維新に及びて、朝廷其功勳を追賞し玉ひ、明治十三年七月、聖勅この地を巡幸し玉ひしとき、祭祀料を下附ありて其忠魂を嘉みせられ、同十五年一月社殿の造營なりて、別格官幣社に例せられたり、社宇輪奐の美なしと雖も、瀟洒清潔にして、この忠勇なる名臣を追懷憑弔するに足る。

京都御所其一 （京都）

現時の御所は、孝明天皇の御宇、安政元年の炎上後、同二年の御造營に係るものにして、之を內廓、外廓に分てり、今外廓を其一とし、內廓を其二として、結構布置の一班を述べんに、外廓は、東寺町通りに起り、西烏丸通りに至る、南は丸太町を以て界とし、北は今出川に枕み、面積二十五萬餘坪、古へは諸親王家を始め、公卿の邸第、亦多く外廓內に在りしが、明治遷都と共に、全く廢地に歸し、今は開ひて廣漠なる遊園地とし、之を御苑と稱せり、而して博覽會場、測候所などの館舍、亦其內に散在し、中にも堺町御門の西方、元と九條邸の庭囿たりし邊は、光景最も明媚にして、泉池あり、木橋あり、欝林茂樹之を澆りて風致を添へ、殊に楓葉紅施の時を最も佳趣ありと稱す、此圖は即ち御苑の一班を寫したるものなり。

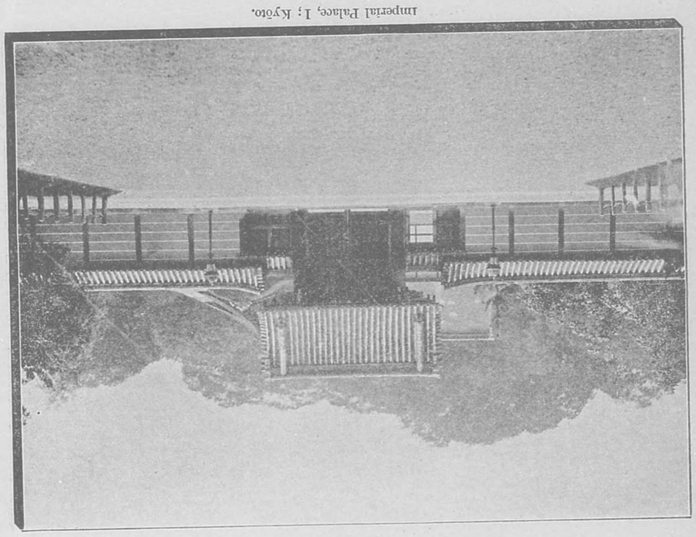
京都御所其二 （京都）

御所の外廓は、上欄已に之を述べたり、今內廓の模樣を聞くに、其位置恰かも外廓の中央に在りて、南門と謂へるを其正門とし、別に唐門、日ノ御門、公家門などあり、紫宸殿は、門內更に宮垣を以て之を圍み、承明、日華、月華の三門より其階下に通ず、同殿の全形は、別圖示す所の如し、其他清涼殿、清所、常御殿、二對屋、一對屋、內侍所、記錄所、小御所、女院御殿、御學問所、御休所あゝの宮殿、漸く深宮に連比し、以て鳳翩鸞翔の庭場を築成すと雖も、固と草莽臣民の窺知し得べきところにあらず、之を筆端に上すが如きも、亦恐懼に堪へざる所なるを以て、此には只其聞けるがまゝの概畧を掲げて他は之を省略することゝせり。

The Imperial Residence at Kyōto.

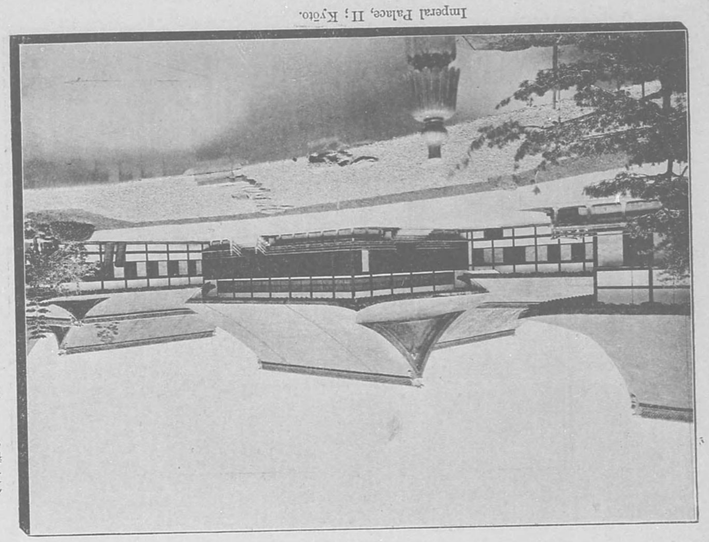
The present structure dates from 1855. The earlier palace having been destroyed by fire. The Japanese term *Gosho* by which the Residence is designated, includes the entire space now occupied by the public park within which were to be found the *yashiki* of many of the higher court nobles.

The interior portion contained the *Shi-shin-den,* a building representing the very centre from which emanated all governmental authority. Around the Shishin-den, were arranged the various structures pertaining to the Imperial Family and the Court.



京都御所 其一

Imperial Palace, I; Kyōto.



京都御所 其二

Imperal Palace, II; Kyōto.

舊內裏御門（京都）

舊內裏は內外二廓より成れること、已に述べたる所の如し、而して、其外廓には所謂九門あり、又內廓には、正門及び、唐門、日の御門、公家門などあり、更に其內部紫宸殿の外垣には、承明、日華、月華の三門ありて、單に內裏の門と謂へば、恰かも江戶城の三十六門に於けるが如く、一々之を擧ること能はざれども、普通御所の門と稱するは、堺町御門にして、門內兩側には、舊九條家の庭園あり、庭內碧池を穿ちて、細漣浴々、常に其岸を洗ふ、池上に架せる木橋は、瀟洒にして韻致多く、全庭樹石の排置、亦其一を忽せにせざれば高雅潔麗、毫も俗塵の臭なくして、秀靈の氣、常に滿地に磅礴たるの感あり、秋霜梢を染むるの頃、門に入りて林泉の幽致を賞し、秋氣を咀嚼すること、最も妙なるを覺ゆ。

The Chief Entrance to the Kyōto Palace.

There were in all nine gates opening into the outer grounds of the Palace, the chief being was opposite the terminus of Sakai-machi. On entering this gate, there is to be seen on the right the residence formerly occupied by Prince Kujō, which is still maintained approximately in its old form.

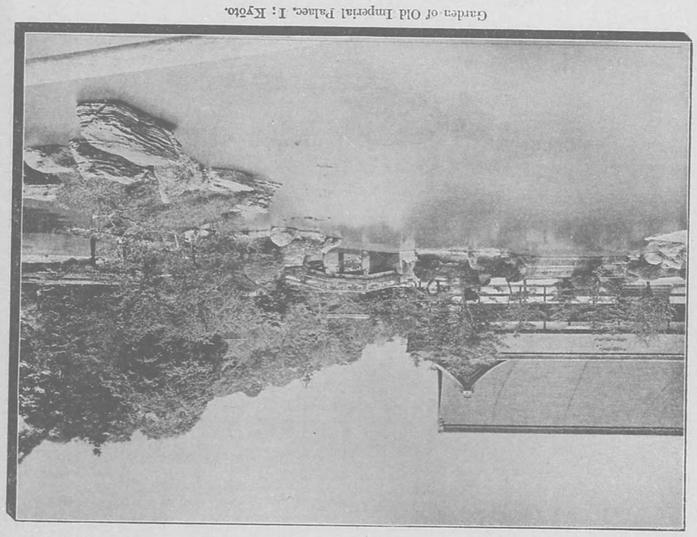
二條城（京都）

京都二條堀川の西岸に屹峙し、川に面するを其正門とす、永祿十二年、織田信長始めて此城を築さしが、萬曆十年、明智光秀反逆を企て、信長を本能寺に弑せし時、信長の息信忠又此城に在りしより、光秀終に之をも燒打となし、城樓外郭、一旦烏有に歸して、永く荒廢に委したりしを、慶長七年德川氏大に之を修造して、再び舊規を存するに至れり、維新の初假りに皇居を此城に置かれたる事ありしが、東京奠都の後は暫らく京都府廳に充てられ、府廳新築の後、更に宮內省の所屬に歸して、今は帝室の離宮となれり、城地甚だ宏大なるにあらざれども、今尙ほ城樓を所々に存し、堊壁石壘、儼然として京都市內の壯觀を成せり。

Nijō Castle.

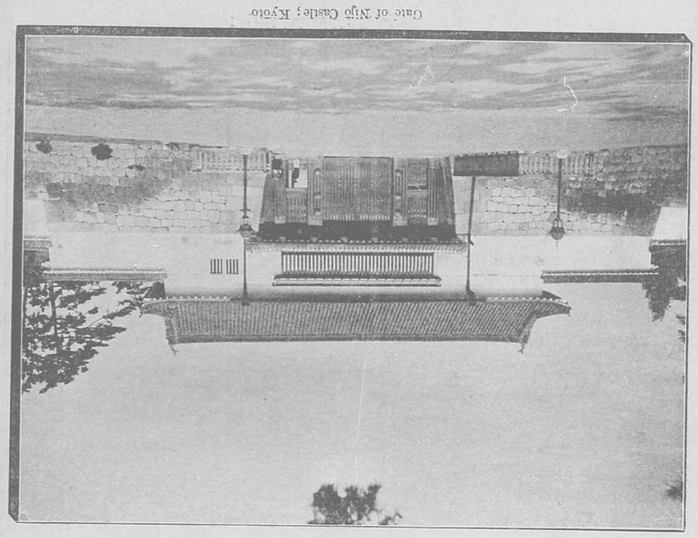
This castle was built by Nobunaga in A. D. 1569. It is situated some distance south-west of the Imperial Palace in Kyōto. When Nobunaga was assassinated a few years later, by his retainer, Mitsuhide, the castle was burned, but it was rebuilt in 1602 by Iyeyasu.

山の島島（京都）



Garden of Old Imperial Palace. I: Kyōto.

二條城門（京都）



Gate of Nijō Castle; Kyōto.

紫宸殿（京都）

京都舊內裏の中に在りて、歷代天皇の御世治しめす、至高至尊の寶殿なりしは、帝國臣民何人か知らざるべき、殿は內裏の門內、更に宮垣を繞らして其內に立ち、承明、日華、月華の三門より其階下に通ず、殿の左右には櫻橘の二樹ありて、所謂右近の櫻、左近の橘と稱するもの是なり、階上は左右に勾欄を繞らし、之を傳ひて深宮に通ず、殿前の大庭は、昔し保元の亂に、惡源太義平が、平の重盛を追ひて七たび匝りたりと傳ふるところにして、至高の靈場を馬の蹄に汚したるは、書くだに忌はしき限りなり、左れど當時の舊殿は、安政元年炎上して、同二年再び今の新殿を造營せさせ給ひたりと聞ゆれば、源平二氏が暴虐を逞ふしたる、舊址遺跡は何時しかに亡び失せて今は廣大なる御苑の內、鳳鴞麟翔の聲をのみ聞くぞ愛だき限りにこそ。

金閣寺舟の松（京都）

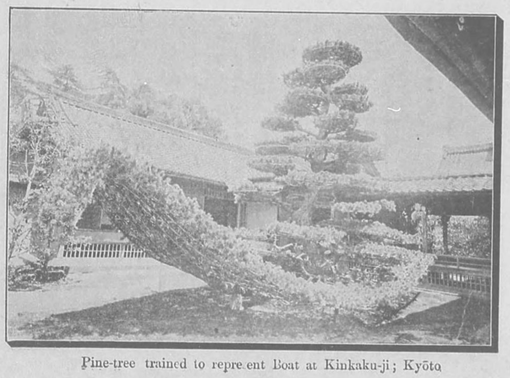
山城葛野郡金閣寺の庭內に在り、幹の高さは數尺に過ぎずして、枝葉の蔓こること四方凡そ十數間、步して之れが周圍を繞れば、應さに一町に亞んたるべし、之を一方より望めば短き幹は繁き枝葉に蔽はれて、之を見るに難く、翠葉層重して、下部は狹く上部は廣く殊に其上面は平坦にして、其形ち宛かも小舟の橫はれるものに似たり、故に市人は、之を稱して舟の松と曰へるなり、思ふに此類の松は普通の松と、一種其品彙を異にせるものらしく、世に笠松、平松など謂へる、幹短くして枝長きもの〻處々に生育するを見れば、此等のもの〻一種なるべきか、姑らく記して植物學者の考證を待つになん。

（京都）紫震殿

Shishin-den Palace; Kyōto.

（京都）禁苑

Imperial Palace Garden, Kyōto.



（京都）金閣寺舟の松

Pine-tree trained to repre ent Boat at Kinkaku-ji; Kyōto

（京都）銀閣寺の庭

Garden of Ginkaku-ji, Kyōto.

西本願寺 京都

京都七條通にありて、本願寺の本派たり、本堂には宗祖親鸞上人の自作に係る骨肉の像、即ち上人の歿後、其遺骨を細剉して漆に和し、以て表面を潤色したりと傳ふる、稀代の尊像を安し別に阿彌陀堂、集會所、轉輪藏、鐘堂、鼓樓などあり、鼓樓の大鼓は、本と和州西大寺に藏せし者、鐘堂の鐘は、太泰廣隆寺に懸りし者にて少納言入道信西の銘を鐫す、其他浪の間、虎の間對面所白書院黑書院あゞの殿舍ありて、殊に集會所の東には滴翠園と云へる形勝の園苑あり、其一邊に聳立せる三層閣は、即ち所謂飛雲閣あり、寺の沿革は頗る古く、文永九年宗祖親鸞の女、覺信尼、始めて廟舍を今の智恩院境内に營みしより、屢〻戰亂に會し大津、山科、難波、貝塚等に轉移し、天正十九年八月、第十一世顯如上人の時、攝津の天滿より遷りて終に基礎を茲に定め、漸く佛閣を建つるに至れりと云ふ、當寺も東本願寺と同じく、諸國の信徒夥しく、毎年參拜する者數十萬に上ると云へり。

The Nishi-Hongwan-ji.

This edifice is the central temple of the Western Branch of the great Shin sect. It is in Kyōto, on Shichijo, a little west of the railway station. In the main hall, there is shown an image of Amida, carved by Shinran, the founder of the sect. It is said that certain bones of Shinran were pulverised and mixed with the lacquer with which the image is covered.

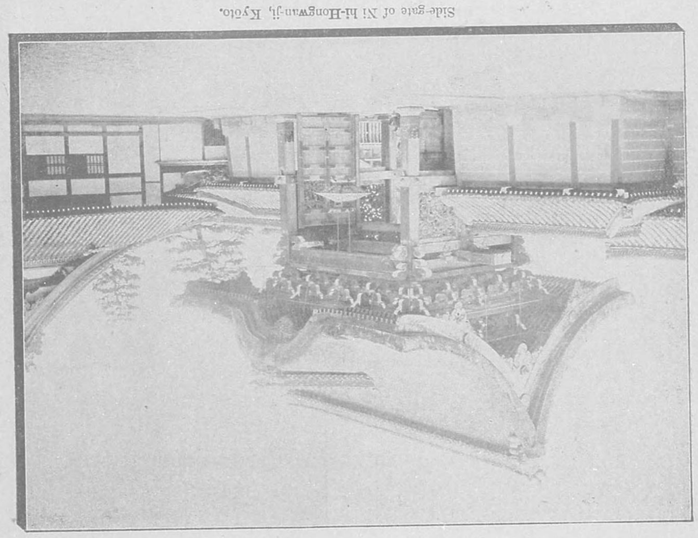
In one of the buildings is hung a bell reported to have been removed from Kōryū-ji, a shrine at Udzumasa, a little west of Kyōto. Connected with the temple is a beautiful garden, in which there is a building of three stories, transferred from Hideyoshi's palace at Momoyama, Fushimi. It is called *Hiun-kaku*, or Temple of the Flying Clouds. It is said that the Nishi-Hongwan-ji is visited by several hundred thousand worshippers each year.

三十三間堂 (京都)

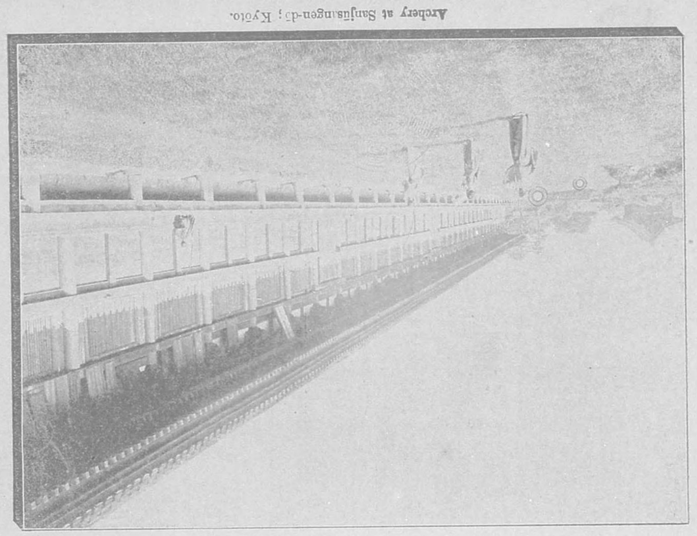
京都豐國神社の南に在り、天台宗にして、蓮華王院と號す、初め長承元年、鳥羽上皇、此地に三十三間堂を造營して、之を長壽院と名け、一千一軀の觀音を安置し給ひ、後又長寛元年、後白河上皇、更に三十三間を增築して、別に一千一軀の觀音を安し、之を蓮華王院と號し給ひしが、寶治二年、兩寺共に火災に罹り、文永三年再建の時、二寺を併せて一寺となし爾來獨り蓮華王院の名のみを存するに至れりと云ふ、堂は南北の桁行六十六間にして、二間毎に一柱を立てたるに由り、之を三十三間堂と稱す本尊は、佛師康慶の作に係る坐像八尺の千手觀音にして、別に千軀の千手觀音を內陣に列す、個は各々五尺の立像にして、運慶滿慶の兩作に係ると傳ふ、本尊を合せて之を一千一軀の觀音とは號くるなり。

Sanjusan-gen-dō.

The Thirty-three Section Temple, as the name may be rendered, is a large narrow building in Kyōto, divided, as its title implies, into thirty-three sections, each of which is twelve feet long. It is said to contain 33,333 images of Buddhas and Buddhist saints. The larger images, however, number but 1,001. It was first founded in A. D. 1132, but was enlarged thirty-one years afterward. The edifice was burned in 1248, and was rebuilt in 1266. The verandah of this temple was formerly used for archery practice, as the battered timbers show.



Side-gate of Ni hi-Hongwan-ji, Kyōto.



Archery at Sanjūsangen-dō, Kyōto.

銀閣寺及其庭園（京都）

京都鹿ヶ谷の北、淨土寺町に在り、本と足利義政が閑居の寮なりしは、少しく史を讀みたるものゝ、皆熟知する所なるべし、寺内東相堂は、義政在世の時の持佛堂にして、今は其像と觀音佛とを安置す、茶室は堂の東端に在りて、義政が數寄を凝らしたるもの、茶人之を四疊半茶室の嚆矢なりと言へり、庭園は名人相阿彌の經營に成り、一木一石、悉く築庭の方式に洩るゝ所なく、天地の形勝を收めて、之を一望の中に散布せしが如し、著名なる銀閣は、其一半に屹立して、二層をなし、閣上を心空殿、閣下を潮音閣と名く、此閣未だ其工を竣らざる内、義政早く卒去したれば、四壁勾欄、終に銀箔を鏤むるに及ばずして已みたるよし、之を金閣の金碧燦爛たるに比すれば、反つて素朴にして、毫も銀色を貼鍍せさる所、瀟洒にして味ひあるを覺ふ、之を觀覽するにあらざれば、其詳細を知るべからず、今は繁を厭ふて一切之を省畧せり、寺の名は慈照寺、義政の法名に取れるなり。

Ginkaku-ji.

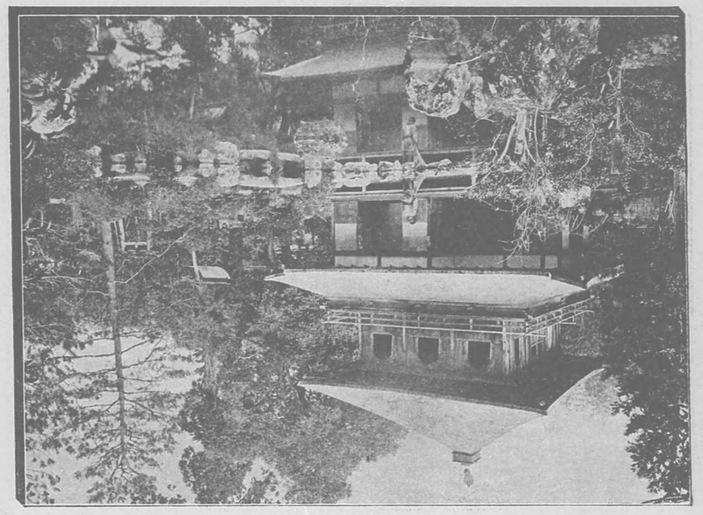
Ginkaku-ji, while now a Buddhist temple, was originally built as a villa, by Ashikaga Yoshimasa about 1480. Yoshimasa was a great patron of art, and is reputed to be the originator of Japanese style of landscape gardening now current and of the *cha-no-yu*, so called "tea ceremony"

金閣寺（京都）

城州葛野郡に屬し、北野天神の西北、十町ばかりの處にありて、地は衣笠山の西麓に位し、老松亭々の間に居る、境域一萬五千坪、幽雅にして爽絶、林泉の巧緻なる、銀閣寺も亦三舍を避くべし、著名なる金閣は、方丈の西、庭園の中に峙ちて三層を爲し、天上、壁、勾欄等、古へは皆箔を綴めたるものにして、今も尚ほ處々に金色の殘存するを見る、閣下の池を鏡湖と云ひ、九山八海、夜泊、赤松、畠山等の奇石、點々其水面に浮べり、閣北には岩下水、龍門滝、鯉魚石等の名勝あり、安民澤及ひ夕佳亭は、小丘の上に在りて、亭の結構、古來雅致を以て名ある中にも、南天燭樹の床柱、胡枝花の逆棚は俗謠にも持囃されて、兒童走卒も皆知る所なり、寺に詣するものは寺僧の指導によりて、庭園を縱覽するを可とす。

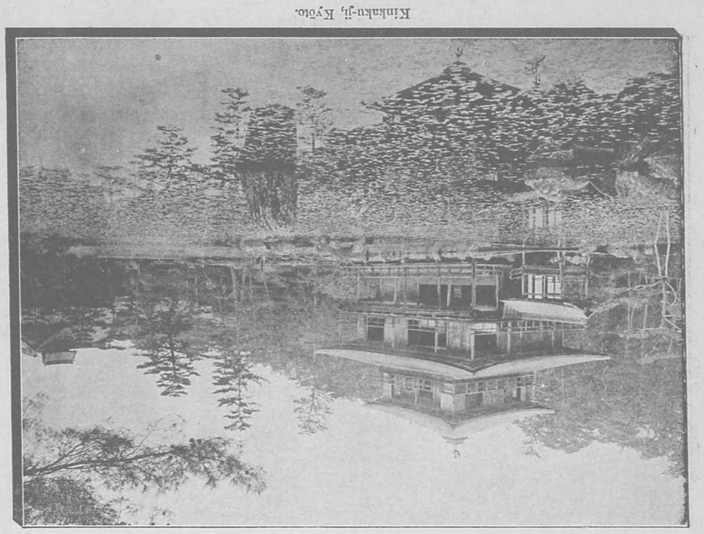
Kinkaku-ji.

This famous temple, in the north-western part of Kyōto, was originally built by Ashikaga Yoshimitsu in 1397 as a villa. It is of especial interest because both the building and the grounds around it are preserved as nearly as possible in the original form.



銀閣寺（京都）

Ginkakuji, Kyoto.



金閣寺（京都）

Kinkakuji, Kyoto.

四條鐵橋（京都）

京都に在りて鐵橋とし云へば四條大橋の外にはあらず、長さ五十四間、幅二十四尺に亘り、東西に加茂川の清流を横斷せり、鐵欄には八基の街燈高く紅白の光を放ち遠く望めば蛟龍一躍、珠を水上に弄ぶに似たり、橋西は先斗町の花街にして橋東は祇園新地の柳巷に接す、夏季に至れば、兩岸の青樓、旅亭、水に臨んで假床を設け以て來客の納涼に便ならしめ、河中の磧上、亦、幾百の假屋を列ねて縱横幾條の小衢をなし、飲食店あり、觀物小屋あり、毎夕薄暮より軒頭各々燭を燒さて以て遊客の到るを待ち、其雜鬧名狀すべからず、所謂四條の夕納涼是なり、此事の濫觴、今、考證を欠くと雖も古來京師の一奇觀として元祿時代既に盛んに其事ありしは古人の俳句等に徵して明なり。

The Iron Bridge at Shijō.

This bridge also crosses the Kamo River. The river, though possessing a wide bed, which is often well filled during heavy rains, is at ordinary times a narrow stream, leaving a wide space between the outer banks, which is appropriated as a place of resort during the warm summer evenings. There is usually a cool southerly breeze blowing up the valley, even during the hottest weather. Hence booths of all sorts are erected, and the river bed is thronged with people of all classes.

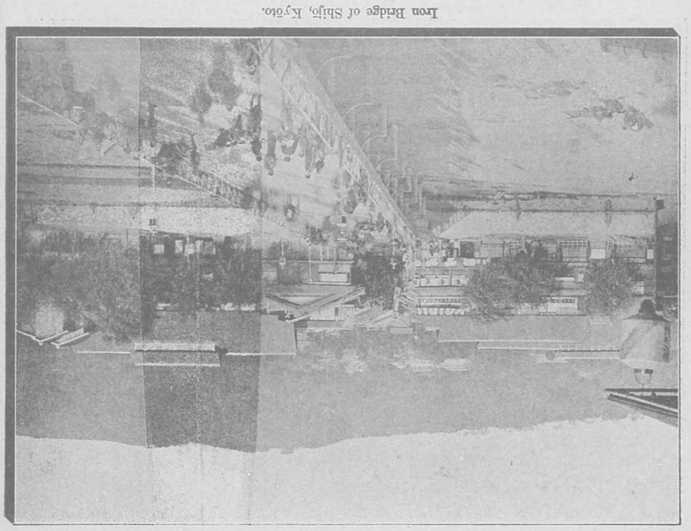
The present bridge is a recent structure, dating from the early years of Meiji era. It may be remarked here, that the term *jo* is given to certain of the more important streets running east and west through the city of Kyōto. Sanjō might be rendered, therefore, "Third Avenue," and Shijō, "Fourth Avenue", etc., etc.

三條大橋（京都）

京都三條通より加茂川に架す、長さ五十六間、幅五間、京都三大橋の一なり、初め天正十八年、豊臣秀吉、其臣增田長盛をして之を造營せしむるに當り、大に勞費を盡し、橋礎の如きは總て白石の圓柱を用ゐ、其數六十餘基、基底地下に沒すること凡そ五尋、欄柱の擬寶珠は皆紫銅を以て之を造り諸候の寄附に係る者なりと云ひ、今も尙擬寶珠の面上に寄附者の姓名と、土功の銘とを現存せり、且つ此橋は京都諸街道の起點、里程元標の所在地にして、旅客の來往最も繁く、旅店客舍の輻輳すること、亦、京都第一を以て稱せらる、明治十四年、此橋修築の事ありしも、當路者其舊規を損せんことを恐れ、石柱及擬寶珠とも、總て從來のものを襲用したりと聞くは愛たし。

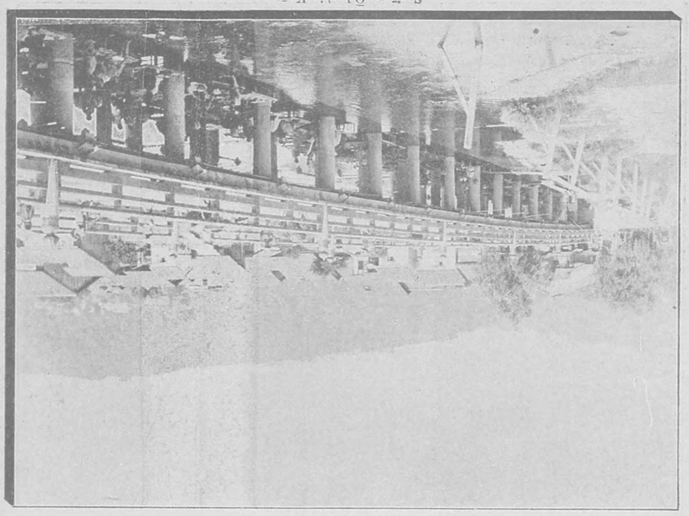
Sanjō no O-hashi.

Sanjō no Ō-hashi is one of the largest and most important bridges over the Kamo River which runs through the city of Kyōto. It was built by Hideyoshi in 1590. All distances in the vicinity of Kyōto are reckoned from this bridge which stands near the very centre of the population and life of that city.



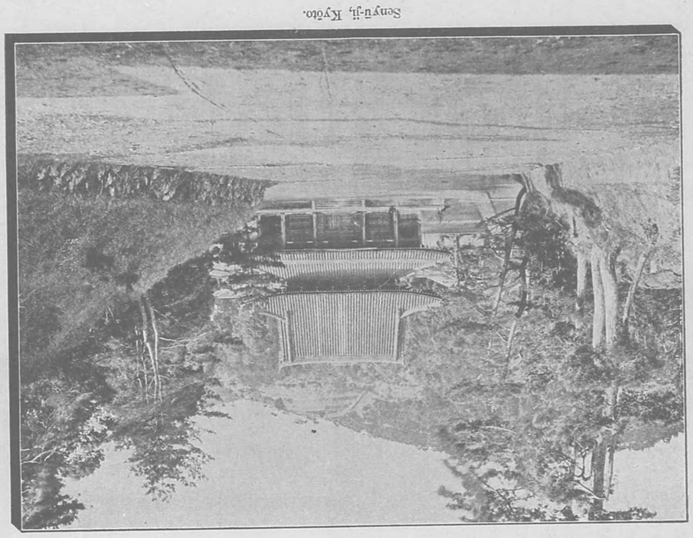
四條鐵橋（京都）

Iron Bridge of Shijō, Kyōto.



三條大橋（京都）

Sanjō no O-hashi, Kyōto.



（京都）　泉涌寺

Sonyū-ji, Kyōto.

（山城八幡）　石清水八幡宮

Iwashimidzu Shintō-Temple at Yawata; Yamashiro.

石清水八幡宮（山城男山）

有名なる官幣大社にして、城州綴喜郡男山に在り、祭神は應神、神功、玉依姫の三坐にして、貞觀年間、南都大安寺の沙門行教なる者、宇佐八幡の神告を蒙り、勅許を得て勸請したるものなりと傳ふ、神殿は木造の瑞離を以て之を圍み、離の腰部以上は組格子となり、花鳥の彫刻あり、共に皆五色を彩り、金銀を縷め、壯嚴艶麗殆んど言語に絶せり、殊に神殿の兩樋は黄金を以て造られたる由傳ふ、思ふに他金に金色を鍍したるもの乎、境内名勝の重なるものは石清水、景清塚、楠公手植の樟樹、御前の橋、上下高良社等にして、攝社には若宮、若宮殿、水若宮、住吉社、狩尾社等あり、其他山上には僧坊。佛堂等多しと雖も、今は之を詳記するに遑あらず。

Iwashimidzu.

This is the name given to a temple dedicated to Hachiman, the God of War, the Emperor Ōjin, and his mother, the Empress Jingū,-situated in the village of Otokoyama, near the Yamazaki Station of the Kyōto-Osaka Railway. It was founded some 800 years ago by a Buddhist priest of Nara, who claimed that thes deities, at that time worshipped at Usa in Buzen, had appeared to him and promised if a temple were built in their honor, that they would extend their special protection to the Imperial Capital at Kyōto. Since then this temple has taken the place of that at Usa, as the chief seat of the worship of Hachiman. There are three shrines within the grounds dedicated, respectively to the Emperor Ōjin, the three daughters of Susanoo-no-mikoto, and the Empress Jingū. The water conductors of the eaves are of gilded metal, while on the palings which surround the enclosure, there is much interesting carved work.

泉涌寺（京都）

京都三十三間堂の南方、山上に在り弘法大師の開基なり、初め之を法輪寺と稱し、次で仙遊寺と改め、後、寺内に靈泉の涌出するを發見して、更に之を泉涌寺と改號したり、此寺は四條天皇を初めとし、後水尾天皇以來歴朝の帝陵、皆其後山に在るを以て、現今帝室の之を遇せらるゝ、最も重きを加へ給ひ、先年火災の時の如きは、特に恩賜の金ありしと云ふ、寺域は四萬餘坪ありて、遠く市街の熱閧を隔て毫も俗塵の襲來するなきのみならず、老松綠深うして幾多の寺院樓閣を繞り清風颯々、其梢を拂ふて、能く俗機を斷つべし、探奇の士は來つて此の清寂の境に、遊神の勃々たるを慰し吊古の客は訪ふて幾多の山陵に、一掬の閼伽を手向けらるゝこと、彼の飲酒哺飯に名塲を俗化するものに勝ること萬々なるべし。

Senyu-ji.

This Buddhist temple is situated on a hill a little south of the Sanjūsangen-dō in Kyōto. It was founded by Kōbō Daishi, and afterwards came to be the burial place of successive Emperors, and is, therefore held in great reverency by the Imperial Family.

圓山（京都）

圓山鎭泉は八坂神社の東方東山の半腹に在り、明治六年の創設にして、三層の高樓巍然として雲霄に聳へ、前砌には泉石を疊み、浴場の構造、房室の裝飾、盡く洋風を摸擬し、絢爛殆んど人目を眩せしむ、浴後欄頭に凭りて眸を放てば、京師の風物渾て一望の下に攬まり、四方の峯巒、亦、指顧の間に在り、其眺望の絶佳なる京都市内の最なりと云ふ、下方は古へ安養寺の宿坊にして、今、尙ほ旅舍に也阿彌、左阿彌、蓮阿彌、正阿彌、眼阿彌、橋の寮等の名を存するは、全く當時の名殘なりと言傳ふ、中にも也阿彌は初め多福庵、又、一乘院と稱し、慈鎭和尙閑棲の地にして、圓光大師、亦、之に住したることありと云へり、菴下石塔の下に泉あるを名けて吉水と曰ふ、世に慈鎭を稱して吉水の和尙と曰へるは之れが爲めなり。

Maru-yama.

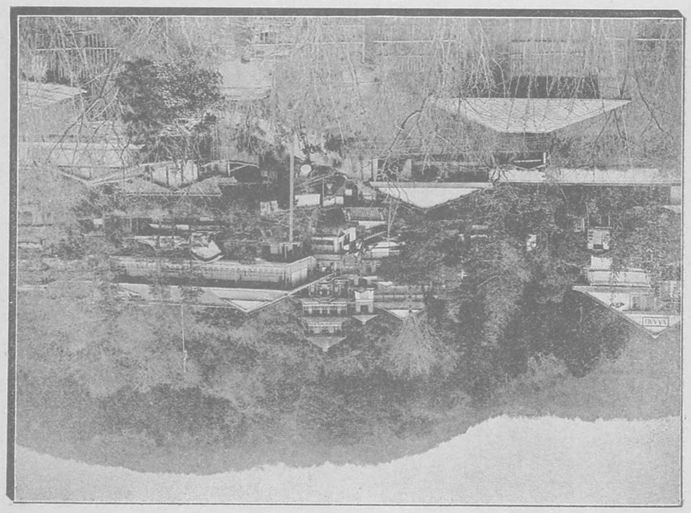
Maru-yama is a hill on the east of Kyōto. It affords an extensive view of the city and the adjacent country.

嵐山渡月橋（京都）

城州大堰川の上方にありて、林木森蔚、殊に櫻樹多く、春時の望觀實に京師に冠たるもの、之を嵐山となす、相傳ふ、古へ龜山上皇、吉野の花を愛し、之を此山に移し植ゑしめ給ひしなりと、北岸に割烹店あり、三軒屋と曰ふ、春秋二季、櫻花紅葉の時の如きは、雅俗來集して殆んど餘室を存せざるに至ると云へり、川に渡月橋あり、三軒屋の下方より、對岸法輪寺の山下に達するものにして、長虹一帶碧流に泛び、山水の韻致更に一層の雅味を添ふ、附近に千鳥ヶ淵、戸難瀨川等の勝あり、殊に戸無瀨の瀧の上には、有名なる淺黃櫻の大樹ありて、巨幹繁枝、一株以て林を成し、超然として一家の春を擅まゝにす、舟を大堰の淸流に泛べて、兩岸の風光を獨占すれば、益し一段の豪興なるべし。

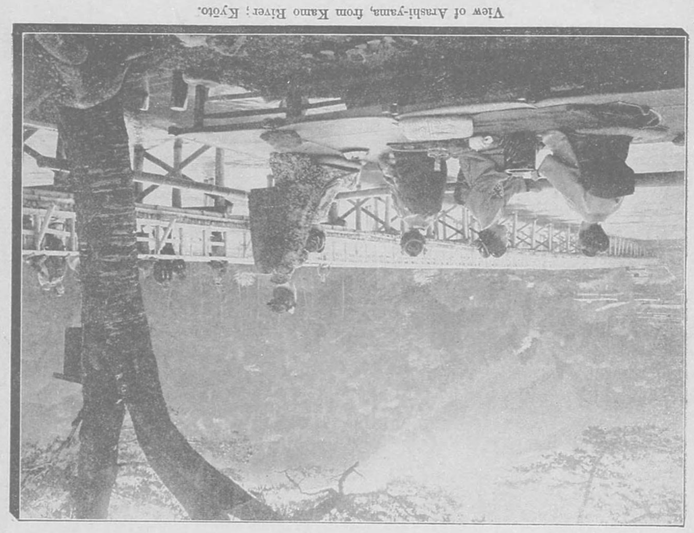
Togetsu-kyō.

This name, if literally translated, would become the Ferry-moon Bridge. The moon as seen when crossing a river possesses for the Japanese, many poetical associations which have been transfered to this bridge across the Ōi River at the foot of Arashi-yama, west of Kyōto. Near by are two celebrated ravines, Chidori-ga-fuchi and Tonase-gawa which are much visited by the residents of Kyōto.



（京都）　圓　山

Maruyama, Kyōto.



（京都）　加茂川より嵐山を望む

View of Arashi-yama, from Kamo River; Kyōto.

宇治川（京都附近）

源を近江の琵琶湖に發し、城州、宇治、久世の二郡を經て、伏見淀川に合流するもの、即ち有名なる宇治川なり、西南には宇治町あり、東北には菟道の里あり、河に沿ふて、菊屋其他の旅店、割烹店など、頗る瀟洒清潔なるものありて、翠巒清流、四時風光に乏しからねど、新綠の候、螢火の頃は、此地最も愛賞に可なるの時にして、殊に茶圃摘芽の時に方りては、村歌斷續滴翠の間に聞え、一種言ひ難きの趣きあり、螢火は古來著名の景品、點々として岩柳汀蘆に飛ぶの幽致、之を蕪辭に狀する已に贅なり、樓に凭り、舟に棹し、其間夏夜の清涼を掬す、蓋し人生快樂中の、最も爽絶なるものならむ、有名なる宇治川先登の古跡、即ち平家物語に所謂、橘の小島ヶ崎は、今の橘媛神社の近傍なりと云へど、其考證甚だ確かならず。

The Uji River.

The Uji River forms the outlet of Lake Biwa, and after a course of seven miles joins the Yodo River at Fushimi. The town of Uji is on the left bank of the river about three miles from Fushimi. It has an important place in the older literature of Japan. Here are some of most celebrated tea fields of the country. In the early summer, there are many visitors who find great pleasure in watching the fireflies which are abundant on the river bank.

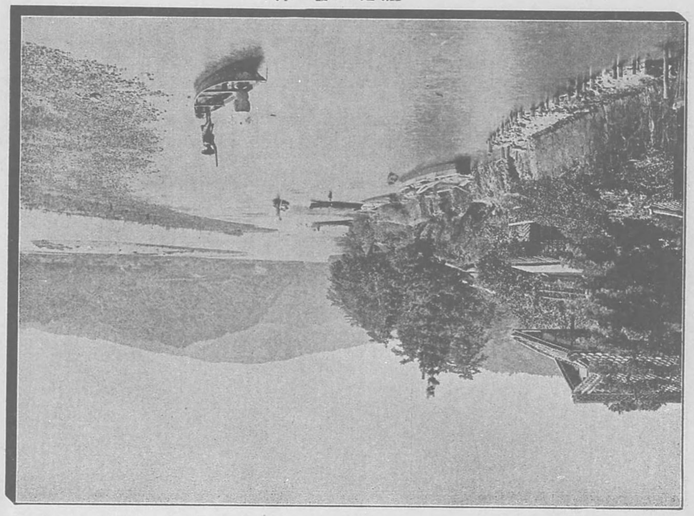
保津川（丹波）

城州大堰川の上流にして、急瀨激湍、洵に稀有の奇勝なり、大堰川より遡るものは、嵐山渡月橋の西方、大悲閣鐵泉の邊りより、舟夫を雇ふて之を曳かしむるもあれど、眞に此中の奇勝を探らんと欲するものは、宜しく別に陸行して丹波亀岡に至り、舟を雇ふて之を下るを好とす、水急峻、奇巖怪石流域に起伏し、瀨あり瀧あり、舟夫は僅かに一篙を携へて舳先に立ち、巧みに篙を舞はして岩石を避け、以て舟を下す、其巧妙驚歎するに堪へたり、而して此行初夏新綠の候を以て第一の好時節とす、兩岸の躑躅繚亂紅を漲して、更に一段の興を加ふるものあり、南摩綱紀氏が漢文にものせる、下保津川記、最も人口に膾炙す就て見るべし。

Hotsu-gawa.

Hotsu-gawa (Hotsu River) is the name given to the upper courses of the Ōi-gawa, including the well-known rapids near Arashi-yama, a few miles west of Kyōto.

（山城）　宇　治　川



Uji River; Yamashiro.

（京都）　保　津　川の上流

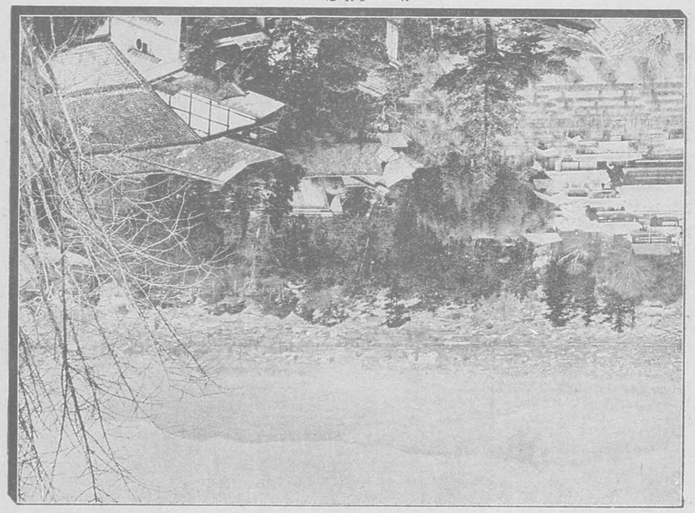
Upper Course of Hotsu River, Kyoto.

京都市街 （山城）

桓武奠都以來、年を閱すること一千有餘、朝を歷ること七十二、以て明治の遷都に至るまで、永く帝政の中心たり、其廣袤は東西二里、南北一里半にして、之を上下の二區に分ち、上京は、面積一方里强、市坊六百四十、戶數三万、人口十四万を有し、下京は、面積一方里弱、戶數四万、人口十六万を算す、市街潔整、山水明媚にして、繁華と閑雅とを併有するの地、之を全國の廣きに求むるも、別に其類を得ざるべし、往古、桓武建都の時に在りては、南北の間、大路を設くること九條、小路を布くこと三十にして、朱雀大路其中央に位し、其以東を左京、以西を右京と名け、共に十五條の街路を布き、南北一千八百丈、東西一千六百丈、邊衢の整然たる、大に現時に勝るものありしが、屢々回錄に罹り、亂離を經て、市街の繁否、幾回か變遷したりと雖も、甚だ街路の布列を變ぜず、只だ七條以南の田圃に委したると、加茂川を越へて幾多の市坊を構成したるとは、大に舊態を改めたるものと謂ふべし、今や帝都已に東に遷り、痛く往時の繁榮を減殺したりと雖も、玉座は依然舊內裏に保存せられて、大祭會等の國典は、特に此地に擧行せられ、二條、桂、修學院等の離宮、亦比隣に點在して、帝室の殊に愛護せらるゝ所に係り、尙ほ我が副京たるに異らず、殊に風光の秀麗にして、名祠古刹に富むを以て、觀光の客、來賓の士、陸續として踵を接す、之を帝國の公園と謂ふ、素より溢美にあらざる也。

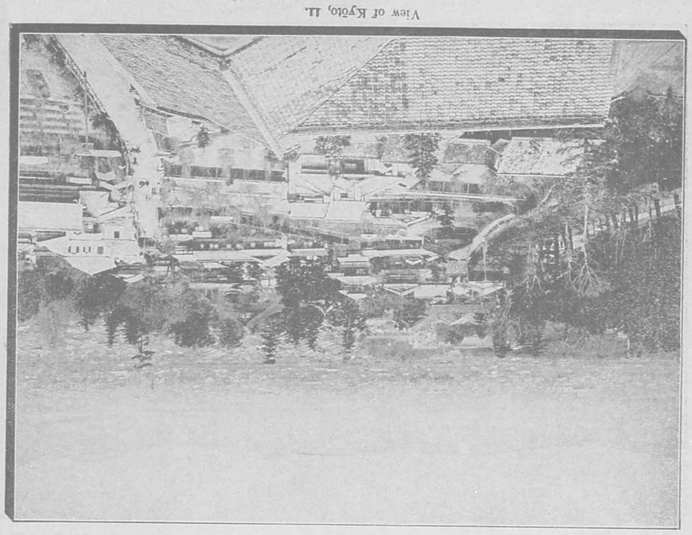
Kyōto.

Kyōto, or Saikyō,—that is, "The Western Capital",—is situated in the province of Yamashiro. It was founded A. D. 784, by the Emperor Kwammu, and was from that time the residence of the Imperial Family until the Restoration in 1868. Kyōto is rich in historical associations, and was for centuries the home of the art and literature of the Empire. The removal of the Imperial Court to Tōkyō (Eastern Capital) naturally exerted a depressing influence upon the city; but a new impetus has been given to its industrial life during recent years, and the population has considerably increased. In 1897, the number of inhabitants was 308,000. The Second Imperial University is located in the city, and also the Dōshi-sha, one of the best known of the endowed schools of Japan.



京都市街の一

View of Kyōto, I.



京都市街の二

View of Kyōto, II.

智恩院 （京都）

八坂神社の東北に在り、華頂山大谷寺と號す、東山第一の巨刹なり、寺域廣漠にして秀麗、輪奐たる樓臺、老松古柏の間に隱見し、風光最も明媚なり、山門の下には櫻樹を栽ゑ、鬱金櫻の名木ありて、遊賞の客踵を絶たず、本堂は東西二十二間、南北十八間、表面の扁額は、後奈良天皇の宸筆なりと言傳ふ、世に喧傳する智恩院の傘は、本堂の裝位、擔角に挿めり、時代古さものなれど、其何の爲にせしものなるやは今に至るまで明ならず、廊下は皆鶯張りにして、襖の畫には狩野何某が拔雀、八方睨の猫などあり共に尙古家の垂涎する所とす、寺内名蹟極めて多く、殊に東南の鐘樓には高さ二丈徑一丈の巨鐘あり、智恩院の大鐘とて世に持囃さるゝは是なり、此に掲げたるは同寺の山門にして、其内陣は別圖を以て之を示すべし。

下加茂の御手洗 （山城）

下加茂は城州愛宕郡下鴨村、加茂御祖神社の通稱にして、社頭糺河原を通過する一水を、名けて御手洗川と曰ふ、細流潺湲として幽邃閑雅、涼味掬すべきものあり、京人之を加茂の御手洗と唱へ、夏時納涼の勝地とす、三伏の候に及べば、水に臨んで棚架を設き、酒茶を齎らして遊ふものあり、殊に糺の森と境域相密接し、碧流翠林、相映帶して一層の景致を添ゆるのみならず、樹林奥深きところには加茂の祠廟神寂びて、宮柱太々しく立たせ給ふなど、繁華は固より四條の晩凉に及はざれども、凉味は却て之よりも清く、晝夜遊賞の雅客、鈴を曳くもの絶へずと云ふ。

（京都）智恩院山門

San-mon of Chion-win, Kyōto.

（京都）加茂の祭禮

Festival Procession of Kamo Shintō-Temple; Kyōto.

（京都）下加茂

Shintō-Temple Shimo-Gamo; Kyōto.

（京都）下加茂の御手洗

Consecrated Bath, at Shimo-Kamo Shintō-Temple, Kyōto.

智恩院内陣（京都）

智恩院の形勝は、別圖山門の條下に於て、其概畧を記述せり、此には同院内陣の圖を掲けて、以て其遺ちたるを補はんに、同院は淨土宗鎮西派の總本山にして、寺域は本と其南隣圓山の封境に屬し、叡山の別院南禪院の有なりしが、第十二代の山門座主慈鎮和尚、之を法然上人に割與したるものなりと傳ふ、本堂は滿譽和尚の時、東照公の台命により、險を穿ちて造營せしものにして、其結構最も壯麗輪奐を極め、殊に内陳に至りては、金碧燦爛一見、人目を眩せしむ、寺僧に乞はゞ嚮導して各寶を縱覽せしむべしと言へり、此圖は内陣の一部、十六羅漢を撮影したるものなり。

Chion-in.

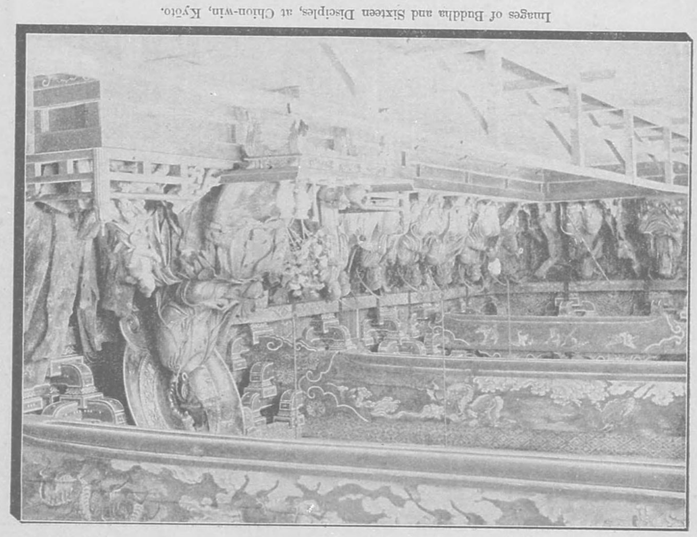
The picture shows the interior of the hall called the *naijin* where are placed the images of the sixteen disciples of Buddha called Rakan. The temple was built by the priest, Manyō, in the time of Iyeyasu Chion-in is the head temple of the Chinzei division of the Jōdo sect. It is situated in the eastern part of the city of Kyōto.

清水寺本堂（京都）

清水寺、號して音羽山と曰ふ、京都清水阪の東端に在りて、洛東第一の靈場なり、開基は大和小島寺の僧延鎮にして、延曆二年、阪上田村麿と相謀り、創めて此地に堂宇を建立し、之を北觀音寺と號したりしが、後桓武天皇の御宇に及んで、田村麿更に之を修造し、後又十四年を經て、平城天皇に至れり、更に紫宸殿を田村麿に賜ひ、大に土工を起して之を造營せしめられたる、是れ此寺の緣起なり、境域の結搆、殿堂の建築、悉く雄偉にして、本堂は阪の南邊に立ち、懸崖に架して、前に舞臺を設く、臺上より望めば、河内の金剛山を天空の間に認め、淡路の諸山を、模糊の中に見るを得べし、本尊は十一面四十臂の觀音にして、身長八尺、傳へて化人の作なりと云ひ、田村將軍東夷征討の時、陣頭に現はれて其軍を救ひたる靈像なりと稱し、今も箭痕處々に印せり、境内名勝多くして、一々之を盡すべきの絶境なり。

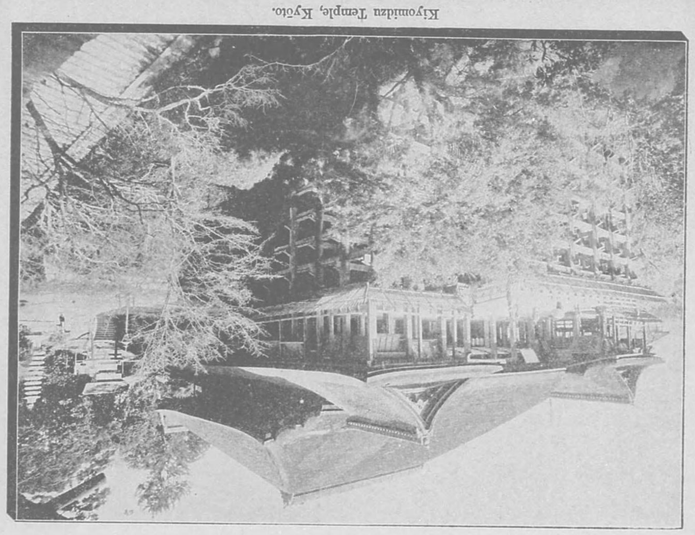
Kiyomidzu.

This is the name of a celebrated temple in the outskirts of Kyōto, on the south-east. It belongs to the Tendai sect and was built in A. D. 783. It stands on elevated ground and affords a very wide view to the south and west. On the southern side of the temple, the ground falls away abruptly, so that the floor of the temple is some scores of feet 600, it is popularly said, from the ground. It was the custom for penitents, or others in fulfilment of their vows, to jump down this height in the hope of miraculous deliverance. The danger was usually lessened by using an umbrella as a parachute.



羅漢像十六の院堂智恩（京都）

Images of Buddha and Sixteen Disciples, at Chion-in, Kyōto.



清水寺本堂（京都）

Kiyomidzu Temple, Kyōto.

東福寺通天橋（山城）

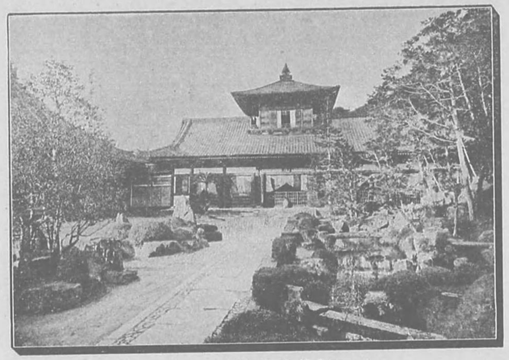
慧日山東福寺は、山城伏見街道一ノ橋の南、一町あまりの地に位し、京都三條大橋を距ること、二十六町なり、寺域五万九千四百六十坪、建長七年、九條道長の創建に係り、天台宗にして、聖一國師辨圓の開基せし所なり。古へは七堂伽藍、巍々として域内に連り、規模極めて、宏壯なりしが明治年間失火の爲めに其大半を燒失し、今や稍く廢頽に歸したり、然れども有名なる通天橋は、幸に池魚の災を免がれ、今尚ほ紅葉の勝地を以て鳴り、其他四五の佛刹は、閑寂寥寞の裡に峙ち、禪味轉た深し、又此寺の什寶中には、天下無倫の絶品と稱せらるゝ、兆殿司揮毫の涅槃像あり、別に同筆の五百羅漢の像、觀音三十三身の相など、亦奇品として人口に膾炙せり。

黑谷（京都）

紫雲山金戒光明寺と號す、淨土宗鎮西四箇の一本寺にして、京都神樂ヶ岡の近傍に在り、古昔淨土宗の始祖法然上人、居住の舊蹟にして、叡山西塔の黑谷を摸したるに因り、初め新黑谷と稱せしが、後世單に黑谷と稱するに至れり、寺域三万三千百四十六坪、本堂、方丈、阿彌陀堂、鐘堂、經藏、觀音堂、勢至堂熊谷堂、三重塔などあり、本堂の庭前に在る鎧懸松は、熊谷直實法然の徒弟となりし時、其鎧を脱して懸けたる所なりと云ひ、塔の北方に在る紫雲石は、法然此石上に踞して念誦せし時、紫雲四邊を圍み、異香薫馥したる處なりと云ふ、境内總て自然の山林に據り、樹深く、苔滑かにして、殆んど幽谷に入るが如く、昔時叡山の深壑に摸したりと云へるもの其必ず誣妄にあらざるを知る也。

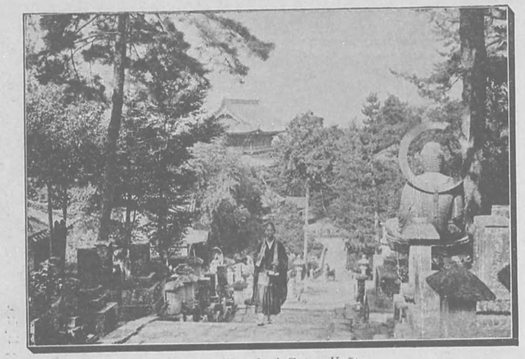
大谷目鏡橋（京都）

京都清水より來りて延年寺辻子を過ぐれば、西本願寺の廟所西大谷なり、此地門前の風景、全く人工に成ると雖も、亦洛東佳景の一にして、地上花崗石を疊みて目鏡橋を架し、橋下多く紅蓮白蓮の花を栽ゆ、加ふるに地畔翁蔚たる松樹を列ねて、翠嵐將さに衣を濕さんとし、其間又櫻楓の二樹を植ゑて之を點綴し、池に臨みては、處々に茶店酒舗を設けて、青旃紅燈を樹間に認むるなど、造化も亦及ばざるの韻致なり、是を以て四時常に遊客の踵を絶たず、殊に池塘蓮香の薫る時には、最も雅趣を極むと云ふ、近隣には鳥部山、清閑寺、方廣寺などもあれば、探勝、吊古、二つながら妙なるべし。



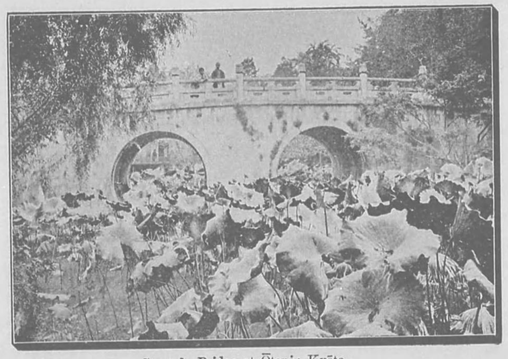
（京都）東福寺山門

Gate of Tōfuku-ji, Kyōto.



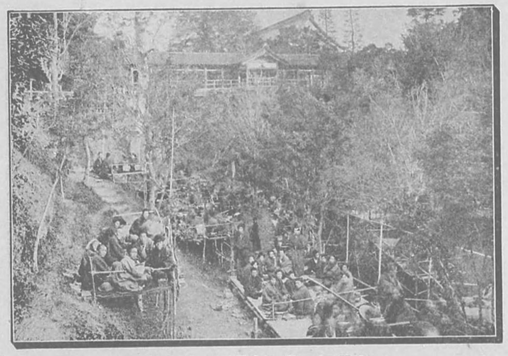
（京都）黑谷開山堂より山門を見る

View of Kurodani Gate ; Kyōto.



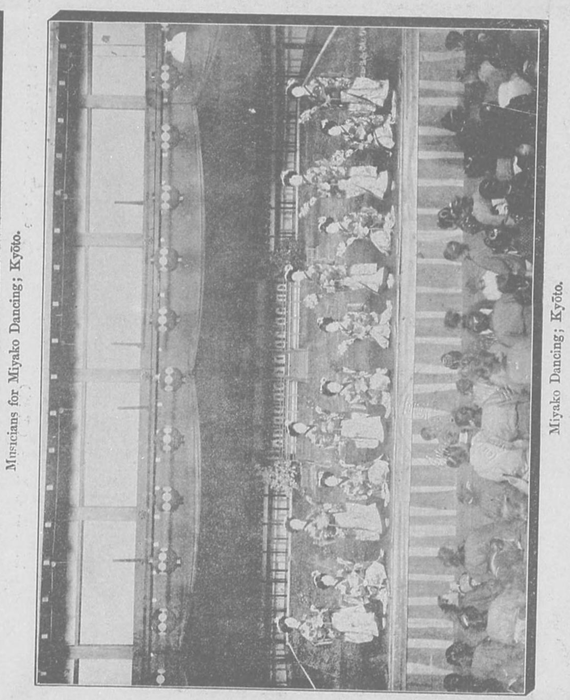
（京都大谷）眼鏡橋

Spectale Bridge at Ōtani ; Kyōto.



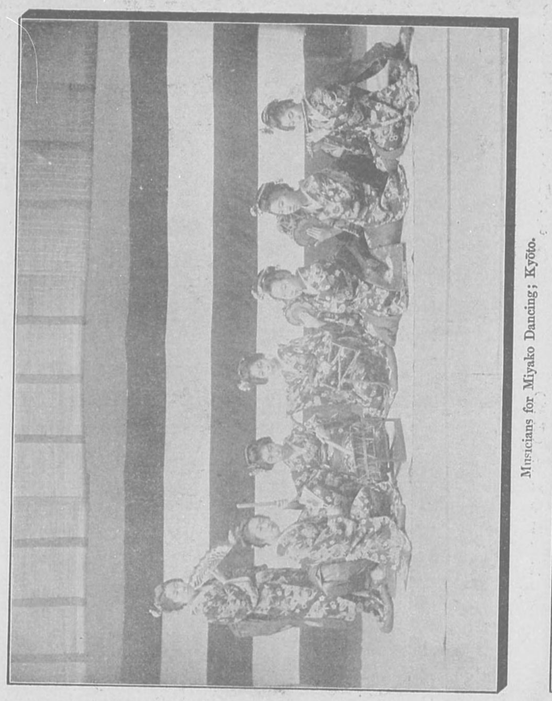
（京都）東福寺通天橋

Tsūten-kyō of Tōfuku Temple, Kyōto.



（京都）都踊り

Miyako Dancing; Kyōto.



（京都）都踊り七人囃子

Musicians for Miyako Dancing; Kyōto.

加賀産紙合資會社營業廣告

○工場製紙　○製紙原料

○加賀産紙　○各地産紙

○製紙用藥品　○紙類依托賣買

右各種營業特別勉强致候間御注文願上候工場製紙ハ紙數ニヨリ厚薄寸尺等御好ニヨリ別段ニ抄造候各地産紙製紙用藥品類ハ各地製紙場及各製造元ト特別ノ約定アレハ別段ニ勉强致候也

加賀金澤市上松原町（尾山神社前）

紙卸商　加賀産紙合資會社

加賀國河北郡醫王山村字二俣

同製紙工場

The Kaga Paper Company.

This company deals in paper from its own and other factories, also in chemicals and other materials used in the manufacture of paper. Papers all sizes and quality will be made to the order of customers. Its office is at

Kami-matsubara-chō,
Kanazawa, Kaga.

祇園社より市中を望む（京都）

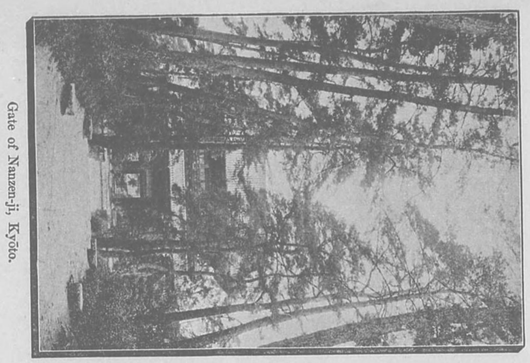
祇園社は即ち西京八阪神社にして、地は祇園町の東端、東山の麓に在り、正門は南面して、下河原の北端に峙つが故に、京都市中の大半は、皆な眺圖の下に在り、殊に眼下は、祇園新地の洒樓妓院一戸々相接し、家々相綺る、欄頭の冬媛、之を望めば紅霞の靉靆くが如く、閣上の美姫、之を見れば紫藤の垂るゝにも似たらんか、眼を放てば、市坊の甍瓦、鱗次櫛比し、時に大祠巨刹の其間に聳ゆるあり、深翠老樹の間、金壁燦爛たる大伽藍を望むなど、亦一種の妙趣を存し、爽快言ふべからず、殊に祇園會の時の如きは、市内各町より曳出したる山鉾の、整々列を正して市中を巡るの狀、明瞭指顧の下に攜まる、眞に西都の壯觀たり。

南禪寺山門（京都）

京都粟田口の北、南禪寺町に在り、舊と龜山法皇の宸居なりしが、正應の初め宮中に怪異多かりし時、東福寺の僧無關和尚、禱つて之を除きたる功に依り、宮殿を割いて佛寺とし且つ佛殿を建立して、瑞龍山大平興國南禪々寺と號し、之に賜へり、是れ即ち此寺の草創にして、爾後年を經ること六百載、其間應仁の兵火に炎上して、痛く荒癈に歸し、今は僅かに其幾分を餘すに過ぎず、茲に圖する所のものは、五鳳樓と名くる同寺の山門にして、寛永年間、藤堂高虎の再建せし所なり、と言傳へ境内有數の名蹟に屬せり、境域六万三千餘坪老松深く幾多の子院を鎖ざし、書尚ほ暗くして、冷氣膚に迫らんとす、眞に京都市内幽寂の佳たり。

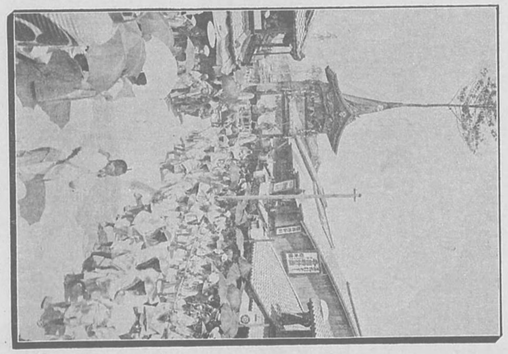
Gion no Yashiro.

The true name of the Shintō temple is the Yasaka jinsha (temple . It is situated on the slope of Higashi-yama in Kyōto. Its elevated situation affords a wide view of the city of Kyōto and the surrounding plain. At its annual festivals, worshippers come in crowds from all the neighboring towns and villages, and join the gorgeous procession in honor of the deity.



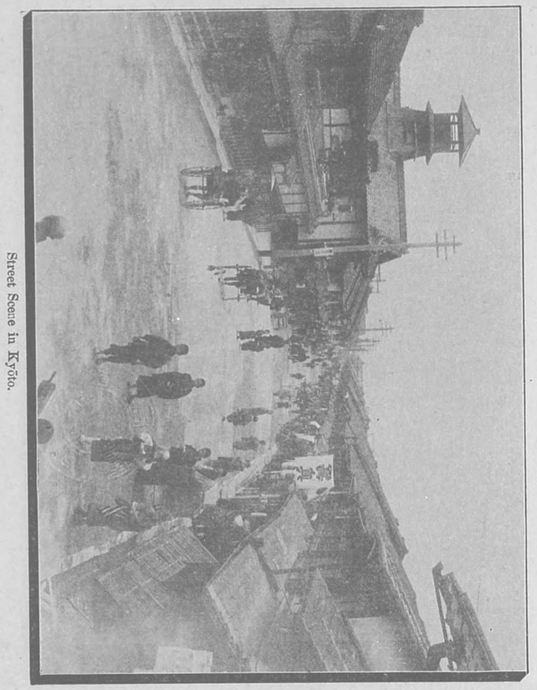
（京都）南禪寺山門

Gate of Nanzen-ji, Kyōto.



（京都）祇園祭禮の時

Religious Festival Procession, Kyōto.



（京都）祇園社内より市中を望む

Street Scene in Kyōto.

松尾神社　(山城松尾)

城州葛野郡上山田村松尾山下に在り、祀る所の神二座ありて、一を大山咋神とし、一を市杵島姫神とす、官幣大社の一にして、和銅二年、之を加茂より遷坐し、大寶元年其神殿を創建せるよし、社記に見へたり、正殿、拜殿、竈殿、厨所、神明殿、社務所など、境内に鱗次櫛比し攝社、末社等、亦多く山上山下に散布して、洛西第一の大社なりと稱せらる、山上を別雷の峰と云ひ、正殿の西北十町ばかりを隔てたるところに在り、巓上に巨大なる巖石あるもの、當社の神靈始めて降臨せし所なりと言傳へ、今は注連を張り、幣を捧げて、之を崇敬するもの尠からず。

南禪寺棧橋　(京都)

南禪寺は、京都粟田口の北、南禪寺町に在り其先龜山の院の宸居に屬せしが、正應の初め宮中に怪異多かりし時、東福寺の僧無關禪師怨敵退散の法を修して、之を除きたる功に依り、宮殿を割ひて佛寺とし、之を賜ひたるもの、是れ此寺の草創なりと傳ふ、所謂同寺の棧橋は京都疏水のインクラインと稱するものにして、其奇工妙技、殆んど言語に絶す、疏水の舟此處に至れば、棧橋の作用によりて直ちに地面に上り、棧橋軌道の上を走ること瀛車の如く、其盡端に至りて再び、水中に浮ひ航行すること故の如し、初めて之を觀るもの其奇に驚かざるはなしと云ふ、其裝置に至りては、複雜にして之を詳述するに由なきも、要するに水力電氣の作用に基づくものなりと言へり、京都に遊ぶものは、必ず一見すべきの價値あるを信ず。

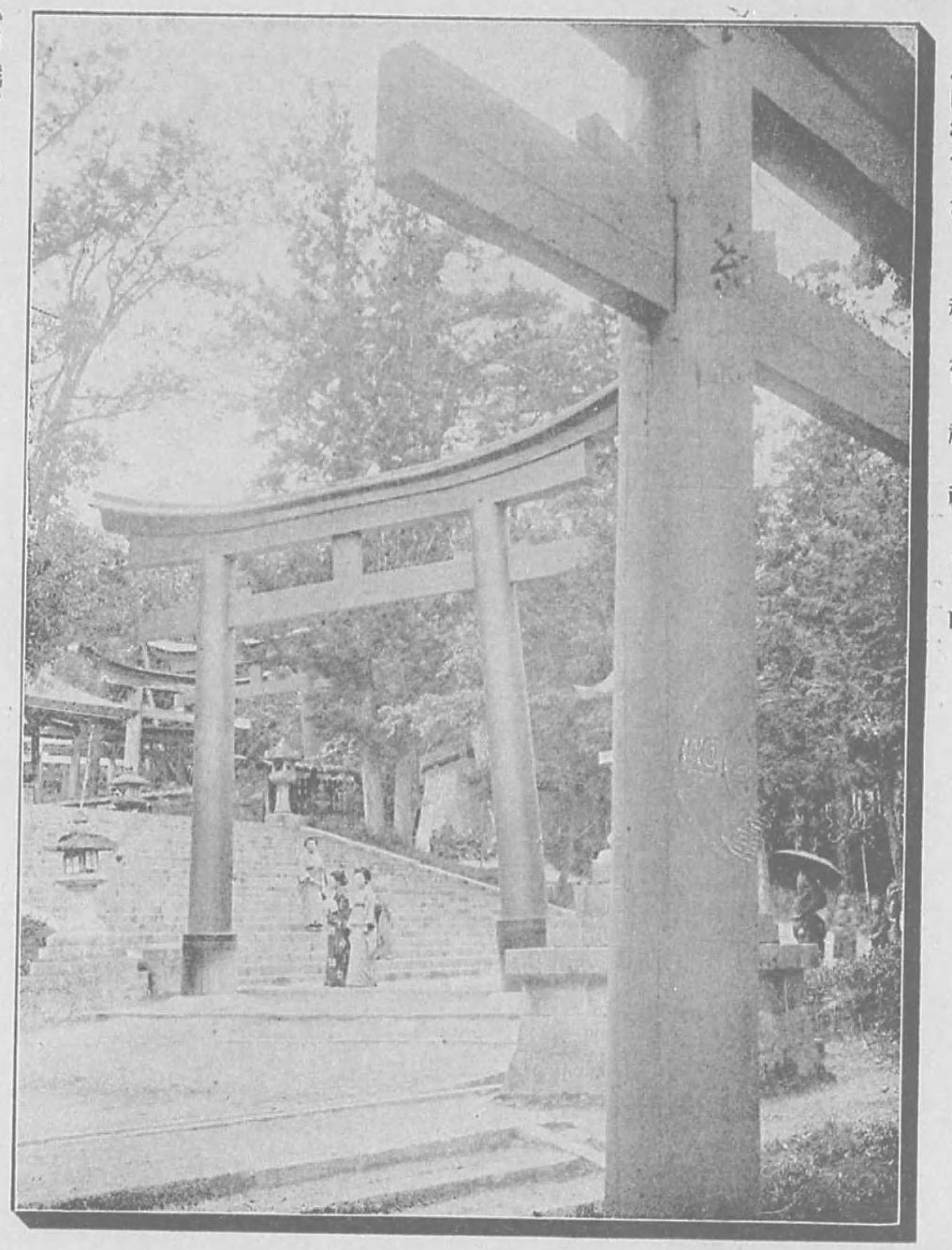
伏見稲荷社　(山城伏見)

城州、伏見東福寺の南、凡十町ばかりの處にありて、官幣大社の一なり、社域は稲荷山に據りて頗る廣濶、本社、若宮、拜殿、繪馬堂、寶庫、御供殿、御輿殿など、鱗次甍を列ねて宏壯華麗、亭々たる喬杉之を圍んで翠紅相映じ、更に丹艶美を加ふ、例祭は毎歳五月を以て執行し、神輿五基、伏見街道より七條橋を渡り、九條村に神幸あり、儀式嚴肅にして行裝亦華美なり、社の後山には攝社末社點々峯巒溪谷の間に連なることと一里有餘之を順拜するを御山廻りと稱し、賽人常に路に絶へず、社前の市街を稲荷御前町と云ふ、茶店軒を接して客足繁く、又伏見人形の販賣を以て名あり、東海鐵道の稲荷停車場は、恰も本社の華表前にあるを以て、賽人の藉て以て便を得るもの少からずと云ふ。

Inari.

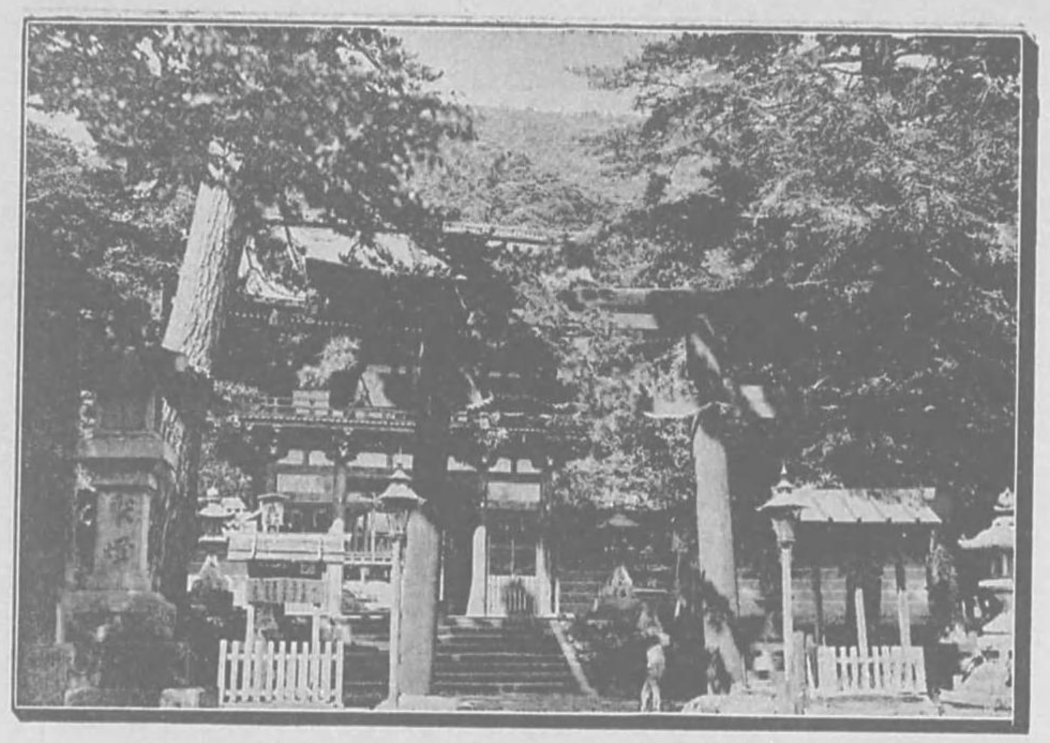
This famous Shintō temple is situated only a few steps from the Inari Station of the Kyōto-Ōtsu Railay. The buildings are all painted red and form a striking contract with surrounding foliage. The grounds are extensive and interesting. Inari is the patron deity, of rice culture, whose messenger and symbol is the fox. Hence earthern images of the fox are made in that neighborhood and sold in large numbers as mementos to those who visit the shrine.

(山城伏見)　稲荷神社々前



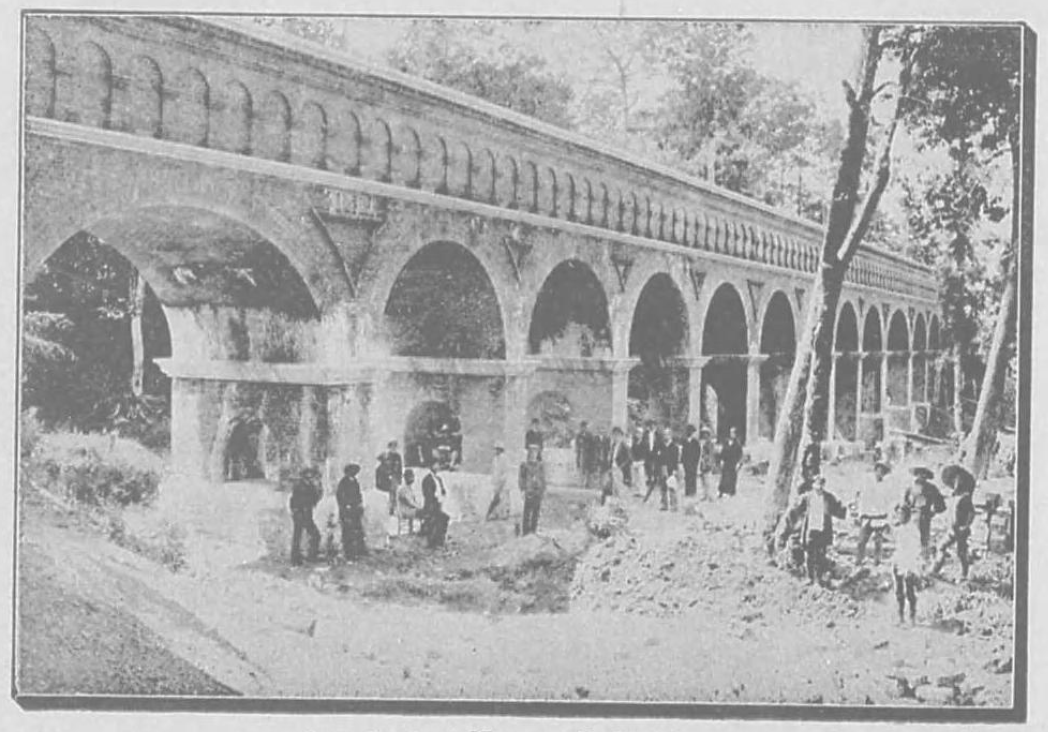
Approach to Inari Temple; Fushimi, Yamashiro.

(山城)　松尾神社



Matsu-no-wo Shintō-Temple; Yamashiro.

(京都)　南禪寺棧橋



Aqueduct at Nanzen-ji, Kyōto.

大極殿（京都）

延暦二十三年、桓武天皇平安城を奠め、大内裏を營み給ひし時、其正殿を大極殿と云へり、當時は今の向日町、即ち長岡の舊都（古へ長岡の宮の在りし所）に在りしが、爾來屢々滄桑の變を經て、今は其墟址をだも存せざるに至りしより、有志相謀りて、明治廿八年の奠都祭を機とし、古の制に摸して、其三分の一の大に造り、之を平安神宮（桓武天皇を祀る）の前殿に充てたるなり、中央にあるは即ち大極殿、左右にあるは棲鳳、白虎の兩樓前庭の欄のあるところを龍尾道と云ふ、此の一殿兩樓、古への宏大には及ばざれども、尚ほ延暦の偉觀を想像するに餘り、聖德の盛なりしを仰ぐべきなり。

Taikyoku-den.

Taikyoku-den is a spacious building erected at the time of the great Kyōto Exhibition in 1895, in imitation of the palace built when Emperor Kwammu ascended the throne. Strictly speaking, the present Taikyoku-den forms the outer shrine of the Shintō Temple, Heian-jingū, or Heian Temple, Heian being the name given to Kyōto by its founder, the Emperor Kwammu, to whom the temple is dedicated. This temple is situated some distance east of the city of Kyōto.

應天門（京都）

古へ大極殿の正門にして、桓武天皇始めて大和より遷都せさせ給ひたる時は、今の向日町明神社のあたり、土人の呼びて御所屋敷と云へる近傍に、寶鼎を奠め給ひて、之を長岡の宮と稱へさせ給ひたるよし、古紀に見ゆれば、大極殿と共に、門も亦同處に在りしものなりと覺ぼし、左れど爾來幾多の變遷を歷て、平安城も今の京都に其位置を轉ずるに至りたれば、大極殿も何時しかに其規摸を亡ひ有名なる弘法大師が、筆を投じて一點を加へたりと云へる應天門も、亦、今は其墟址をだに止めざるに至れるぞ、慨かはしきの極みならずや、此門は過る明治廿八年、平安奠都祭の時、京都有志の人々が大極殿の造營を企てたる砌り、其正門にとて築きたるものゝよしにて、今は市人おしなべて之を應天門と呼ふとかや、觀るもの誰か滄桑の感に打たれざらん、建築は皆古制を奠し柱種は赤色を用ひ、碧瓦にて葺きたれば壯觀他の建造物に於て見るべからざるものとす吊古の士は必ず一見すべきの價値あり。

Oten-mon.

This is the chief entrance of the Taikyoku-den. It opens toward the south.

（京都）　應天門の遠景

Oten Gate in Snow-time; Kyōto.

（京都）　大極殿

Taikyoku-den Imperial Palace, Kyōto.

豐國神社（京都）

京都大佛殿の南隣に在りて、豊大閤秀吉の靈を祀る、初め慶長四年、朝廷秀吉に、豊國大明神の神號を下し賜はり、其祠を方廣寺の境内に造營せしめられしも、寛政年間、一たび回祿の災に罹りたる後は、又再建の事なく、長年月の間、唯だ一基の碑石を存するのみなりしが、明治十年に至りて、朝廷再び秀吉の功績を追錄せられて、之を別格官幣社に列し、新たに土工を起して、壯嚴なる社殿を造營せしめらる、即ち今の豊國神社なり、社の背後には、東山の峯嶺阿彌陀峰ありて、峰は秀吉の遺體を葬りたるところなり、山上最も高き處に華表を立て内に廟舍を築造せり、眺矚亦廣濶にして、登臨の興少からず、京都に遊ぶものは、廟に詣して、千古の英雄猿面冠者の孤魂を吊ふと共に、此の幽寂の境に、遊神を養ふも亦可。

Hōkoku-jinsha.

This Shintō-temple, Hōkoku, is situated in Kyōto, south of the great Daibutsu, and is dedicated to Hideyoshi. It was burned a hundred years ago, but was rebuilt by order of the Imperial Household in 1877. The tomb of Hideyoshi is shown in the rear of the temple. The Japanese make a sharp distinction between the honors paid to deceased heroes like Hideyoshi, and those paid to Michizane and possibly a few others. The latter are supposed to be more fully adopted into the divine society.

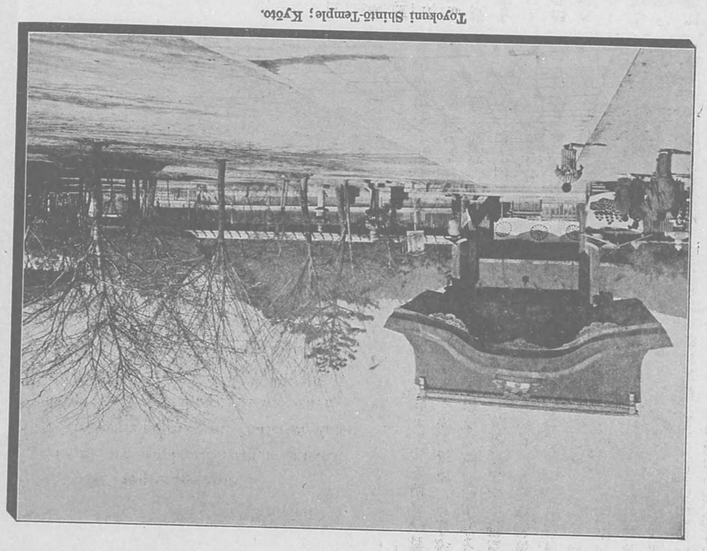
平等院（山城宇治）

城州宇治郡舊宇治橋の南に在り、初め此地は河原左大臣融の別業なりしが、後ち陽成院行宮を此に築きて宇治院と稱させ給ひ、宇多、朱雀の二帝、亦、之を離宮とし給ひしが、長德の頃、關白道長請ふて山莊となし、其子頼通の時に至り捨てゝ寺とし平等院と號す、是れ實に永承六年三月なり、此寺の本殿は、即ち世に著名なる鳳凰堂にして、曩に本邦より北米市俄古博覽會に出陳したるは、實に其模形なりと云ふ堂は屋上に銅製三尺ばかりの鳳凰雌雄を置き、風に順ふて翔舞の狀をなすさま誠に美術の尤と云ふべく堂形亦鳳凰の翼を張るに摸して、左右に閣あり、中間に廊を通ず、即ち其双翅に擬するものなりと云へり、本尊は佛師定朝作の彌陀佛にして、佛壇其他の裝飾、推して全國絶倫の美と稱せらる治承の亂に源三位頼政が陣したるも、亦、此寺にして、今堂の前なる扇の芝と云へる處あるは、彼れが自殺の跡なりと言傳へたり。

Byōdo-in.

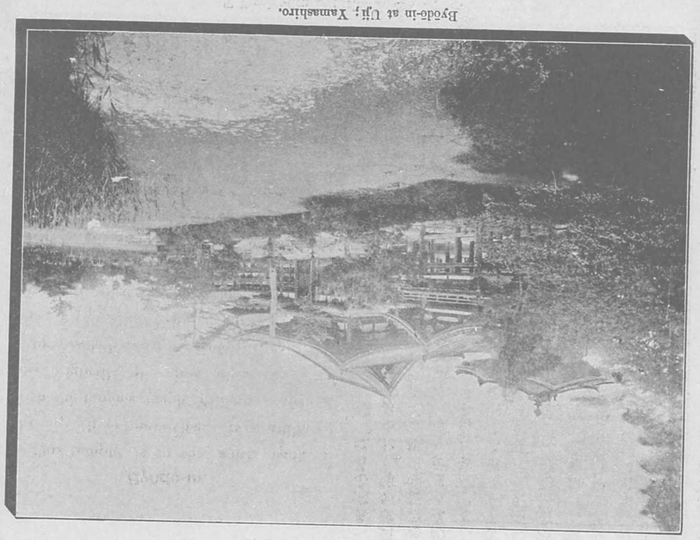
This temple is on the south bank of the Uji River, near Ōtsu. It is affiliated with the famous temple Miidera. Byōdo-in was originally the villa of a poet, the Court Noble Kawara-no-Sadaijin ; but this became a Buddhist temple in 1052. It has a large hall called Hōō-do,—that is,“ Phenix Hall”,—on account of its shape. A model of this hall was erected in the grounds of the Columbian Exhibition at Chicago.

（京都）豐國神社



Toyokuni Shinto-Temple; Kyoto.

（山城宇治）平等院



Byōdo-in at Uji; Yamashiro.

清水寺門前（京都）

清水寺の緣起、及び殿堂建築の模樣などは、已に別圖を掲げて、之を讀者に紹介せり此圖は同寺門前の光景にして、閑寂幽雅眞に禪家の寺門たるに背かず、門前より望めば、河州金剛山、崖嵬高く天空に峙ち、之を喚べば鷹へんとす、南海の諸山、亦雲煙杳渺の中に在りて、一抹の翠黛、長く水天の間を區劃す、市坊の鱗瓦は高低起伏波の如く、洛東の青巒加茂の碧流亦皆、目睫の間に在り其景、其致、素より筆舌の能く盡す所にあらざるなり、京都に遊ふものは、必ず一たび此寺に詣り、其秀氣を咀嚼すること、洵に羈旅の快興なるべし、掲げて以て清水寺の補遺となす。

仁和寺の櫻（山城御室）

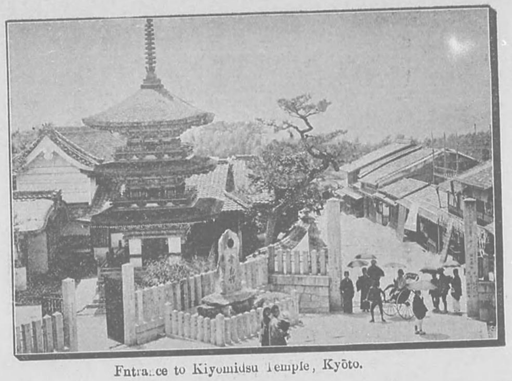
京都の西北、凡そ一里半を隔つる地を、御室と云ふ、有名なる仁和寺のある所にして寺は眞言密乘の巨刹なり、創建は光孝天皇の御宇仁和四年に在りて、宇多天皇、落飾の後當寺に入り、宮殿を造營し給へるに由り、御室又大內山の號あり、朱雀天皇、亦讓位して此に寢居を定め給ひ、以後世々法親王の寺務を執る所とす、寺域十萬六千四百六十一坪、金堂、觀音院、祖師堂、經藏、五重塔、法親王、舊殿などあり、堂舍の間、悉く植ゆるに櫻を以てし、櫻花の名殊に著し、而して此寺の櫻花は、其樹幾多の星霜を經るも、幹身の延長せざるを奇とす、株々皆根邊より花を着け、老大あるものは蟠屈曲折して地を這ふが如く花時之を望めば、紅雪の庭園を埋むるに似たり。

清水陶器店（京都）

清水燒陶器は、京都主要の物產として、何人も知らざる所あき名品なるが、個は、多く同地清水寺の下方、清水坂と云へる近傍に於て製出する所にして、此あたりは、到る所陶窯多く、中には一人にして、數窯を有するものあり、其製法、亦、巧なるあり、拙なるもあれど、概して清水燒と云へば、其釉藥精緻にして、色澤も亦凡ならず、高雅にして珍愛すべきものなりと稱せらる、殊に近年は、製窯釉藥に改良を加へて、大に內外の賞贊を博し、殊に外人は、其精巧にして美麗なるを愛し、之を本國に輸出するもの、年々漸く多きを加ふるに至れるは、吾國產業の爲め、大に祝すべきことゝ謂ふべし、尙は京都には、他に粟田口、眞葛ヶ原など、陶窯のある所頗る多けれど、其製出最も盛んにして、其名亦內外に聞えたるは、實に清水燒を以て其最とす。

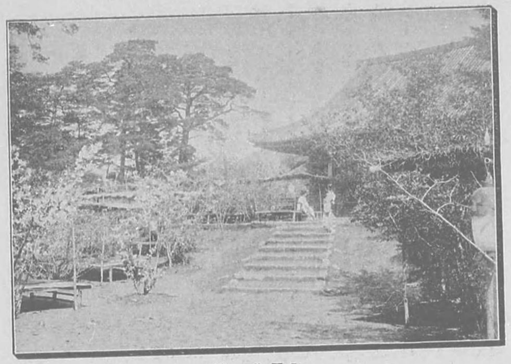
圓山公園の櫻（京都）

京都市內眺望の絕佳なるもの、蓋し圓山を以て其最とおすべし、地は八坂神社の東方、東山の中腹に在りて、眼界廣濶、鎭泉に一浴し去つて、欄頭に凭れば洛中の繁榮、渾べて一呼の下に攬まり、西南の峯巒亦指顧の間に在り殊に山上は、翠松靑杉の間、最も櫻桃の二樹に富み、花時に至れば、衣香鬢影、春を熱鬧の裡に埋め去る、雪中の光景に至りては、靈山と共に、互に弟兄たり難く、半日の登臨以て俗腸を洗ふに足るべし、殊に旅館、割烹店貸席など、山麓より北方に並び居れば、一杯を喚び醉を買ふも亦便なり、此圖は同公園の櫻花を寫したるものなれども、園の景致は獨り花のみにあらず、個は只其一斑を示して、其全景の如何に雅味あり、風致あるを知らしめんと欲するのみ。



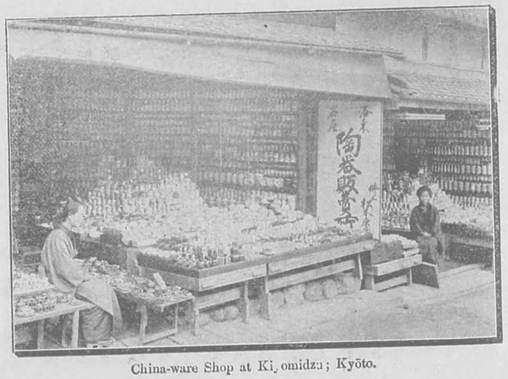
（京都）清水寺門前

Fntrance to Kiyomidsu Temple, Kyōto.



（京都）仁和寺境內

Ninna-ji, Kyōto.



（京都清水門前）陶器店

China-ware Shop at Kiyomidzu; Kyōto.

（京都）圓山公園の櫻

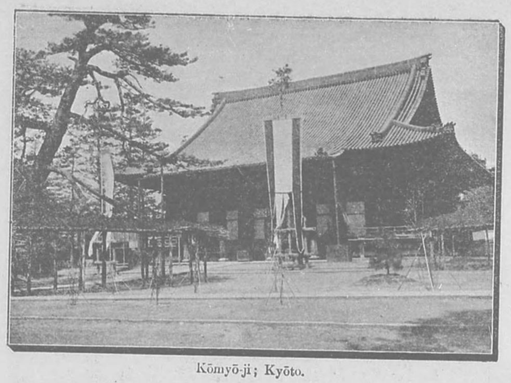
Maruyama Public Gardens, Kyōto.

廣澤池（山城）

城州葛野郡上嵯峨村に在り、周回凡そ十二町、昔し寛朝僧正の開鑿する所なりと傳へ、古來觀月の勝地にして、月夜の眺望最も佳なり、又堤の柳、花杜若、萩、雁、鴨などを景品として、之を詠ぜし和歌も多し、往時僧正の住みたりと謂へる、遍昭寺の舊蹟は、池の西北に當り、同寺昌盛の頃、寺内より橋を架して觀音堂を設置したりと傳ふる、觀音島あり、又對岸の遍照寺山には、寛朝登天の松、坐禪石、兒石等の名跡あり、其他大道法師足跡の池、屏風岩、音頭山なぞ、皆其比近に在りて、殊に音頭山には、千壺の井と唱へ、草樹深き處、かしこ此處に深井ありて、不知案内のもの、妄りに其山に入れば、誤つて之に陷いることと多しと云ふ。

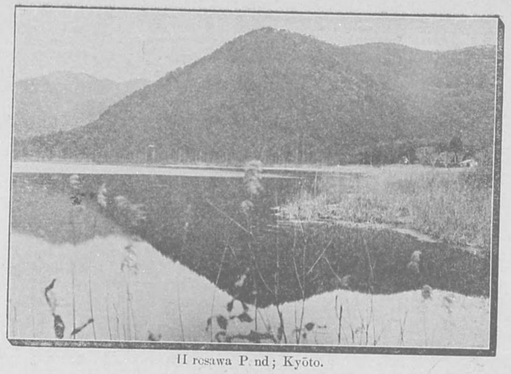
宇治の茶摘（山城）

往時は宇治川を中間として、其兩岸を宇治と云ひしを、今は其右岸、久世郡に屬する部分をのみ、宇治と稱し、其左岸、宇治郡に屬する部分は、古名の菟道を喚ぶに至れり、兩岸の村落數里の間は、一面悉　茶圃にして新綠の候に至れは、紅裙一隊、畦畦の間に立ち若芽を摘む、就て之を見れば、何れも妙齡の婦女にして、村歌斷續、滴翠の間に聞ゆるなぞ得て言ふへからざる妙味あり、此事舊都の異觀にして、古來、詩に詠せられ、歌に作られ、特に俚曲にも入りて、何人も知る所なり、京都を去ること四里あまり、瀘車の便を藉りて山科停車場に下車すれば、其程甚だ遠からず好奇の士は一遊を試むるも妙なるべし。



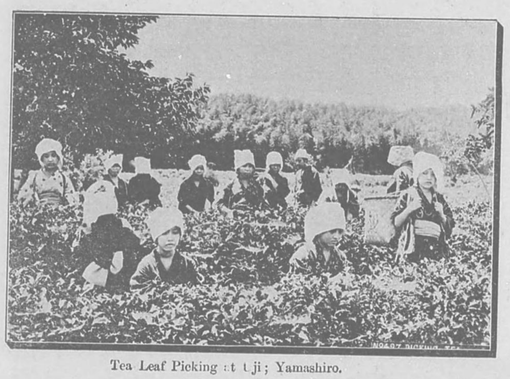
Kōmyō-ji; Kyōto.

（京都）黒谷光明寺



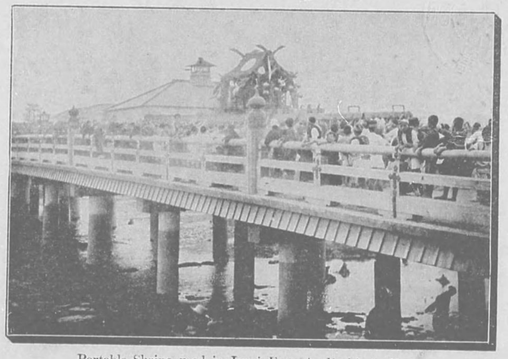
H rosawa P nd; Kyōto.

（京都）廣澤の池



Tea Leaf Picking at Uji; Yamashiro.

（山城宇治）茶摘



Portable Shrine used in Inari Festivals, Fushimi; Kyōto.

（京都伏見）稲荷祭神輿

金澤の旅館

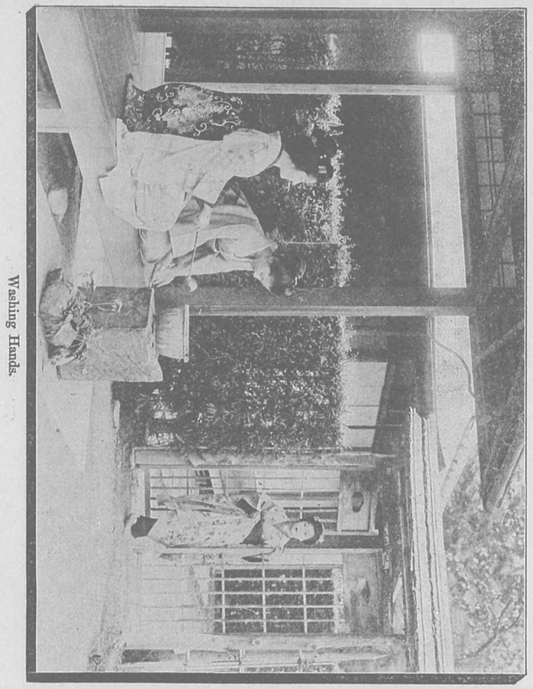
當市の樞要の地にあり師團縣廳諸學校公園等に最も近く右等に御用のお方は大に便利に御座候

加賀金澤片町

大浦屋

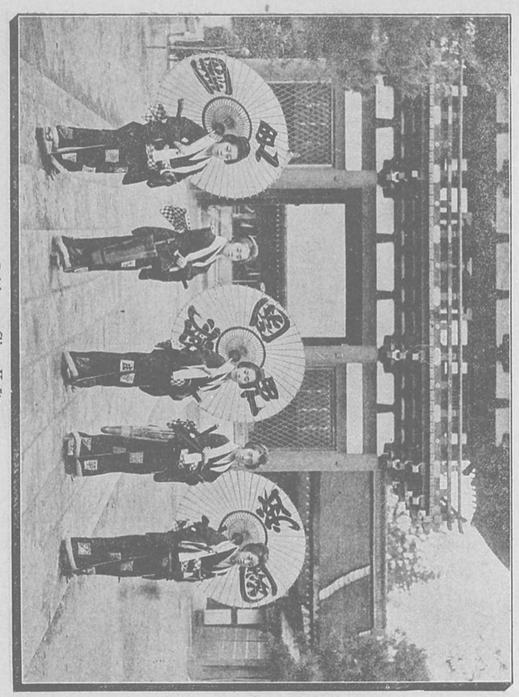
Ouraya.

The Ōuraya is a well equipped hotel in Kanazawa, Kaga, not far from the head quarters of the Military Division, the Prefectural Office and the schools. Every attention will be paid to the comfort and convenience of guests.



美人洗手

Washing Hands.



（京都）祇園の女

Geishas at Gion, Kyōto.

西大谷より市中を見る（京都）

西本願寺の堂塔伽藍と、寺内の高臺飛雲閣とは、別圖已に之を示し、其形勝の一班をも附記したるが、同寺は獨り、寺内の結構宏壯にして、林泉の風致絶妙なるのみならず、市中の觀望、亦最も快濶にして、堂上より之を望めば、七條通り、堀川あたりの、鱗瓦層重せる有樣、眼前に在りて、眸を凝せば、行人の帽影をも認むるを得べし、殊に飛雲閣より、遠く四方を瞰望する光景は、幾んど京都市内遠矚の最とも謂ふべく、全市悉く目睫の間に在りて、加茂、桂の清流、愛宕、嵐の秀峰、亦來つて指顧の下に媚ぶ、況んや方外の清境、自から塵寰を出離し、清風耳を洗ふの時、炷香面を拂ふの間、滿目盡く禪味ならざるはなきをや、之を京都市内遠矚の最と謂ふもの、自から其妄語にあらざるを知る也。

東大寺（大和奈良）

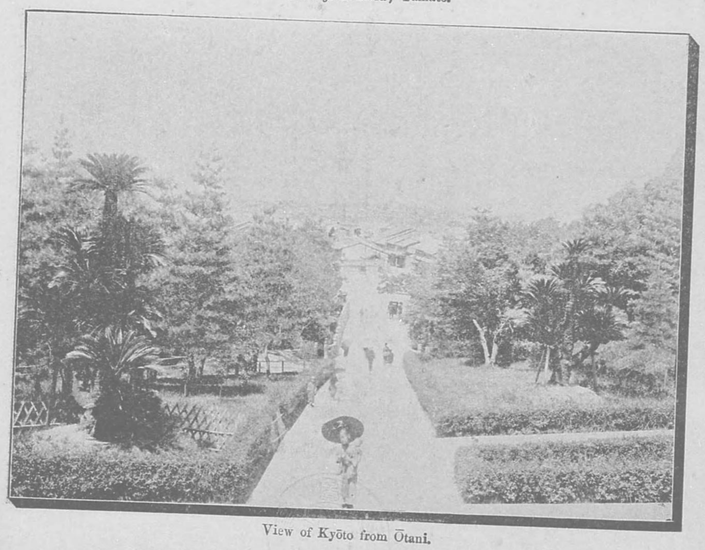
和州奈良町雜司に在り、有名なる奈良大佛の殿舍にして、棟の高さ十五丈六尺、東西二十九丈に擴がり、南北十七丈に亘る、像は盧舍那佛の坐形にして、身長五丈三尺五寸、天平十八年、聖武天皇、始めて行基僧正に勅し、天下の衆庶に勸進せしめて、此像の鑄造に着手し給ひ、爾後改鑄すること八回同十八年に至りて稍〻成功したりと傳ふ、此像は最初鑄造以來屢々破損し、齊衡五年には、其頭自ら墮落し、治承四年には、平重衡の戰亂に當り、殿舍兵燹に罹りて頭部溶解し、次には松永久秀の兵火に依りて、頭首再ひ燒失したり、今の像は爾後幾多の星霜を得て、大和の人、山田道安なるもの、自ら淨財を喜捨して、之を補繕したるものなりと云ひ、又其殿舍は、永祿年間の再建に係ると云へば、前後百數十年間巍佛なりしと知らる、堂前に在る八角の金燈籠は、宋人陳和卿の鑄造する所なりとして、好古家の鑑賞する所なり。

Tōdai-ji.

Tōdai-ji is the name of the temple at Nara, which was founded by the Emperor Shōmu in 746. The celebrated enormous statue of Buddha, commonly called Daibutsu, stands in this temple.

（奈良）東大寺

Tōdai-ji at Nara; Yamato.

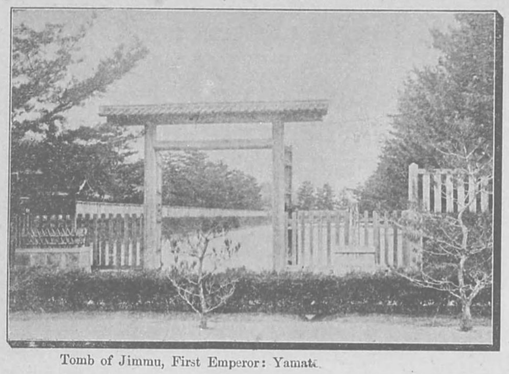


（京都）大谷より市中を見る

View of Kyōto from Ōtani.

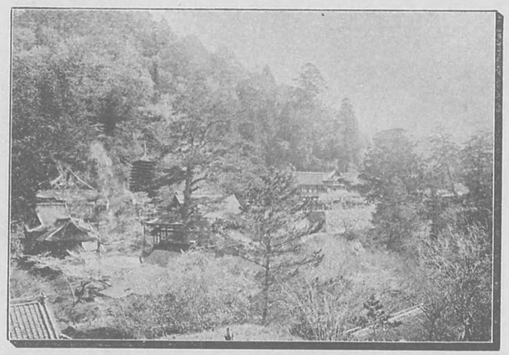
（京都）六角堂

Rokkaku-dō; Kyōto.



（大和）神武天皇畝傍山御陵

Tomb of Jimmu, First Emperor: Yamato.



（大和）多武峰

Tō-no-mine; Yamato.

（奈良）南圓堂

Nanen-dō at Nara.

六角堂（京都）

京都六角通り烏丸の東に在りて、寺號を總法寺と曰へり、聖德太子の開基する所にして、天台宗に屬し、本尊の如意輪觀音は、一寸八分の黄金佛にして、往時淡路國岩屋浦の海中より得たる者なりと傳ふ、此堂は六角形なるを以て著名なれども、別に深き緣由あるにあらず、當時太子の建築に係る所のものは、此類の形式極めて多く、和州法隆寺の夢殿、額田部の觀音堂など、皆同一の形を存せり、又當寺に池の坊と云へるあり、往時坊の住職專慶なるもの、酷だ立花を愛し、常に重嶺幽谷を跋渉して、草木自然の趣を探り、大に奥旨を開發する所あり、以後世々其奥旨を傳へ、終に立花の祖家となり、世に賞美せらるゝに至れり。

神武天皇御陵（大和畝傍）

大和國高市郡白檀村大字山本に在りて、靈位高く畝傍山に鎮まり給ふ、抑も此の畝傍山と申すは、山本、大谷、慈妙寺の三村に跨り、巍然孤立して、他山の相連ることなく、耳成香久の兩山と共に古へより名高く、傳へて大和の三山と稱せらる、陵は山の半麓に在りて北に畝傍の碧翠を負ひ、西南の二方亦青松の圍繞する所となり、自ら塵寰を隔てたり、陵前には門あり、神鍋を施して民庶の侵し瀆すことなからしめ、左右に神籬を設けて、其中に靈位を鎮む、若し夫れ内部の詳細に至りては、固と草莽の寛知し得べきところに非ず之を筆端に上すが如きも恐懼に堪へざる所なるを以て、茲には只だ其梗概を揭ぐるのみ。

南圓堂（奈良大和）

和州奈良興福寺の域内に在り、抑も興福寺と謂へるは、古へ城州山階の里に寺院ありて、山階寺と稱せしを、白鳳元年之を和州厩坂に移して厩坂寺と改號し、後和銅三年に至つて、藤原不比等又之を奈良に徙し、寺號を興福寺と改めたる、是れ此寺の由來なり、往古は堂宇境内に滿ち、壯麗他に比類なかりしと雖、元慶二年以降、火災に罹ること八回、漸く再建して又漸く燒失し、今殘留する所のものは南圓堂、北圓堂、東金堂、五重塔などの數者に過ぎず、而して南圓堂は、其内最も著名なるものにして、弘仁四年、藤原冬嗣の創建に係り、八角の寶形造りなり、五重塔と共に猿澤の池に臨み、南都市街の一壯觀を成せり。

談山神社（大和多武峰）

社殿の宏壯、境域の幽邃なるもの、之を全國に求むれば、蓋し日光に過ぐるものなかるべきも、若し之を關西に求むれば、談山神社に其魁たらざるを得ざるべし、社は別格官幣終社にして、和州多武峰の半腹に在り、祭神は大政大臣藤原鎌足の靈なること何人も知る所なり、神廟は翠巒を負ひ、磐潤を帶びて高く幾多の石階の上に建ち、境域一萬五千餘坪、正殿、拜殿、假殿、比叡神社、總社、摩賓車、浮圖、拜所、務所、樓門、透樓、摩社、鎌足の遺骨を安置する所にして、中に浮圖は、高さ四丈三尺に及び、昔し鎌足の長子定慧、唐に在りし時、父の訃に接し、清涼山寶池院の塔に十三層を成す、其材を船齎して歸朝し、第作造作せしめ、其他定慧か唐土より携へ來りたりと云へる菴羅樹と名くる奇木、後醍醐天皇寄付の燈籠、淡海の墓なる楓樹に富み、櫻の二樹に秋の二季は、眺矚最も妙趣なりと云ひ、吉野に遊ぶものは、常に此地に迂回するを常とせり。

長谷寺（大和）

和州初瀬町の北端、泊瀬山に在り、本尊は十一面觀世音にして、屢々火災に罹りて、屢々之を改彫し、今の像は、佛師快慶法眼の彫刻なりと傳ふ、寺域凡そ三萬五千餘坪、山に據り、回廊を通じ、本堂は回廊の上端に在りて、懸崖の上に架せり、其他幾多の佛堂僧房、學寮、子院等、斷續本堂の上下左右に連り、其數擧げて算すべからず、此寺創建以來、火災に罹ること十數次、明治年間に至ても、亦、火を失したることありしも、結搆の宏壯、今に及んて尙ほ之を損せず、實に國内希有の名刹と謂ふべし、山は古へより櫻花の名ありて、古人の吟詠に入るもの少からず、今は火災の爲め大に其舊觀を更めたるも、尙ほ騷人墨客の筇を曳くもの頗る多し。

Hase-dera.

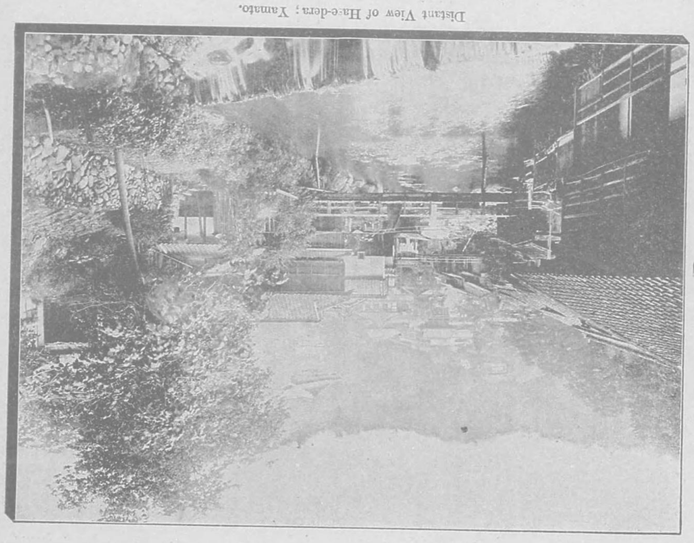
Hase-dera, that is the Temple of Hase, in the province of Yamato, stands on a low mountain of the same name. It is dedicated to the Godess Kwannon who is represented by an image with eleven faces. The temple has been burned many times. The pre ent structure is of very recent date.

室生寺（大和）

和州宇陀郡室生村に在り、舊と龍穴神宮寺と號し、弘法大師の開基する所にして、佛堂、僧坊、五層塔、十三級石塔などあり、後に室生山の高嶺聳へ、前に室生川の清流漲り、秀麗奇絶、滿目人意に可ならざるなし。松杉峰を包みて靑天に連り、岩石樹を漏れて黑雲かと疑はれ、麓に遶る川波は、春の雲の碎くるが如く、地に落る、落葉は、秋の雨の降るにも似たり、橋を踏行けば、盧山の寂さを想ひ、山路を攀ぢ登れば鷄足の靜けさも斯くや、昔し弘法大師の住み給ひし慈尊院は、朽ちやらずして山僧住めり、護摩を修せられし巖崛は、苔のみ蒸して風こそ宿り侍れ、伽藍甍を並べて靈滋く、實鐘響ありて風冷まし云々、大和名所圖會に見へたり。

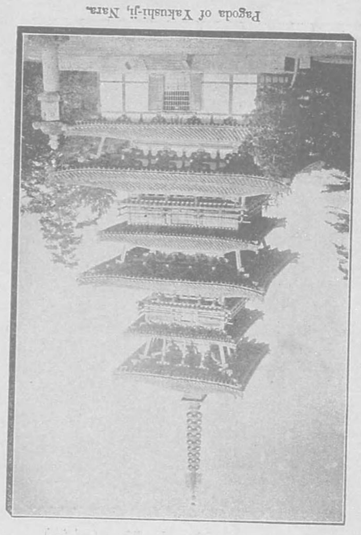
藥師寺の塔（大和）

和州添下郡砂村に在り、寺域一万三千餘坪、法相宗にして、天武天皇白鳳九年の草創なりと傳ふ、寺内金堂には、藥師如來、十二夜叉神、及び二軀の觀世音を安す、其一軀は、孝德天皇の勅願に依り、一軀は、水尾天皇の御願によりて、彫刻せしめ玉ふ所なりと云へり、東院は域内の東隅に在りて、塔は其中庭に聳ゆ、六層の浮屠、崔巍將さに天を貫かんとするの有樣、眞に寺内の壯觀なり、稱して天平二年の建立なりと曰へり、又此寺には、有名なる佛足石ありて、高さ一尺八寸餘、磐面に釋迦如來の足跡を彫れり、古へ百濟より献ぜし所なりと言傳ふ、又古へは、講堂、西院など寺内に在りしが、今は皆廢滅に歸して、講堂は僅かに其礎石を存し、西院の在りし地には、文殊堂を建立したり。



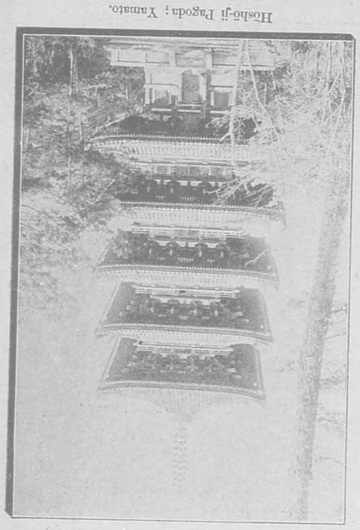
長谷寺遠望（大和）

Distant View of Hase-dera; Yamato.



Pagoda of Yakushi-ji, Nara.

藥師寺の三重塔（奈良）



Hosho-ji Pagoda; Yamato.

室生寺五重塔（大和）

吉野山（大和）

和州吉野郡にありて、櫻花の名所なるは言ふまでもなく、南朝三代、五十餘年の行在所として、歴史上著しき古蹟なり滿山盡く櫻花にして、中にも長峰の櫻、一目千本、日本が花、關屋の櫻、布引櫻、雲井櫻、滝櫻などの名勝あり、山上には吉野町ありて、民家檐を並ぶること十餘町に且る、凡そ此地を中央として、東西南北、山崖徑路、溪谷に至るまで、櫻樹なきはなく、櫻花ならざるはなく、人をして宛然白雲境裡に在るの想あらしむ、眞に海内の絶觀たり、古蹟には、後醍醐天皇の玉座を置かせられたる吉水の院を始め、村上義光の墓、如意輪堂、靜御前が山僧の爲めに捕はれたる所なりと謂へる藤尾坂、佐藤忠信が横川覺範を討取りたる中院の谷、豐大閤觀花の跡、西行庵など枚擧するに遑あらず。

Yoshino-yama.

Yoshino-yama (Mount Yoshino) near Nara, one of the ancient capitals of Japan, is noted as the seat of the Emperor Godaigo (1319-1345), when forced into retirement by the rival claimant of the throne, who was supported by the shōgun Ashikaga Takauji. It is celebrated also for its cherry blossoms.

一目千本（吉野）

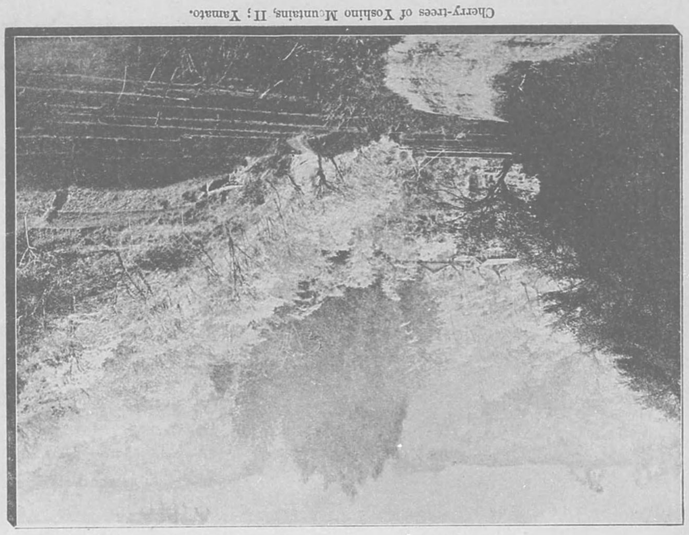
吉野山中の絶勝にして、山下六田村より登れば、三十町にして達するを得べし、側らに千本の茶屋あり、茶屋のほとりより山谷を俯仰すれば、矚目悉く櫻樹にして他樹を交へず、老幹槎枿、巨枝葉を着くるものあり、稚木幼梢、僅かに瓣を支ふるものあり、或は疎、或は密、或は大或は小、相倚り、相集まりて、一襲の白雲境を現す、立ちて四顧すれば、東西南北花幔を張るもの〻如し、一目千本の稱、まことに溢美にあらざるなり、豐大閤觀花の舊跡、南朝の忠臣村上義光の碑など、は、皆此ほとりに在りて、尚古家の駐筇に値す、其勝の詳かなるは、其身其境に臨んで、其秀氣を咀嚼するにあらずんば得て知るべからず、亦得て語るべからざるなり。

Hitome Sembon.

Hitome Sembon, that is "a thousand trees at one view", is the name given to the view from a tea-house in Mount Yoshino, called "The Thousand Trees". Here Hideyoshi once prepared a splendid garden-party to which he invited all the daimyōs and other famous men of his time.

吉野山の一（大和）

Cherry-trees of Yoshino Mount ins, I; Y mato.



吉野山の二（大和）

Cherry-trees of Yoshino Mountains, II; Yamato.

法隆寺（大和）

和州平群郡龍田川の近傍に在りて、舊名を斑鳩寺と云ふ、南都七大寺の一にして、建初以來、毫も其舊形を改めず、日本未曾有の名刹なり、疆域二萬二千四百餘坪、金堂、講堂、五重塔、東殿、夢殿、西圓堂、など境内に峙立して孰れも輪奐の美を盡さゞるはなし、殊に東院は古へ聖德太子の造宮せられたる、斑鳩宮の宮室にして、其建築の壯麗なるは言ふも更なり、器具玩品の如きも、皆、當時の儘に保存せられ、珍寶奇玩累々として堂に滿ち、恰も古代の工藝標本を陳列したらんやうあり、今は帝室に於て保管せられ、濫りに衆庶の拜觀を許されざる、洵に國寶尊重の叡旨、ひと畏くも仰き奉るになん。

Hōryu-ji.

This is one of the seven large Buddhist temples in Nara, which was the seat of the Emperors from A. D. 710 to 784. Hōryū-ji was founded by Shōtoku-Taishi, not far from A. D. 600. This temple is preserved as nearly as possible in its original form. Among its treasures are many articles of great artistic value Altogether, whether viewed from the standpoint of the antiquarian or that of the student of art, Hōryū-ji is one of the most interesting temples in Japan.

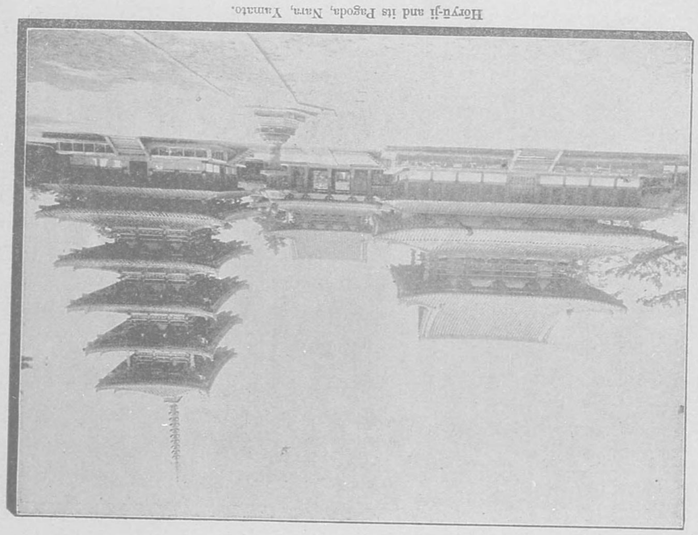
猿澤池（奈良）

奈良市興福寺の塔下に在り、之を猿澤と名けたるは、本と天笠の彌猴池を模したればなるべし、池の周圍百八十餘間、中に多くの鯉魚を畜へ、人の來つて漁するを許さず、人、亦、放生の爲め鯉を池中に投ずるもの夥しきより、大鱗、小鱗、游泳追逐、池水殆んど魚を以て覆はれんとするに至る、俗に魚七分水三分の稱あり、池西に采女宮、池東に衣懸柳あり、大和物語に、昔し宮女采女と云へるが恩寵の衰へたるを歎きて終に身を此地に投じたる由をしるし、所謂衣懸柳は、入水の時衣を脱ぎて懸けたるものなりと傳ふれど、當時の古柳は已に凋枯し、今の柳は後人の栽植したるものなること明けし古人の題詠數多あれど中にも柿本人麿が『吾妹子のねくたれ髪と詠じたる、最も人口に膾炙せり。

Sarusawa no Ike.

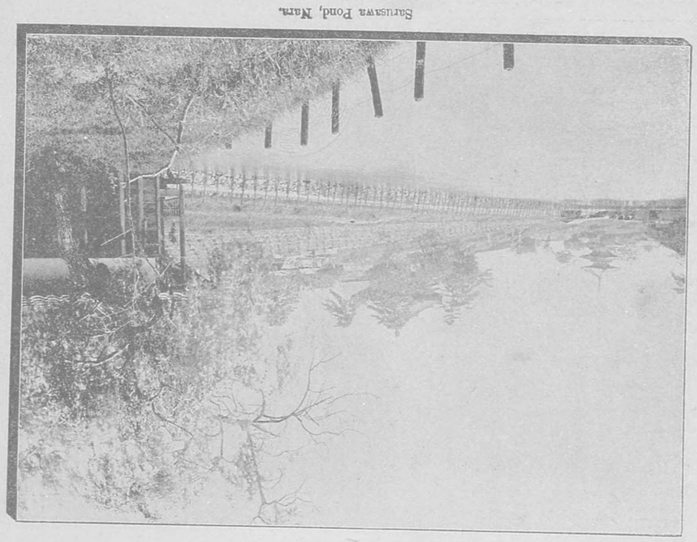
This is a small artificial lake at Nara, which is said to have been copied from a so-called Monkey Lake, of Hindustan, which has an important place in Buddhist literature. The name Sarusawa no Ike may be rendered a "Monkey-Marsh Lake".

奈良（法隆寺）



Horyū-ji and its Pagoda, Nara, Yamato.

奈良（猿澤池）



Sarusawa Pond, Nara.

法隆寺金銅佛　（奈良）

法隆寺金堂の南面の本尊にして鳥佛師の作、實に所謂推古式の盛なるもの、後に銘文あり、其文によるに聖德太子御不豫のとき、御平復の願願の爲に山背大兄王の御造營ありしものなり、近年國寶の一に列せられたり、この像のみならず、當寺に安置するところのものは皆時の名作にして之を拜するものをして信を起さしむ佛教史上美術史上最大切なる尊像なり。

如意輪堂　（大和吉野）

和州吉野郡の山路に在り、本尊は如意輪觀音にして、後醍醐天皇の御作なりと傳ふ、厨子の扉には、巨勢金岡の筆に成れる、吉野より熊野に至るまでの圖畫ありて、上に天皇御讃の詩あり、寺の上方稍や高き處には、天皇の御陵ありて、老松陰々之を繞れり、小楠公が矢鏃を以て辭世を彫りたりと言へる堂扉は、今尚ほ藏して寶庫に在り、其他、御製の茶臺硯箱等、數種の寶物皆寺僧に請ふて觀るを得べし、有名なる小楠公の髻塚は、恰も御陵の下に在りて、傍に碑石を樹てたり、碑文は森田節齋の撰する所なりと云ふ、當寺より吉野町に達する溪間には、櫻樹極めて多く、遊賞の客尠からず。

三笠山　（大和）

一に御蓋山と書す、顯注密勘には、春日山の麓、春日神社の鎮坐する、低き山を云ふよしを記せども、安倍仲麿が、三笠の山に出でし月かもと、詠じたるより考ふれば、高嶺なるが如く、且つは貝原益軒が、大和めぐりにも、春日神社の背後に峙てる、高峯、即ち俗に云へる春日山の異名なりと載せたるなど考へ合せ、又山の形より之を見るに、春日神社の上方に聳へたる峯巒の、三嶽層疊、恰も三蓋を重ねたるが如き、全く三笠山の稱號に副へるに似たり、殊に土人も今は之を三笠山と唱ふるもの多ければ、此に圖して以て南部古跡の一に列せり、此山青蒼の三蓋、秋冬常に其色を變せず、奈良市街の一偉觀たるは言ふまでもなし。

The Buddha of Hōryu-ji.

This ima e is the most famous in the Golden Hall of Hōryu-ji group of temples at Nara. It is of gilded bronze anp is the workmanship of Tori Bushi, the most noted sculptor of the early part of the seventh century.

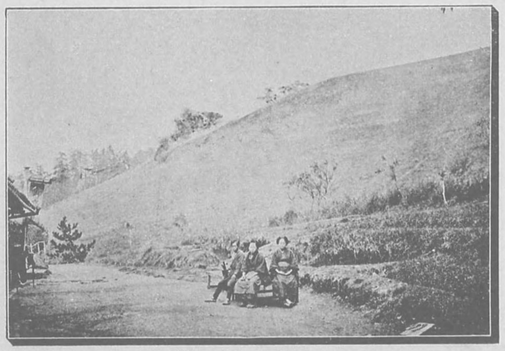
（奈良）法隆寺金堂の本尊

Chief Image of Buddha in the Golden Shrine of Hōryū-ji; Nara, Yamato.

（吉野）如意輪堂

Nyo'rin-dō at Yoshino, Yamato.

（大和）三笠山



Mount Mikasa, Yamato.

二月堂（奈良）

奈良三笠山の北に在り、山腹に架して一堂を設く、堂は羂索院と號し、天平勝寶四年、良辨僧正の徒弟、實忠和尚の創建に係れり、本尊は身長七寸の十一面觀音にして、其昔し津の國難波の浦より獲たるものなりと傳へ、又其膚常に温暖なりとて、之を肉身の像と稱すれども、信否を知らず、法會は毎年陰曆二月の初めより、十四日まで にして、堂下の若狹井を汲み之を修す、所謂二月堂の水取とは是なり、法會の間は、善男善女遠近より群集し、大阪鐵道會社の如きは、爲めに往復割引の乘車券を發賣する程なれば、其昌隆推して知るべし、堂前より望めば、西に生駒の山脈を望み、眼下に奈良の市街を瞰る其眺望の佳絶なる、之を奈良寺院中の隨一と稱するも蓋し溢美にあらざるべし。

Nigwatsu-dō.

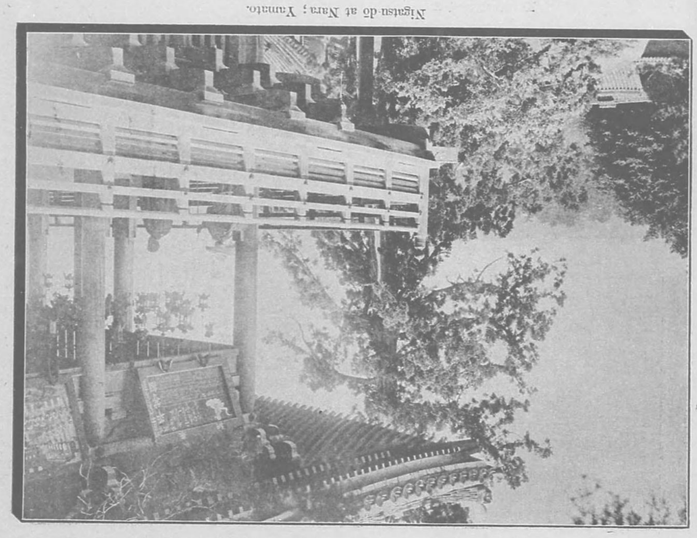
This is a Buddhist temple in Mikasa-yama near Nara. It was built A. D. 752. The image of Kwannon worshipped has eleven faces. It is said to have been found in Naniwa Bay, near Ōsaka, and to maintain very nearly the temperature of the human body.

龍田村より當麻寺を遠望す（大和）

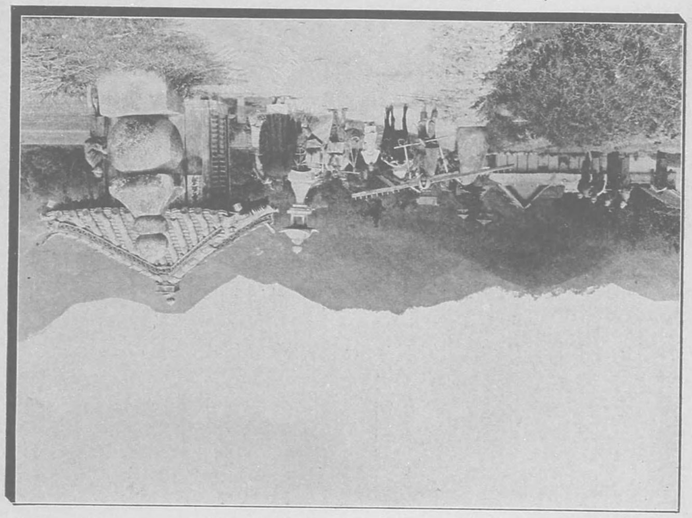
龍田村は和州平群郡の中に在りて、大阪街道の線路に當り、郡内第一の名邑なり、古歌に有名なる龍田川は、村の西端、龍田橋の附近を總稱したるものにして、今も橋の兩傍に數十株の楓樹流水を扼して臚列するあり、秋霜稍を染むるの時に至れば、風光酷だ古歌の意に似たるものあれど、個は寛政の頃、やんごとなきあたりより栽ゑさせ給ひつる樹なる由にて、古歌の所謂立田の紅葉は、概して此邊一般の霜葉を詠じたるものなるべしと云ふ、此圖は同村より、葛下郡二上山當麻寺を遠望するものにて、同寺は推古天皇の時、河州山田に創建せられしを、天武天皇の白鳳二年、此地に轉徙せられたりと傳ふる、有名の古刹にして、其宏大莊嚴實に近郡に稀なり、寺庫に藏する所の曼陀羅は、彼の橫佩中納言豐成の女中將姫が、蓮葉を以て織りしと云へる稀代の珍品にして、五彩燦爛、實に人目を眩せしむ、姫が蓮糸を染めたりと云へる染殿井、之を乾かしたりと傳ふる古櫻樹など、亦、近村に散在せり。

The Temple of Taima.

The view here given represents the temple as seen from the village of Tatsuta about half way between Kyōto and Ōsaka. Tatsuta is on the Tatsuta River which is noted for the maple trees which line its banks. The temple belongs to the Tendai sect and dates from A. D. 673. There is preserved here an image called Mandara, made of the fibres of the lotus by Chūjō-hime, a female devoter who occupies an important place in Japanese Buddhism.



Nigatsu-do at Nara, Yamato.



Approach to Taima Temple from Tatsuta Village, near Nara, Yamato.

春日神社 （大和奈良）

春日神社の山門及び正殿は、別項記する所の如し、正殿を距ること、數町の東南には、若宮と謂へるありて、天押雲命を祀る崇德天皇の御宇長承四年の勅請なり、正殿若宮ともに內院外院ありて、各々若干の小祠を祭る、又本宮と謂へるありて、若宮の東北に坐し、紀伊神社は其東南に、水谷神社は正殿の西北に猿彦社は回廊の西に、其餘幾多の社祠、尙ほ、境內に充滿すれども、今は其繁を厭ふて之を省けり、社內にも亦燈籠の立つこと無數にして、古へより其正數を算へ當てたるものなしと聞ゆ、中にも著名なるは、寒蟬燈籠、秡戸燈籠、雲朴燈籠、臥鹿燈籠などにして、皆世の摸形とする所なり、境內には、雲消澤、野守池などの名勝ありて、綠草池澤の間に滋蔓し、春日野の鹿其間に起臥して、幽趣言ふべからず風流韻士の特に愛賞する所なり。

春日神社山門 （大和奈良）

和州奈良町の東なる、春日山の麓、春日野に鎭坐す、神護景雲二年の創建にして、官幣大社の一に列せらる、社殿の宏壯華麗なるは、今又此に言ふを須ひず、境內三十萬六百二坪其東北に正殿四宇あり、祭る所、一は武甕槌神一は經津主神、一は天兒屋命にして、一は姫神なり、樓門の南に向つて立つもの、即ち同社の山門にして、又南門の稱あり、桁行五間梁行之に半ばし、回廊長さ二百五間、幅二間五尺、其左右を繞る、門前左右は、即ち有名なる春日燈籠のある所にして、其數、古へより賽人の、正算を得たるものあることなし、或人の計數によれば、社の內外を通じて、金屬製のもの九百八十八、石造のもの一千七百八十九基に及ぶと言へり。

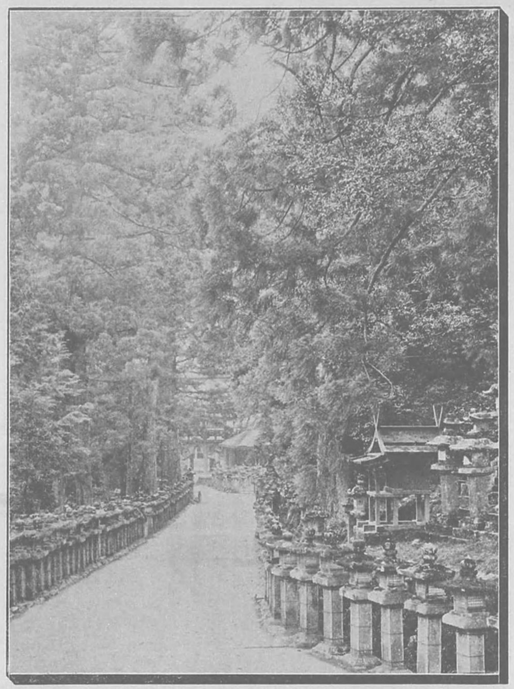
The Gate of the Kasuga Jinsha.

The Structure shown in the picture is the Nan-mon or South Gate, the principal entrance of the Kasuga Jinsha, and is itself a large building. Verandahs running around this gate measure 525 feet in length. The lanterns before the gate are so numerous that it is said no visitor can count them accurately. The metal lanterns number 988, and those of stone, 1,789.

Kasuga Jinsha Nara.

This is one of the most important Shintō strongholds in Japan. It was founded A. D. 1136, by the Emperor Sutoku. Among the temples which are here clustered together, the chief is called Seiden. In the grounds of the Jinsha are many deer, which are very tame. Some years ago they ventured even into the parlars of a neighboring inn.

（奈良） 春日神社々前



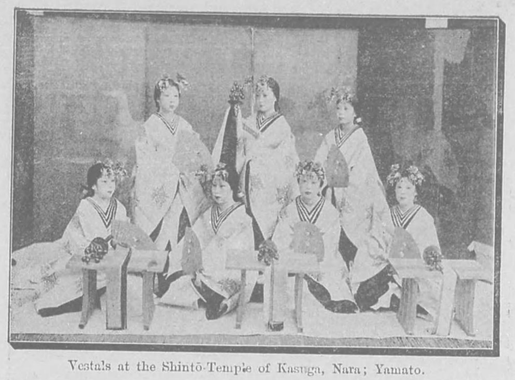
Approach to Kasuga Shintō-Temple, Nara.

（奈良） 春日神社山門

Gate of Kasuga Shintō-Temple at Nara; Yamato.

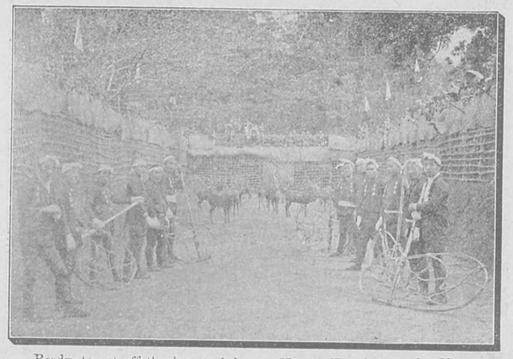
（奈良）春日神社一の鳥居

First Torii of Kasuga Shintō-Temple at Nara, Yamato.



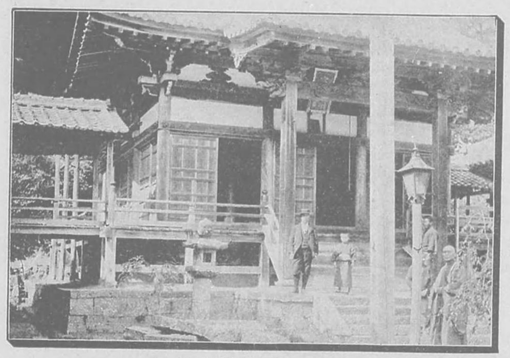
（奈良）春日の巫女

Vestals at the Shintō-Temple of Kasuga, Nara; Yamato.



（奈良）春日神社鹿の角切

Ready to cut off the horns of deer at Kasuga Temple grounds; Nara.



（河内）高貴寺金堂

Kondō of Kōk -ji; Kawachi.

春日神社一ノ鳥居（奈良）

春日神社の社地、即ち春日野は滿野悉く同神社の境域に屬し、其廣袤實に三十萬餘坪、一の鳥居は攫門より十數町の外に在りて、近傍には、雪消の澤、野守の池などの名勝あり、所謂雪消澤は、昔し崇德院が

春來れば雪消の澤に袖たれてまだうら若き若菜をぞ摘む

と詠ぜさせ給ひたる古蹟にして、又野守の池と云へるは、古へ雄略天皇田獵の時、放鷹翥れて行く所を知らざりしに、野守の翁、池水に鷹影の飛びしを見て、其所在を知り、之を指示したりと傳ふる舊跡なれども、今は僅かに其形を存するのみ、此邊、綠草池澤に滋蔓し、所謂春日野の鹿、其間に起臥して、幽趣拾ひ盡し難く、韵士の殊に愛賞去るに忍びざる所とす。

高貴寺（河内）

河内石川郡白木村大字本石に在り、律宗にして初めは香華寺と號し、役の小角の開基なりしが、弘法大師卅二才の時此山に入りて修行し、高貴觀王菩薩の像を彫刻して、寺を高貴寺と改めたるよし、寺記に見ゆ、金堂には五大尊を安置し、其左に後鳥羽院塔あり、十三層の石浮屠にして。後鳥羽天皇當寺に臨幸の後、建設せしものなり言ふ、阪路を登ると二町の處に、奥の院ありて、弘法大師自作の像を安す、其山を神下山と云ひ、山には佛法僧と云るへ異鳥棲めり、古へより和歌にも詠まれ、又院曲小說の類にも取り用ひられて世に名高し、鳥の形ちは鴉鳩に似て、毛色深碧其鳴く聲佛法僧と呼ぶが如しとぞ。

春日の角切（大和奈良）

和州春日神社年中行事の一にして、同地に在りては、洵に一歲中の盛儀に屬せり、抑も同地の鹿は、古へより春日の神鹿と唱へて、之を捕獲殺傷することを禁じたるより、年々歲々繁殖して、今は其數の夥しきこと、言語に絕するばかりなり、殊に行人に狎れ睦みて、尾を掉り首を搖かし、賽路の前後左右を擁して食を求むる有樣なゞ、愛らしきこと限りなし、社頭には、鹿の食餌に供する爲め雪花菜を丸めて團子となし、之を鬻げる數軒の茶亭あり、賽人は必らず之を購ふて、鹿に與ふるを例とせるより、是等の茶亭は、鹿に與ふる雪花菜の揚り高を以て、終年の生計を營むもの多しと云へり、斯はゞまでに果報めでたき鹿も、秋季に至れば、角切りと云へる儀典に會ひ、殿めしく生ひ立ちたる角を切りて社頭の買人等が、彫刻の料に供せらるゝぞ是非もなき、左れゞ此角は、翌年に至れば、再び美しく生ひ立ちて、白珊瑚の枝繁さがごとく彼れの頭上に打並び舊態再び新粧を成すに至れば、鹿よ左のみな悔みそ。

妙國寺蘇鐵樹（和泉堺）

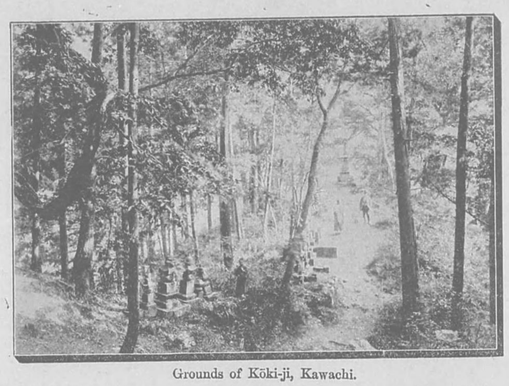
妙國寺境内方丈の前に在りて、幹の高さ三間餘、大枝二十三本、延袤方二十尺許りにして、年を經ること殆ど四百年に及べども、翠色尚ほ依然として變せず、龍鱗虎鬚雄然として人を呑まんとするの概あり、樹下には古釘を投ずること數百萬本、其狀宛かも松のかれ葉を掃き、集めたらんやうにて、奇觀言ふべからず、傳へ言ふ、此樹は昔し織田信長が、之を、安土の城内に移して、朝暮愛玩の用に供せんとせしに、移植の當夜より、聲を放ちて妙國寺へ還せと叫ぶこと、三日三夜に及ぶ、信長其靈を恐れて終に、再び之を寺内に還付せしものなりと、妄誕素より信ずるに足らざれども、筆の序に記し置くになん。

土佐攘夷家の墓（和泉堺）

泉州堺妙國寺の境内に在り、十數基の墓石累々として亂塔の間に並び、表面一々氏名を刻す、之を觀るもの、坐ろに懐舊の涙に咽ばざるはなし、抑も是等墓石のあるじは、皆高知藩の浪士にして　離新以前、尊王攘夷の大義を唱へ、京阪各地を遊歴せる内、端なくも攝州兵庫に於て、佛人の横行跋扈、見るに勝へざるものありしより、大和魂の宿れりと傳ふなる、鐵をも斷つべき腰間の秋水一閃、紫電去り金龍飛びて、彼れの身首を両斷せしより、終に公議の沙汰となりて、妙國寺内の草の上に、潔よく屠腹を遂げたる、當年の志士なりとぞ、事は史上に詳かなれば今は畧しつ吊古の士は、寺の蘇鐵の、千古翠色を更めざるを賞するよりも、先づ此の志士の靈位を拜して、義烈芬芳、萬世朽ちざるの高德を仰げかし。

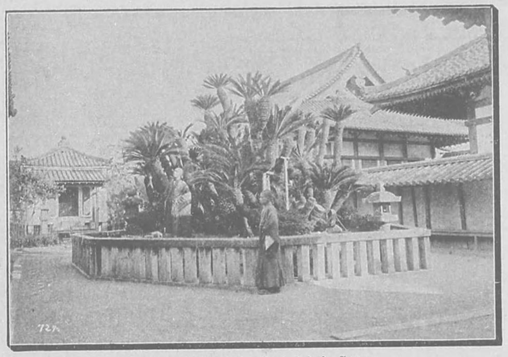
妙國寺（和泉堺）

泉州堺材木町に在り、日蓮宗の僧日珖の開基にして、寺域三千一百五十一坪あり、永祿五年同地の商人、堺屋なにかし、佛門に入りて常言と稱し、自ら諸堂を建立して、大に輪奐壯嚴を極め、三好久康も、亦其寺地を寄附して、爲めに境域を擴げたりと云ふ、本堂には祖師日蓮上人、及び日珖の像を安置し、其西に三重の寶塔あり、甚だ高からずと雖も、又以て寺格の凡ならざるを知るに足れり。



（河内）　高貴寺戒壇裏面

Grounds of Kōki-ji, Kawachi.

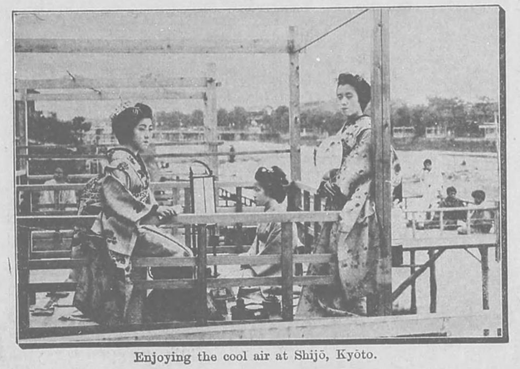


（和泉堺）　妙國寺の蘇鐵

Cactus of Myōkoku-ji at Sakai; Settsu.

（和泉堺）　土佐攘夷黨の墓

Tombs of Tosa Anti-foreigners at Sakai; Idzumi.



（京都）　四條の納涼

Enjoying the cool air at Shijō, Kyōto.

大阪市街（攝津）

古へ浪波津、或は浪花潟と稱し、又大江の阪と號せしを、後世約して大阪と云ふ、今は日本第一の商業地にして、其廣袤東西一里半、南北二里十二町、戸數十萬、人口五十餘萬を有す、街衢井然として、大厦高屋軒を列ね、心齋橋筋、堺筋、高麗橋筋、今橋筋、道頓堀の如きは、殊に殷賑を極む、其西安治川の海に瀉ぐ所を、大阪港とす商船常に輻輳して帆牆並立林の如く、俗に出船千艘入船千艘の稱あり、近年築港の企畫ありて、今は已に其工事に着手したれば、數年ならずして此地商業の繁盛應さに現時に數倍するに至るべき乎、古來全市一歳の取引高は毎に三府の首位を占むると言ふまでもなく、全國物價の變動、亦此地の商況如何に由來するもの多しと云ふ、此地は天正年間、豐太閤今の大阪城を築きて、施政の中心となせしより以來、諸國大名參勤發着の要區となり、德川氏に及んで、其昌運を大成したるは、史を讀むものゝ多く熟知する所なるべし。

造幣局（大阪市外）

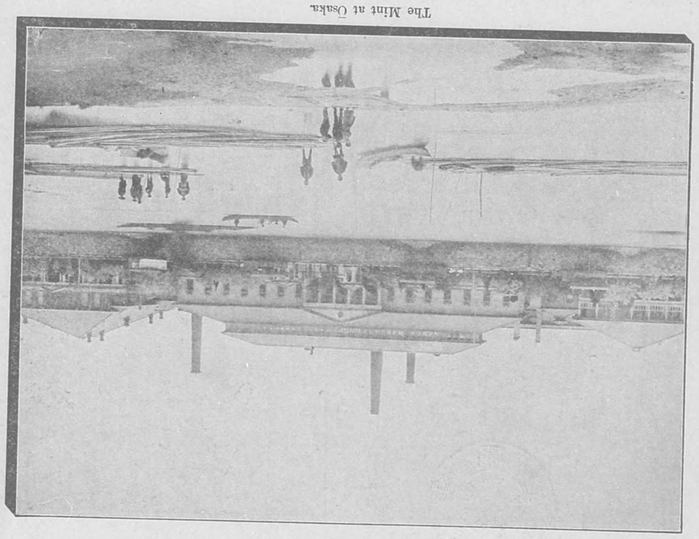
大阪の北端川崎村に在りて、明治初年の創建に係り、日本帝國の貨幣を鑄造する所なり、今は大に其業規を擴げて、韓鮮、支那、其他東洋二三の國々の、鑄貨をも兼營するに至りしと聞ゆ、建築は煉瓦造りにして、結搆壯嚴、境域亦極めて廣濶にして、周圍には局員の官舍を周らし、局長の官邸、亦其内部に在り、工場機械は宏大奇巧の極に達し、一見何人も驚歎せざるはなく、局の内外には特設の瓦斯燈を點じ宛然不夜城の觀あり、殊に其一方淀川に枕し、清澄なる水流を隔てゝ近く野田村櫻の宮と相對し、構内亦數百株の櫻樹を栽ゑたれば觀花の候舟を中流に泛べて北の方花王祠畔の櫻林を望み、南方亦淡紅濃白の花色の間に白堊船壁の鬱然たるを觀賞するは、蓋し一入の佳興なるべし。

Osaka.

Ōsaka is the great commercial centre of Japan. As regards many, if not most, articles of domestic commerce, prices in the country at large follow the market in Ōsaka. The city dates from the remote past, but it has become especially prominent since Hideyoshi founded his castle about 1590. It was counted one of the Fu cities. The prefecture of which Ōsaka is the capital is still called Ōsaka-Fu, though the distinction between the *fu* and the *ken*, as the other prefectures are called, is now simply one of dignity and historical association. Ōsaka-Fu is sometimes wrongly translated Ōsaka City. Osaka City is properly represented by the term Osaka-Shi.

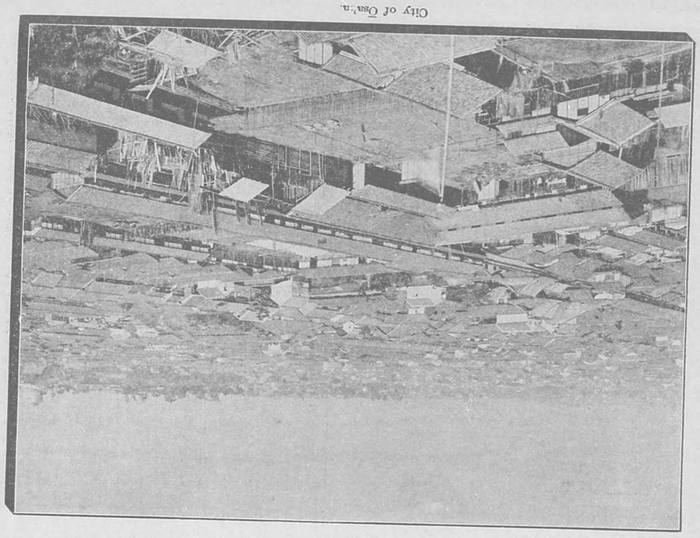
Zōhei-kyoku.

The Zōhei-kyoku is the Imperial Mint in Ōsaka. It was founded in 1870.



（攝津大阪）造幣局

The Mint at Osaka.



（攝津）大阪市街

City of Osaka.

生國魂神社（大阪）

大阪西高津村の北、南區高津一番町附近に在り、官幣大社にして、生國魂、足國魂、大物主命を合祀す、創建の年月詳かならざるも、今の社殿は、慶長の初年、豐臣秀吉の造營に係ると云へり、拜殿本社とも東面し、瀟洒にして壯嚴、外に神樂殿、社務所ふり、又社背懸崖の上には、舞臺ありて常に望遠鏡を備へ人に見せしむ、此處より望瞰すれば阪府萬戸の甍を超へて、近く安治、木津川口を瞰み遠く播淡諸州の青黛を雲烟糢糊の間に認むるを得べし、境内に櫻樹多く、花時に至れば、枝頭多く洞燈を吊し、遊人群を成して夜色の幽艶を愛す、是れ所謂生玉の夜櫻にして、高津の夜櫻と共に、浪花人士の謳稱する所なり。

高津神社（攝津大阪）

大阪南區高津町一番町に在り、府社にして、仁德、仲哀、神功、應神、履中の四帝一后を合祀す、社は南面して社地高燥、蒼松蒼路を挿みて、森嚴の趣あり、華表を入りて梅の橋を渡れば、即ち本社にして、右に社務所、高臺の碑等あり、左に在るものは即ち額堂にして、高く石壘の上に峙ち、大阪全市を雙眸の中に攬む、遠く瞰めば堺、住吉、淡路島等を指點すべく、眼界豁然、自から心神の爽かなるを覺ゆ、境内櫻樹處々に在りて、花時に洞燈を吊すこと、生國魂社内の如し、社後に石磴あり、俗に三下り半の阪と云ひ、結婚の男女見合を爲すことを忌む、蓋し其名の離縁狀に因みあるを忌む也、迷信笑ふべし。

天神橋（大阪）

大阪東區松屋町より、北區天神橋筋に架設せる、大阪第一の長橋にして、長さ百三十一間幅六間、皆鐵柱鐵桁を用ひ、構造頗る堅牢なり、元は普通の木橋なりしが、明治十八年、洪水の爲め流失せしより、終に此の大工事を起して、此地に一の偉觀を添ふるに至れり、此橋、東に天滿橋を觀、西に中之島公園を望み夏時に至れば、橋下の遊舫雲の如く又近く築地の絃聲を聞くを得べし、橋北には天滿青物市場ありて、毎朝市を開き、買ふ者四方より群集して、頗る喧噪を極む、天滿天神に賽せんとするものは、此橋に依るを便とす。

天滿橋（大阪）

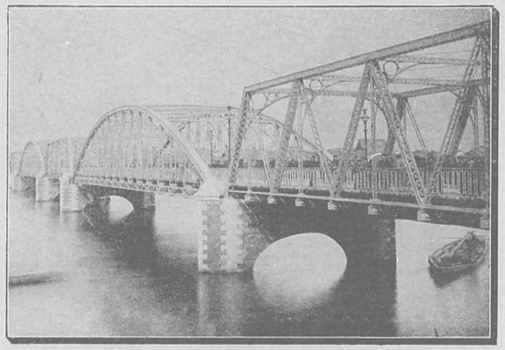
大阪第二の長橋にして、東區京橋二丁目より、北區天滿橋筋に架設せり、橋の中央には備前島の堤塘あり、阪腹を割きて通路とし、其狀恰も丁字形を成せるを以て、詩人名けて丁字橋と云ふ、橋上より望めば、大阪城の壘壁近く山林の間に隱見し、東北には櫻の宮を瞰め花時に在つては爛漫たる花色、白雲の如きを認む西には天神浪花の両橋ありて、四顧の間、人をして應接に遑あらざらしむ、亦市内の絶景なり、橋材は都て鐵を用ひ長さ百十七間、幅六間、明治二十一年の建造にして、天神浪華の両橋と共に、之を大阪の三大橋と稱せり。

（大阪）生國魂社

Shintō-Temple of Ikutama, Ōsaka.

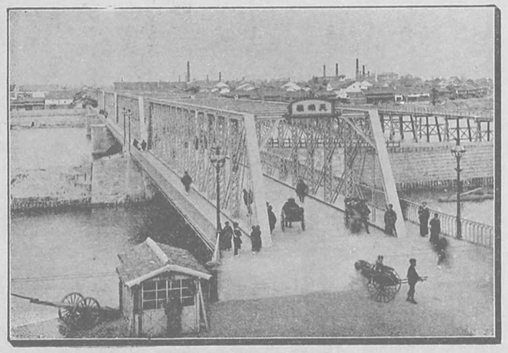
（大阪）高津神社遠望

View of Takatsu Temple; Ōsaka.



（大阪）天神橋

Tenjin Bridge; Ōsaka.



（大阪）天滿橋

Temma Bridge, Ōsaka.

住吉神社（攝津）

大阪の南方住吉郡住吉村に在り、官幣大社にして、底筒尾、中筒尾、表筒尾の三神を祀る、神功皇后攝政十一年の創建に係り由緒古し、後、皇后を併せ齋きて四座となす、華表は住吉街道の左傍に在りて、一條の賽路社前に通じ、途中泉地の上に假月橋を架す、俗に住吉の反橋と云ふもの是なり、社殿は都て四棟搆造にして、壯嚴自から神德の高さを表せり、毎歲七月の大祓には、神輿肅々堺市に渡御し、又六月には、御田祭を行ふ、個は數百年來の神事にして、水干緋の袴を着したる歌妓來りて神田挿秧の儀式を行ふ、拜觀するもの堵の如し、境内には老松多く、蔚々たる枝幹天を刺し、殊に社前は一面の松林にして翠翠掬すべし、社地の南に淺澤小野の舊趾あり、西二十丁を進めば海濱にして、此處に常夜燈を設く、古來住吉の高燈籠と稱するもの即ち是なり、殊に毎年四月に至れば、此海一里ばかりの沖まで、潮退きて遠淺となり、男女打群れて潮干狩をなす、其事古へより世に名高し、名物には住吉踊、土人形、麥藁細工などありて形ち何れも愛でたし、又海水浴場あり、近年の創設なりと云ふ。

Sumiyoshi.

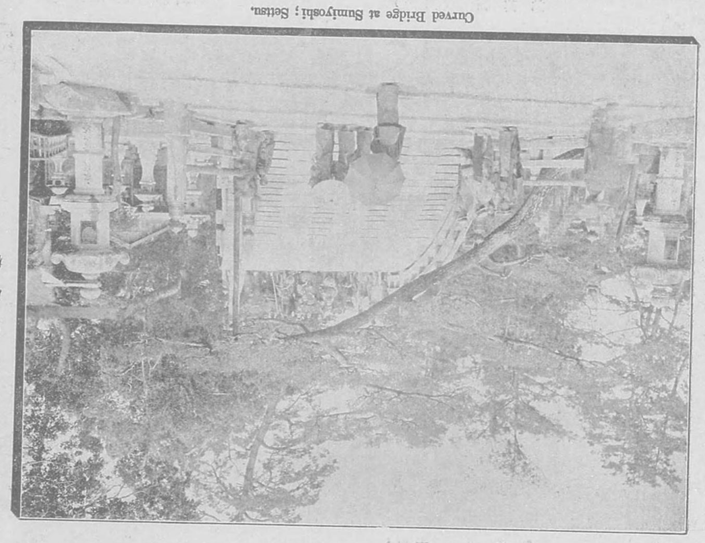
Sumiyoshi is one of the largest and most celebrated Shintō temples in Japan. It is a few miles south from Ōsaka on the road to Sakai. The temple was founded by the Empress Jingū early in the third century of the Christian era.

有馬温泉（攝津）

攝州武庫山の西北鹽原山に在り、遠く神代より湧出する所の温泉にして、爾後天災に遭遇し、屢々湮沒したるを、聖武天皇の御宇、行基僧正一たび之を復興せしが、後又承德元年に至り、霖雨に由つて崩潰し、再び荒廢に委すること九十五年建久二年、大和の僧仁西上人、更に其跡を興し、豐大閤又之を修補して今日に及べり、今の浴場は、明治二十四年、更に改良建築せし所にして、其構造は國風の宮殿に擬せり、泉の溫度は、攝氏三十九度内外にして、防腐、解凝、强壯、催下制酸等の著効ありと傳ふ、他に冷浴場あり、又妬湯、眼洗湯等あり、近傍に鳥地獄虫地獄等の奇蹟あれど、今は之を詳說するに遑あらず、此地神戸を去ること五里半餘、大阪よりすれば十三里、住吉停車場より步して六甲山を越ゆれば、三里にして達するを得べし。

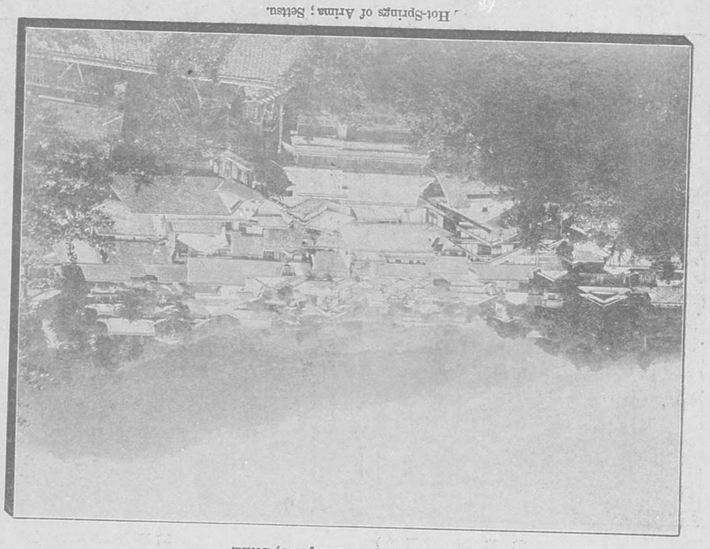
The Hot-Springs of Arima.

These are the most noted springs in Japan, their fame dating from legendary times. They are situated about thirteen miles north of Kōbe. The waters are highly esteemed, among other things, for their antiseptic quality.



（攝津）住吉の反橋

Curved Bridge at Sumiyoshi; Settsu.



（攝津）有馬温泉

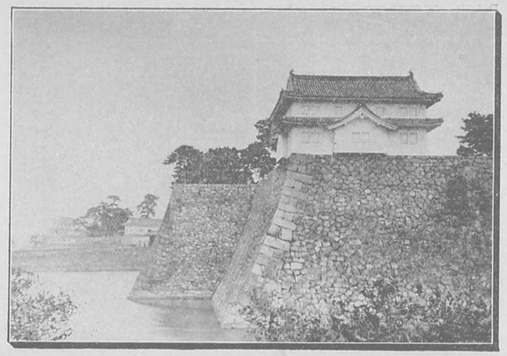
Hot-Springs of Arima; Settsu.

大阪城（大阪）

大阪市の東端法圓寺阪町に在り、一に金城と號し、天正十一年、豐臣秀吉の築く所にして城の周圍一里餘、東南は玉造の平原に接し、東北には猫間川・寢屋川の二流を擁し、追手京橋、青屋、玉造の四門を闢き、其石材は多く諸侯の寄附に係り、遠く百里外の地より運輸し來れるものにして、今尚ほ長さ數十間の巨石を壘壁の中に觀るを得べし、古へは城地極めて宏大にして、其外郭、南は道頓堀附近に及び西は、東横堀に亘りしも、元和元年、豐臣秀頼沒落と共に、城櫓多くは灰燼に歸し今存する所の城域は、只だ當年の牙城のみなりと云ふ、此城今は第四師團の本營となり、年々舊式の建物を毀ち去りて、舊規今存する所のもの少きも、石壘高く、濠渠深く、猶ほ人をして、當年を想見せしむるに足る。

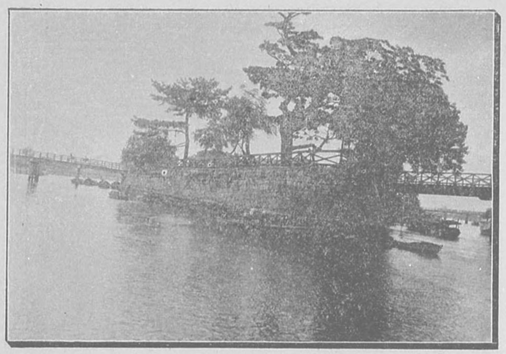
眞光寺本堂（攝津）

攝州兵庫東逆瀬川町に在り、時宗にして僧法道の開基に係り、大化元年の創建なり、本堂は方六間計、市中屈指の巨刹にして、其年代亦古く、寺域幽清にして、自づから當年の名殘りを止めたり、本尊には阿彌陀、觀音、勢至の三佛を安置し、境内に開山堂、觀音堂等あり、寺門の前には蓮池ありて、池畔に金銅の釋迦像あり、世俗之を眞光寺の如來と稱し、其名殊に著はる、亦市内の一勝區なり。



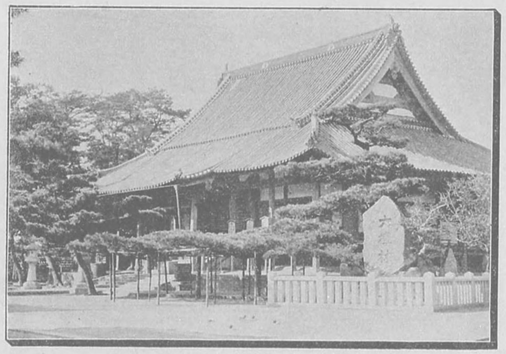
（大阪）大阪城

Castle of Ōsaka.



（大阪）中の島

Nakanoshima, Ōsaka.



（攝津兵庫）眞光寺本堂

Shinkwō-ji, Hyōgo.

（攝津兵庫）眞光寺一遍上人靈廟

Tomb of the famous priest, Ippen-Shōnin, at Shinkwō-ji, Hyōgo, Settsu.

湊川神社（兵庫）

神戸相生橋の西に在り、別格官幣社にして、楠正成の靈を祀る、此地、神戸開港前までは、一面の田圃にして、只だ元祿四年、黄門光國の建設せし一基の碑石、僅かに古松の下に立てるのみなりしが、明治四年、大に土工を起して社殿を營みしより、今は輪奐たる神廟巍然として峙つに至れり、社地は方二丁餘にして、繞らすに瓦塀を以てし、各種の遊技店、觀覽場、雜貨骨董商など、晝夜賽路の兩側に露店を開き、詣者常に群聚して、市内第一の繁華を極む、古への碑石は、社門を入りて右の方、松林の間に在りて、石柱兀立すること凡そ一丈、碑面には嗚呼忠臣楠子之墓の八字を彫み、裏面には明人朱舜水の碑文を刻せり、表面第一圖は、楠公社創建の當時、四圍の街衢未だ今日の繁榮を來さざる時の眞圖にして、第二圖は、現時に於ける市坊熱鬧の有樣を示したるもの、並び掲げて以て今昔の變を知らしむ。

The Minatogawa Jinsha.

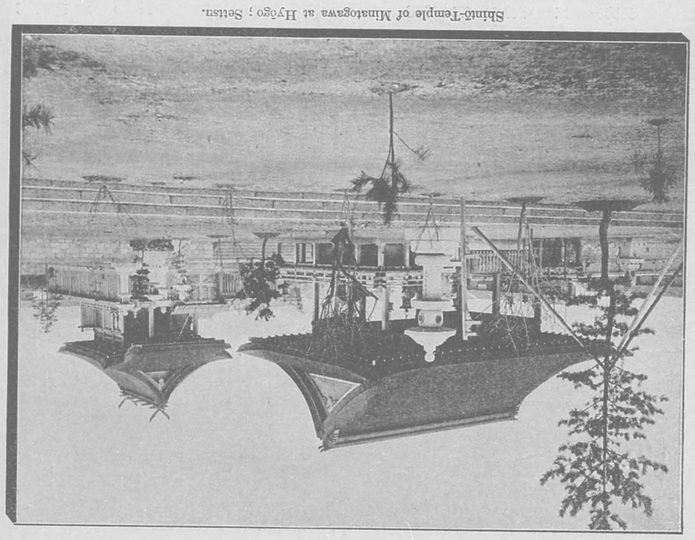
This is a Shintō temple in the city of Kōbe, a little east of the Minatogawa (Minato River). It is dedicated to Kusunoki Masashige, one of the two generals of the Emperor Godaigo. After the defeat of his Imperial Master by Ashikaga Takauji, he committed *seppuku* on the bank of the Minatogawa, A. D. 1336.

神戸港（攝津）

攝州八部郡の要位に在り、南に海を扼し北は丘陵を繞らし、湊川其中央を串流す、地形は東西に短く、南北に長く、首尾延長一里半、戸數五萬、人口十二萬に近く、市街最も殷賑にして、日本第二の互市場たり、湊川より西南の地は舊兵庫の部に屬し、眞に神戸と稱するは、湊川の東北舊生田川までの間なれども、今は兩地を併稱して單に神戸市と呼ぶに至れり、港の深さは滿潮の時八尋餘、能く大艦巨船を容れ、内外の軍艦商船、常に港内に輻湊し、各國の郵船、亦、多く本港より解纜す、兵庫縣廳の實査によれば、港内定繫の船舶實に一年七百五十隻の夥しきに及ぶと云ふ、以て其繁盛を卜知すべし、市街の最も殷賑なるは、海岸通り、元町通り、榮町通りにして、大商巨賈井然として軒を列ね、市内繁榮の中心をなせり、多聞通りには湊川神社あり、楠正成の靈を祀る、新橋の北畔は即ち福原遊廓にして、青樓妓院街道を夾み、往來また織るが如し。

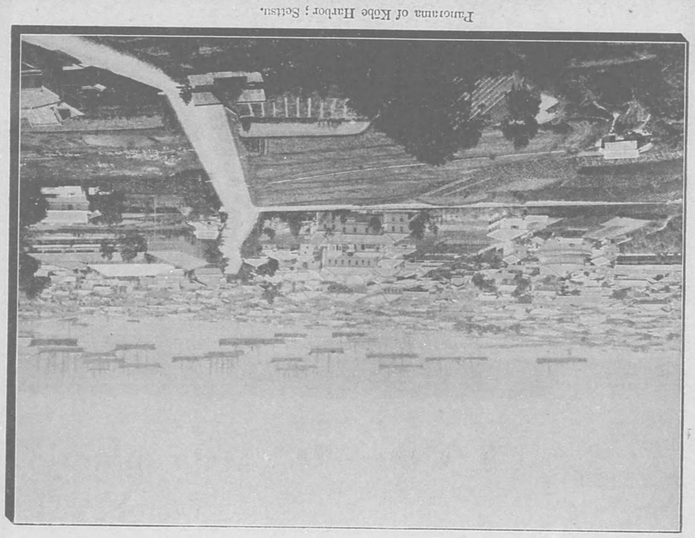
Kōbe Harbor.

Kōbe was formerly a small fishing village, but within the Meiji era, it has become one of the most important commercial cities of the Empire. It has two old Shintō temples, Ikuta-no-miya and Minatogawa-jinsha. The latter is dedicated to Kusunoki Masashige who committed *hara-kiri* on the bank of Minato-gawa in 1336, after the defeat of the Imperial forces by the Ashikaga Takauji.



（攝津兵庫）湊川神社菖蒲園

Shinto-Temple of Minatogawa at Hyōgo; Settsu.



（攝津神戸）神戸港全景

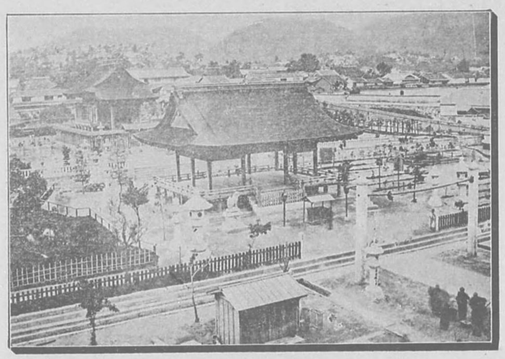
Panorama of Kōbe Harbor; Settsu.

天上寺（攝津）

攝州菟原郡摩耶山上に在り、抑も摩耶山と謂へるは、同地六甲山脈中の一峻嶺にして、崖嵬、郡の北端に聳へ、老樹森々として山を蔽ひ遠く大阪灣十餘里の海上より指點し得べし、上野村より登ること十八町にして、始めて天上寺の石階に達す磴を踏むこと三百餘級、阪路頗る嶮峻にして蓊蔚たる老松古檜道の左右を挾めり、攀ぢて頂上に至れば、即ち天上寺の境内にして、眼界豁然、宛然雲に駕するが如し、寺は眞言宗に屬し、大化元年法道上人の開基創建する所に係り、本堂には十一面觀音の像を安し、境内に摩耶夫人堂、開山塔などあり、毎歳夏季に至れば、神戸在留の外國人、及び兵庫大阪などより、暑を山上に避くるもの多く、寺僧其客殿を貸して宿泊の便に供し、又精進料理を盛梅す、眞に阪神地方に於ける、避暑閑遊の好適地なり、又此山の半腹には正慶二年赤松圓心が六波羅勢五萬餘騎の大軍を、七面の險阪に防ぎて、大に之を破りたりと傳ふる古城址あり、吊古の士は途次を迂回して、之を訪ふを可とす。

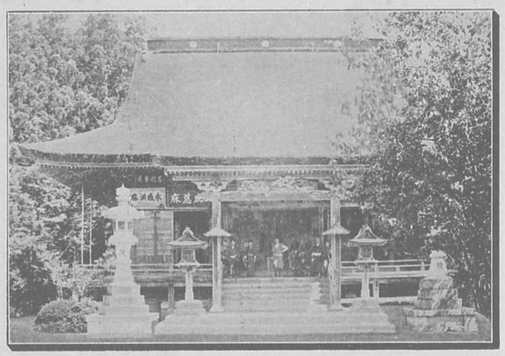
Tenjō-ji.

Tenjō-ji is a temple belonging to the Shingon sect. It is on one of the picks of a range of high hills called Rokkō-zan, which run east and west a little back from the coast near Kōbe. It is dedicated to the mother of Sakya-muni, whom the Japanese call Maya Fujin, or Lady Maya. The temple is popularly known as Maya-san. It was built in A. D. 645. It is the goal of frequent excursions from Kōbe.



（攝津兵庫）湊川神社全景

Minatogawa Shintō Temple; Settsu.



（攝津兵庫）摩耶山上天上寺本堂

Chief Temple of Tenjō-ji on Mount Maya; Settsu.

（攝津兵庫）摩耶山天上寺石階

Stone Steps of Tenjō-ji on Mount Maya; Settsu.

（攝津兵庫）摩耶山上天上寺多寶塔並ニ摩耶夫人堂

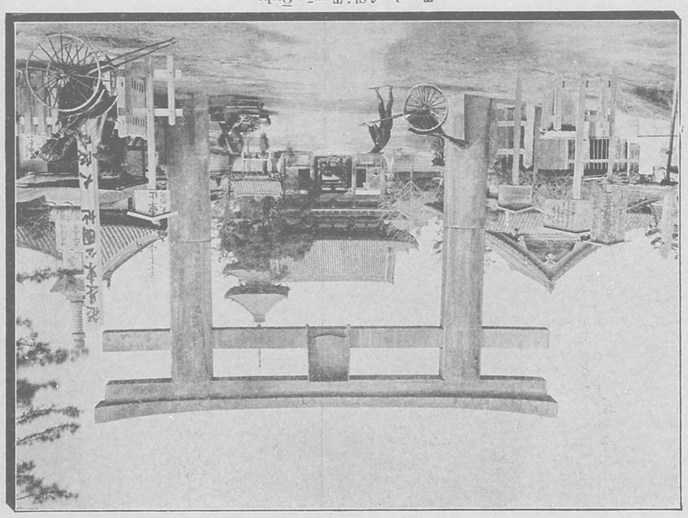
Tahō Pagoda and Maya-fujin Shrine at Tenjō-ji; Settsu.

四天王寺（攝津）

大阪の巽位東成郡天王寺村に在り、有名なる天台宗の古刹にして、今を距ること一千三百餘歳、用明天皇即位二年、廐戸皇子初めて東成郡玉造の岸に草創し、後、推古天皇の時に及んで、同地の南荒陵の東に移す、即ち今の寺地にして、稱して荒陵山と云ふもの蓋し其地名に取れる也、後、兵燹に罹ること二回、德川家綱の時、命じて伽藍を再築せしめ、以て儼然たる舊觀に復せり、境内の廣さ東西八町、南北六町、本門は東に在りて入口に華表あり、夫より歩して東門に至り尙進んで櫻門を入れば正面に五層の浮塔あり、屹然として天に聳ゆ北には金堂ありて、如意輪觀音、彌勒佛、四天王等の像を安置し、又、佛舍利を藏む、其左傍に講法堂あり、廐戸皇子の經を講せし處なりと言傳ふ、無常院の梵鐘は古色蒼然として掬すべく、太子堂には廐戸皇子十六歳の尊像を安んず、共に寺内の偉觀たり、其他六時堂、皇后の宮、三昧堂、龜井の水轉輪堂等、皆境内に在りて、賽人常に群聚し、中にも靑秋二季の于岸會、千日詣等には其雜沓名狀すべからず、近年西北の地を開さて公園となし、櫻樹數百株、胡枝花無十藏を栽植し、大に風致を加へたり、名物の田樂、味ひ甚だ佳し。

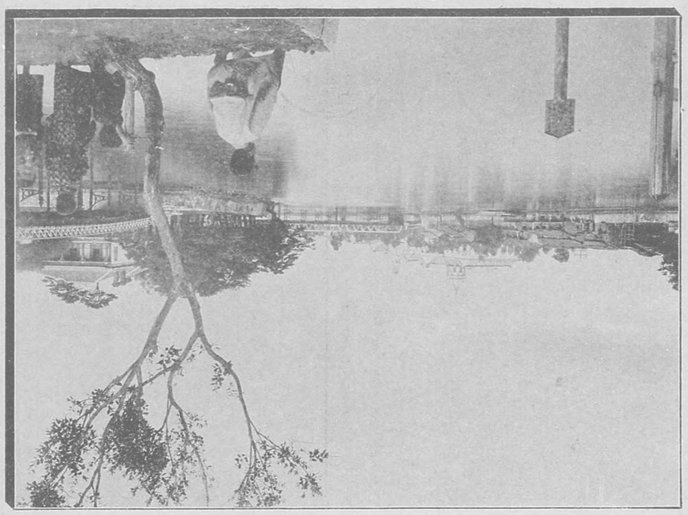
中の島より大阪府廳を望む（大阪）

中の島は大阪市の中央に在りて、四圍廻らすに川を以てし、形ち算盤の玉に似たり、其東端は公園にして、淀屋橋より河中に斗出し、長さ五町、幅最も廣き處二町に及ぶ、其尖端に浪華橋あり、北區西天滿より來り、岬角十間ばかりの地を中斷して、東區大川町に達す、其交叉十字形をなせるより詩人之を十字橋と稱せり、又、大川の水其、岬端より兩分せるさま、燕尾に似たるを以て燕尾水の稱あり、園内老樹の蔚然たるものなしと雖も、近來梅櫻數十株を栽えて大に其風致を增し、別に堂島川に臨みて數軒の割烹店あり、杯を喚ぶに妙なり、公園の西端より更に西すれば、地勢漸く盛まりて再び岬角の形を成し、左右架するに兩橋を以てす、左方の橋を渡れば、舊居留地を經て大阪府廳に達するを得、此地より府廳を望めは、洋風の高樓峨然として屹立し、滿街の瓦屋環拱して立つが如し、亦市内の壯觀とす。



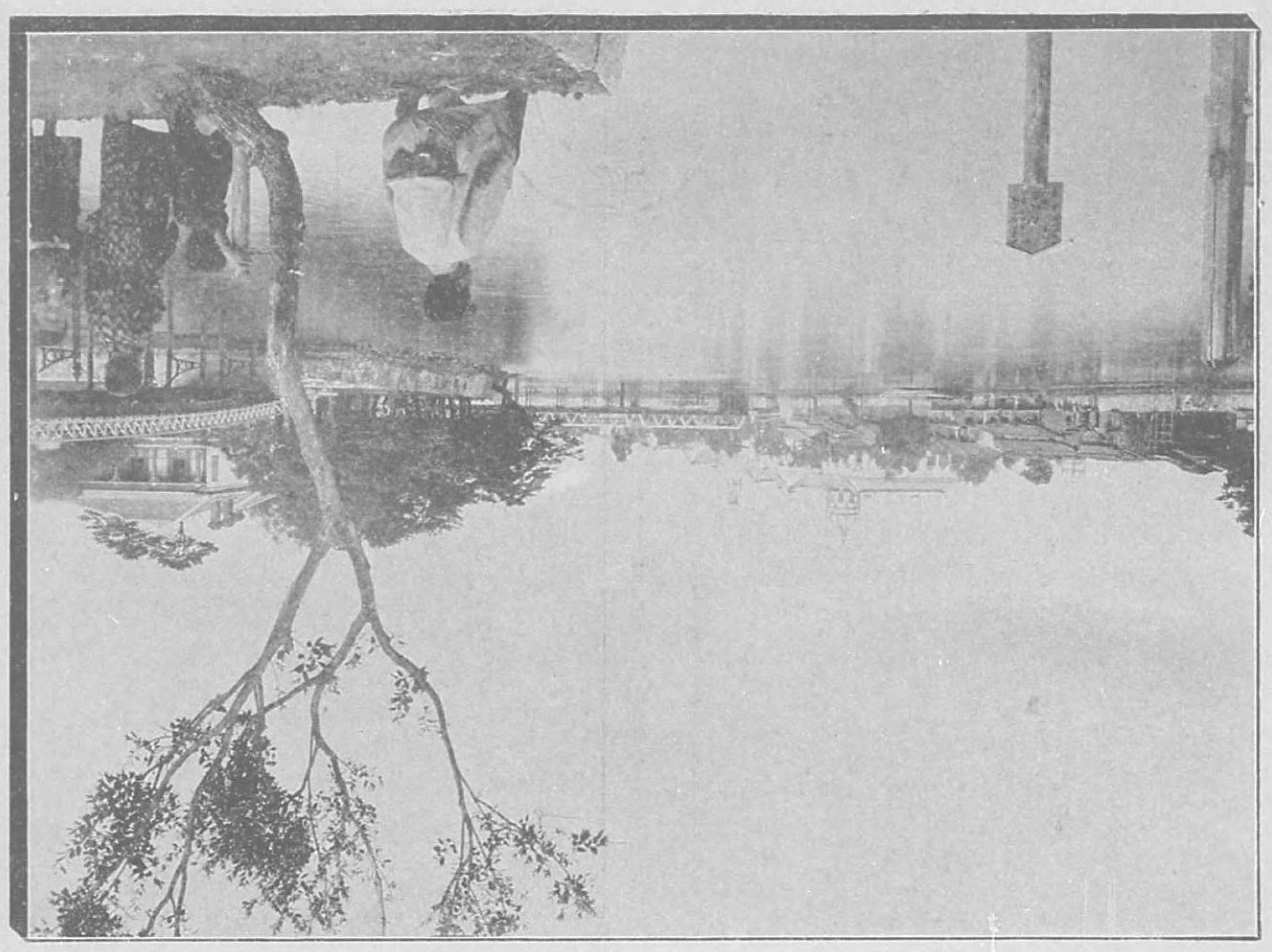
四天王寺

Temple of Shi-Tenno; Osaka.



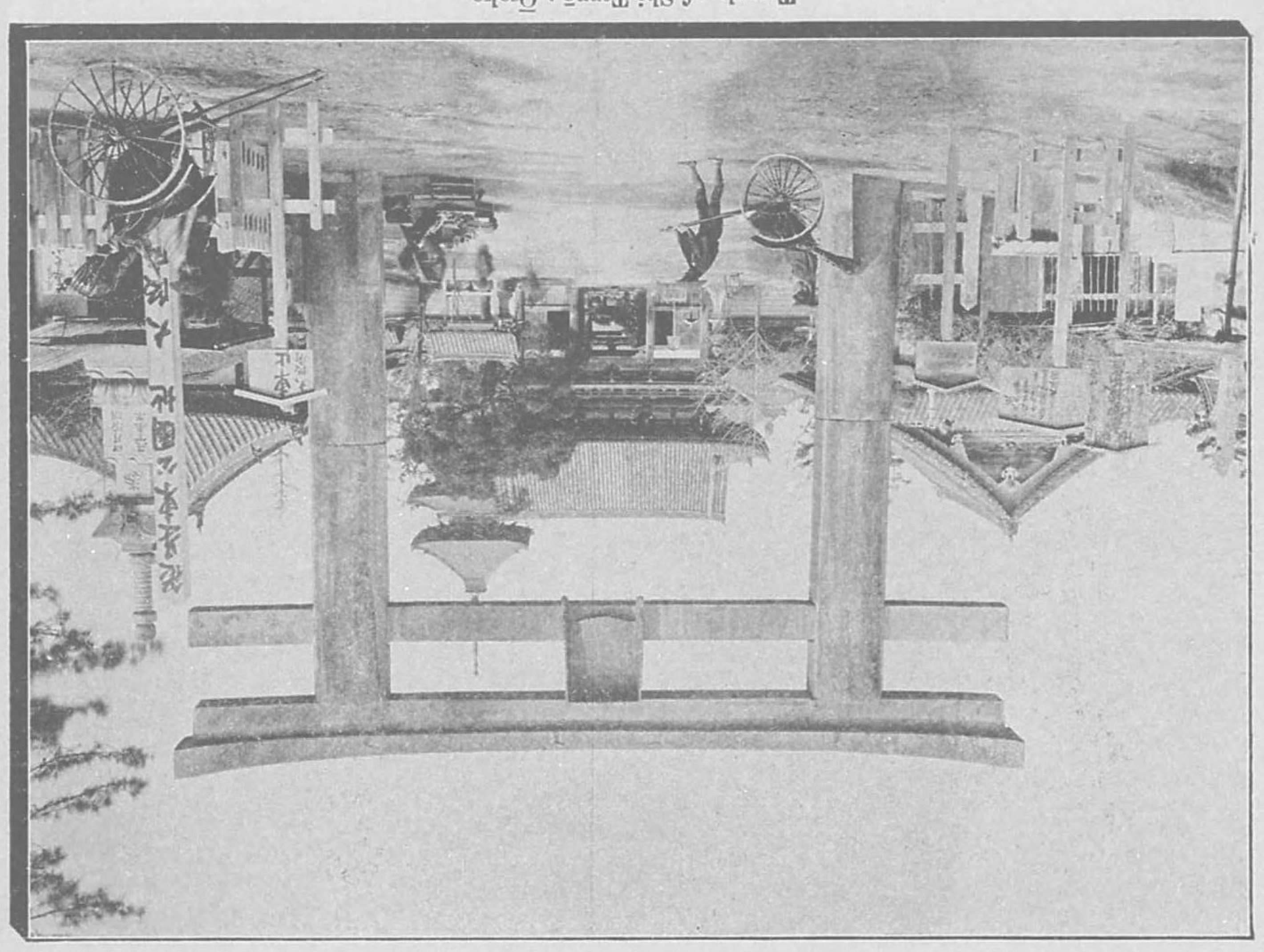
中の島より府廳を望む（大阪）

View of Osaka Prefecture, from Nakanoshima.



（大阪）中の島より府廳を望む

View of Osaka Prefecture, from Nakanoshima.



（大阪）四天王寺

Temple of Shi-Tenno; Osaka.

四天王寺 （攝津）

大阪の巽位東成郡天王寺村に在り、有名なる天台宗の古刹にして、今を距ること一千三百餘歳、用明天皇即位二年、廐戸皇子初めて東成郡玉造の岸に草創し、後、推古天皇の時に及んで、同地の南荒陵の東に移す、即ち今の寺地にして、稱して荒陵山と云ふもの蓋し其地名に取れる也、後、兵燹に罹ること二回、德川家綱の時、命じて伽藍を再築せしめ、以て儼然たる舊觀に復せり、境内の廣さ東西八町、南北六町、本門は東に在りて入口に華表あり、夫より歩して東門に至り尙進んで櫻門を入れば正面に五層の浮塔あり屹然として天に聳ゆ北には金堂ありて、如意輪觀音、彌勒佛、四天王等の像を安置し、又、佛舍利を藏む、其左傍に講法堂あり、廐戸皇子の經を講せし處なりと言傳ふ、無常院の梵鐘は古色蒼然として掬すべく、太子堂には廐戸皇子十六歳の尊像を安んず、共に寺内の偉觀たり、其他六時堂、皇后の宮、三昧堂、龜井の水轉輪堂等、皆境内に在りて、賽人常に群聚し、中にも靑秋二季の千岸會、千日詣等には其雜沓名狀すべからず、近年西北の地を開さて公園となし、櫻樹數百株、胡枝花幾十叢を栽植し、大に風致を加へたり、名物の田樂、味ひ甚だ佳し。

中の島より大阪府廳を望む （大阪）

中の島は大阪市の中央に在りて、四圍廻らすに川を以てし、形ち算盤の玉に似たり、其東端は公園にして、淀屋橋より河中に斗出し、長さ五町、幅最も廣き處二町に及ぶ、其尖端に浪華橋あり、北區西天滿より來り、岬角十間ばかりの地を中斷して、東區大川町に達す、其交叉十字形をなせるより詩人之を十字橋と稱せり、又、大川の水其岬端より兩分せるさま、燕尾に似たるを以て燕尾水の稱あり、園内老樹の蔚然たるものなしと雖も、近來梅櫻數十株を栽えて大に其風致を增し、別に堂島川に臨みて數軒の割烹店あり、杯を喚ぶに妙なり、公園の西端より更に西すれば、地勢漸く蹙まりて再び岬角の形を成し、左右架するに兩橋を以てす、左方の橋を渡れば、舊居留地を經て大阪府廳に達するを得、此地より府廳を望めは、洋風の高樓皒然として屹立し、滿街の厦屋環拱して立つが如し、亦市内の壯觀とす。

（攝津大阪）四天王寺

Shitennō-ji, Ōsaka; Settsu.

（攝津大阪）北新地遊廓

Public Houses of Kita-no-Shinchi; Ōsaka.

Shitennō-ji.

Shi-tennō-ji, or the "Temple of the Four Divinities of India", is among the oldest Buddhist temples in Japan. It belongs to the Tendai sect, and is said to have been founded in A. D. 587, by Shōtōku-Taishi, the posthumous name of the Prince Umayado, the chief minister of State of that day and the first great patron of Buddhism.

北新地遊廓（大阪）

大阪堂島の北に在りて、青樓妓院軒を列ね、夜々絃歌の聲絶ゆることなし、街路の南岸を流るゝ河を、蜆川と云ふ、水淺く流れ甚だ大ならずと雖も、古來院曲にも謠はれて、其名殊に著し、廓の創始は、何れの時代なるやを知らざれども、享保七年市内堺筋の商人紙屋治兵衛、廓の遊妓小春を將て、網島大長寺に情死を圖りたること、舊記に詳かなれば、それより以前なること知るべし、此地は市の北隅に偏して、阪地、花街の中、最も閑靜の位置に在れば、所謂淺酌低唱を愛するの粹士多く皆此廓に遊び、殊に近く堂島を控ふるを以て、一夜千金の豪興を貪る明治の紀文も少からず、阪地遊廓の中に在りては、難波新地と共に最も上流の嫖客を引くと云へり。

布引瀑布（攝津）

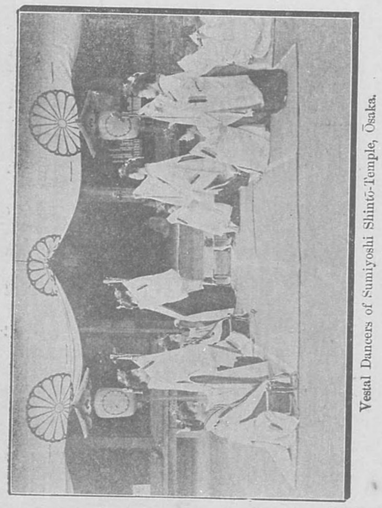
神戸布引山の半腹に在る二條の懸流を併稱せり、山麓より登ること二町にして、飛泉直下するもの、名けて雌滝と曰ふ、高さ七丈三尺、幅二間、水は岩角に觸れて挫折し、奔下すること稍や緩なり瀑前に長廊を架す、傍らに茶店あり、客若し廊に彳みて瀑に對すれば其全景を瞰下し得べし、長廊を過ぎて登ること、尚ほ三町はかりにして、更に懸流正練の如きを見る、是れ即ち雄滝にして、高さ十五丈、幅十三尺、斷崖より奔下して水勢頗る急なり、共に市内の偉觀とす、山麓より雌滝に至る、阪路の右左兩側には、両三の茶店ありて、登瞰者の休憩に便す、昔時は强て遊客に酒肴を勸むるの惡風ありしが、今は全く其弊を絶ちたり。

The Falls of Nunobiki.

These falls are in the hills about two miles north-west of Kōbe. There are two falls, one called the O-daki (Male Falls) and the other Me-daki (Female Falls).

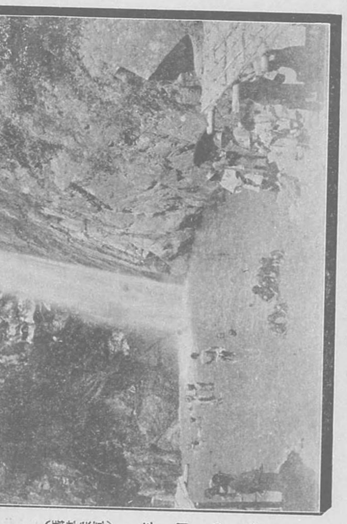
生田森（攝津）

攝州神戸より、布引に至る途中、三ノ宮停車場の北、四五町の處に在り、壽永年間、源平の古戰場にして、彼の梶原景季が、箙に梅枝を挿みて、血戰せし所なり、其東隣には舊生田川あり、昔しは南流・神戸居留地の東を過ぎて海に入りしものなるが、今は新生田川と謂へるを開鑿して、其流域を變じ、舊川は之を埋立て、宅地となせり、森の前面に、生田神社あり、神功皇后、攝政元年の創建にして、稚日女尊を祭り、攝社四坐あり、今は官幣小社に列せらる、境内廣濶にして、社殿古雅、箙の梅梶原の井、敦盛萩など、古蹟の見るべきもの頗る多く、殊に神戸を去ること程遠からねば、吊古の士、來賽の客、筑を社前に曳くもの少からずと云ふ。



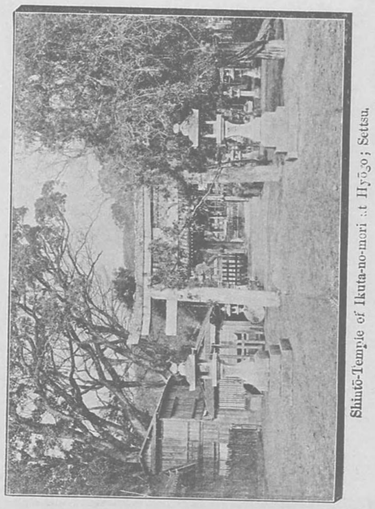
Vestal Dancers of Sumiyoshi Shintō-Temple, Ōsaka.

（大阪）住吉神社の巫女



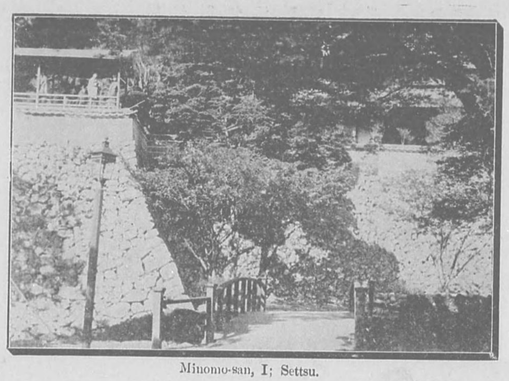
Nunobiki Water-fall, Settsu.

（攝津）布引の瀑



Shintō-Temple of Ikuta-no-mori at Hyōgo; Settsu.

（攝津兵庫）生田の森

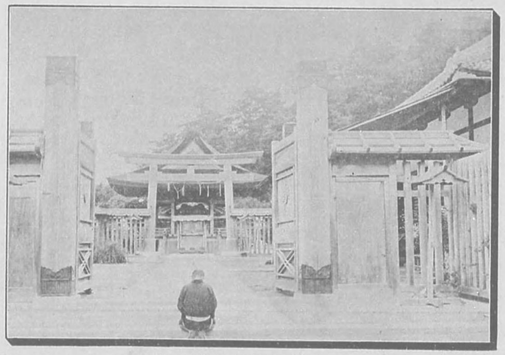


Minomo-san, I; Settsu.

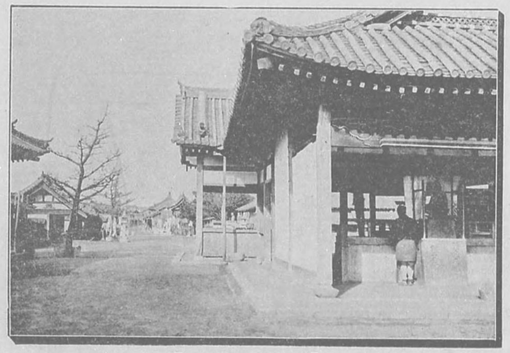
（摂津）箕面山本坊

Minomo-san, II; Settsu.

（摂津）箕面山一の鳥居



Shintō-Temple Dedicated to
Kusunoki Masatsura at Shijō-nawate; Settsu.



Front of Sennichi-ji; Ōsaka.

（摂津）箕面山千日寺

安治川（摂津大阪）

淀川の下流は摂津に入りて、安治、木津、神崎、中津の四川となる、中にも安治川は大阪の港口、最も標要の地に在りて以て海船碇泊繫の場所をなせり、大阪商船會社なども、常に此地を以て大船巨航帝に川口に儲はり、遠く之を望めば帆墻林立、宛くも長蛇を連ねたらんが如く、或て之を見れば、凉筒黑煙を吐觸れ貨物の昇降、旅客の上下、眞に大阪市内の繁榮を想ふ得相て餘りあらしむ、古史の得べる所によれば、此川はもかし川村瑞軒安治が、大阪市中の洪水を防遏せんため、新たに堀鑿したるものなりと言へり、瑞軒老の功績河水の洋々たること共に行末永く忍びさるべし。

天保山（大阪）

大阪安治川の河口に在る、一岡阜の名にして、一に之を目標山と曰へり、幕府、天保二年の春より、安治川を浚渫し、其土沙を此處に積んで、高阜を築き、以て船舶入津の目標としたるより、終に市人の憧稱する所となりしと云へり、後、此地に高燈を建て、又砲臺を築きしが、明治五年、舊燈臺を毀ちて更に燈臺を新築せり、燈光は不動白色にして、其光線十二海里半に達すと云ふ、近年此地を遊園地とし、新たに梅櫻を栽へ、又其海濱を以て、海水浴場に充て、海濱院、其他旅舍、割烹店など、數多く設けられ、今は市人皆之を櫻島と呼び做して、春夏の二候は、遊客簇集、花に醉ひ、月に浮かるゝもの、漸く多きを加へるに至れり、大阪高麗橋よりは、道程僅かに一里半ばかりなるべし。

Aji-kawa.

Aji-kawa is the principal channel of the delta of the Yodo River. It forms the present harbor of Ōsaka. There is a bar at the mouth of the river which prevents the e trance of any but small vessels. A new harbor is being formed outside, within which it is expected that large ocean going steamers may find suitable anchorage.

Tempō-zan.

Tempō-zan is a hillock at the mouth of the Aji River which flows through the city of Ōsaka. When the channel of the river was deepened in 1831, this large mound was formed from the sand taken from the channel to commemorate the achievement.

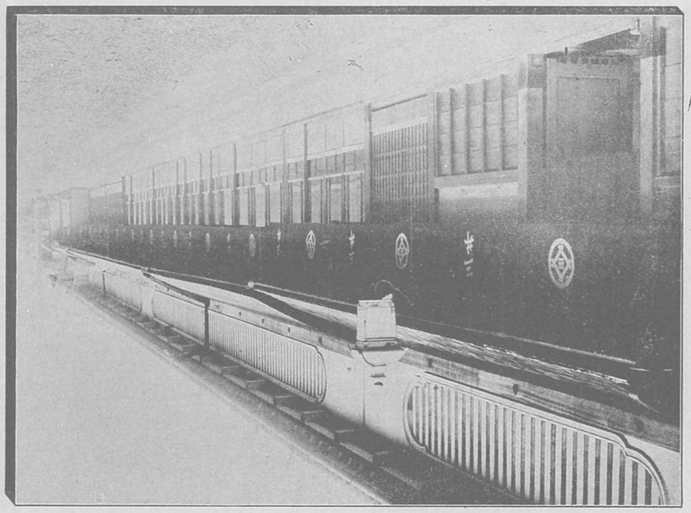
三井吳服店の大阪支店

現任支店長　高山圭三

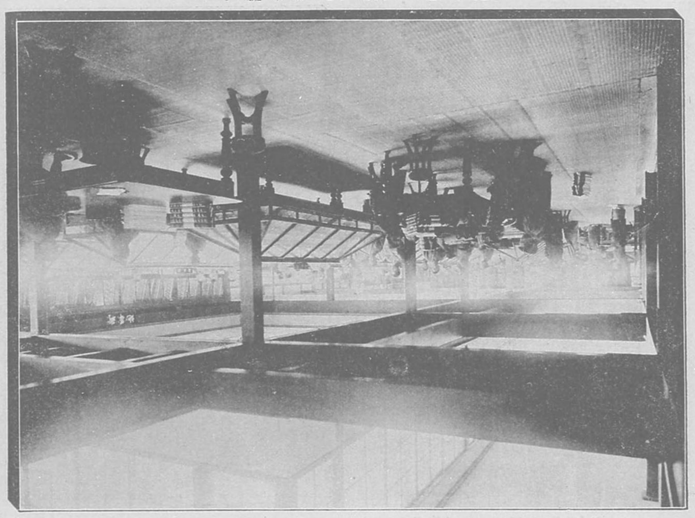
大阪支店は東京本店と共に三井吳服店の吳服物販賣店にして前にも記したるが如く元祿四年の開設に係り關西にありて盛に其業を營み爾來二百有餘年間火災兵燹等の外一日も休業したることなき老舗なり維新後明治九年に至りて一旦高麗橋通り三丁目に移りしが暫らくにして再び現在の二丁目に復し益々業務を擴張し明治廿九年店内の一部を陳列場として越て三十二年十月十八日坐賣を全廢して總陳列場となす等一歩〳〵改良進歩を努め東京本店と共に三井吳服店の兩鎭たり其店内の設備營業振りは殆と東京本店と異ることなし（東京本店の條參看）

The Osaka Branch of Mitsui Gofuku-ten.

This branch of Mitsui dry goods house, at Kōraibashi, has been in continuous operation since its founding in 1691, excepting for temporary interruption, on account of fires. The various improvements characteristic of the Main House in Tōkyō have been adopted here, and equal attention is paid to the conveniences of customers.



Osaka Branch of Mitsui Dry Goods Warehouse.



Display Room of Mitsui Dry Goods Warehouse.

三井吳服店の大阪支店（續）

小楠公社（河内四條畷）

河内讃良郡飯盛山の西麓に在り、別格官幣社にして、明治二十二年の創建に係り、楠正行及び一族戰死者の靈を祀る、社地は三千餘坪にして、境外附屬地六千坪あり、四圍には高さ二十五尺の石垣を遶らし、之に倚りて繪馬堂あり、本社、祭祀所、拜殿、社務所など、亦其中に列ぶ、華表は高野街道に在りて、本社まで五町、其兩側に楓樹多く、境内には數千株の櫻樹躑躅を移植し、土地高燥にして賽路より登ること石階一百級、其一方には飯盛山を負ひ、西南北の三方には、近く攝河泉三州の平野を望み、遠く播丹の諸山を水天髣髴の間に見るを得べく、眺望極めて爽快にして四時賽人の絶へざるが中にも、櫻花の時に在ては、境内最も雜沓を極むと云へり、小楠公の舊墳墓も本社の西九町の處にあれば、本社に詣するものは、又此孤墳を吊ひて、懷古の涙を灑ぐもの多し。

千日寺（大阪）

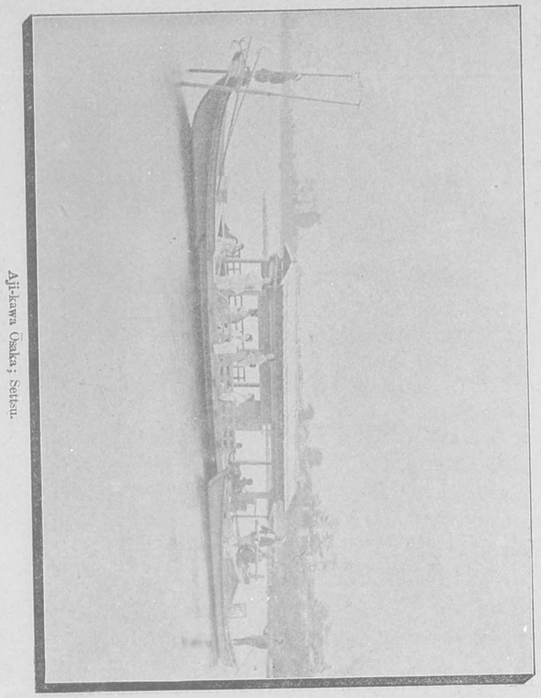
大阪道頓堀の南千日前に在り、往時の千日寺は、今廢滅に歸し、現時在る所のものは其實法善寺と謂へる、淨土宗の小寺なれども、市人其地名に因りて、之を千日寺と呼び做せり、維新以前に在りては、此處に刑場ありて、其近傍墓石壘々、野草いやが上に生茂りたる荒地なりしが、今は見世物小屋軒を並べ、旦より夕に至るまで、囃子の鳴物、音を絶たず、木戸番聲を涸らして客を呼ぶなど、頗る喧噪を極む寺内本堂の西には、金比羅社ありて、其近傍亦客寄席茶店など多く、賽人常に絶へず、又其東南には、自安寺の妙見あり、其南に新金比羅社あり、維新以後の創建にして、社殿清洒毎月十日には參詣人殊に多し。

箕面山（攝津）

攝州豐島郡箕面村大字平尾の北一里ばかりの處にありて、大阪よりは凡そ六里を隔てたり山中には有名なる瀧安寺あり、白雉年間役小角の草創せし所にして、天台修驗道を主とし京都の聖護院に屬せりと云ふ境内本堂には小角の自作に係る辨財天を安置す、個は江州の竹生島、相州江ノ島、藝州嚴島と共に之を日本の四辨天と稱するものなりと傳ふ、其他本地堂には智證大師の作に係る如意輪觀音堂あり行者堂には小角自作の背像あり有名なる、箕面瀧は高さ十一丈、幅三間飛瀧雲を蹴り噴沫球を轉ばし勝景筆紙に絶す殊に滿山の楓樹新綠霜紅の二季の如きは、點映最も宜しきを得佳趣を添ふること曾に一層のみならず、又瀧上には、白龍石、坐禪石、錫杖石などあり、瀧に臨んで、三鈷の松あり瀧を去ること六町ばかりの處に奥の瀧あり、寺より瀧布に到る道路の側らに、唐人戻り岩などありて、共に山中の名勝に屬し、四時殆んど客跡を絶たずと云ふ。

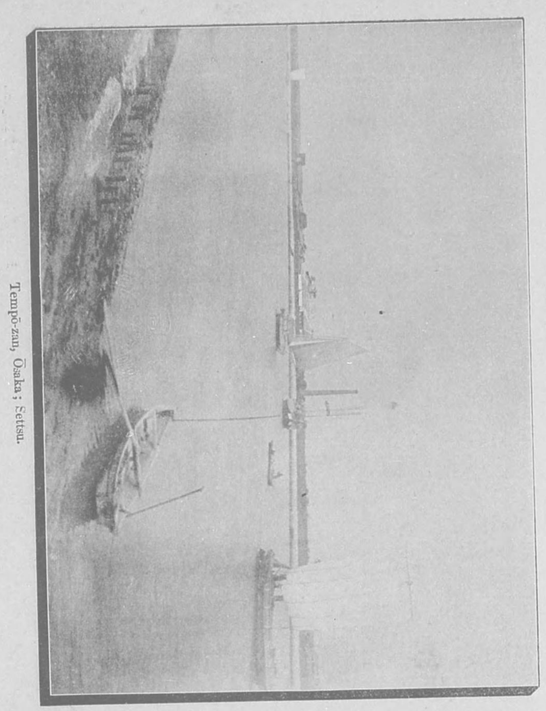
Minomo-san.

This is a celebrated resort about fourteen miles from Ōsaka, popularly known as Minō. The specially interesting features are a water-fall and maple trees. There is also a temple belonging to the Tendai sect, which dates from A. D. 650.



安治川舟遊（攝津大阪）

Aji-kawa Osaka; Setsu.



安治川口より天保山を眺む（攝津大阪）

Tempō-zan, Osaka; Setsu.

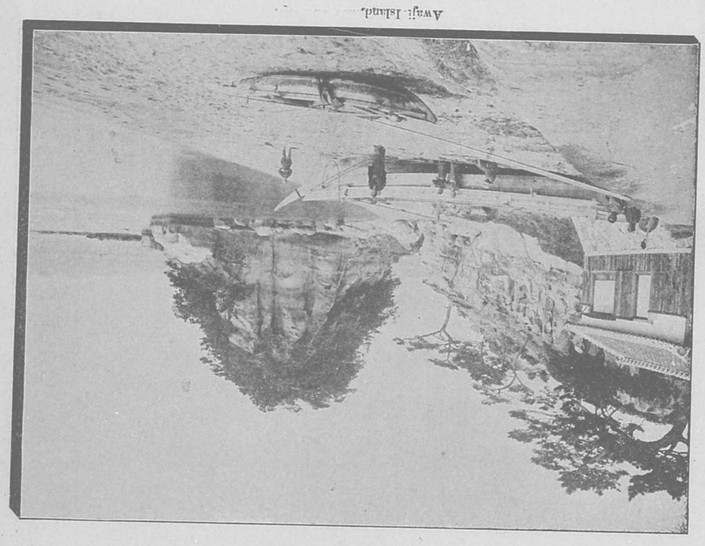
淡路嶋（淡路）

古事記にある『おのころ嶋』とは、この淡路嶋のことなりといひ傳へられ、古くよりして、歌人の口に上り、世に知られたる嶋なり、北は明石海峡を隔てゝ播摩に對し、通ひ來る千鳥の聲は須磨の關守の夢を驚かせしとかや、西南は、渦卷き立てる鳴門海峡を以て四國の阿波に境し、東は揖を絶ゐしてふ由良の門を隔て紀伊の翠巒に臨む。周圍は三十八里二十五町にして、南北長く東西に短かく、土壤膏腴にして民情諄朴なり。元より蕞爾たる小嶋なれば高山大川なきも、國中に名勝舊蹟頗る多くして、行客の往訪に價ひするものすくなからず播摩路より遠くこれを望めば青螺黛濃かにして仙嶋を望むが如く、特に、攝津の海邊より遠望する景色は、古人の歌詠に入りしもの多し。

渡津海のかざしに挿せる白妙の
浪もて結へるあはじしま山　（古歌）

Awaji-shima.

Awaji-shima, that is Awaji Island, lies between Shikoku and the main island of Japan, from which it is separated by the Akashi Straits. This island has a prominent place in the old poetry of Japan.



（淡路）　淡路島

Awaji Island.

Public Woman in Full Dress.

国風

Fozusu, Shichihachi Players.

能舞臺

淺妻樓（攝津）

大阪市外豐崎村大字南濱の、さんば朝妻樓と云へるは、浪華に於ける有數の旅館にして、料理席貸などをも兼ね營み會社の慰會、學校の運動會などには、適好の場所なりと傳へられ、地は大阪の北郊、梅田停車場を去ること東北六七町の處にありて、南は市背の甍瓦、鱗次櫛比せる樣を望み、西には大阪灣あり、北には六甲、摩耶の諸山、一帶に青黛を引けるあり、東には金剛山、崔嵬雲を串けるなど天然の風色已に備れるが上に、あるじが手入れの庭園は、坪數四千餘坪に及び、四季の草木花卉を集めて、旅客の心目を慰むるのみか庭内には溫泉場の設けさへありて、藥槽に肢體を養ふの便を供へ、且つは新聞縱覽所を設くるなど、其用意至れり盡せり、殊に其建築の雄偉にして、雅致を具へたる、百疊敷と謂へる、舞臺造りの大座敷を始めとして、大小三十餘棟の客室を建て連ねたるが如きは、旅館として恐らく他に匹儔を見ざる所なるべし大阪に遊ぶの士は、一泊を試むるも妙ならん。

道頓堀（大阪）

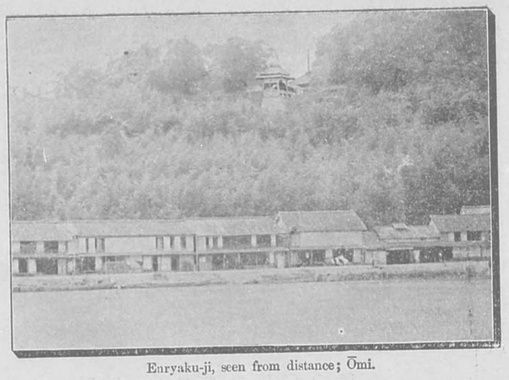
大阪南區、道頓堀川の南岸、十餘町の總稱にして、西は戎橋を劃り、東は日本橋を界とし、大阪市中、最も熱鬧の地區にして、日夜行客群集し、肩摩轂擊人波を寄せて奔走する有樣筆舌の能く形容し得べき所にあらず、南側には浪花座、中座、角座、朝日坐、辨天座の劇場櫓を並べ、北側には芝居茶屋、割烹店など櫛比し、川に沿ふて西に進めば、九郎右衛門町の花街あり、橋を渡りて北に向へば、島之内の敎坊にして、劇場の櫓大鼓は、青樓の絃聲と相和し、其賑ひ言はん方なし、西京の京極、東京の淺草と、此地を合せて、日本三府の最盛市坊と稱するものあれども、其殷賑の點に於ては、三市の中、此地を推して第一とすべし。

延暦寺遠望（近江）

歷史を讀むものは、延暦寺の名を記憶せざるものなからん、こは、奈良朝時代に創建されたる巨刹にして、代々の朝廷も尊信淺からず、名僧智識の排出せしもの尠からず、僧兵の盛んなりし時代には、屢々京師を震駭せしめたり。遠くよりこれを望めば、堂塔伽藍參差として聳へ、瓦光日を帶びて、其景狀の雄大にして、自ら莊嚴の有樣あるは、恰も、紫雲の其間より立ち昇るかを想はしめ、昔時三千の大衆が、袖を連ねて昇降せし壯觀は、自ら眼前に髣髴するを覺ふべし。

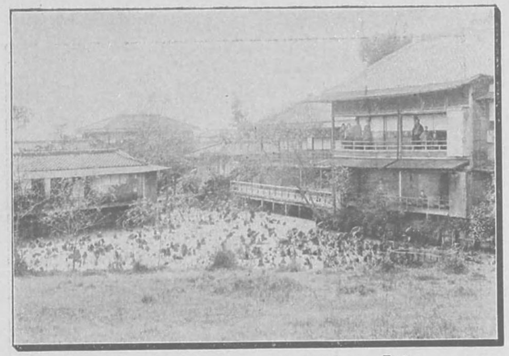
彦根樂々園（近江）

維新前は、國守の庭園として、其名高く、現今は、廣く庶民の遊園地となりて、四時ともに人影を絶たず、後方に金龜山の勝地を負ひ前に湖水の波靜なるありて、夏日は、紅蓮白蓮咲き乱る、膽吹山の翠色は北方に峙ちて、遙に園内の風致を添へ、園内に設けられたる亭榭の構造も、或は雅嫺に、或は高壯に、以て休憩をなし雅會を催すに足る、園内に勝概多く、樂々園八景の名は、夙に文人雅客の吟咏に入りしものなり、園の負へる金龜山は、彦根城の舊墟にして、今は公園となれり、眺望頗る絶佳にして、大湖の波、近山の翠指顧の間に迫り、天然の活畫圖を披いて、衆庶の心を樂ましむ、樂々園の風光と相待ちてまことに、附近の勝地たり。



（近江）延暦寺遠望

Enryaku-ji, seen from distance; Ōmi.



（大阪）朝妻樓の舞臺

Dancing Stage of Adzuma-rō, Tea-House; Ōsaka.

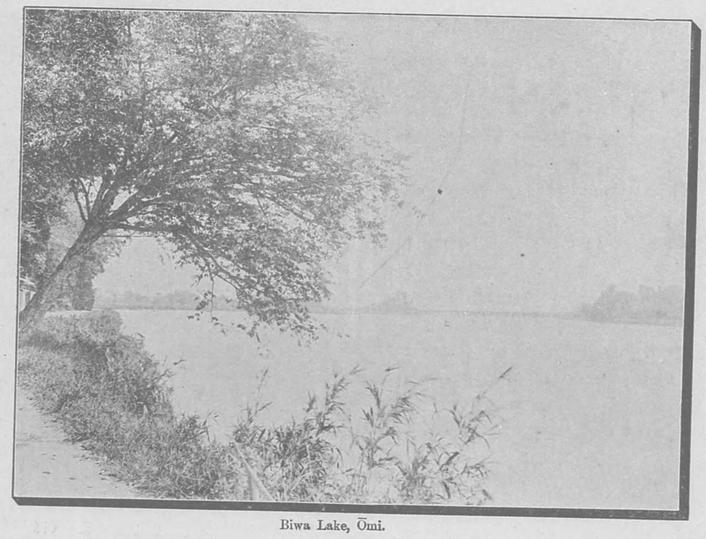
（近江彦根）樂々園

Rakuraku-Park at Hikone, Omi.

（攝津大阪）道頓堀

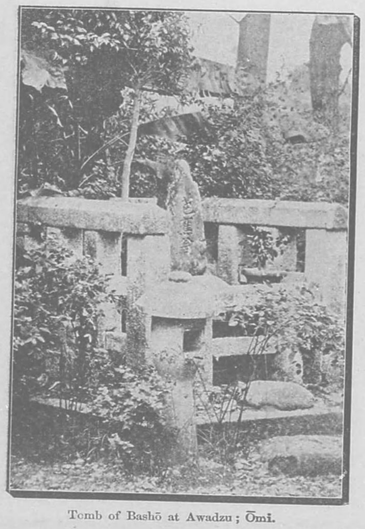
Dōtombori, Ōsaka.

（近江）琵琶湖



Biwa Lake, Ōmi.

（近江粟津）義仲寺芭蕉翁の墓



Tomb of Bashō at Awadzu ; Ōmi.

（京都）西本願寺飛雲閣

Hiun-kaku Shrine of Nishi-Hongwan-ji ; Kyōto.

琵琶湖（近江）

東洋の景勝は日本に集まり、日本の景勝は、山色に於ては富士山に鐘まり、水光に於ては琵琶湖にあつまる。天女が白雲境に宴を開きて、奏したる琵琶をあやまりて近江の國にとりおとせしが、忽ち湖水の形となれり。と詩人の詠せしも理あるやうに覺へて、先づ。堅田より北の廣さは琵琶の腹に似堅田より瀬田までは狹くしてその鹿首に譬ふべし、勢田より宇治に至るまでは、その海老尾ともいふべく。竹生嶋は、恰も覆手に當るところにあり。と古人の云ひしもれもしろし。湖上の風光は、既に世に艶稱せられて、八景といはゞ直ちに兒童もこれを數ふべし。さる人の詩に堅田落雁比良雪。湖上風光此處收、風孕歸帆失走渡。烟籠藍水粟津洲、夜暗唐崎松間雨。月冷石山堂外秋。三井晩鐘勢多夕、征人容易惹鄕愁。といへるは、正にこの湖上の勝を盡したるものと謂ふべし。

Biwa-ko.

Biwa-ko, or Biwa Lake, so called from its resemblance in form to the musical instrument *biwa*, is situated about seven miles east of Kyōto. It is the largert body of fresh water in Japan, and is renowned for its scenery.

飛雲閣（京都）

京都西本願寺の深院、滴翠園の一隅に在り、園内には、黄鶴臺、滄浪池、龍背橋、嘯月波、踏花塲、醒眠泉、青蓮樹、胡蝶亭、夜光石、艶雪林などの勝景ありて、其一邊に、三層の高閣、巍然として天を衝くもの、是れ即ち飛雲閣にして、結構壯麗、裝飾亦輪奐華美を極め、眞に寺内の壯觀たり、此閣は舊と豐太閤秀吉の別墅として有名なる、聚樂第の庭園に在りしものなるを、故ありて當寺に賜ひ、之を茲に移して、改築したるものなりと云ふ、之を見れば、如何に當年の猿面郎、が、豪奢を極めたるかを知るに足るべく、又如何に、念佛宗の本山本願寺が、大なる富と、强盛なる威力を保ちつゝあるかを知るに足るべし。

芭蕉塚（近江）

大津町字馬場なる義仲寺の境内にあり、寺は、木曾義仲戰死せし地にして、今に、義仲塚といへる墳墓あり。この義仲塚と相並んで、正風の俳祖松尾芭蕉の塚あり、芭蕉の大名は、兒童走卒も知るところにして、當時、大阪に行脚中、痢を病みて歿せしを、門人等遺命によりてこの地に葬れり。芭蕉の句にて

木曾殿と背中合せの寒さかな

といへるは、偏く世人の口に膾炙せる名句にして、塚面に彫刻しあり、傍に一字の祠堂を建てゝ、中に芭蕉翁の肖像を安置せり。歿せし年月は、元祿七年十月十二日にして、門人其角の句に

なきがらを笠に隠すや枯尾花

とあるは、葬送の時に咏みし句なりといふ、今に至るまで、斯道に志すもの參拜絶ゆるとなしといふ。

石山寺（近江）

眞言宗、本尊如意輪觀音、瀨田の唐橋より川下、川の西岸に、奇石の聳立せる靈山にあり、天平勝寶中聖武天皇の勅願によりて良辨僧正開基、後に淳祐内供中興す、西國十三番の札所、又地勢觀月に宜しくして、古く八景の一に數ふ、寛弘中八月十五夜に紫式部此寺に參籠して源氏物語を作る、本堂に今源氏の間といふあり、聖武天皇宸筆の經卷幷に式部の硯等多く靈寶を藏す。

Ishiyama-dera.

The Ishiyama-dera is a Budhhist temple belonging to the Shingon sect, on a rugged hill overlooking Lake Biwa, near the western bank of the Uji River which forms the outlet to the lake. The temple was founded by the Emperor Shōmu, about A. D. 750. It is famous for its beautiful views of Lake Biwa.

三井寺（近江）

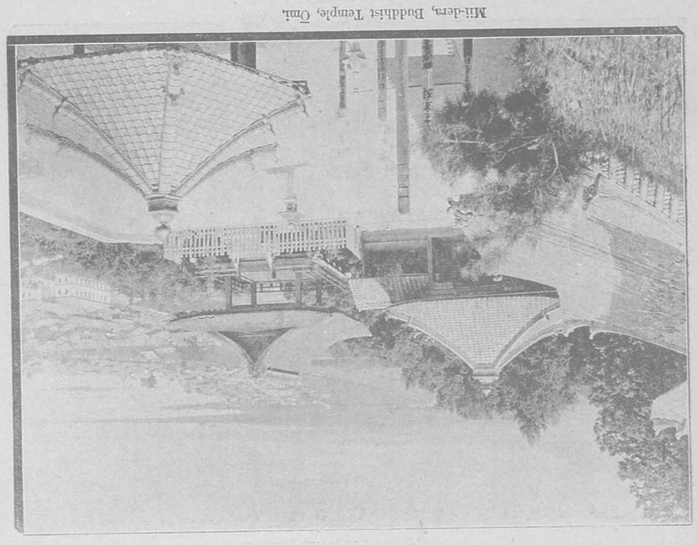
大津町の西に在り、天安二年僧圓珍の創建する所にして長等山園城寺と號せり、寺域七万五千三百坪、二王門、本堂、大講堂、金堂、唐院、青龍院、勸學院、法輪院、其他中院十二坊、北院十二坊、南院十九坊等の堂舍あり、磴を上りて寺境に至れは、四望豁達俯して湖光の瀲灩たるを瞰み、瀨多、矢橋の帆影を數ふるを得べし、本堂の左側小丘の上に西南の役戰死者の紀念碑あり、表面の題字は三好陸軍中將の書にして、雄勁龍蛇を躍らし、左右の碑文は山口素臣、籠手田安定の撰ふ所、亦、朗々として誦すべし、其傍には明治十一年聖駕行幸の時、御坐を設けたる舊趾あり、有名なる辨慶の曳鐘は寺の北隅裏阪の中腹に在り、文中院には元信、探幽、合作の猛虎抱兒圖あり傳へて希世の神品となす、寺中多く圓山應擧の畫を藏し入神のもの少からずと云ふ、此寺は西國十一番の札所にして殊に近江八景の一に數へらるゝより、諸國の賽人雲の如く、觀光の客亦甚だ多し。

Mii-dera.

Mii-dera is a famous Buddhist temple in the outskirts of Ōtsu. It was founded A. D. 858. It is on the mountain side overlooking Lake Biwa, and affords a most beautiful view. Here is shown a large bell which was once stolen by the monks of Enryaku-ji in Mount Hiei, and brought back by Benkei, the well-known retainer of Yoshitsune. Benkei is said to have dragged it over the mountain; a trench like depression on the mountain is according to tradition, the track left by the bell after its memorable journay.

（近江坂本）　石山寺

Ishiyama-dera at Sakamoto; Omi.



（近江）　三井寺

Mii-dera, Buddhist Temple, Omi.

堅田浮見堂（近江）

琵琶に譬へられし大湖の漸く廣くならんとせるところに湖崖より突出でたる岩角ありて上に一宇の堂ありこれを堅田の浮見堂といふ。寺號を海門山滿月寺といひ本尊の彌陀と觀世音の尊像は惠心僧都と聖德太子の作なりといふ。この堂の幽邃閑雅なるはいふまでもなく登臨の景色は又一入なり。このあたりまで隘かりし湖水は北に向ふにしたがひていよ〳〵廣くなり行き渺茫たる萬頃の波に飛帆の影かすかなる樣まことに得もいはれず。秋のころなど鴻雁の來りて近くに落つる風景は近江八景の一として誰人も知るところならん。舊蹟としては新田左中將の妻なりし勾當內侍がわびしき居住をなし、所なりと云ひ傳へらる。大津町より北の方三里ばかりの處にあり。

The Floating Shrine of Katata.

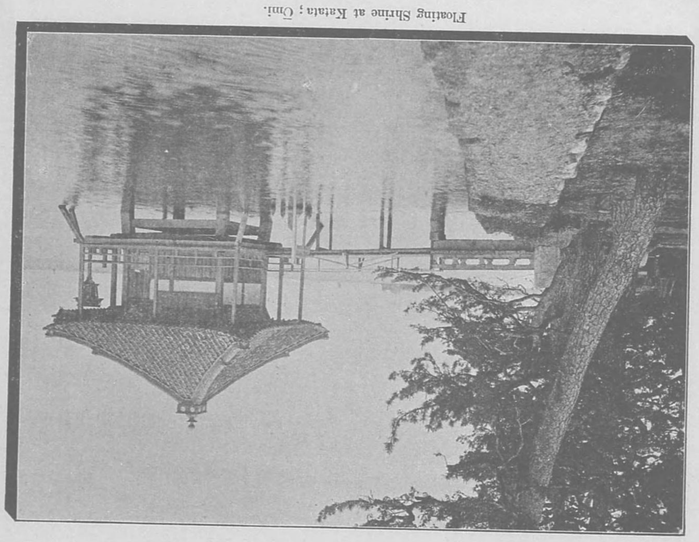
Katata is on the western side of Lake Biwa, a little north of its narrow portion, seven miles from Ōtsu. The floating shrine is counted among the eight celebrated sights of this lake.

唐崎の松（近江）

大津を距ること一里ばかりの北に下阪本村と云へるありて、其東端湖水に面せる地を唐崎と云ふ、湖岸には唐崎神社ありて祭神は琴御館の妻なりと言ひ、又、一說には大巳貴尊なりと傳ふ、社頭の老木は即ち所謂唐崎の松にして、幾拱の巨幹、龍の如く蟠まり、參差たる枝葉八方に繁茂して、翠蓋地を蔽ふことと殆んど百坪、其一半は湖中に入りて瀲灩たる湖光を包み、支柱數百基を以て之を支ふ、夏夜には翠葉風に捲かれて湖中に落つること雨の如く、淅瀝として聲をなす、實に希代の名木なり、古へ天智天皇の時、此の松が根に御船を繫ぎたることありと云へば、其年數の古きこと推して知るべし、古人の題詠數多ありて中にも風雅集從二位爲子の歌、及び藤井竹外が唐崎夜雨を詠じたる、共に人口に膾炙せり。

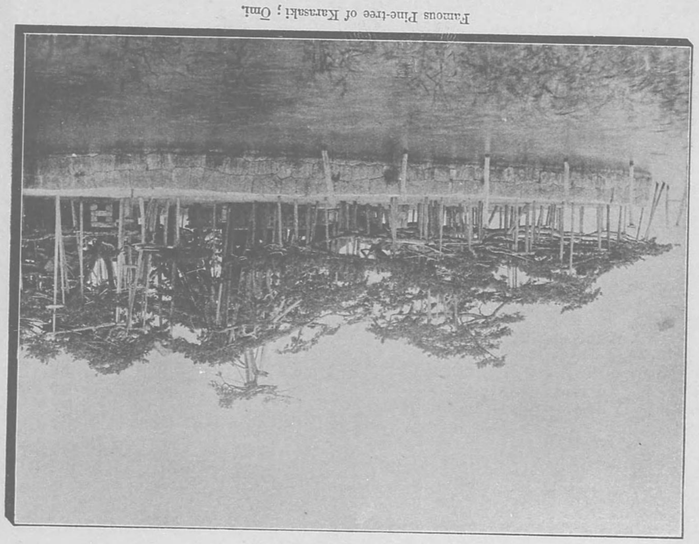
The Karasaki Pine.

This famous tree stands on the shore of Lake Biwa near the village of Sakamoto. Its branches cover about four hundred square yards, on one side extending over the lake. It is said that the Emperor Tenchi who ascended the throne in A. D. 668, once moored his boat to this tree which had apparently attained some celebrity even at that time.



（近江堅田）浮御堂

Floating Shrine at Katata; Ōmi.



（近江）唐崎の松

Famous Pine-tree of Karasaki; Ōmi.

竹生嶋（近江）

大津町を隔ること十六里餘、琵琶湖の中にある一孤嶋なり、周囲は二十六町餘にして最高所は、水面を抜くこと六十尺なり。全嶋の形勢すこぶる奇絶にして、傳説にいふ、南方に向ふ嶋根の岩は水晶にして金輪際より湧き出でたり、と屹然として立てるは恰も猛虎の踞するか如く四面の斷崖は、鬼神の斧もて削りたるかと疑はれ、攀ぢ登るべくもあらずたゞ東方に一の入江ありて僅に舟を寄せて上るを得べし、嶋中には木樹茂り合ひて晝も尚暗く幽邃いふばかりなし、頂上より望めば、湖畔の奇峯秀嶺は眼前に聳へ近き水面には、多景嶋の温容書圖の如く、琵琶湖上の勝概はすべてこの嶋に集まるかと思ふばかりなり。島の半腹に洞穴ありて左右に相通じ、其奇觀また賞するに足る。

竹生嶋辨財天（近江）

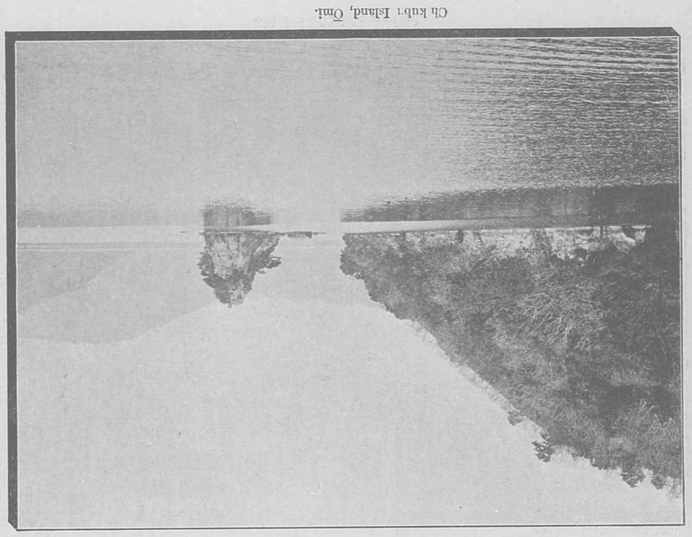
竹生嶋の上にあり、祭神は辨財天女なり、この神は妙音天女と申し奉る故に湖の名の琵琶といへるに相應して特に尊とく仰がるゝ心地す、湖上の眺望より嶋内の風景に至るまで、總てこの境内よりほしいまゝにするを得べく殿宇の神寂びて古雅なる境の趣と一致して氣宇を瀟洒ならしむ、貝原益軒が、境地潔清にして人里遠く離れ恰も浮世の外に出でたる心地して仙境に入りたらんやうに覺ふる云々といひしも理にて、眞に無雙の靈場たり、昔し都良香この祠に籠りて三千世界眼前盡といへる一句を得て打吟じたるに、明神たちまち十二因緣心裏空と對句を與へ玉ひしといひ傳ふ、げに地の幽邃と境の凡俗を離れたるより推せばかゝることもありしならんと、そゞろに心神の爽かなるを覺ふるなり。

Chikubu-shima.

Chikubu-shima is a small island near the centre of Lake Biwa.

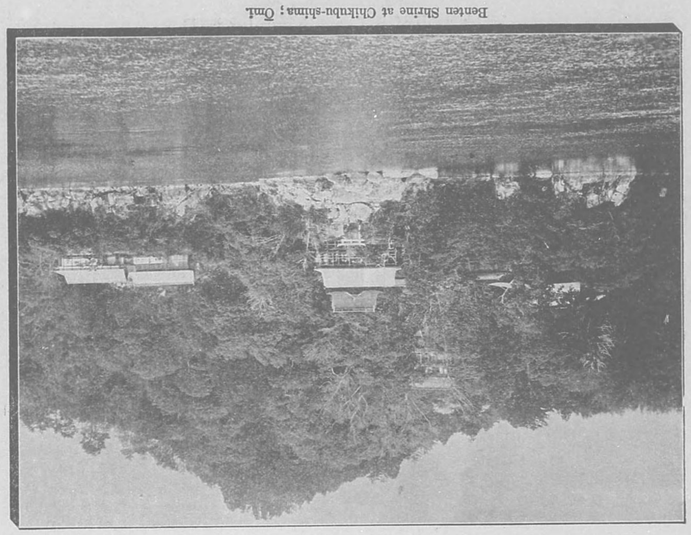
The Benten of Chikubu-shima.

Benten is the Japanese form of the name of a Brahmanic godess adopted into the Buddhist system. She is usually represented as playing on a *biwa* and accompanied by a dragon. Her association with the *biwa* was apparently the reason for building the shrine in the midst of Lake Biwa.



（近江）竹生島

Ch kubu Island, Ōmi.



（近江）竹生島辨財天

Benten Shrine at Chikubu-shima; Ōmi.

滋賀院門跡（近江）

比叡山延暦寺の本坊にして近江國滋賀郡坂本町、即比叡山の東麓にあり、天台座主たるものこゝにありて延暦寺を總べ、天台宗を管す其建築は近年火災にかゝりしか再建成りて舊觀に復す宸殿より琵琶湖を見下して眺望最佳、三上山竹生島等指顧の間にあり、桓武天皇の御影幷に、天台宗の開祖傳敎大師の遺物親筆の法華經、七舌の鑰、請來目錄、袈裟等の寶物をこゝに所藏せらるといふ。

Shiga-in.

This is the chief temple of the Enryaku-ji group, situated near Sakamoto on the eastern slope of Mt. Hiei. It is the seat of the head priest, or abbot, of the Tendai sect. The situation is beautiful, and rich in historical associations. Many mementos of Dengyō Daishi are preserved here, as well as a portrait of the Emperor Kwammu, under whose auspices the group of temples was founded.

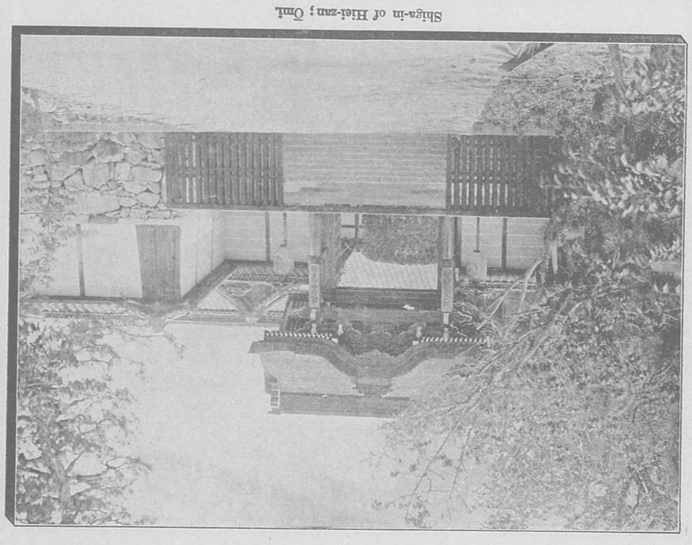
傳敎大師の廟（近江）

淨土院と號す延暦寺九院の一にして比叡山の上、東塔より西塔に至る途にあり、大師在世のとき此院を創立して自作の阿彌陀像を安置すゆゑに淨土院と號す、大師寂滅の後此に葬りて廟とす其後籠山僧廟に仕へて供養讀嘆して今に至る、籠山僧とは十二ヶ年づゝ延暦寺の山内に在りて行業を修するもの供養讀嘆の式は慈覺大師、支那の天台山の制によりて定めたるところにして最殊勝、眞に人をして信を起さしむ。

Jōdo-in.

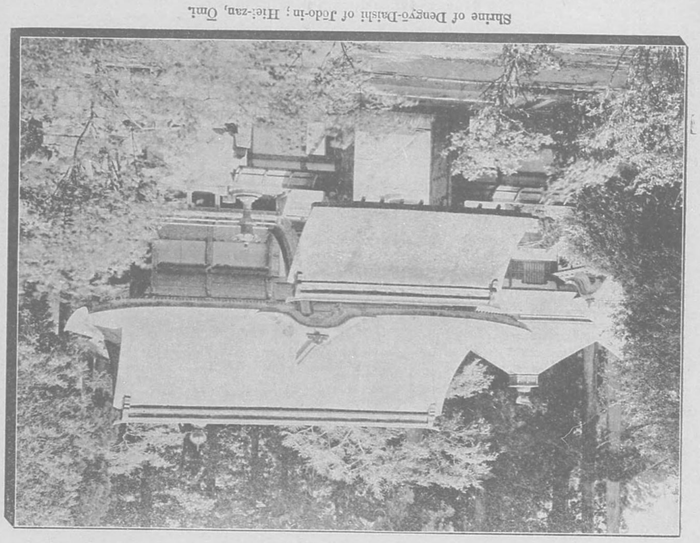
This is one of nine subordinate fanes connected with the famous temple, or group of temples, called Enryaku-ji, on Mt. Hiei, near Kyōto. It was founded about A. D. 788, by Dengyō Daishi, who was also the originator of the group. He placed in the Jōdo-in an image of Amida, carved by himself. The body of Dengyō was buried here.

（近江） 比叡山滋賀院門跡



Shiga-in of Hiei-zan; Ōmi.

（近江） 比叡山淨土院傳敎大師廟



Shrine of Dengyō-Daishi of Jōdo-in; Hiei-zan, Ōmi.

金崎宮（越前）

敦賀町の北方に當れる、海上に突出せる金ケ崎の岬端にあり、金ケ崎停車場より、山崖に開かれたる路を經て參詣すべし。一の華表には「金崎宮」の題字ありて故有栖川大將宮殿下の御親筆なり。境内の廣さは一萬九百坪餘にして、本祠をはじめ數棟の殿宇相並びて立てり。この地は、海中に斗出せる岬角の上なるが故に、後方に山そびゆ、前面は渺々たる日本海を控へ眺望の佳なる其比なし。うもゝゝ此宮の所在地は、昔し金ケ崎城の在りし故趾にして、足利氏の亂にあたり、新田義顯が尊良、恒良の二親王を奉じて立て籠りしところなり、城陷るに及びて、尊良親王は義顯と共に自刄し玉ひ、恒良親王も後終に賊手に薨じ玉へり、宮はこの二親王を祭り奉れるものにて、この地に詣するものは坐に昔を追懷して九腸を斷つの思ひあるべし。

氣比神宮（越前）

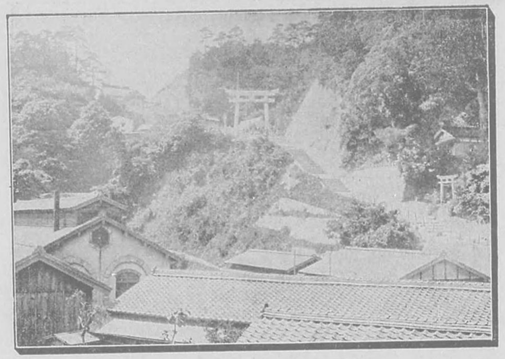
氣比神宮は、敦賀町の東端にあり日本の上古より靈驗いちじるしきを以て稱へられたる官幣大社なり 境内殆んど一万坪に近く、坦々として丘陵の起伏するなし、千年の老樹木立ものふりて、殿宇の古雅偉麗なると相侍ちて、そゞろに敬虔の信念を起さしむ。正面の華表をくゞれば小板橋あり、更に進めば、左右に瑞離をめぐらしたる門ありて、正面に本殿、總社平殿ありて左右の兩側にも亦た、數棟の殿宇あり。古記を按ずるに、仲哀天皇の御宇に、この神宮に參詣して三韓征伐のことを祈り玉ひしといふ、如此く由緒ある神祠のことあれば歴世數千年の間上下の信仰もあつくして、靈現も自ら顯著なりき。毎歳九月四日には大祭の儀禮あり、勅使の參向ありて其莊嚴なること いふばかりなく、士民の來りて賽するもの堵の如しとかや。

三國港（越前）

安居川の流、竹田川を合せて海にそゝぐところにあり。河口の東岸には三國町の人家櫛比し人口一万一千に近し、商業繁華にして出入の船舶常に絶ゆるときなし。河口を銚子口といひ南岸を泥原新保浦といふ、銚子口の廣さは四町餘にして水深一仞四尺なるが故に大船巨舶を入るゝ能はざるも地の交通の要衝に當れるを以て出入するもの便をこゝに借り安居川の舟楫に繼續するもの亦た多し。風波あるときは地勢之を防ぐに足るものなきを以て平常寄港するものも錨を投ずること能はざるとあり。たゞ河口に臨み外海を控へたるとして景物は自ら別樣の趣あり、福井市を隔ること六里に近し。

武生町米庄旅店（越前）

南條郡にある小都會にして、往昔國府を置かれし古蹟なり、維新前は、この地に城を築きて、松平の臣これを守りし事あり、市街は頗る繁昌にして、人口一万五千に近く、商業も活潑あり、この地の鐵器は甚だ有名なるものにして、市中に鍛冶を營むもの多く、他より供給さるゝ鐵を鍛練して、鎌、鍬、庖丁等に作り年々の製作すくなからず。この地は、交通の要衝に當るを以て、旅客の往來するもの足をこの地に留めざるなく、而して、米庄旅店はこれ等の旅客の爲めに、諸般の便宜を與ふるなど其信用の厚さは、この地に冠絶す。

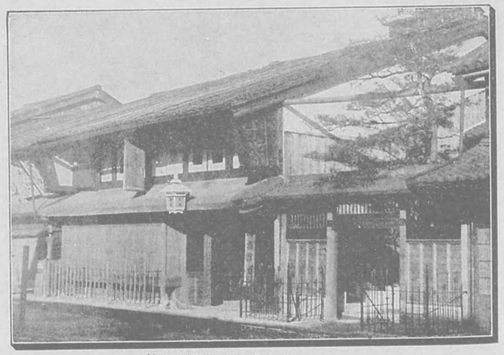


（越前敦賀）金崎宮

Kanasaki Shintō-Temple; Tsuruga, Echizen.

（越前）氣比神宮

Shintō-Temple of Kehi-jingū; Echizen.



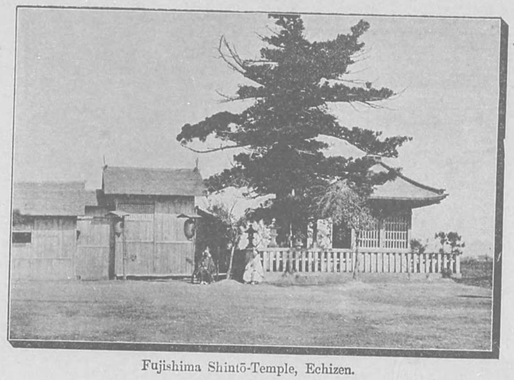
（越前武生）米庄旅店

Komeshō Inn at Takefu; Echizen.

（越前）三國港

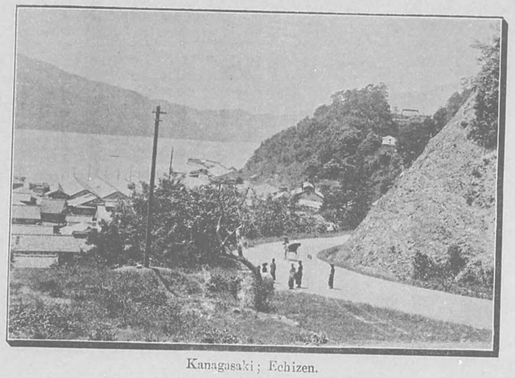
Mikuni Harbor, Echizen.

（越前）藤島神社



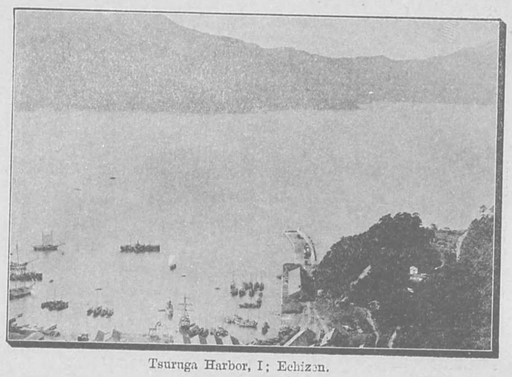
Fujishima Shintō-Temple, Echizen.

（越前）金ケ崎



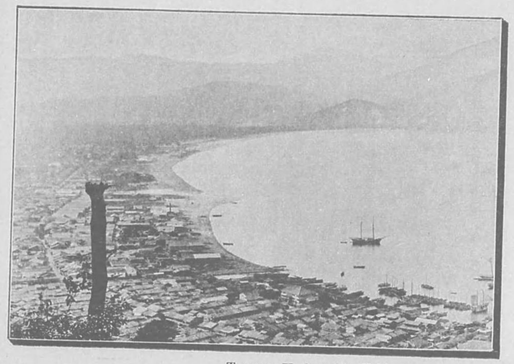
Kanagasaki; Echizen.

（越前）敦賀港の一



Tsuruga Harbor, I; Echizen.

（越前）敦賀港の二



Tsuruga Harbor, II; Echizen.

藤嶋神社（越前）

建武の功臣新田義貞を祭りし別格官幣社にして明治九年の造營なり。境内濶くして地平垣に本社、拜殿、中門、神饌所など偉麗目を驚かすなしと雖も清肅壯嚴自ら襟を正さしむるものあり、中門に掲げたる藤嶋神社の額字は故有栖川大將宮の御親筆なりといふ。祠の傍には樹木生ひ茂りて老松の亭々として聳へたるさま自ら公の忠誠を表するゝ者の如し。この祠に詣するものは建武の昔を追懷して公の忠魂を吊ひ尊王の精神を煥發すべきなり、社地の北方十五町程に公戰沒の舊趾あり正平四年七月藤嶋城を攻めて利あらず一條の流矢この忠義なる左中將を倒せしとは歴史と一基の石碑に刻まれて殘れるのみ。

金ケ崎（越前）

敦賀灣の北方に當り、遠く海中に斗出せる岬角あり、これを金ケ崎といふ、この地は、建武年間、南朝の忠士が、城を構へし故趾にして、現に、金ケ崎神社の建立ありて、恒良、尊良の二親王を奉祀す、山脚の曳いて海中に出でしものなれば、岬上の眺望頗る絶佳にして遙に日本海の杳渺たるを望み、飛帆の影ことゞく指點すべし、遠くよりこの岬角を望めば糢糊として一髪を海中に曳くが如く、水と境するところを辨ぜざる概あり、されど、人のこの岬角を望むものは、風景の如何を問ふよりも、先づ賊臣跳梁の古を追懷し、皇子、忠臣の事蹟に、感慨の涙を揮ふもの多しといへり。

敦賀港（越前）

日本本島の東海岸は、海岸線犬牙錯綜して、良港佳灣其數甚だ多しと雖も、日本海岸にいたりては、むしろ一直線をなすにちかく、一帶の海岸に出入甚だすくなくして、日本海の怒濤狂瀾は、航行の船舶を脅さしむるにもかゝはらず、これを避けて安全なる碇泊をなす港は僅に指を屈するにすぎず、就中、敦賀港は良港として其最たるものなり、港は、越前敦賀の海岸にあり、其世に知られたるは、上古の時よりにて、氣比神宮の緣起は「敦賀は海外より渡航の要衝にあたり、時に妖邪の進入するとあらんとて、氣比大神この處に鎮座まし〳〵て之を攘ひ玉ふ云々」とあり、以て已に其早く開けたるを知るに足らん、現今に至りては、市坊の數二十九に達し、人口一萬五千を以て數ふるにいたれり、越前福井市を距ること十五里餘、近江の大津をさること二十四里弱なり。

敦賀港の一（越前）

敦賀港は、東西一里二十町、南北一里餘の灣にして、水の深さ四十五仞に達し、大船巨船といへども、安らかに碇泊するを得べし、灣内波穏かにして潮碧く、日本海の風波を凌ぎて錨をこの港に投じたる船客は、旅心安らかに四隣の眺望に飽くを得べし。この港は、海陸の交通に便ある爲め、商業自ら繁榮を來たし、海上より陸地より、貨物の出入尤も頻繁にして、鐵道列車の煙は、直ちに林立せる帆檣にたなびく、金ケ崎停車場の前には、百餘間の棧橋ありて、貨物の上下旅人の昇降に便にし、來往常に絶ゑず。これらの貨物旅人は北海の各港より渡嶋の函館に向ひ、又た、露の西比利亞に向ふても通航の便これより盛んならんといふ、思ふに、他日北海唯一の良港として、船舶の出入今日に數倍し、さしもに廣き港内も、帆檣と煙筒にて掩はるゝこと遠きにあらざるべし。

須磨の浦（攝津）

攝州莵原郡須磨村の海濱にして古へより世に聞へたる名所なり、戸數四百餘、名物には松風村雨・磯馴味噌などあり、海濱は青松白砂に交はり前には紀泉兩國の諸山を瞰み又遠く南海四州の翠黛を認むるを得べし、西南には淡路島近く一眸の下に在り、白帆點々平波の間に見へつ隠れつ、夜に入れば月光斜めに水をうねりて渦巻き流るゝ潮の上に金龍の影を躍らす、其風色眞に一幅の好畫圖なり、殊に此地は水清く氣爽かにして風土頗る脚氣患者に適せりとて夏季に至れば近縣より轉地療養を爲すもの極めて多し、又其沿岸には關屋の跡、鹽屋の跡、行平詫住ひの跡などあれど今は只だ地名にのみ名殘を留めて其舊趾さだかならざるぞ惜し。

Suma-no-ura.

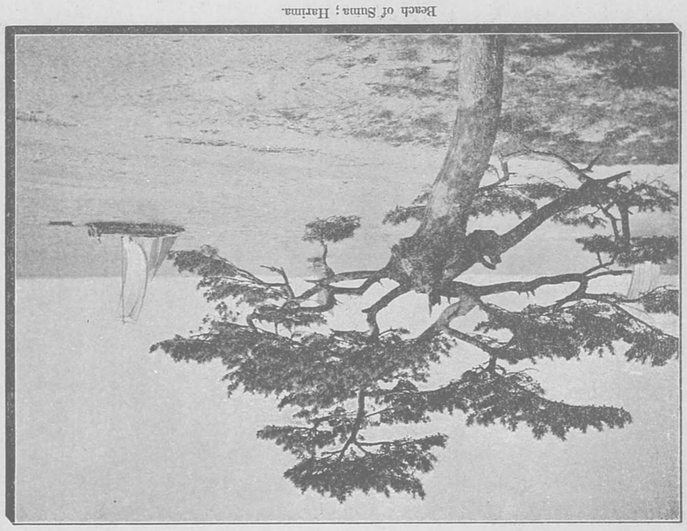
Suma no Ura is a well-known watering place about four miles west of Kōbe. It is mentioned in the old literature, and has some historical interest, but there are no visible remains of the life of its early days.

舞子の濱（攝津）

播州明石郡垂水村より同村大字山田に至る海濱七八町の間、古松翛然として林をなし、南は明石海峽を隔てゝ近く淡路島と相對し、山明水媚、風色絶佳の地を名けて舞子の濱と曰ふ老松い何れも高さ二三丈に過ぎずして、枝幹屈曲、舞ふが如きもの、躍るが如きもの、臥するもの、蟠るもの、倨するもの坐するもの、海を臨んで走らんとするもの、臂を伸ばして巖を攫むもの、一樹は一樹毎に其態を異にし、一株は一株毎に其致を具ふ、妙趣言ふべからざるものあり、殊に海砂は白玉を散ずるが如く、松間時に松露を拾ふべく、夏の夕は、そよ吹く八重の潮風に五塵六欲の迷ひを拂ひ、秋の夜は、澄み亘る空の月に眞如實相の誠を照す、凡そ播州海濱、瞰望の風致に富みたるもの此地を以て第一となすと云ふ、街道の一端小丘の上には有栖川家の別邸あり、割烹店には龜屋左海屋等最も名高し、近年此地に舞子燒と稱する陶器を製す雅致愛すべし。

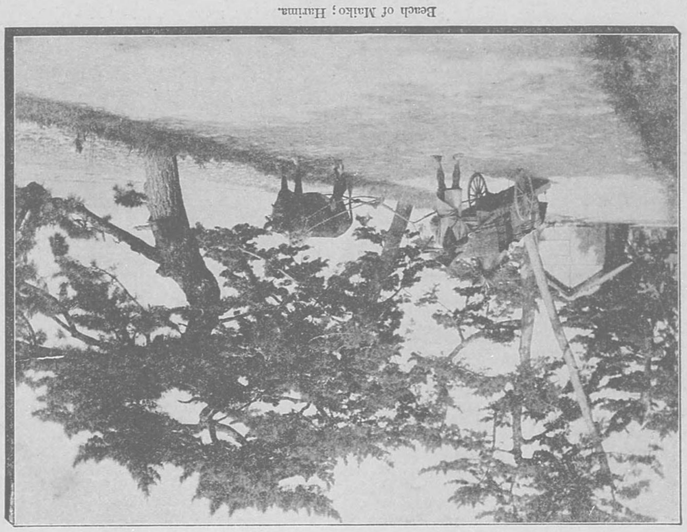
Maiko no Hama.

Maiko no Hama, or Maiko Beach, is a noted resort at the entrance to the Inland Sea opposite the island of Awaji, about ten miles west of Kōbe. A grove of old pines, which have assumed a great variety of fantastic forms, extends nearly to the water's edge, and constitutes one of the chief features of interest. On the hill behind the beach is a summer palace of Prince Arisugawa.



（寫眞）須磨の濱

Beach of Suma; Harima.

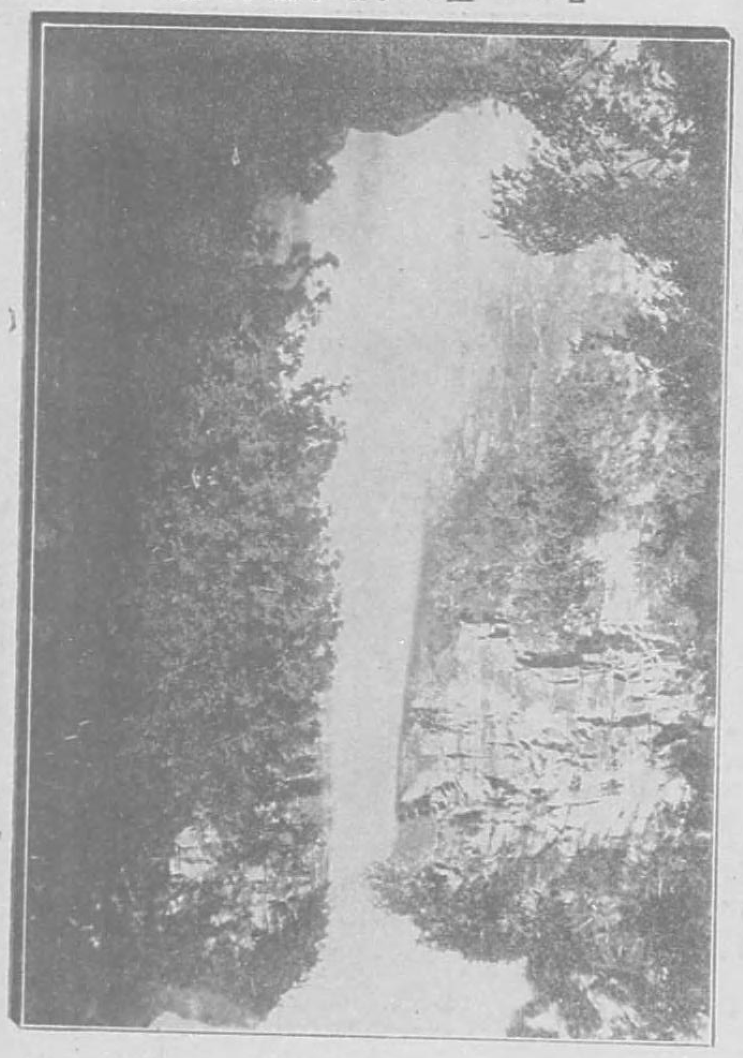


（寫眞）舞子の濱

Beach of Maiko; Harima.

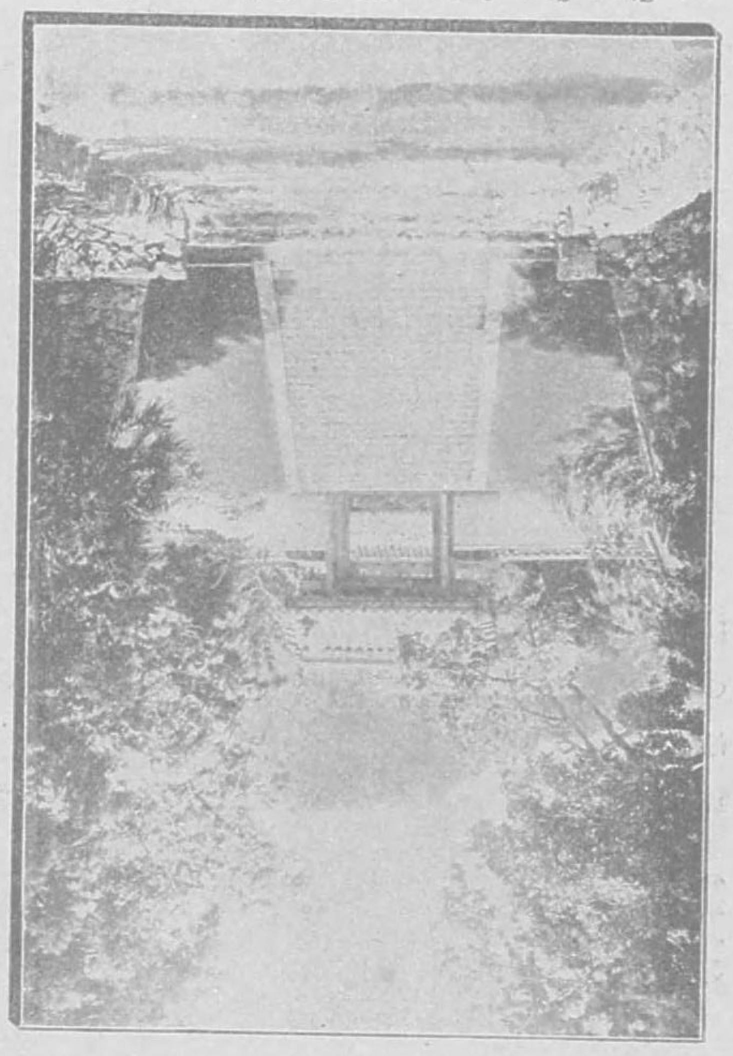
（紀伊）牟婁郡大泊村觀音の瀧

Kwannon Water-fall at Ōomari Village, Muro-gōri, Kii.



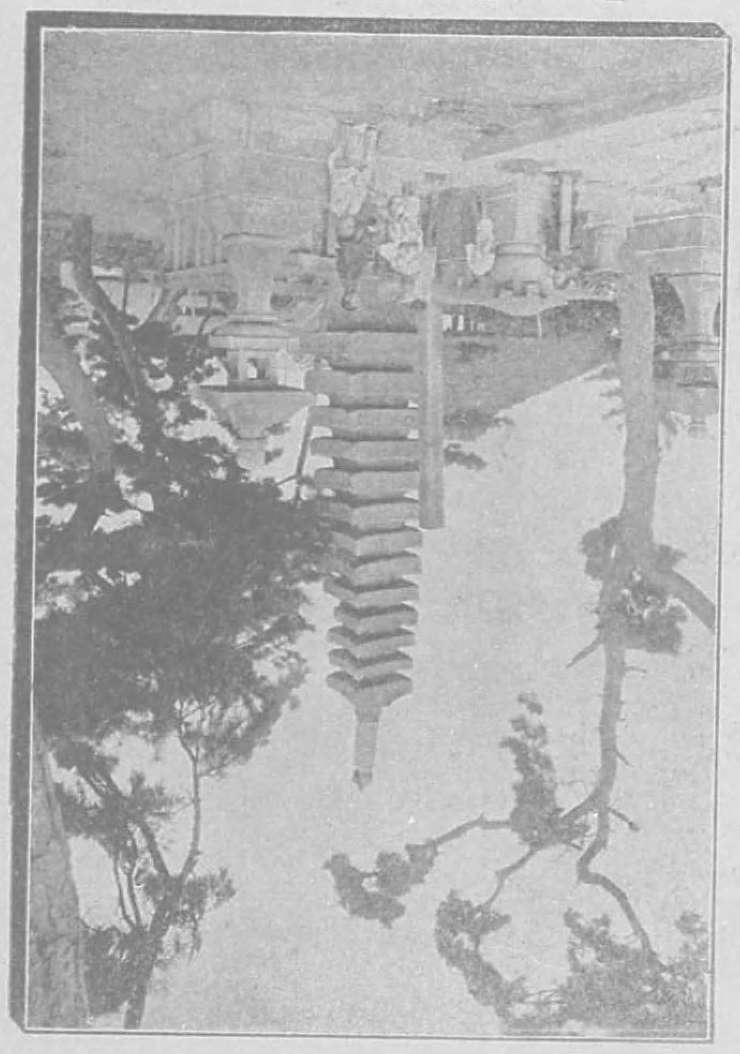
（紀伊）那智の大瀧

Famous Water-fall of Nachi, Kii.



（紀伊）興國寺門前の石階

Stone Steps before Kōkoku-ji Temple, Kii.



（攝津兵庫）平清盛の墓

Tomb of Kiyomori at Hyōgo, Settsu.

平清盛の墓 （攝津兵庫）

攝州兵庫眞光寺の南に在り、十三層の石塔婆にして、高さ二十六尺　臺石方五尺、弘安九年二月云々の數字を勒す、清盛は養和元年閏二月、京都西八條に薨せしを　僧圓實、其遺骨を携へ來りて玆に埋め、其後百餘年を經て、弘安九年、北條貞時諸國巡按の際、此の石塔を建てゝ、後世を吊ひしものなりと言傳ふ、其前の街衢を隔てゝ、經政の琵琶塚あり、經政は一ノ谷の役に戰没せしを、由縁の者、こゝに塚を築きて、其靈を吊せしものにて、經政は琵琶の妙手なりしを以て、琵琶塚の名を負はせしものなるべしと言へり、此塚別に清盛の墓に所縁なけれど、其所在相近接せるを以て、筆の序に記し置くのみ。

興國寺 （紀伊）

日高郡由良港の東北にあり、堀川天皇の御宇安貞元年、法燈國師の開基せる巨刹なり、法燈國師は、法名を覺心といひ、宋に入りて佛敎を研究し、歸朝の後にこの寺を開き、沒後に、法燈國師の號を追諡せらる。始め宋に在學せしとき、普化禪師十六世の法孫張參といへに就いて、虛鐸の一曲を授かり、歸朝の後に、これを徒弟寄竹に傳へたるに、寄竹が諸國を行脚するに臨み、家々の戶前に立ちて、この曲を吹奏せしかば、傳へ〳〵て遂に普化宗の吹奏となれりといふ。寺の境内は、一万五千餘坪ありて、堂塔いづれも壯大なるもの多し、天正年中に、火災に罹りて亡失せしを、淺野氏國守たりしときに、重ねて造營せしめたるもの、即ち今日の建物なりといふ

那智第一の瀧 （紀伊）

那智山には瀑布の數多くして『那智の四十八瀧』として世に傳へらる。就中く第一の瀧は其尤も偉觀なるものにして高さ四十八丈、幅十八間なり。斷崖神斧を以て削りたらん如く綠翁欝たる雜樹の茂生せる間に澎湃たる銀河直に天際を衝いて下り來る、飛沫散亂して六月尙雪を飜へし水氣風に漂ひて浮雲常に動搖す、岩に激し崖に碎くる音は百雷一時に轟き萬雷同時に發する如く山うごき谷鳴りて雄大偉絕名狀すべからず。瀧の落つるところは巉嵓亂立して激流をなし白龍の飛躍する如く奔駛して下方に向ふ。まことに日本第一の名瀑たるに背かざる勝景と謂ふべきなり、瀑布の下方に飛瀧神社あり、遊覽の客まづ杖をこゝにとゞむべし。

觀音ヶ瀧 （紀伊大泊）

紀伊國は、瀑布を以て名あり、牟婁四郡の如きは、到るところに瀑布あらざるなく、其名の四近に聞こえたるもの頗る多し。觀音ヶ瀧は、一に、清の瀧と稱し、南牟婁郡大泊村の觀音山にあり、翠巒重疊して雲霧四方を鎖ざすところ、懸崖より直下すると二十丈、幅六七間に達す。これを望むには、二町餘を離れて尤も佳にして、瀑下に近づけば、時として、巨岩大石を墜落して、危險なることありといふ、其危險なるは、この瀑布の偉觀なる所以にして、山鳴り谷ひゞき凄絕壯絕名狀すべからず。この瀑を去る三町餘に、清水寺あり、田村將軍の勸請せしものにて、其構造頗る奇古にして、岩石重疊せる間にあり、毎月陰曆十八日には、參詣するもの頗る多く、瀑布を觀るものも亦た多し。

天照神社（播磨）

龍野町の字日山にある神社にして、天照彦火明命を奉祀す。堂宇の數は十四棟に及び、古昔より神威靈灼なる神祠なり。境内には、老松古杉立ち並びて、其間に、櫻樹楓樹多し、春は彩雲深く殿宇を籠め、秋は錦帳輕く社頭にかゝり、其眺望極めてよろし、特に、境内は白鷺山の中腹にあるを以て、眸を放ては、遠近の山光水色指顧の中に入り來る、山麓には揖保川の清流洋々として、銀蛇の走るが如く白波浩瀁たる播洲洋は、目睫の間に畫圖を披きて、淡路、屋島の影鮮やかに、點々たる白帆は波を破る蒸氣船と共に、常に東西に往來す、登臨の客はそゞろに仙骨の生ずるを覺ふるなるべし。春は四月十五日、秋は十月十二日に、盛なる祭典ありて詣者群をなすといふ。

龍神の溫泉（紀伊）

日高川の上流、岩に碎けて珠を散らし、崖に懸りて、素練を曳き、山紫に水明なるところに、三層二層の樓館軒を連ねて、浴客常に群集するものは、紀伊に名高き龍神の溫泉なり泉質は、炭酸泉にして、無色透明、臭氣なく、溫度は、百〇二度に及び、斷崖の下より湧出せり。抑もこの溫泉は、役の小角はじめて泉池を開き、其弘法大師、難陀龍王の夢告によりて、衆民に入浴するを勸め、因て龍神の溫泉と稱したり。地元を僻遠にして、人の訪ふもの稀なりしも、南龍公の治世に當りて、これが奬勵の法を盡せしより、浴戸の數を增し、其名次第に遠近に傳播して、今や旅舍の數多く、浴客四時來りて浴をとるに至れり。

姫路城（播磨）

貞和年中、赤松其範の築きしを始とし、天正年間、羽柴秀吉この城に移り、規模を廣大にして、毛利氏に對する要衝とし、三層の天主閣を築けり。慶長五年、池田輝政この城主たりしとき、大に土工を起して五層の天主閣を建築す、現今殘れるものこれなり。城外よりこれを望めば、舊時の櫓、樓などの白堊粉壁の間に、老松亭〻として繁茂し、其上に、巍然たる高閣天を摩して立ち、飛鳥影をおさむるの觀あり、この閣は塗るに白堊を以てしたるより、岡山城を烏城といふに對して、鷺城と呼びなせり、現今は、師團の所在地として其營所に充てられ、特別の許可あるに非れば、登臨するとを許されず。

高砂神社（播磨）

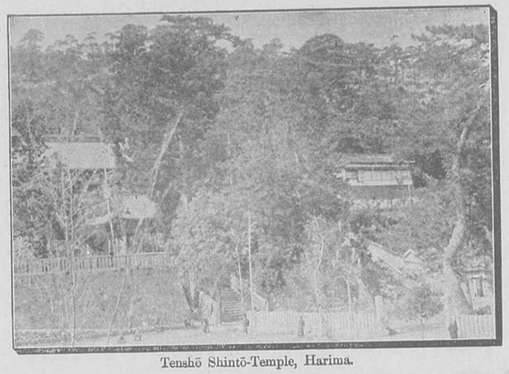
播磨高砂町にあり、昔神功皇后三韓を征伐ありての歸途に、船を高砂の浦によせ玉ひて、磯邊の景色を愛で、晴間瀉の名を勅らせ玉ひて、大已貴命をこゝに勸請在らせられしに、一夜の中に、一根にして雌雄右左に分れたる松樹を生し、翁媼共に現れて、我は諸冊の二尊なり、今より永く夫婦妹脊の守神たらん。と告げ玉ひき、これ即ち世に傳ふる高砂相生の松と尉姥二神の緣起にして、後世婚儀の島臺の基あり。天正九年に、毛利の臣某この樹を伐りて薪火に用ゐしが、其後又新たに相生の松を生じ、今日に至るまで繁茂せり。同じ頃に、尉姥の神像も失はれしが、後に京都にて發見し遷御し奉りしといふ。

誰をかも知る人にせん高砂の松も昔の友ならなくに

（百人一首）

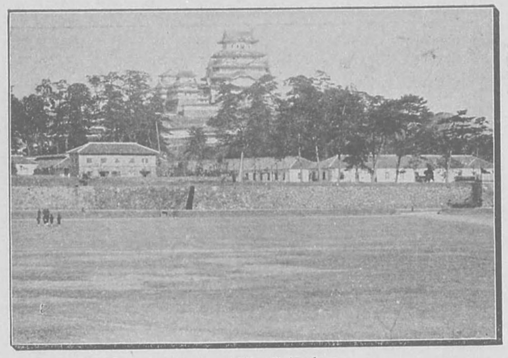
幾世々も同じ綠の色添へて榮ふるかけと高さこの松

（一條内大臣）



（播磨）天照神社

Tenshō Shintō-Temple, Harima.

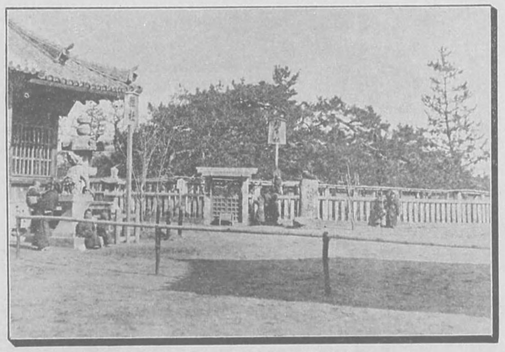


（播磨）姫路城

Castle of Himeji, Harima.

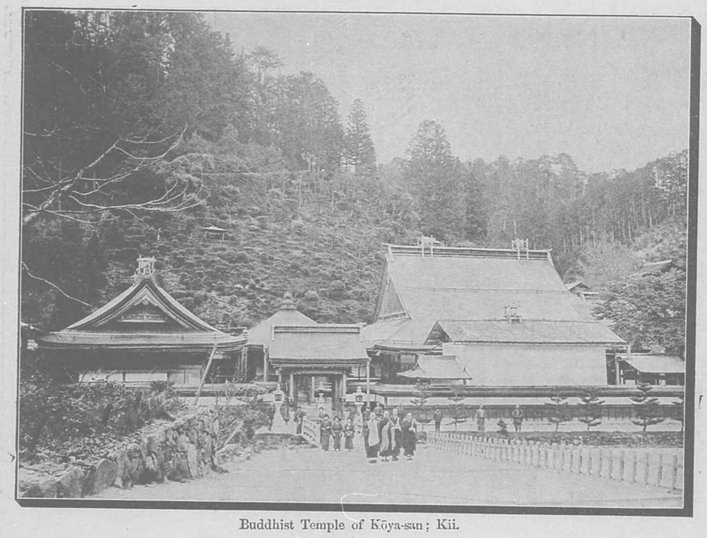
（紀伊）龍神溫泉

Ryūjin Hot-Springs, Kii.



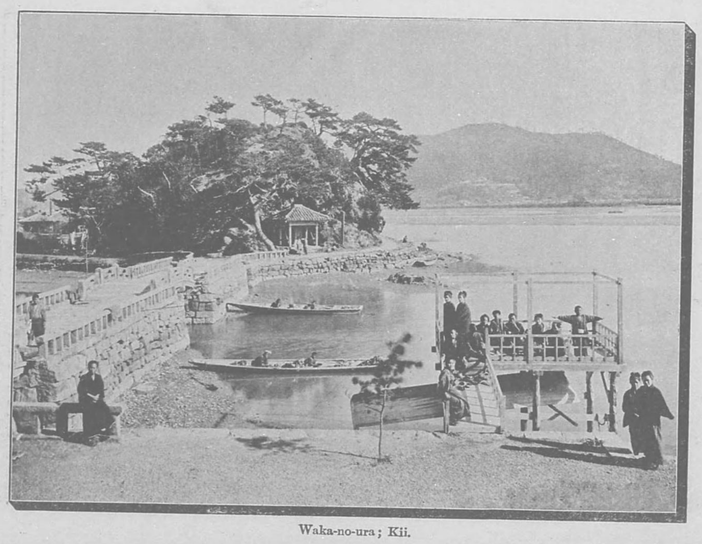
（播磨）高砂相生の松

Aioi Pine-trees at Takasago, Harima.



（紀伊）　高野山

Buddhist Temple of Kōya-san; Kii.



（紀伊）　和歌の浦

Waka-no-ura; Kii.

高野山　（紀伊）

紀伊國伊都郡にあり、嵯峨天皇の弘仁七年に、沙門空海上表して勅允を蒙り、國司の力をかりて、山中の荆棘榛莽を披らき、七堂伽藍を建立して、眞言の宗旨の本山となせり、堂塔谷に聳ゑ、僧房峯に峙ち、梵唄の聲は鐘磬の音と和して、實に日本國無双の靈場たり、寺域は、二里半四方に亘り、僧坊の數一百三十餘往時は七里四方に跨り一千餘の僧房ありしといへり。かゝる靈地なれば、信者の參詣するもの引きもきらず、加ふるに開基の古くして歴代の尊奉、道俗の歸依篤かりしを以て名蹟舊墟甚だ多く、觀風の庶民四時絶ゆるとなし、境内は、ひとり堂塔僧舍の美麗壯觀なるのみならず、風景に富み奇勝に饒なること亦た世に比なく、一度び、この地に遊ばゝ六根自ら清淨なるを覺えて、身の人寰にあるを知らざるに至らん。

Kōya-san.

Kōya-san, a celebrated temple in the province of Kii, was founded by Kōbō Daishi in A. D. 816, shortly after his return from China. It is the chief temple of Shingon Sect. Once, it is said, Kōya-san comprised a group of not less than a thousand affiliated temples; but the number now can hardly exceed one hundred and fifty.

和歌之浦　（紀伊）

古昔は明光之浦と書きたり、風光の絶佳なる三景と肩を比べ古より歌人詩客ひづれも吟情を起さゝるはなし。地は南に開きたる入海にして凡そ二十町に連なり一帶の砂汀逶迤として出入し千歳の老松其上に樹つ。天晴れ氣朗なる日には白鶴來りて砂洲に啄み松枝に憩ふともあり。海上にには地の島、雙兒島、雜賀岬等糢糊の間に連ゐり滿眸の風色雖紙の盡すべきにあらず。

和歌の浦やながく久しき跡しあれば
猶千代添へて田鶴も鳴くなり　（古歌）

聖武天皇この地の風景を愛でさせ玉ひて登山望海、此間最好、不勞遠行足以遊覽、宜置守戶勿令荒穢、云々　と勅し玉へり。

Waka-no-ura.

This picture represents a bay which extends far into the land, near Wakayama, the capital of the province of Kii, and formerly the residence of one of the three great Tokugawa families from which the Shōguns were appointed wheh there were no their successors. This bay is famed for its beauty and forms the theme of many poems.

金刀比羅神社の一　（讃岐）

讃岐の金昆羅大權現。といへるとは三尺の兒童も口にするところなり以て如何に本社が全國に名高きかを知るに足らん、古昔は眞言宗の宗派に属して象頭山の號を冠し金昆羅大權現を主神となせり、維新の時に神佛混淆を禁せらるゝと共に國幣小社に列せられ「琴平神社」と稱せり其祭神は大巳貴命なるも參詣者はなほ依然として「金昆羅大權現」の尊號を唱へて禮拜し居れり、抑も當社は日本國中に其名の轟さし古祠にて參詣者の來り賽する數は年々數十萬人に及び其繁盛は伊勢の大廟に亞ぐといふ、特に、航海者はこの神祠を信仰すること厚く難風に遭遇し危難に隔む毎にかならず「南無象頭山金昆羅大權現」の御名を唱へて祈念をこむるなり、故に、この神祠に詣するものは航海者が神前に供せし錨其他の船具が數へ難きほど捧げられあるを見るべきなり。

金刀比羅神社の二　（讃岐）

流船多度津港に着すれば鐵路直ちに琴平町に通ず、船より上陸する群集の多くは他より來れる旅客と共に、皆なこの鐵車に駕して內地に向ふべく、其大部分はことゞゝく金比羅大權現に參詣する信者なるを見ん、實際この鐵道は全くこれ等行旅人の爲にすべての利益を得つゝあるものといふも不可なかるべし、已に琴平町に達せば一千五百の商家は軒を連ねて商業の繁榮せるを認むべく而もこれ皆な參詣者の運び來る金錢によりて然るものなり。この町に奇異なる兩替店ありきそは正貨をビタ錢に兩替するものにて參詣人は預めこれを替へ以て路傍に群集せる乞丐兒に投與する準備をなし置くなり然せざれば到底惠與に堪へざればなり、ビタ錢を得たる乞丐兒は更にこれを兩替商によりて正貨に換ふ、この間に立ちて一家の富をなすものもありきと以上を以ても其繁昌を知るに足らん。

金刀比羅神社の三　（讃岐）

琴平町の西に山あり、現今は琴平山といふもむしろ舊名の象頭山を以て知らる、琴平神社は實に其半腹にあり、山麓より神社に達する距離九町五間にして登り口に鞘橋あり西側には數多の旅店あり、一の坂を經て鼓樓在り更に登れば櫻の馬場あり玉垣石燈籠相連ありて櫻樹多し。これより三町餘を登れば本社に達すべし。本社、拜殿の外に繪馬殿參籠所等あり、近年修築されし社殿は、壯嚴偉麗人目を驚かすに足る、當祠に一大石燈ありて日本三大石燈籠の一として傳稱せらる。

Kotohira Jinsha.

This is a Shintō temple popularly known as Kompira. Ōnamuchi-no-mikoto is the Shintō deity worshipped here, but under the influence of the Buddhists, attention seems largely diverted from him to an Indian divinity colled Kompira, the Buddhist theory being that the Shintō deity Ōnamuchi was really an incarnation of Kompira. The temple is in the province of Sanuki, on the north shore of the island of Shikoku. Kompira is much visited by pilgrims from all parts of Japan. His protection is especially sought by sailors and others who have to do with the sea.

（讃岐）金刀比羅宮本社

Chief Temple of Kotohira; Sanuki.

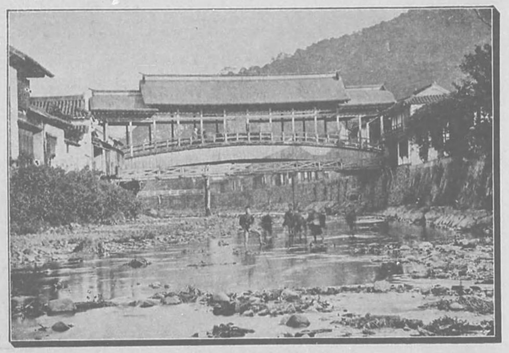
（讃岐琴平町）高燈籠

Hachiman Temple at Kamakura; Sagami.

（讃岐）金刀比羅社內櫻陣

Cherry-tree Avenue of Kotohira Temple; Sanuki.

（讃岐琴平町）鞘橋

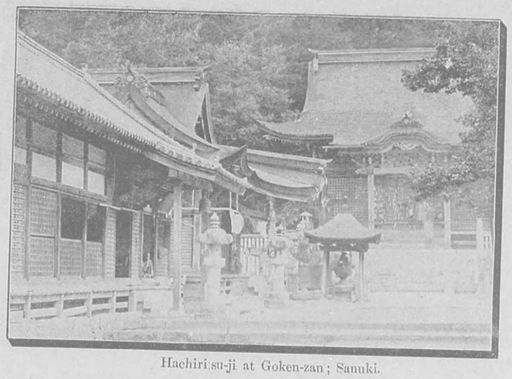


Sayabashi at Kotohira; Sanuki.

（讃岐）善通寺

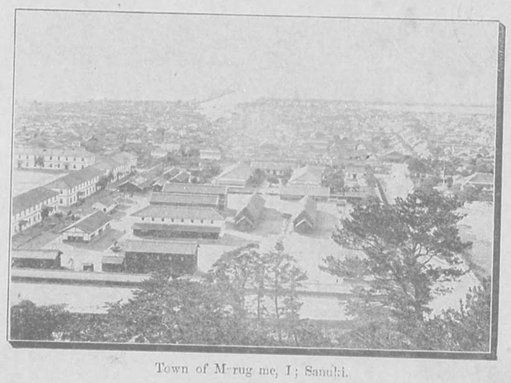
Zentsū-ji Buddhist-Temple, Sanuki.

（讃岐）五剣山八栗寺



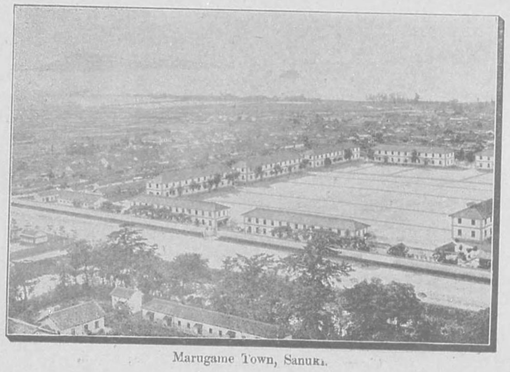
Hachiri-su-ji at Goken-zan; Sanuki.

（讃岐）丸亀全景の一



Town of Marugame, I; Sanuki.

（讃岐）丸亀全景の二



Marugame Town, Sanuki.

善通寺（讃岐）

弘法大師誕生の靈地にして、四國七十五番の禮拜場に當れり、善通寺の名は、大師生父の名をとりて冠せしものなりといふ。建立の頃は、寺地の近傍まで海水連なり、香色山、筆山等の小峯相列りて、恰も屏風を建て連ねし如かりしより、地を屏風ヶ浦と呼びたる由にて、四近の風景は、今も尙其面影を存せり、數十級の石階をのぼりて寺門を入れば、境内廣くして清淨、幾棟の堂塔家屋相並びて、二王門を入れば、正面に、巍々として聳ゆる本堂あり、左右に、多くの堂宇連りて、孰れも莊嚴の趣あり、この寺に參詣するには、讃岐鐵道の便をかりて、善通寺停車場に下車し東南に行くと十町許にして、直に其堂宇の高く峙てるを見るべし。

丸亀市街（讃岐）

丸亀町は、讃州那珂郡にありて、高松市に亞く大邑なり、東西十一町餘、南北十二町に連なり、戸口殆んど三千に垂んとす。町には、諸官衙ありて、其繁華をたすけ、又た、師團の分營ありて、劍佩の音街衢にさゝゆ、中央に古城趾あり、形勢の雄偉にして、要害の利を占めたるは、人をして往年の事を追想せしむるに足れり。海濱は、灣澳をあさずといへども、人工の渠を穿ちて船舶の出入に便にし、帆檣常に林立せり。この地は、高松と多度津を東西に控えて、運輸交通の利便を占め、近年鐵道の開通と共に、更に其利を得て、交通頗る頻繁、商業の隆盛近郷に冠たりといふ。海上よりこの市街を望む風光は、極めて明媚にして、心神をして恍然たらしむるものあり。

五剣山八栗寺（讃岐）

五剣山は、四國の名山にして、三木郡にありて、八栗寺は其麓にあり、堂塔の屋瓦參差として相連なり、幽禽境に遊び、松風梵磬に和し風景の幽雅なること、近傍に稀なる靈境たり上に峙つ五剣山は、一に八栗山と呼ぶ、半腹にいたるまでは、樹木蓊鬱として、松柏楓杉の類多く、それより上は、山骨やうやく露れて、頂上には、五の危峰天を劈いて峭立し、其狀恰も、五個の劍を植えたるが如きより、五劍山の稱を得たり、遠くこれを望めば、壯觀比なく、唐の柳宗元が、「海上尖峰若劍鋒、秋來處々割人腸。若爲化作身十億。逼上峰頭望故鄕。」と歌ひしものは、或はこの景をいふに適せるものならんか、半腹に古城趾あり、天正年間中村某の據りしものありといふ。

丸亀市街の二（讃岐）

瀨戸の海は、風景の絕佳なる球上に無比と稱せらる、海上の島嶼星散碁布して、其容千態萬狀なるに加へて、海岸にある町市埠頭、いづれも其風色を潤飾せざるはなし。滊船大阪港を發して、播州淡路を左右に眺め、播磨洋十八里の波をわけ行けば、四國の峰巒黛をこらして眼前に迎へ、漸く近づくに隨ひて、陸地の村市畫圖の如く、人をして波路の欝を覺ゑざらしむ。船いよ〳〵進んで海岸に近づけば高松の萬家、白堊粉壁依稀として送迎し、五劍山の温容掬すべきところ、遙かに、一小丘の上に、巍峩たる樓臺現はれ、丘脚の臭いて海濱にいたる邊、人家魚鱗の如く連なり、其間には、綠樹の高く屋を拔いて秀で、炊煙の蒼然として萬瓦にたなびくを認むべし、船はいよ〳〵近づいて、船夫の勇む聲たかく、身は正に丸亀の海上に在るべし。

屋嶋神社（讃岐屋嶋）

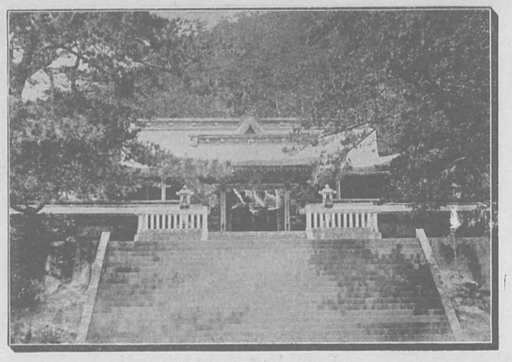
屋嶋神社は、山田郡溝元村にあり、山田郡は源平二氏の古戰場なるが故に行客の杖を停むるもの多し、其神社は、德川家康の靈を奉祀せるものにして舊封建時代の國守が以て忠誠を表せしものあり　今は元の國守たりし松平頼重をも合祀せり、境内の廣さ一町二畝許にして神社及び之に附屬せる殿舍多し境内は閑靜にして諸人の遊覽に適し參詣のもの常にたへず本社の前に屋島神社の碑あり神社の由來を知るに足るべし。

高松城（讃岐）

高松市の北端海岸に在り、此地昔しは總稱して八輪島と云ひ、城地は篦原の庄と唱へ、海を玉藻の浦と呼びしが、天正十六年國守生駒親正、此地を卜して城を築き、新たに高松城と稱せしより、終に今の地名を用ふるに至りしと云ふ、生駒家は四世高俊罪ありて、羽州由利郡に移され、寛永十一年、松平頼重代りて此地に封せられ、世々十二萬石を領せしと言へり、此城、今尚櫓樓閣外壁等を存し内海を航するものは船中より之を遠望することを得べく、崇牆老樹の間に隱見し、白浪壘を嚙んで叱咤の聲をなす、人をして坐ろに古へを懷はしむるものあり、殊に西には白峰の翠巒高く峙ち、東には屋島の奇山遠く亘る亦瀨戸内海の一觀たり。

高松港（讃岐）

高松市は四國の名邑にして交通の便頗る多し市の海に接するところに川口の港ありて大阪より播磨洋をすぎて四國の沿海を航する船舶は先づ錨をこの港に投ず、以前は海岸淺くして近く巨船を容る能はず上下のと一に端舟に依頼せしを以て風波の日は大に困難を感せしも先年築港なりて埠頭長く海中に出で大船巨舶も直ちに岸に接近するを得其利便往日の比にあらず。船穩かに錨を投じて停止するとき甲板に出で、近く樓屋鱗比の高松市街を望み舊城閣の巍然たるに對し、遠く一葉の山瓜に眸を放てば自ら身の畫中に在るを想はしむ。船邊に集まり來る商沽に附さて潑剌たる鮮魚を求め芳醇を酌んでこれを劈くも亦た無上の快樂たらん。



（讃岐）屋島神社

Shintō-Temple Yashima; Sanuki.

（讃岐）高松城

Castle of Takamatsu, Sanuki.

（讃岐）高松港

Takamastu Harbor, Sanuki.

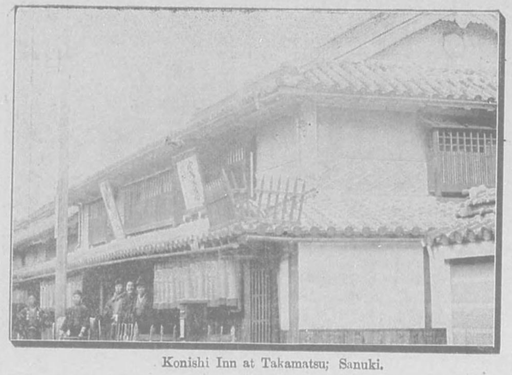
（讃岐）高松市街

Streets in Takamatsu, Sanuki.

（讃岐高松）　栗林公園

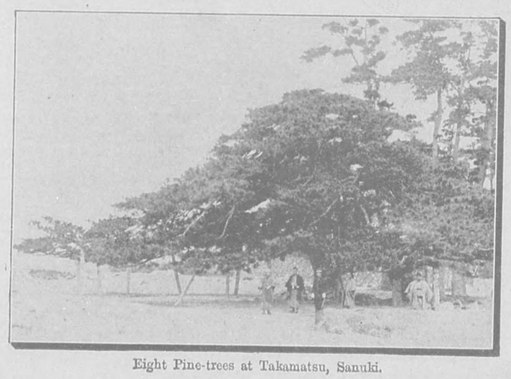
Kuribayashi Park, at Takamatsu; Sanuki.

（讃岐高松）　小西旅店



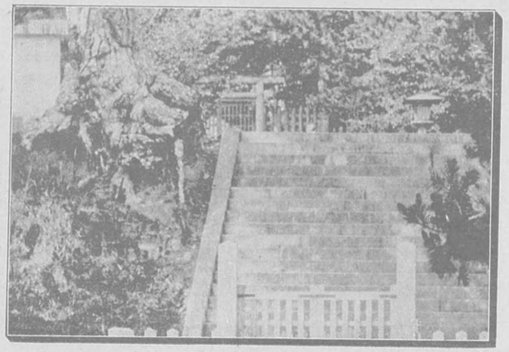
Konishi Inn at Takamatsu; Sanuki.

（讃岐高松）　八本松



Eight Pine-trees at Takamatsu, Sanuki.

（讃岐）　大墓



Ohaka; Sanuki.

栗林公園　（讃岐高松）

高松市にある大遊園地にして、紫雲山の東麓を占め、面積十四万八千九百餘坪に及ぶ、この園は舊藩主の別墅にして、代々の修築を經て其の規模ますゝ廣大となり、五世頼桓の時には、儒臣に命じて、六十餘の景勝を作らしめこれを園内に築造して、吟詠等のとありしといへり。幾年の歳月の中に、古色は自ら園内の樹石に現はれ、新なるものは、ますます奇搆を呈して、園内の面目今日に至りて、其巧を極め、泉石の配布樹木の並列など、天然の工と人爲の巧と相待ち、實に遊覽の勝景地たり、特に、この公園は、奇石怪品に富みたること世に其比あしと稱され、虎踞龍蟠の形態名狀すべからざるものありといふ。

八本松　（讃岐高松）

高松城は、南海の名城にして、寛永十一年の頃、松平頼重封をこの國に移され、夫より代々の居城たり、勵精治を謀りて、世々令名あり、八本松は、舊藩主が愛玩されしものにして、老幹枝を交へて樹立し、枝葉繁茂して亭々として並立せるさま、まことに秀絶なる眺めなり、今日に至るも、いよ〳〵生長して、千歳の翠を滴すを見ては、舊藩臣等、そゞろに藩主が愛賞されし當時を想ひ、感慨の念を禁ずる能はずといふ、この地に遊ぶものは、必ずこれを訪ふて、其蒼々として立つ秀姿に對し、以て、藩公治績の跡をしのぶべきあり。

網大亭　（讃岐高松）

四國は、由來名勝古蹟に富む、特に高松市附近は、源平の古戰場にして、懷古憑吊の場所多くあり。内地より渡船にて高松の埠頭に着し、先づ其市の繁榮を視んとならば、行季を網大亭旅館に解くを可とす、亭は、この市に於ける有名の旅館にして、家屋の建築宏壯にして客室器具等も清潔に、加ふるに、客を遇するとの厚きは、夙に、世の信用を博せしものなり、この好旅館に身を安んじて後、屋島の古戰場を吊ひ、高松古城の跡を觀、其他の名勝古蹟を訪はゞ、旅中の欝を慰むるとゝもに、詩料の套囊に滿載せらるゝものあらん。

王墓　（讃岐）

高松市より、志度街道を行くときに、南方の丘陵上に王墓あり、或は、大墓に作る、其由來を尋ぬるに、人皇十二代景行天皇の御宇に當り、第十五の皇子を、この國の國造に任じ玉ひて、國政の整理を司らせ玉ひたり、皇子は、封を山田郡に定めて、屋嶋の下に宮居し以て、國政を布き玉ひしといふ、薨去ののちに、牟禮村の小丘に葬る、この大墓は即ちその墳墓なりといふ、上古の時に當りて、皇族の親しく國司郡主となりて、政をとり玉ひしは、まことに畏きことにして、今日、この墓に詣づるものは、そゞろに、畏敬の念に堪へざるものあるべし。

石手川上流（伊豫）

四國の地たる、元より蕞爾たる嶋地なれば、河流の大なるものは、僅に吉野川あるのみなり、特に、伊豫國に於いては、數多の河川いづれも流域短かくして、大河と稱するものは絶ねてなし、大河はあしと雖も、地勢に伴ふて、風景に富みたるものは甚だ多し、石手川の如きは、即ちこれにして、其上流に於いては、光景の奇勝なる稀に見るところなり。この川は、源を溫泉湯山村の水嶺に發し、迂餘屈曲して、末遂に重信川に入る。山に沿ひ、崖に傳ふて流るゝや、水の清さと玉の如くにして、溫かれて潭となり、激して飛沫となり迫りて、奔流をなし懸りて飛瀑となる兩岸の岩狀山態亦た其趣を添へて、風景の佳なること、近傍に其比を見ざるところあり。

石清尾八幡神社（讃岐）

高松市の西方宮脇村にあり、延喜十八年の勸請にして、石清水と龜尾山との兩社名をとりて、石清尾と命けたるなりといふ。國守松平氏の治世に當り、屢〻社殿を造營して其規摸を擴め、現今の社地は、二千四百餘坪にして本社、拜殿、神庫、奏樂殿、社務所、其他の建物及び末社數宇あり。主神は、應神、仲哀の兩天皇及び神功皇后を奉祀し、縣社に列せられて、古來より高松市民の土產神たり。この地は、丘陵を背にしたる幽邃の境にして、社の庭內には、千年の老杉亭〻として雲をつき、日を遮ぎり、光景の物古りたるは、一入神威のたゞそかなるを添へたり。

岱洲館（伊豫松山）

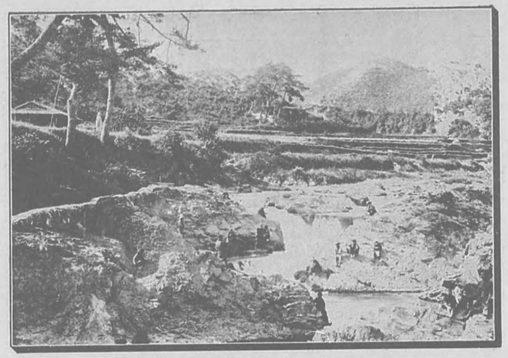
岱洲館は、或は大洲館に作る、屋號を城戸屋と稱し、松山市屈指の旅館なり、構造は日本風二層樓にして三棟あり、就中第三棟は、最後の建て增しにして、最も壯大なり、樓は凡て南方に開き、城山の形勝、軒に入り、南郊の風景眉下に眺むべし、壁間楣上にかけたる書畫の幅は、皆な名家の眞筆にして、文房茶器に至るまで、盡く逸品を集めたるは、以て館主の文雅に志あるを見るべく、又た、館が旅客に對する用意の叮嚀周到なるに足らん。嘗て有栖川、小松兩宮殿下及び伏見宮殿下の旅館を命せられしは、館主が無上の名譽と喜ぶところにして、庭上の草木奇石なども皆な其餘榮を頒ち顏なり。松山に遊ぶ旅客はこの樓によりて、心身兩ながら安んずるを得べく、まことに南海有數の好旅館といふべきなり。

道後溫泉（伊豫）

道後溫泉は、日本に開かれたる溫泉場の尤も古きもの、一にして神代の時已に其靈泉たるを知られしと言ひ傳ふ、地は東北に山嶺を控へ西南は迢〻たる平蕪に連なる、一條の河流ありて町の中央を流る。泉源は巨石を鑿り凹めたるものを三層にたゝみて湯槽の如くにし中より湧出する礦泉を石樋に受け以て各浴場に引く。二層三層の樓舍相連なり各自みな花崗石を以て浴槽を造り船の構造頗る壯麗をきはめたり、四時來り浴するもの絕ゆることなく一ヶ年八十萬人の多きに及ぶと傳へらる、泉質はアルカリ性にして溫度は百十度乃至百度なり

玉の石玉ちる影に碎かれて月も湯桁の數をうつらふ　（古歌）

右は、一ノ湯の側に石垣を以てかこまれたる圍きと平たき二個の石を詠みたるものにて玉の石とて古昔より敬はれたるものなり。



《伊豫松山》　石手川上流

Upper-Course of Ishite River at Matsuyama; Iyo.

（伊豫）　石清尾八幡社

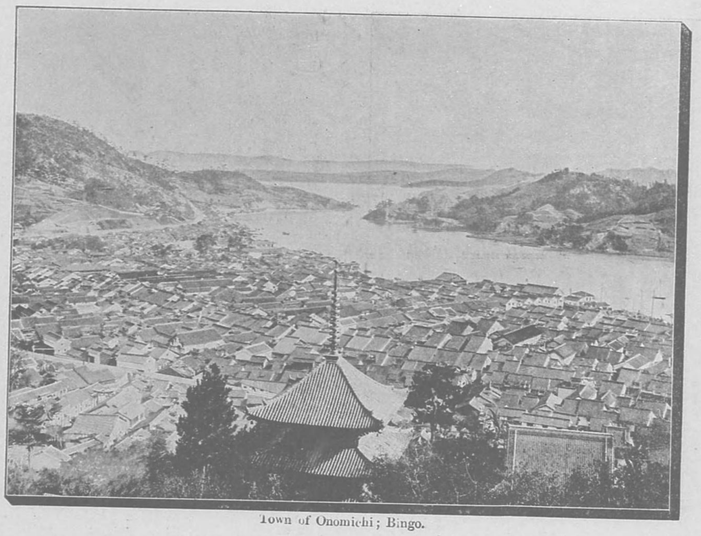
Hachiman Temple of Ishishiwo; Iyo.

（伊豫松山）　岱洲館

Taishū-kwan Inn, Matsuyama; Iyo.

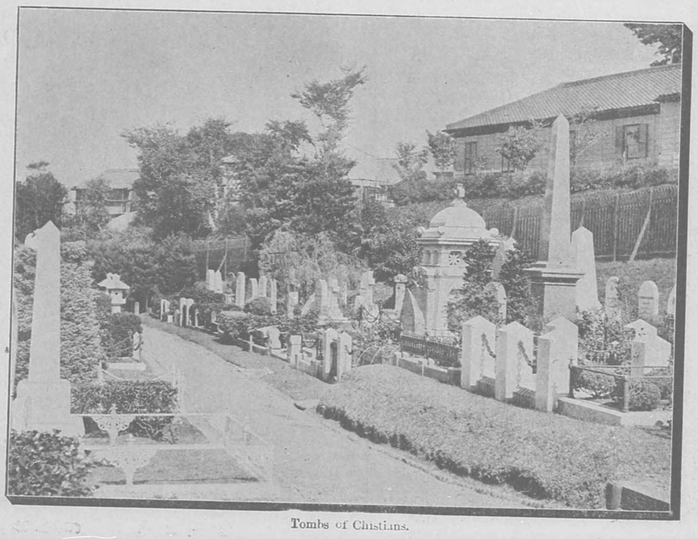
（伊豫）　道後溫泉

Hot-springs of Dōgo, Iyo.



（備後）尾の道市街

Town of Onomichi; Bingo.



（武藏横濱）耶蘇教徒の墓地

Tombs of Christians.

尾の道（備後）

瀧船に乘じて東より尾の道港に向へば、左に向嶋ありて塩燒く烟り蒼く、右に瑠璃、愛宕、大寶の諸嶺ありて疎松奇岩の間に塔影の參差たるを見る、一條の海水帶の如く嶋と陸とに狹りて恰も河流の如く風あれども波あがらず帆檣林立して對岸の萬家魚鱗の連れるに似たり、天然の風光絶佳にして心神頓に淸爽を覺るものまことに山陽の一大勝區たり。市の人口二万に近く商業の繁盛はむしろ廣嶋市を凌駕せんとせり故に街衢の熱鬧堪へ難しと雖も市後の諸嶺は自ら天然の大公園となり一度び之に登れば忽ち仙境に遊ぶ感わり、瑠璃峯に淨土寺あり愛宕山に西國寺福善寺の巨刹わり大寶山に千光寺あり孰れも境廣くして逍遙すべく、殊に千光寺の奇勝は沿道に其比なしと激賞せらる。

Onomichi.

Onomichi is one of the most important towns in the Province of Bingo on the northern shore of the Island Sea. The mountains back of the town are noted for their picturesque beauty.

外人墓地（武藏横濱）

横濱市内舊居留地内にありて、本邦在留外人の墳域たり、域内は、隈なく掃除されて、又塵埃をとゞめず、芝生の小墳參差として並列し、大理石其他の石碑、いかめしく立ちたるさま、靜蕭凄凉の趣多し。萬里の波濤を超へ來りて、他郷の鬼となるは、まことに哀むべしといへども、世界の樂園たる日本國の土となりて、魂をこの麗しき墳墓にとゞむるは、死者に於いて、遺憾とするとなかるべし。卒堵婆乱立し香烟立ち昇ることは、勿論てれなしと雖も、たゞそかに樹てられたる十字架の上に、束ねられたる花環のかゝりたるなど、見るものをして、そゞろに哀吊の襟を正さしむるものあり。

阿伏兎の觀音（備後）

汽船鞆津港を發して西するや水路窮らんとして僅に通じ迂餘屈曲四面環翠の間を行く。一里餘にして山角の兀として斗出するあり之を阿伏兎岬といひ、削るが如き斷崖の上に一宇の堂あり觀世音を安置す。堂は岩角の上に設けられしことて規摸の壯大は元より望むべからざるも閑雅清洒尤も賞すべく上に綠滴らんとする危峰あり下に九十二尺の斷崖ありて海潮藍の如く岩根を洗ふ。試みに登臨せば六根自ら淸淨を覺えて又人界の身ならざるを覺ふべし、堂より石磴を迂廻し下れば海潮山盤臺神寺あり。臨濟派の禪院にして毛利元就の歸依せし由緒あり觀音堂にはこれより登るべし瀨戸の內の名勝多きも阿伏兎岬の如きは殆んどこれが白眉たるものなり。

Abuto-misaki.

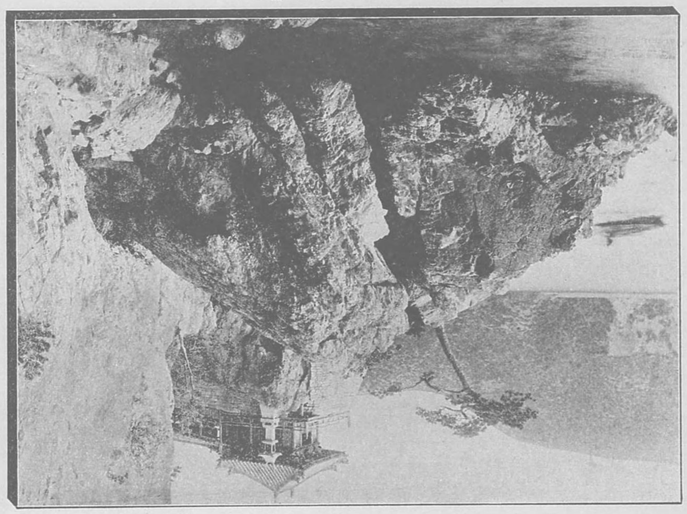
The picture represents the Temple of Kwannon at Abuto in Bingo, on a high cliff on the north shore of the Inland Sea.

福山城（備後福山）

備後福山町の西部にあり、元和五年水野日向守勝重の築く所にして、世を傳ふること四、元祿十三年、松平下總守忠雅代つて此城に居し、後寶永七年に及び松平氏の桑名に徙るや、德川氏阿部豐後守正邦を此に封じ、十世正桓に至り明治の革命に遭ひて城を廢す、今は外郭を毀ちて田圃となし、僅かに五層の天主閣と、二三の城櫓を存するのみ、近年本丸の搆內を公園地とし、園地を設け、林泉を作り、大に風致を加へたり、縣社阿部神社は公園の中に在り、文化九年の創建にして、阿部氏の祖先大比古彥を祀る社地淸洒にして高潔、境內多く梅櫻を栽ゑ、二三茶亭の設けあり、士女の來りて遊ぶもの四時其題を絕たずと云ふ。

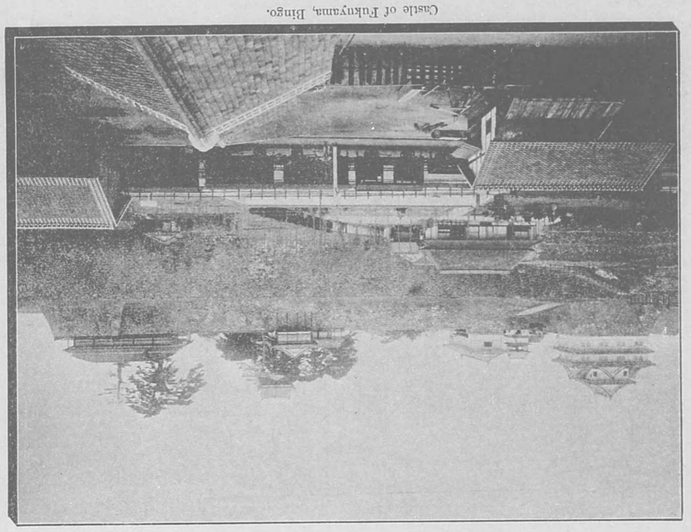
The Fukuyama Castle.

This castle situated at Fukuyama, the old time capital of the province of Bingo, was built by the Daimyō Midzuno in 1619. Subsequently it passed into the hands of the Abe family. Since the Restoration of 1868, the grounds have been maintained as a public park.



（備後）阿伏兎の觀音堂

Kwannon Shrine at Abuto; Bingo.



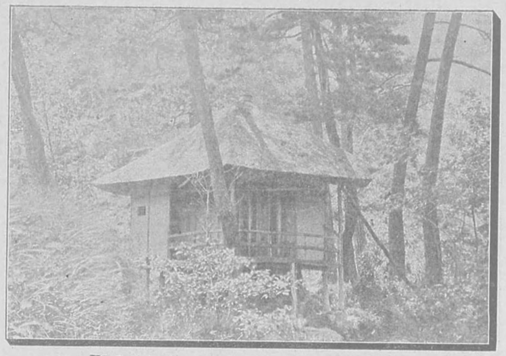
（備後）福山城

Castle of Fukuyama, Bingo.

（備前）閑谷學校講堂

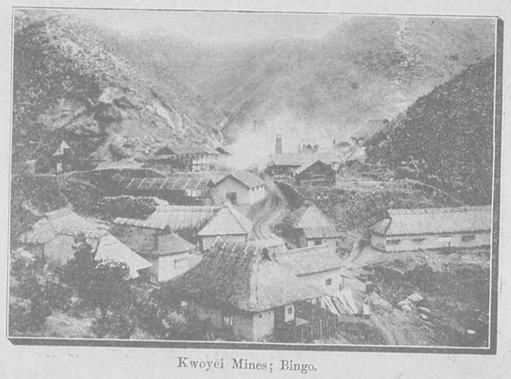
Lecture Room of Shidzutani School, Bizen.

（備前）閑谷學校内紅葉亭



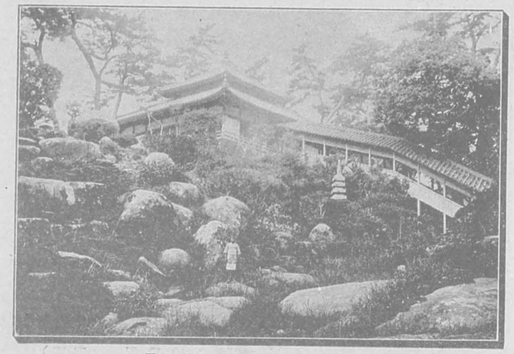
Kōyō-tei in Grounds of Shidzutani School; Bizen.

（備後）鑛榮鑛山



Kwoyei Mines; Bingo.

（備中玉島港）圓通寺山の景



Entsūji-zan at Tamashima, Bitchū.

鑛榮鑛山（備後）

備後芦品郡常金丸村に在りて、古へより採掘し來れる銅坑なれども、二百餘年以前一たび其業を休止し、明治十七年を以て手を着くるものなかりしを、大阪西區江戸堀の商人眞島福松再び之を興し、今は毎月銅鑛十萬餘貫を產し、製銅一萬斤を得るに至れりと云ふ、永く暴湮に付せられたる天物の、再び眞島の手に依りて収取せらるゝに至りしは、鑛榮の名全く、其實に副へりと謂ふべきか、地は山陽鐵道線福山驛の北位、五里にして行路平坦人車馬車も亦通ずれば、往ひて採鑛の實地を眺め、古へ同鑛山の爲めに建立せられたりと傳ふる、光明寺の阿彌陀佛を拜するも興多かるべし。

圓通寺山の勝景及圓通寺（備中）

小田郡玉嶋町の附近にあり、曹洞宗の巨刹にして、寺號を補陀落山といふ。開基は、上古にありて、中世全く煙滅に歸せしを、元祿年中に、遺跡を案じて再建せしものなり、境内の廣さは千坪を超ゑ、二十五宇の本堂塔舍相連なりて、莊嚴なる招提の靈場たり。この圓通寺は、庭園の美を以て其名高し、境内には、山を築き池を穿ち、巨岩大石を處々に排置して天然の奇勝を摸し、其間には、種々の珍草奇樹を植ゑ、布置の巧と配合の妙とは優に園藝の秘術をつくせり。本尊は、行基菩薩作の聖觀世音にして、寺寶には、弘法大師自作の辨財天女像、伽羅の木魚、金毛の拂子など種々あり。

閑谷學校（備前）

寛文六年に、新太郎少將池田光政の建設せしものにして、名儒熊澤蕃山の敎鞭をとりしところなり、講堂、聖堂、等の建築は、凡て支那風の構造を用ゐ、結構壯觀海内に比なく、古より名流碩學の輩出せしと尠からず、境内に閑谷神社あり、池田光政の像を安置して奉祀し、社の東に光政の臍の緒を埋めしといふ一小丘あり、紅葉亭亦た、境内にある小屋にして、風雅にして瀟洒なり、この亭に坐して、當年講誦に盛なりしことを追想せば、梢吹へ風の音も、自ら吟咏讀書の聲かと疑はるならん、維新後中學校となりしも、土地の不便なるを以て廢され、現今は老儒西毅一の管理の下に、一の私塾として後進子弟を敎育しつゝあり。地は城市を遠ざかりて、塵埃のいたるなく、讀書工風には、尤も適當せる幽境なり。

後樂園（備前岡山）

岡山市街を東に出で、南に巍々たる天主閣を眺めて鶴見橋を渡れば直に後樂園の北門に達すべし、園は旭川の清流に枕して猗々たる綠篁四方を圍み面積二萬七千餘坪の大公園にして舊藩主池田侯の經營せしところなり園内の地形は東北より南方に向ふて漸く高く丘阜をなせり。高きところは古樹老木參差として枝を交へ自ら深山幽邃の趣あり、低きところは開豁にして園の内外を觀望すべく老松の間に徘徊して清氣を呼吸すべし、この園は舊藩主か城外の村落を觀望して民の勞苦を思ひ又は武臣の演武をなさしめ文臣に經を講せしめ及び外諸侯を遇する爲に設けたるものなれば自ら眺望に富みて園内に設けられたる亭榭なども高趣奇搆を極めたり明治四年以後は公園となりて衆庶の遊園地となり春夏秋冬杖を曳くもの絶えず風流閑雅の會合等もこの園内の小亭に開くことを得るとなれり。

後樂園（其二）

園内には、丘あり池あり亭あり堂あり、唯心山といへるは中央にある小丘にして樹木生ひ茂りて奇石其間に布かれ三小徑を通じて登臨すれば園内を一眸にすべく丘上の唯心堂は觀月に名あり。唯心山の北麓に池あり東西五十間、南北卅五間に及ぶ、池中に島あり上に茶亭を建つ風景極めて絶佳にして白鶴來りて池汀に啄ひさぎ殆んど天然の圖畫を披けるが如し延養亭は園内第一の建築にして昔は諸侯又は其使者を延見したるところにして前年行在所となりたるとあり。簾池軒は園内の風光を望むに絶佳の小亭あり藤花燕子花蘇鐵を以て名高く園に遊ぶもの多くは杯をこの軒に含む。其他の名勝一々數ふべからず。

岡山舊京橋（備前）

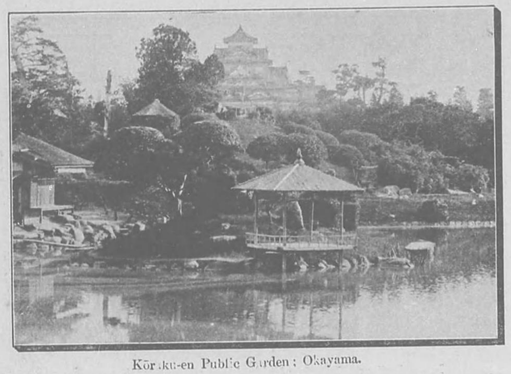
岡山市は、中國の大市邑にして、人口の稠密なると、山陽道第二位にあり、運輸交通の便頗る多し、京橋は、この市の要路にあたる橋梁にして、近年架設換へとなりたり、以前の橋は、其構造頗る雅致に富み、橋梁の參差として相連なり、欄干の長虹の如く横たはりしさま實に畫中のものたりき、こゝに掲ぐるものは即ち、當時の觀にして、今は全く取毀たれて其形を存せざるものなり、新に架設されたるものは、堅牢に於いては、前者に過ぐるものあるも、景色を添ふる點に於いては、甚だ劣りたる感あり、この市に遊ぶものは、この寫眞によりて舊時の觀を追想し、自ら其規模を想像するを得べけん。

饒津神社（安藝廣島）

天保年間の創建にして、淺野彈正少弼長政を齊祀せるものなり、社地は、二葉山を背にして、三篠川の支流を控へ、廣豁にして清淨なり。宮祠の搆造は輪奐の美なしと雖とも、結搆壯高にして、候の英才雄畧を追懷せしむるに足り、特に、階段、石垣等に用ゐたる花崗石は、質の美にして巨大なること、他に其比なしと稱せらる、元と饒津神社と改稱して縣社に列せられ、境内は公園地となれり、老松亭々として千歳の翠を滴らし、瀟洒ある茶店など散在して、市民衆庶の曳杖するもの四時絶ゆるなく、社後の二葉山に登れば、廣島市街を眼下に見下し、遠く海水の洋々たるを望まば宇品、似島、嚴島等の諸島嶼は、星散碁布して恰も一大庭園の如く、其光景筆紙につくすべからず。

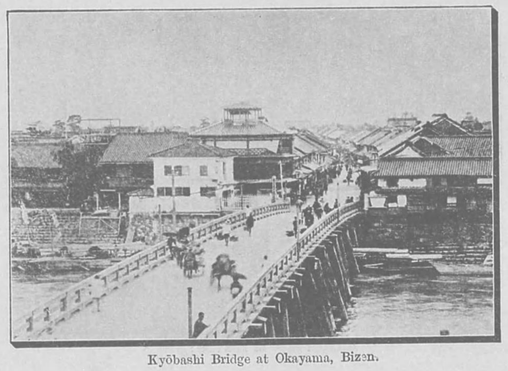
（備前岡山）後樂園の一

Kōraku-en Park at Okayama; Bizen.



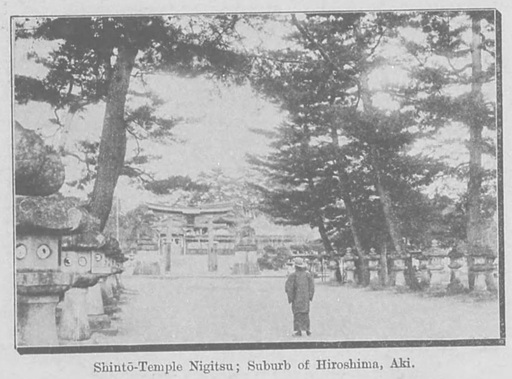
（備前岡山）後樂園の二

Kōraku-en Public Garden; Okayama.



（備前岡山）京橋

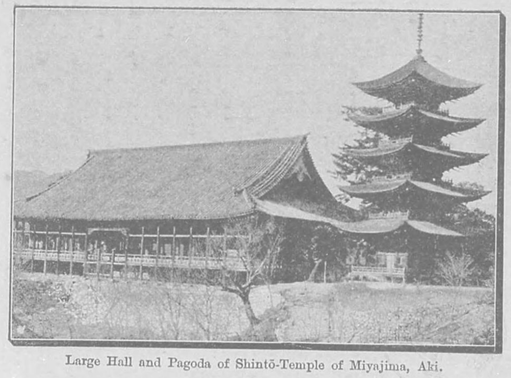
Kyōbashi Bridge at Okayama, Bizen.



（安藝廣島市外）饒津神社

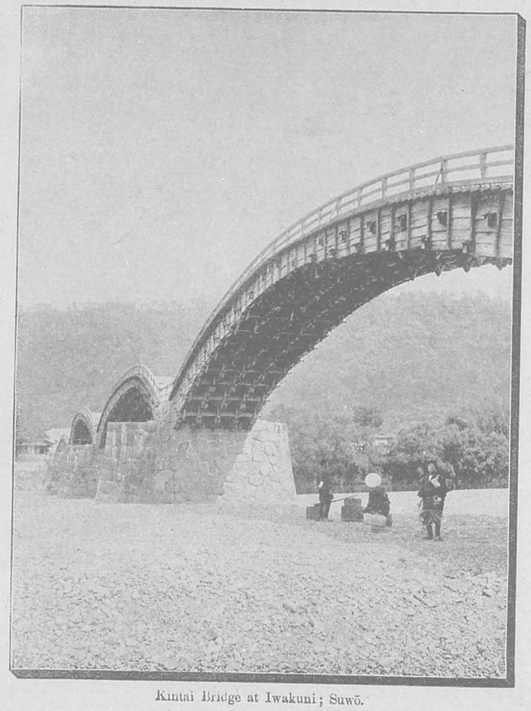
Shintō-Temple Nigitsu; Suburb of Hiroshima, Aki.

（安藝嚴島）千疊數並塔



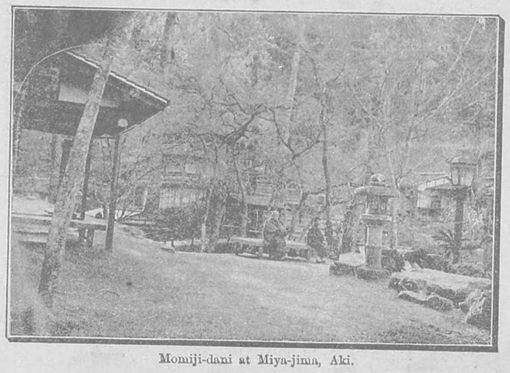
Large Hall and Pagoda of Shintō-Temple of Miyajima, Aki.

（周防岩國）錦帶橋



Kintai Bridge at Iwakuni; Suwō.

（安藝嚴島）紅葉谷



Momiji-dani at Miya-jima, Aki.

錦帶橋（周防）

周防岩國町より對岸横山村に亘りて錦川の上に架す、延長百二十五間、最も高き處水面より十三間、河中に石を疊みて四個の橋脚を築き之に半月形の五小橋を置く、橋は一基の支柱を用ゐず、框を組みて層々相凭らしめ、以て全橋の重量を支ふ、其奇巧と堅牢とは實に吾國建築法の好模範たり、其創建は實に延寶元年に在りて、藩主吉川元信の經營に成り、年を經ること幾久しきも曾て全橋を架換へたることなく、時に橋邊を修築して今日に至り、毫も其舊形を變ぜざるを見れば、其堅牢なるも推して知るべし、殊に其橋脚の如きは、長く奔流矢の如き間に立ちて、一たびも崩壞せしことなしと云ふ、橋畔に錦帶橋の碑あり、明治九年、中村祐、藤田葆等の建つる所なり。

Kintai Bridge.

This bridge was built in 1674, by the order of Kikkawa Motonobu, a cadet of the Mōri family It is the most notable example of the use of the arch in Japanese structures. As will be seen, it had no value as a bridge; it was viewed simply as a *tour de force*.

嚴島紅葉谷（安藝宮島）

紅葉谷は宮島八景の一なり、左右は老樹生ひ茂りて蒼翠滴らんとする如く一條の溪流淙々として其間を流る、水清くして砂白く危岩珍石相交りて或は堰かれて潭をなし或はかゝりて瀧をはく、春初の若楓より櫻花爛漫たるころは風景の絶佳いふばかりなく、秋にいたりて萬朶の紅葉錦の幕を張り麋鹿悠々として落葉を蹈み行人飄然として危橋の上に立つさまなどは全く人界にあらざるを覺へしむ。溪畔瀟洒たる割烹店、茶亭ありて飽まで風光に接するを得べく人界の塵を避くるに無上の樂境たり、この地冬は温暖にして殆んと霜雪を見ず夏は清涼にして蚊蚋の煩なし文人雅客より沽買傖父に至るまで神氣爽然として歸るを忘るもの偶然にあらざるなり。

嚴島千疊敷（安藝宮島）

豐臣太閤の雄圖は三景の勝地たる嚴島にも殘れり。征韓のとき勝利をこの神祠に祈り凱旋の後に龜居山の上に梁行十八間桁行二十五間の大堂を建立せりこれ今に殘れる千疊敷なり建築最も濶大宏壯にして幾年の風雨にも大破することなく閣上より望めば本道の山河、海上の風濤一眸の中に集まり氣宇浩然として豐公當年の偉績を想はしむ。明治維新後こゝに豐國神社を奉祀し從前安置せし本尊阿彌陀如來はこれを他に移したり。閣の西北隅の小丘上に碑碣あり谷將軍の撰文を刻して西南役戰死者の忠績を傳ふ。一説にいふ昔しこの處に一大樟樹あり豐公用ゐて戰艦を造り餘材を集めてこの千疊閣を建立せりと。

嚴島神社の鳥居（安藝宮島）

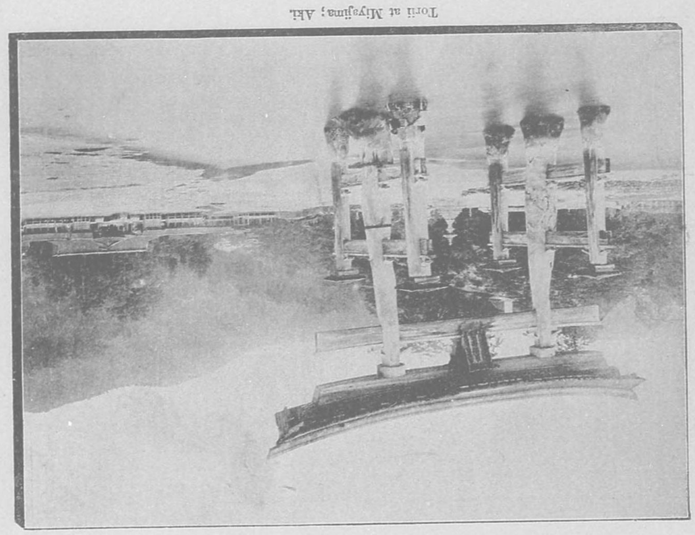
本社の前八十八間の海上にあり、滿潮の時は參詣者を載せたる舟白帆を風に孕ませたるまゝこれをくゞりて繞を廻廊につなぐを得べし。干潮の時は一帶の白砂となり鹿鹿悠然として徘徊し遊覽の兒女はこの邊に逍遙して介類を拾ふべし。宮島の景色の七分はこの大鳥居によりて添へらるゝといふも過言にあらず殊に其構造の雅致に富めるは尤も詩趣を促がすに足る。この鳥居は本社創建の後仁平年間に至りて平清盛之を改建し爾來數度の改造を經て現今建てるものは明治八年七月に竣工せしものなり。掲げたる神額は故有栖川大將宮の御親筆にて表裏二面あり往昔後奈良天皇の御宸筆に成りし額は大內隆直の勅狀を添へて之を神庫に秘藏せりといふ。鳥居の高さは八間三尺七寸、左右の距離五間五尺八寸

嚴島本社（安藝）

推古天皇の御宇に勸請せられたるものにて、市杵島、田心、湍津の三姫を奉祀す。本殿は梁間六間半、桁行十三間二尺の構造にして、幣殿、拜殿、秡殿あり、秡殿の前面に高舞台あり、之を挾みて百八十二坪の平舞台左右にありて、淺洲の上に斗出す、拜殿の左右には有名なる廻廊ありて、屈曲百四十八間、一間毎に鐵の燈籠あり、海潮滿つるときは、清波廊脚を洗ひ、風光いふべからず、また、その楣間には、古今名家の揮毫にかゝれる扁額を掲ぐ、いづれも世に稀なるものにして、之を仰げば、眼の恍惚たるを覺ふべし。本殿の構造の古雅にして神々しく、背後の青山により、前面の綠波に臨み、儼として建てるさま、信に蓬萊の仙寰を望ひ感あり。

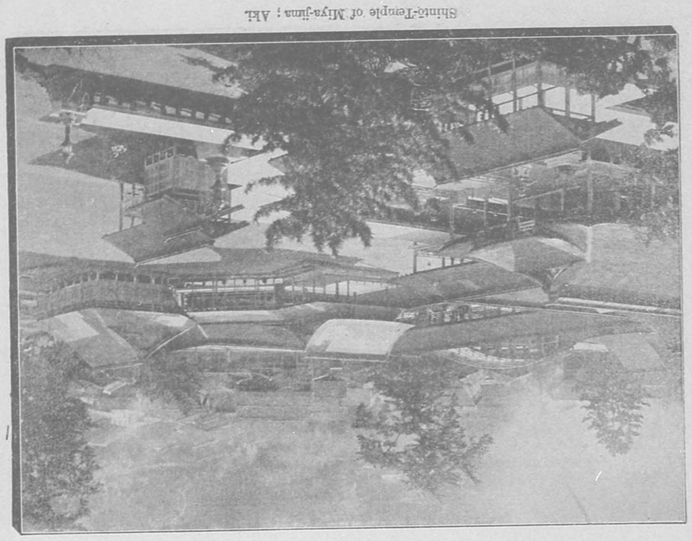
Itsuku-shima.

Itsuku-shima is a small island not far from the Naval station, Kure, off the northern shore of the Inland Sea. It is celebrated as the site of a famous Shintō temple founded by the Emperor Suiko about A. D. 600. It was greatly enlarged by Taira no Kiyomori, A. D. 1166-7. One room of the temple, devoted to the sacred dances is said to have comprised 2,000 square yards. This temple with its environs is counted one of the three most beautful sights in Japan.



（安藝）宮島岳

Torii at Miyajima; Aki.



（安藝）嚴島神社

Shinto-Temple of Miya-jima; Aki.

廣島城（安藝）

文祿年中毛利輝元の築きしところあり南に瀬戸内海を控へ三川の流れ分岐して其周圍を繞れり。毛利氏より福嶋氏に歸し福嶋氏の亡後淺野氏の居城たりしと二百五十餘年以て王政維新に及べり。現今舊觀の多くは失せて城墟は第五師團の營所となり中央に聳ゆる天主閣のみ高く雲に聳へて今も師團の雄偉を表しつゝあり、閣の高さ十七間五尺、基礎は東西十二間南北九間にして征清の役に大本營たりし司令部は其南隣にあり。城外は遙に山と隔たるを以て四方より廣嶋市に入るものは數里の遠さより已にこの高閣を望み、往年を想ひて更に近き征清役の偉績を仰ぐべきなり。

Hiroshima Castle.

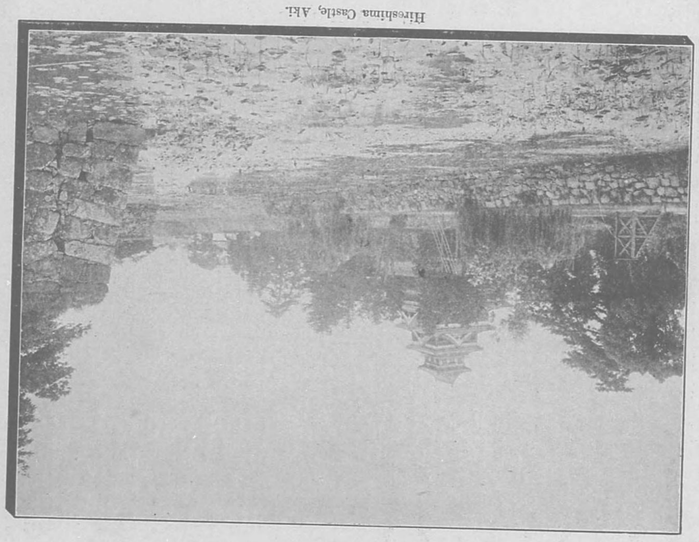
Hiroshima Castle was founded by Mōri Terumoto about the year 1592. Terumoto was a member of the great Chōshū family which played so important a part at the time of the Restoration of 1868. The Castle, later on, passed into other hands. During the entire Tokugawa period, it belonged to the Asano family. It is now the head-quarters of the Fifth Division of the Japanese Army. The Emperor took up his residence here during the war with China, (1894-5).

宇品港（安藝）

明治廿二年に築港の工事を竣りしものなり、その以前は、太田川の泥沙洲をなして、船の宇品嶋に繫りしものは、一々端舟にて往復する煩ありしが、今や、防波堤なりて六十二萬坪の新田をなし、埠頭直ちに宇品島に接續して、一の良港灣をなし、大船巨舶も、棧橋に繫ぐを得べく、加之に、港内の水深くして干潮の時も十間を下らず、まことに、無比の良港となれり、岸上より、廣嶋にいたるまで、一條の大路砥の如く通じ、猿猴橋停車場よりも、鐵道の支線ありて、運輸交通の便なること山陽道中に冠たり。日清戰役の當時には、兵士の輸送、貨物の積込み等、一にこの港よりなされ、宇品築港の擧が、征清役の一大稗益となりしとは、世人の夙に知るところなり、近頃、有志相計りて、この築港を斷行せし時の知事千田貞曉の爲に、碑をたてゝ、功勳を記せんと計畫しつゝありといふ。

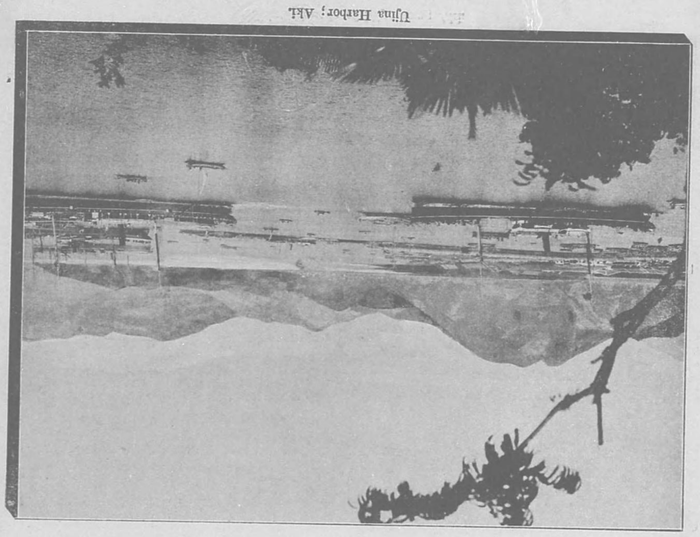
Ujina Harbor.

Ujina Harbor is about two miles east of Hiroshima, and forms the port of that city. The harbor was constructed in 1889, and at the time of the war with China was of great service, as the Imperial Headquarters were established at Hiroshima. There is safe and convenient anchorage for the largest vessels.



（安藝）廣島城

Hiroshima Castle, Aki.



（安藝）宇品港

Ujina Harbor, Aki.

龜山八幡宮（長門赤間關）

赤間關市内字外濱町と神宮司町との間に在る小丘の上に鎮し、應神、仲哀、神功の三皇を祀る、境内坪數貳千に近く、南面は海に瀕して赤間關港を下瞰せり、北に石階あり、之を上りて樓門を入れば、左右回廊を繞らし、正面に拜殿本殿あり、西門の傍らには能舞臺、た龜銀杏、犀の松等あり、又拜殿の左傍には豐太閤凱旋の時、朝鮮より持歸りしものを、當寺に寄付したりと傳へらるゝ大蘇鐵樹あり、其他住吉、大歳、宮地、八阪等の末社、回廊の外を圍み、境内廣くして、幽邃閑雅の趣を具へ海を隔てゝ近く筑豐の諸山を望むさま、得も言はれざる絶景なり、海に面せる衡門の楣間に扁して鎮西第一勝と云ふ、何人の筆なるや聞き洩らしたるを惜し。

高知八幡宮（土佐）

高知市山田町にある縣社にして、應神天皇、神功皇后、姫大神を奉祀す。現今の社殿は明治十一年の改築にして、結構頗る偉麗をきはむ。境内は、廣濶にして、木石の配布よろしく、市民の、參拜を兼ねて、保養鬱散に來るもの、四時絶ゆるとなし。毎年十一月二十四日、二十五日に大祭を執行し、盛大なる儀式ありて、さしもに廣き境内も、立錐の地を餘さざるにいたるとかや。往事は、祭儀一層盛大にして、各町より高大なる花臺を曳きいだし、活人形を飾り立てゝ、互ひに巧を競ひ、其盛觀は、まことに非常なるものなりしといへり。

安德天皇御陵（長門）

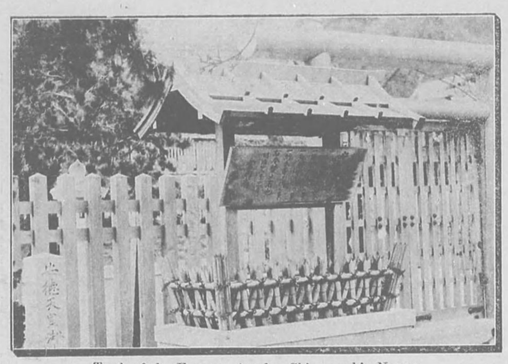
日本に於ける戰亂の最も慘なるものは、源平二氏の爭に過ぎたるはなかるべく、六歳の幼帝西海の波底に崩じ玉ひしは、千古の下に感慨の涙を揮はしむるものなり。赤間宮は、この不幸なる幼帝を奉祀せしものにて、元は阿彌陀寺といひし寺院の境内なりしを、明治維新の後に、寺を廢し、天皇の御陵地に建てられし御影堂をば、天皇社と改稱し、後、官幣中社に列して赤間宮と改め、十五年三月に社殿の構造完成せり、この地は、紅石山の麓にありて、往年源平二氏の血戰せし壇之浦は、近く目睫の間に望むべく、舊内裏の所在地も亦た指顧の近きに眺むべし、社前に立ちて、神祠の堂宇を仰ぎ、更に、この眺望をなさば當年のと一々胸中に湧きひでゝ、自ら双袖の濕ふを知らざるべし。

吸江の青柳橋（土佐）

土佐國長岡郡の南端に浦戸の港あり、この處より海水深く陸地に入ること二里餘、中央に小海峡あり。東西の陸地相迫りて、一條の水路を通じ。これより内を吸江灣と呼ぶ、即ち高知市に達する咽喉なり、市の東端より對岸に向ふて一の長橋あり青柳橋といふ、逶迤として水面に横はること二百二十餘間、其近在の風景は、名手の畫圖と雖も如かざるほどにて双袖を海風に飄して橋上に立てば、鏡の如き水面には、岩礁所〻に峙ちて、遠きは鳧鷗の泛ぶが如く、近きは長鯨の飛躍せるに似たり、欸乃の聲は漁舟より起り、咿軋の音は端艇より傳はる、左方には、五臺山の温容翠黛濃にして、山腹に依稀として見ゆるは、夢窓國師の結びしといふ吸江庵なり。風景の絶佳にして山光水色の豊なること、まことに、南海に有數の勝地たりといふべし。

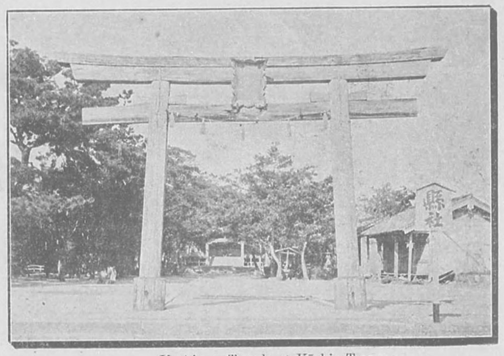
（長門馬關）　龜山八幡宮

Hachiman Temple of Kameyama at Shimonoseki, Nagato.



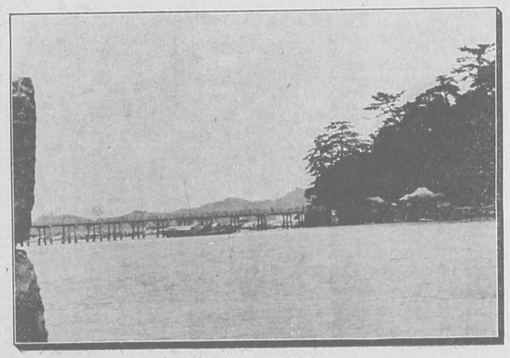
（長門下の關）　安德天皇御陵

Tomb of the Emperor Antoku, Shimonoseki; Nagato.



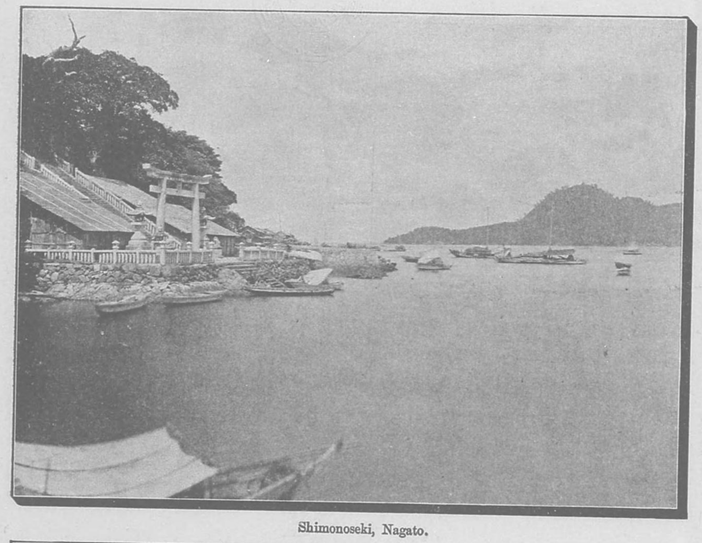
（土佐高知）　八幡神社

Hachiman Temple at Kōchi; Tosa.



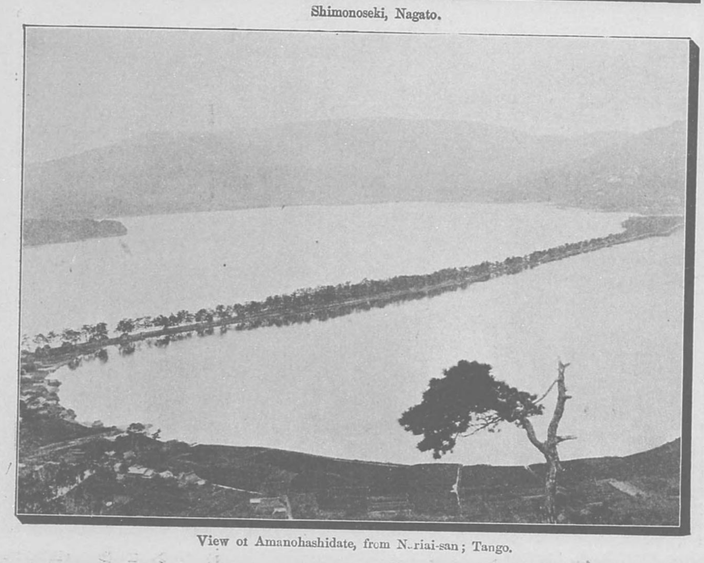
（土佐吸江）　青柳橋

Aoyagi Bridge at Kyūkō; Tosa.



（長門）下の關より對岸を望む

Shimonoseki, Nagato.



（丹後）成相山より天の橋立を見る

View ot Amanohashidate, from N.riai-san; Tango.

下の關（長門）

日本海と瀬戸内海をつなぐ馬關海峽の岸上にあり後方に丘陵を背ひ前は海峽を隔てゝ豊前と對し東方壇の浦より西方彦島に連なる。西國の咽喉たるを以て商業極盛にして船舶の來往織るが如し地勢の隘さより人家櫛比して道路の狹隘を免れざるも巨商大賈の多き驚くに足る。然れども街を去りて背後の丘陵に登れば眺望の絶佳なると比なく頓に熱闘を忘れしむ。大小の官衙より神社佛閣其他の大館高樓亦た甚た多く春帆樓上に杯を含んで山海の景に嘯きつゝ征清役結末の談判を回想するは又無限の感あらん。壇の浦に遊び赤間宮に詣して壽永の昔を吊ふも亦た可なるべく其恨の深さを知らんと欲せば之を近海に産する平家蟹に問ふべきなり。この市の人口三万一千弱にして今や市制を施行し、本州山陽鐵道の末點、特別輸出の港門としてます〳〵繁榮を加へつゝあり。

Shimo-no-seki.

Shimo-no-seki is situated on the north shore of the straits of that name at the western end of the Inland Sea, opposite the town of Moji at the nothern extremity of Kyūshū. It was in the bay off Shimo-no-seki that the forces of the celebrated Taira family were defeated A. D. 1175, by Yoshitsune, the Minamoto general. It was here also that the treaty of peace between Japan and China was signed in 1895.

天の橋立（丹後）

俗諺に名高き丹後宮津の西、與謝の海の中央にあり、一條の洲嶋長く曳いて穏なる海中に泛ぶ長さ廿七町四十間、幅は卅七間にすぎず青松茂りあひて倒に影を小波に映し白砂銀を布きたる如く遙に水天相接する邊に連る。春風霞を籠めて松聲琴を奏する時は白衣の天女がその上を渡りて天下るかと疑はる。これ「天ノ橋立」てふ名を得し所以なるべし。夏は舟をその邊に泛べ、秋は月を賞し、冬は雪を觀るなど四時の眺の優れたるは實に三景の隨一たるに背かず。洲の盡くる所に瀟洒幽靜なる橋立神社ありて傍に和泉式部の歌碑たてたる古清泉あり水の淡きこそ珍らしけれ。橋立の眺望は遠くよりするに愕峠と成相山とあり、前者よりは横に、後者よりは竪に眺むべく共に特種の趣あれば其間に優劣を定め難からん。

與謝の海や霞渡れる夕なぎに
たえ〳〵見ゆる天の橋立　（古歌）

Ama-no-hashidate.

Ama-no-hashidate is a narrow strip of land extending nearly two miles into the bay of Miyadzu, in the province of Tango. The average width is said to be less than two hundred feet. It is reputed to be the remains of the Bridge of Heaven on which Izanagi-no-mikoto stood at the creation of Japan.

文殊堂（丹後）

宮津町より天の橋立にいたる途中に、智恩寺といへる臨濟宗の巨刹あり、本尊は文殊菩薩にして、梵天帝釋化現の作なりといふ、近郷に名高き靈佛なるが故に、智恩寺の名よりは切戸の文殊堂として世に傳へらる、境内は二千三百坪に近く、羅列せる堂塔いづれも、清潔にして高壯なり、山門は二層樓にして、上の扁額に黄金閣とあるし、下に海上禪叢と掲ぐ。境内にて眺望すれば、天の橋立は、東北より來りて岩瀧港の附近につき、文殊の切戸てふ一小海峡をなす、逶迤たる橋立の景眼前に迫り、北方の成相山は、一葉の濱水をへだてゝ、温容掬すべし。まことに、無雙の靈場奇絶の勝區として、參詣者の絶ゆるとなきも宜なり。この寺の寶物は頗る怪奇のもの多く白馬の骨。※龍鱗。木に生じたる鎌。天狗の爪。夜光珠などあり。

玄武洞（但馬鶴野）

火山脈に富める我日本には奇怪なる洞窟隨處にあり玄武洞の如きも其一なり、洞の長さ四十間餘にして三房に別たる洞底には清泉の溜まれるあり右房の外側に一條の飛瀑をかく、洞の狀態は頗る奇觀にして恰も千百の石柱を縱横に組みて築きたる如く各柱みな六角形をなせりこの故に一に石柱洞と呼び、又は其形狀恰も蜂巣に似たるより蜂巣窟とも呼びなせり、玄武洞の名は柴栗山の命名せる者にして洞壁に自筆の三大字を彫刻しあり、凡そ海内にこれ等水成岩にてなれる洞多くありといへども此玄武洞の如きは奇觀の第一として人目を驚かすに足るものなり、豐岡町を北に去ること一里十町餘なる鶴野村の赤石といへるところにあり。

城崎温泉（但馬）

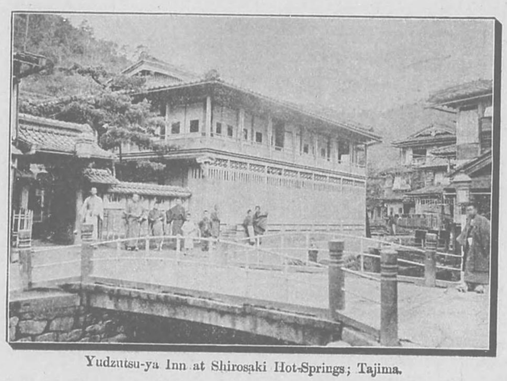
山陰山陽の二道は温泉に乏し、而して之を補ふものは實に城崎温泉なりとす、泉質は塩類泉にして清澄にして水晶を浴かしたる如く温度は華氏の百度乃至百十度なり、六ヶ所の泉源相隔ると遠からず皆な宏壯なる樓屋を設けて浴客を待ち四時常に繁昌せり。この地は海拔僅かに二十尺に過ぎざれども、海岸に近きを以て北海の風、清氣を吹きのたり西南は山嶺を以て圍まれ東は城崎川の流に臨み山水の眺望絶佳なれば四時ともに遊覽に適し特に夏日三伏の炎暑を洗ふには尤も適當せる温泉場たり。この地に遊ぶには舟車の便またゐしからず京都よりするものは二泊を以て到着するを得べし。

（丹後）文殊堂

Monju-dō, at Amanohashidate; Tango.

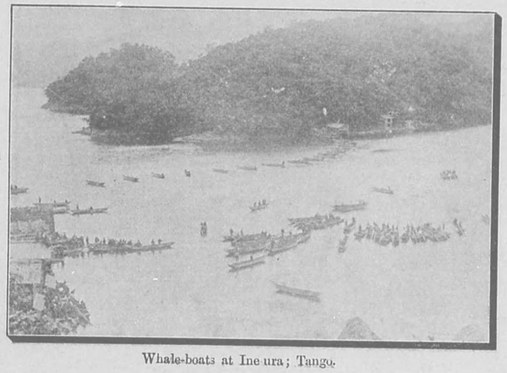
（但馬城崎）玄武洞

Gembu Grotto at Shirozaki; Tajima.



（但馬城崎温泉）油筒屋別莊

Yudzutsu-ya Inn at Shirosaki Hot-Springs; Tajima.



（丹後伊根浦）捕鯨の景

Whale-boats at Ine-ura; Tango.

一畑寺（出雲）

出雲國楯縫郡の東隅にあり、藥師如來を奉祀する靈場にして、開基は寛平年中なりといへり、境内の廣さ三千六百坪に近く、地勢、一畝山の半腹にあるを以て、遠近の眺望によろしく、東南には伯耆の大山に對し西南には神門出雲の諸峰を望むべし、境内の風色亦た閑靜にして景趣に富み、殿宇の構造頗る稱すべしこの藥師如來は山陰山陽に其名高くさこへ、病者の平癒を祈願するものひきもきらず、尤も多きは眼疾者なりといふ、詣者は一夜は必ず禮拜堂に通夜する慣例にて、毎月八日の賽日には、一千人の通夜信者を見るといへり、以て其盛なるを推すべく、山下に櫛比せる旅店の宿客は、これ等參拜者の爲めに業を營むものにて、其繁榮は近郷に冠絶すと傳へらる。

清水寺（出雲）

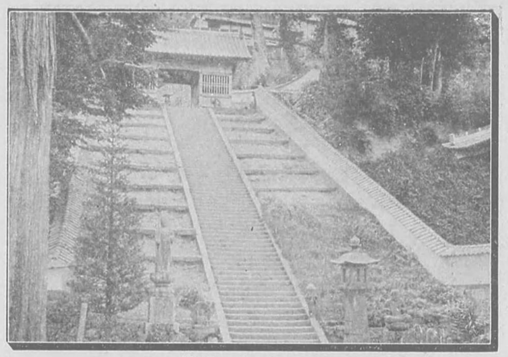
出雲國能義郡宇賀庄村にあり、推古天皇の御宇に開基せられたる天台宗の古刹なり、代々の修繕を經たれども、柱梁等は依然として古のまゝにて保存され古色尤も愛すべし。境内は甚だ廣くして、本堂其他の殿宇相並び、凡て鬱々たる老樹を以て圍繞され、其幽靜閑雅なる、まことに世と離れたる招提の境たり。名木には、千年杉、老木の櫻、老木の楓あるべありて、いづれも世に珍らしきものなり、境の周圍は、晝尚暗き深林にして、老松古杉枝の上に枝を交へて白晝に老梟の怪叫を耳にすべく、進んで山の頂上に上れば四望開豁にして附近の山川、海岬など恰も手にとるが如く、遊賞に時の移るを覺へざるべし。この寺には傳來の寶物頗る多し、境内の風光に飽きたる後に、寺僧に乞ふてこれを見るも、亦た無上の樂ならん

美保關港（出雲）

島根郡の東南端海岸にあり、東西三町南北五町に達し、水深五伊乃至十三尋の良港にして、日本海を往復する船舶の寄航所たり。この港は、風景の明媚を以て其名高く、西南には夜見が濱の松林遠く海上に斗出し、白沙綠樹相映じて、洲汀の景畫の如く、南方は、洋々たる美保灣の海水を隔てゝ巍然として雲際にかゝれる伯耆の大山に對す、岸頭に立ちて海風に袖を颯へし、片舟を浮べて港上の細漣を破れば、其快いふべからざるものあり。夏日は海水浴の設けありて、避暑の客群至すとかや。港の人家は五百戸に近く、人口二千に垂んとす、交通の便も開けたれば、まことに遊覽の勝地といふべきなり。

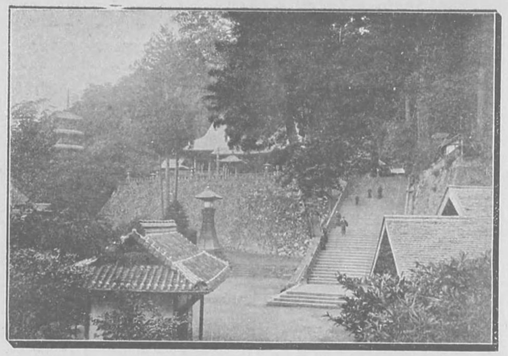
玉造溫泉（出雲）

松江市を隔ること二里にして、玉造の溫泉場あり、泉質は盧類にして溫度は浴槽にて百五度を保ち、諸病に効能多きを以て世に知られたり。地勢は、東西南の三面は、蜿蜒たる丘陵を以て圍繞され、玉造川の清流淙々として貫流し、舟揖の利便多し。北部は、開豁にして穴道湖畔に連なり、眺望亦た可なり。この溫泉場の起原は、古く元正帝の御宇に創まりしと雖も、其後天變によりて荒廢に歸したりしを、足利氏の世に至り、佐々木義綱靈夢に感じて、再びこれをおこし、爾來幾多の變遷を經て、以て今日に至れり、浴舍の數も多くありて、夏季には入浴者特に多しといふ、この地國道を離るゝこと、遠からず且つ松江市に近きを以て、旅客の往き訪ふにも、不便を感ずるとなしといへり。



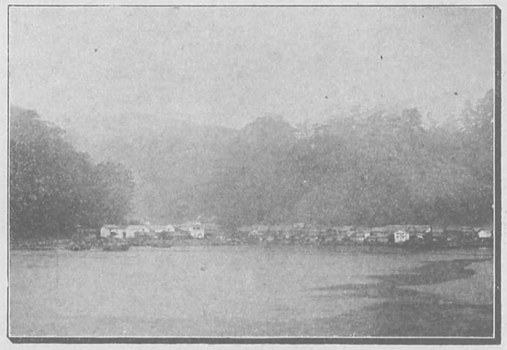
（出雲）一畑寺山門

Hitohata-ji; Idzumo.



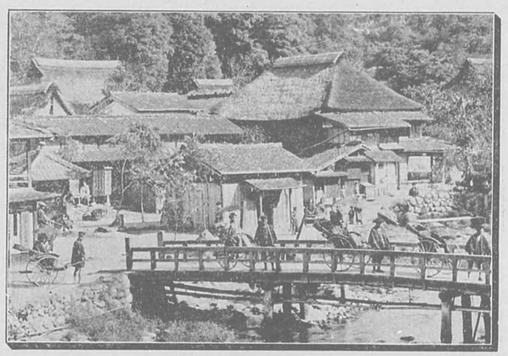
（出雲）清水寺

Seisui Temple; Idzumo.



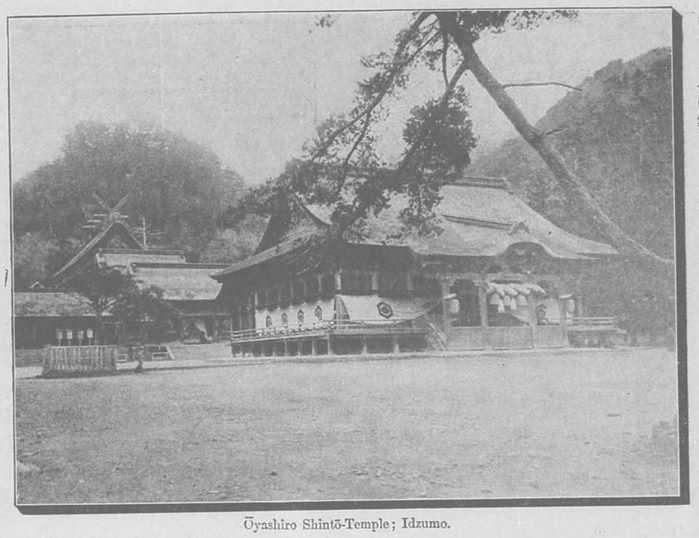
（出雲）美保關港

Mionoseki Harbor, Idzumo.



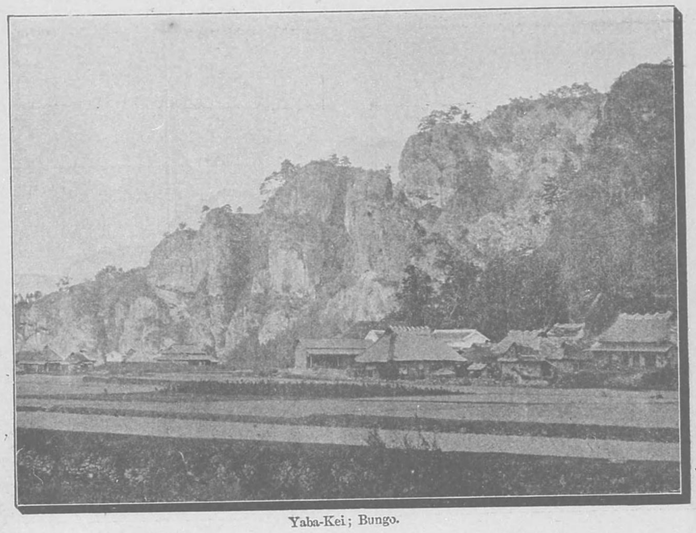
（出雲）玉造溫泉

Tamatsukuri Hot-springs; Idzumo.



（出雲）大社

Ōyashiro Shintō-Temple; Idzumo.



（豐後）耶馬溪

Yaba-Kei; Bungo.

耶馬溪（豐前）

巍峨たる英彥山の奇峰、天際に聳へて常に白雲を釀し、雲汁流れて耶馬の溪流となる、溪の水清くして、兩岸の風景の秀絕奇絕なること、世にその比なく、日本の山水を說くものは先づ第一に指をこの地に屈せざるなし。この地の廣く世に知られしは、賴山陽の紹介によるものにして、文政の頃、山陽西遊を試みてこの地を過ぎ、天然の風景の奇秀なるを愛し、圖を作り文を草して、耶馬の山水は海內第一なり、と唱へしより、世の文人墨客爭ふてこの地を訪ひ、今日にいたりては、文字を知るもの、耶馬溪を口にせざるなきにいたれり。耶馬溪は、豐前豐後を貫く通路にして、兩山相迫りて、間に溪流を通じ、奇峯怪岩、千態萬狀を呈して、以て天然の風景をなせり。山陽がこの地を激賞せし「耶馬溪圖卷記」に曰へるあり

鎭西山岳、其屬豐前者、皆有別態、彥山其尤大者、耶馬山脈水理、蓋皆自彥山發、故獨絕耳、余足跡幾半海內、弱冠東遊得妙義山、以爲無雙、今馬溪百里、如妙義者、不知幾十峰、謂之海內第一、或不誣也（中略）後有能者如董巨倪黃之流者、蹋其境而補成之、庶幾不負此山水、然目此山水、爲海內第一者、乃自賴子成始、云々

と、夫れ妙義の勝景は、千人の共に驚嘆して措かざるもの、而も、山陽は、妙義の如きものは、耶馬溪に幾十峯ありといへり、以て其秀拔奇觀なるを知るに足らん、今日、未だ董巨倪黃の如き畫家なしと雖も、寫眞器の便は、この山水を江湖に紹介するに於いて、庶幾くば、遺憾なきを得んか、これを文にせしものに至りては、いまだ、山陽の筆に如くものを見ざるなり。

出雲大社（出雲）

神代より奉祀されたる古祠にて由緒の深き神威の炳乎なること世に比ひなき神社なり。數千年の間に改造修理のと度々あり今の宮居は明治七年の造營にかゝる。神代の建築はいまはかり知るべからず垂仁帝の御宇には凡て皇居の如く營まれたりとぞ。杵築の市街より神松の並びたる道をすぎ銅の大鳥居を入れば社境なり三方に山あり八雲、鶴、龜といふ。正面に拜殿左方に社務所右方に會所あり、八足門を入りて更に樓門をくゞれば正面に本社天の日隅宮鎭座まします屋宇雲を立籠めて惶ざいはん方なし。この大社の主神は大國主命に在し天照大神の勅にてこゝに鎭座し玉へりその折に仕へ奉りしは天穗日命にて其子孫連綿として祭事を司り今の千家、北島兩家はその正しき血統なりといふ。

Idzumo no Oyashiro.

This is one of the two great Shintō Shrines, the other being that of Yamada in Ise. It is situated near Matsue on the north shore of the western end of the main island of Japan.

Yabakei.

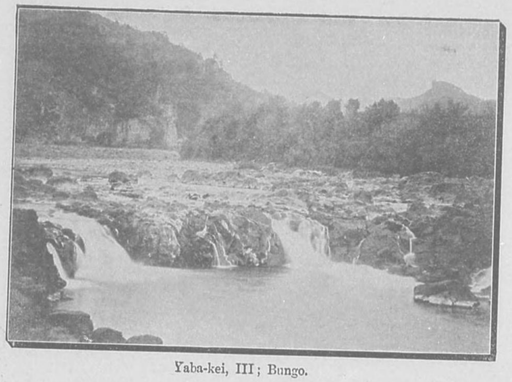
Yabakei is a noted ravine in the province of Buzen. Sanyo, a famous historian of the first half of the nineteenth century, visited this ravine and wrote a detailed description of its points of interest. It is famed for picturesque cliffs, grottoes and water views. The locality is near the town of Nakatsu, on the Western border of Buzen.

耶馬溪

青の隧道を過ぎ、東谷川の支流に架せる耶馬橋を渡り、左折せば、羅漢寺の奇勝に達すべし、羅漢寺は、往古空也上人の錫をとゞめしし古刹にして、其後、照覺といる僧豊後より來りて種々の佛像を作り、建武四年の頃にいたりて、三千七百餘躰の石佛ことゞゝく成りて羅漢寺と稱號せり、寺内の勝景はいふまでもなく、石上苔滑にして、幽禽の聲ものさみしく、凄凉氣骨に迫る、山門の邊に立ちて眸を放てば、耶馬溪の勝は、指顧の間にあつまり心神恍として仙ならんと欲す。無滯窟といへる洞穴には、五百羅漢の像あり、近傍の奇岩怪石は參差として乱立錯横し、一々名狀すべからず、古昔は、この寺の領地は一萬石に及び、西海にきこえし巨刹なりしも、現今は、やゝ寂寞の摸樣あり、而して、其然るものか却つて山景の幽邃と相一致するあるを見る。

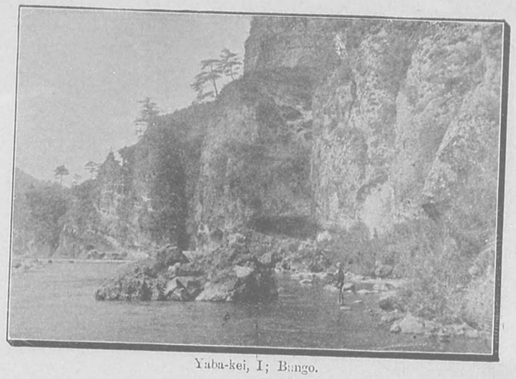
仝

この奇勝を探らんとするものは、小倉より鐵路に駕し、行橋にて豊州鐵道線に乘り換へ、中津町に達すべし。中津より、豊田村を過ぎて鶴居村に至れば、耶馬溪より注ぎ來る山國川の流は、先つ遊鈴を迎ふべし、夫より、眞坂の茶屋を過ぎ。手斧立坂を下れば、風景の自ら凡ならざるを覺ふべく、鮎歸の絶勝先づ眼に入る、これより進むこと二十町餘にして道は、忍山々腹を鑿ちて通じ、危峭心膽を寒からしむ、こゝを過ぎて佛坂にいたれば、斷崖削れる如く峙ち、奇岩頭を壓して聳へ立ち將に顚墜せんとするが如く、下には、山國川の流れ、水清くして藍を流せる如く滔々として岩石の間を行く、樋田の驛をすぎて青の隧道に入れば、一方は川、一方は山にして岩石を開いて隧道を通ずるもの七八ヶ所あり、巉嵓兀として奇松其間に生じ、風景の奇名狀すべからず。



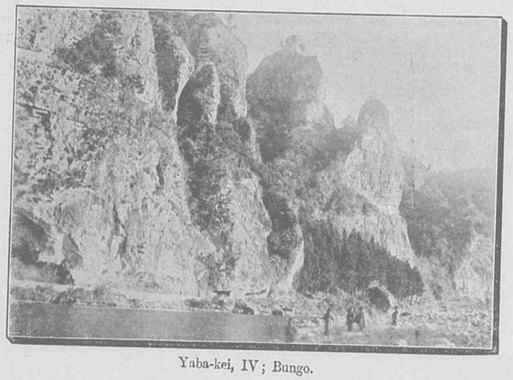
Yaba-kei, III; Bungo.

仝 其三



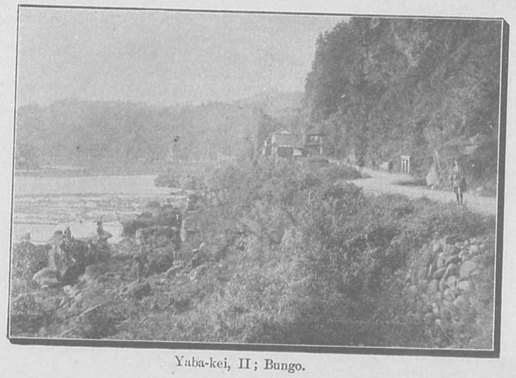
Yaba-kei, I; Bungo.

（豊後）耶馬溪其一



Yaba-kei, IV; Bungo.

仝 其四



Yaba-kei, II; Bungo.

仝 其二

太宰府天滿宮（筑前）

九州鐵道の二日市停車場に下車して、三十餘町を行けば、太宰府天滿宮の宮居あり、こは兒童走卒も其名を慕ふ菅原道眞を祀れるものにて、廟前には大池あり、神境を繞れるさまおもしろく、老楠樹の岸の上に茂りたるも趣あり。池に架したる大鼓橋の穹狀をなして水上にかゝれるは、古雅の趣たとふるにものなく、廟前には「東風吹かば匂ひおこせよ梅の花あるじなしとて春な忘れそ」てふ天神の歌に感じて、一夜に飛び來りしてふ古梅あり、其他もの古りたる梅樹のあなたこなたに蟠れるは、公の遺愛のほどもなほねて尊ふとし、社殿は、金碧の燦爛たるなきも、さすがに世に名高き古神社のとて、耳目にふるゝものいづれも神寂びて、恭敬の心自ら生ずるを覺ふ。

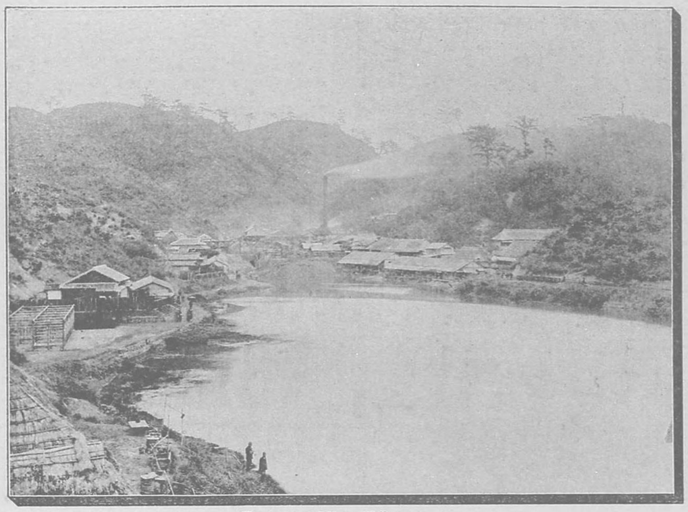
Temman-gu at Dazaifu.

This is a Shintō temple a little more than two miles from the Futsukaichi Station of the Kyūshū Railway. It is dedicated to Sugahara Michizane, the noted stateman, who was banished to Dazaifu in the province of Chikuzen, in A. D. 901. He is worshipped under the name of Tenjin Sama, and is regarded as the patron saint of literature and caligraphy. Michizane is one of the few men to whom, strictly speaking, divine houors are paid by the Japanese. He was the victim of the jealousy of his associate, Tokihira, and banished because of a false accusation. This fact has given special warmth to the homage of his worshippers. A very old plum tree shown near this temple is said to have been planted by Michizane.

槇寺故址（筑前）

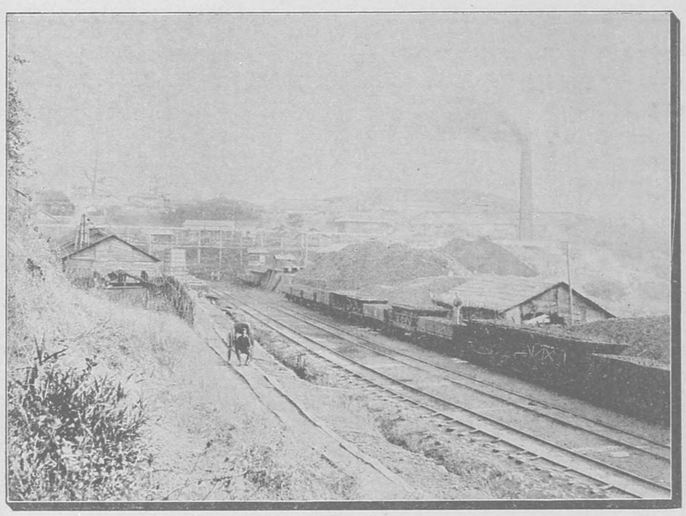
御笠郡並古賀にあり、昔時淨明寺といひし寺院なりしこの跡は、今はなし、寺原道眞が大宰權帥として、此館に住せるとき、即ちこの所なり、御館へ樽へし、古址にて、都府樓の南館さしてうへ、條帝の御宇に時の都樣相變じ、仙藍一宇を建立して、玉造造を吊ひしが、今は幾日、菅神の祠に一小祠宇を存せるのみなり、毎年八月十二日の祭日、寺原道眞の所に渡御し、本社へ入らせ玉ふ古例なりといふ、大宰の烈に、菅神の祠ことの所に渡御し

（筑前）　大城炭坑第一坑



Ōshiro Coal Mine; Chikuzen.

（筑前）　新入炭坑



Shiniri Coal Mine; Chikuzen.

大城炭坑（筑前）

明治炭坑株式會社の所有にして、嘉穗郡穎田村大字勢田にあり。借區は五ヶ所にして、總坪數百二十二萬六千〇四十六坪に及べり。本坑は元白土某の借區にして明治二十年頃の區域は、三萬坪に過ぎざりしが、同年松本某、安川某の二名これを受けて、漸次に其區域を擴張し、其後明治二十一年に礦區確定して、規模なす〳〵高大となれり。明治廿九年にいたり、全坑の事業を改良して、明治炭坑株式會社の所有となり、同時に附近の小礦區を合併して、以て今日の盛況にいたれり、この坑は、明治三十年五月第一坑に火を失し、遂に全坑に注水するの止を得ざるにいたり、土工を起して、同年九月十六日に、坑内に水を滿たしめ、數日を經て排水工事に着手せり、この時に注水せし量は、丸そ八萬立方坪に及びしといふ、以て其規模の大を知るべし、現今は、山連なす〳〵盛大にして、其産出額亦た非常の巨額に達すといへり。

The Oshiro Coal Mines.

The Ōshiro Coal Mines belong to the Meiji Coal Mining Company, and are in Chikuzen, Kyūshū. In 1897, on account of a fire, the mine was flooded, but work was soon resumed and is now carried on successfully. The mines cover 1,220,000 tsubo, a tsubo being four square yards.

新入炭坑（筑前）

本坑は、五礦區よりなり、第一坑は、新入大字上新入にあり、礦の事務所もこの所にあり。第一坑は、一百二十四萬五千七百八十七坪の區域を有し、他の四坑を合すれば、總計百八十三萬六千〇三十三坪に及べる大炭坑あり。第一坑は、この五坑の中心にして、元海軍の豫備炭山なりしが、拂下の後に帆足某の所有となり、明治十六年に坑を開き、十七年に機關其他の設備を了へ、又美濃村某の手に移り、其後一二の變遷を經て、明治二十二年、中山植木新入の大礦區と合併して三菱會社の有に歸し、益〻規模と區域を擴張して今日は、筑豐に於ける、一大炭坑として著名なるものとなれり、七百八十五人の雇員と、三千五百餘人の坑夫は、常に採堀の業に勉めつゝありて、一日平坪百十萬〇八千餘斤の多量を出だすといふ、以て其規模の壯大なるを知るに足らん。

The Shiniri Coal Mines.

These mines are in Oita Prefecture in the island of Kyūshyū. They have been under the control of the Mitsubishi Company since 1889. They furnish occupations to 3,500 miners and 800 other employées. The average daily output is about 550 tons.

篠山神社（筑後）

封建の時代に、諸侯伯か、各自に祠宇を建立して、其祖先を奉祀せしは、一般の慣例なりしが如し。篠山神社も其一にして、久留米市内にありて、藩主有馬氏の祖先を祭りしものなり、社宇は壯麗にして、境内亦たひろく、社殿より其他の建物は、皆な藩の資力を以て造營せしものなれば、自ら莊嚴の趣ゆりて、祖先の威靈を安んずるに足るものあり、境内は、瀟洒にして閑靜に、四時の遊覽に適する故に、參拜を兼ねて、散歩逍遙を試むるもの頗る多く、又た市内の一靜境たり。

高山彦九郎之墓（筑後久留米）

幕末の三奇傑の一として名高き、高山彦九郎正之は、上野足利郡に生れ、夙に、勤王の念厚く、又た、外夷の邊を窺ふを患いて、東奔西走殆んど寧日なく、其間、奇行の人口に膾炙するもの尠からず、而も、其奇行たる、一々忠君愛國の至誠より出でしものにて、細かに、これを忖度すれば、其人の高義尤も慕ふべきものあり。晚年九州に遊び、足を久留米城下に留めて士人某の家に寓したりしが、一日、自家日記論策等を、悉く破毀しつくし家人の間を窺ひ、自屠して死せり、其死因に附いては、未だ之を詳にせしものあらず、或は曰く狂せるなり、と然れども、彼れの狀は、憂國の餘に發せしもの、たとひ狂せりとするも自ら心事の畏敬すべきものあり、久留米に遊ぶものは、須らく其墓前に禮拜してこの奇傑の魂を吊ふべきなり。

水天宮（筑後久留米）

久留米溜の下町にありて、舊有馬藩の創立せる神祠なり、この祠は、靈驗の驗著なるを以て世に知られ、諸所國々より參拜するもの非常に多く、祠前常に市をなせり、蓋し、愚俗の社祠を崇拜するは、一般の習慣にて、別に怪むを、要せざるも、この祠の如きは、就中驚くべきものといふべし。この祠より出だす守り札は、安產及び水難除けに、靈驗ありとて、其極、種々の憶說想像を逞しふして、奇怪のことを世に傳ふるに至れり、以て、俗間の信仰厚きを推すべし、東京市の蠣殼町にある水天宮は、即ち、この社の分身にして、その緣日には、老幼兒女未明より群集し、爭ふて神符を得んとを勉め、其雜沓名狀すべからずといふ。

萃香園（筑前）

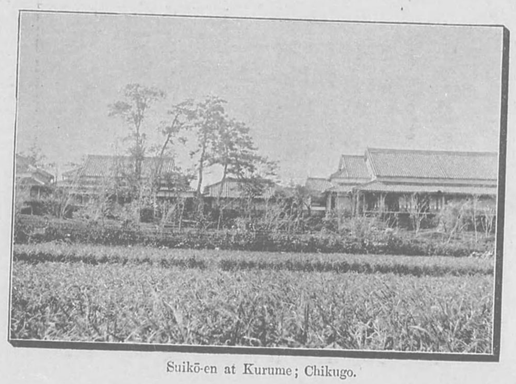
久留米市の北端櫛原町にあり、土地高燥にして四近の眺望に富み、肥筑の山嶽一眸の間に迫り、筑後川の長流指顧の下にあり、附近の田園村落は、恰も、この園の外廓たるが如く風景いふべからず、園内の光景亦た賞すべく以て遊人雅客の杖を曳くに適す。園内には廣大なる樓臺の設けありて、大小の客室頗る多く、短銘の旅客も、數多の集會も、自由に其便宜に賴ることを得べし、この旅館は九州にも有名なるものにて、來遊の貴顯紳士は概ねこれに寄らざるなく、割烹の美にして、待遇の到れる等、まことに、園内の風光に耻ちずといふ。

（筑後久留米）水天宮

Shintō-Temple of Suitengū at Kurume, Chikugo.

（筑後久留米）篠山神社

Shinoyama Shintō-Temple, Kurume; Chikugo.

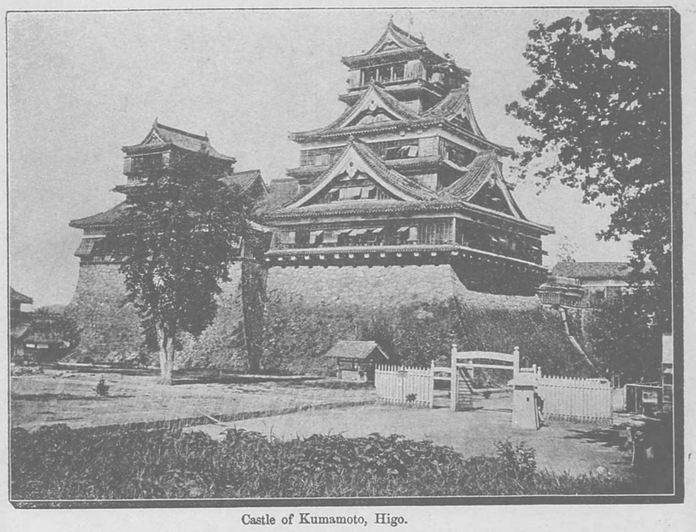


（筑後久留米）翠香園

Suikō-en at Kurume; Chikugo.

（筑後久留米）高山彦九郎の墓

Tomb of the famous Imperialist Takayama Hikokurō, at Kurume, Chikugo.



（肥後）　熊本城

Castle of Kumamoto, Higo.

（薩摩）　鹿兒島より櫻島遠望

View of Sakura-jima Island from Kagoshima; Satsuma

熊本城（肥後）

慶長年中、有名なる加藤清正の築きしものにて、現今第六師團の所在地たり。西南の役に、當時の樓櫓多く燒失せりと雖も、城濠其他の規模は、依然として當年の雄大を想はしむ、特に城の中央に聳ふる天主閣は、巍然として天を摩し、鬼將軍の稜々たる氣節を表するものゝ如し。城内には、老樹古木立ち茂り、畫尙ほ小暗きあたりに、裝々たる石垣青苔滑なり、傳へいふ、この城中の各建築にれける疊床は、ことゞく芋莖を以て織られたりと、これ名將が万一を慮れる計に出でしもの、以て、其深沈大謀を察すべきなり。城上より市街其他の眺望亦た甚だ富めり、彼の丘を指し、この岡を見て、谷將軍當年の籠城を追懷するも一興ならん。

The Kumamoto Castle.

This castle is in the city of Kumamoto, the capital of the province of Higo. It was built about the year 1600, by Katō Kiyomasa, but with the advent of Iye-yasu, it passed into the hands of the Hosokawa family who continued to hold it until the Restoration. Of late years, it has been occupied as the head quarters of the Sixth Division of the Imperial Army. Most of the castle was burned during the Satsuma Rebellion, but the tower was saved.

鹿兒島より櫻島を望む（薩摩）

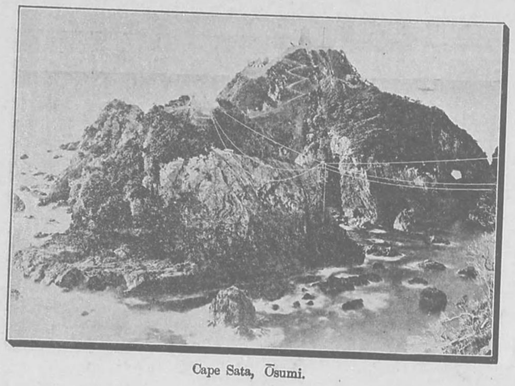
脚を百二都城に容れて、當年の健兒の意氣を追懷し、遙に眸を放てば、鹿兒島の水洋として涯なき邊に兀として高く峙てる蠶峯あり、これ平野二郎國臣をして

我胸のもゆる思ひにくらぶれば
　烟はうすしさくらじま山

との述懷を寄せしめたる櫻島の火山なりとす、孤峰高く海波を拔いて立ち、白雲ときに其腰を遶り、烟霞ときに天をつく鹿兒島より之を眺望すれば、風景恰も畫圖の如く、健兒をして節を拊つて浩歌せしむる概あり。地文學者の說によれば、鹿兒島灣は、往昔一個の大噴火口たりしものにて、櫻島は、その火口底の中の一隆起に過ぎざりしなり、といへり、滄桑の變も、於是乎驚くを要せざるなり。

Sakura-jima.

This is the name given to a volcanic island near Kagoshima. Geologists say that the Bay of Kagoshima was the crater of an immence volcano and that Sakura-jima was a cone within it.

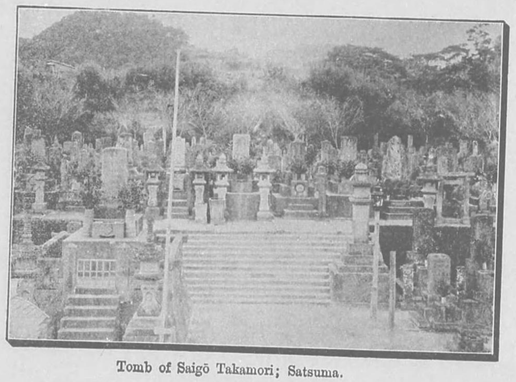


（大隅）佐多岬

Cape Sata, Ōsumi.

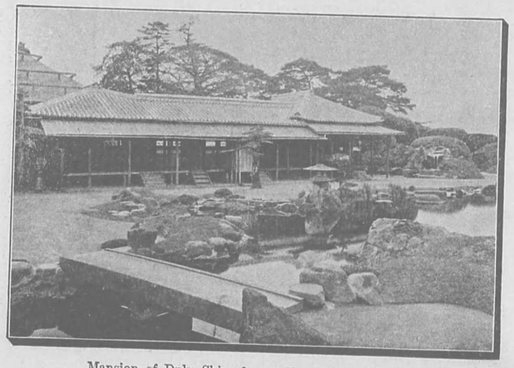
（肥後阿蘇山）湯の谷温泉

Yunotani Hot-Springs, Aso Mountains; Higo.



（薩摩）西郷南洲の墓

Tomb of Saigō Takamori; Satsuma.



（薩摩鹿兒嶋）島津家の庭園

Mansion of Duke Shimadzu at Kagoshima, Satsuma.

西郷南洲之墓（薩摩）

鹿兒島市の淨光明寺にあり、左右に、翁と共に死せし、桐野利秋、村田新八、篠原國幹其他諸名士の墳墓並列し、大山綱良の墳も其傍にあり、南洲翁の事蹟は、已に世人の熟知するところ、墓前に香華の絶ねすして、百二都城下の健兒が、禮拜して去るに忍びざるは今日に於いても、跡を絶たず、今や、國歩嶮危にして、上下擧つて偉人の出でんとをおもひ、渴望の念は、常に、この淨光明寺裡の墳墓に向はざるはなし、地下の英靈果して何の感を抱くべきか、墓前に立ちて、仰いで城山の高さに對し、俯して香烟の縷〻たるを見るときは、感慨の涙に双袖を濕さゞるものなけん。

島津公庭園（薩摩）

萬治年中に、島津光久の築きしものなり、大國の主宰者が、經費を惜まずして、營みしものなれば、園内の景色に豐あるといふばかりなく、泉あり林あり、峩々として立てる奇石あり、萬綠翠を滴らす叢あり、影亦た蒼き修竹の徑を涉り、荻蒿生ひ茂れる邊に嘯き徐ろに逍遙すれば、身の神仙の境にあるを覺ふべし。園外の眺望亦た絶佳にして、寺院堂廟の碧瓦は、呼ばゝ、答へんとし、薩摩富士の稱ある海門嶽は、巍然として雲際に望むを得べし、附近の勝區名勝は、概ね眼下におちざるなく、實に九州の一名園たり。この園は仙巖洞の稱あり、昔し藩公、園の内外景勝各八を撰ばしめ、清の十六秀才をして各自に一ヶ所を賦せしめたりといふ。

佐多岬（大隅）

九州の地脈南方に極まり、一大半島をなして太平洋に斗出するものは、大隅の佐多岬なりとす、岬の尖端の指すところ、漫々として際涯なく、海波遠く雲に接す、この間に、種子嶋大嶋などの翠黛を望み、大船巨舶の波濤を劈いて駛るありて眺望の開豁雄偉なるといふべからず、岬頭の景色亦た、頗る佳にして、觀風逍遙に價値あり、この地は、かくの如く海洋に斗出し、馬關を經ざる船舶は、ことごとくこの岬角を掠めて過ぐる故に、海軍の要地として、望樓等の設置あり、又た、燈明臺の巍立せるありて、遠くより、これを望めば壯觀氣宇を宏快ならしむるものあり。

阿蘇湯の谷（肥後）

有名なる阿蘇火山の中腹にある溫泉場にして絶頂より二里程の所にあり、湧出する溫泉は甚だ熱くして、冷水を混せざれば、入浴する能はず、人家六七十戸あるも、たゞ夏時に而已入浴客ありて、其他は極めて寂寥たりといふ。土地高燥なるが故に、四近の眺望に富み特に阿蘇山の連峯近く目前に迫るは、壯觀とするに足るべく夏期に於いては、尤も避暑に適すべき好溫泉といふべきも、阿蘇活火山の中腹に位するとて、到るところの岩罅洞穴等より、時々黑煙を噴出して、破裂の徵候の恐るべきものあるは、入浴の客をして不安の念を抱かしむといふ。

高等旅館

御旅館

臺灣新竹城内
塚廼家
館主 宮松右衛門

當館の長所は畏くも本島經營の犧牲に供せられし故陸軍大將北白川宮殿下の御露營跡紀念石碑を遙に拜するを得又山秀て水清き景色に富めるとは花客諸賢の已知せらるゝ所也乞ふ旅行の士よ一泊の榮を賜はらんとを

同新車停車場前
第一同支店

同新竹管内頭份街經便停車場前
第二同支店

同
同

並に内外雜貨日用品販賣

貸座敷
會席
御料理

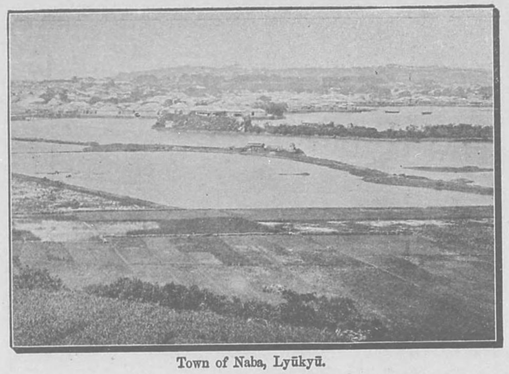
新竹南門外塚廼家第三支店
群鶴樓

那覇港の遊廓（琉球）

那覇港の西南部にあり、この地第一の遊廓にして、和洋風の樓臺檐を連ね、其規摸頗る大なり。吾妻館の如きは、四ケの樓臺より成れるものにて、那覇臺は四階造の高臺にして前にあり、好風樓は東にあり、望洋閣は西にあり、中央に水月齋ありて、四樓ともに眺望に富むはいふを待たず、庭園の配置室内の裝飾ともに盡さゞるはなし、其他の遊廓いづれも結構壯麗ならざるはなく、南海の嶋上にも、如是き美麗なる歌舞樓臺ありとは、世人の想像し能はざるものなるべく、傳説の所謂る龍宮なるものは、正にこの地のとならんか、まことに、内地にも見るべからざる銷金窩といふべし。

那覇市街（琉球）

鹿兒島の海岸より船を發して、太平洋上に恭布せる群島の間をすぎ、航程三百七十三浬にして冲縄島の那覇港に達すべし、船をすてゝ上陸すれば、先づ、目を驚かすものは、市街の光景なりとす、内地と聊か趣を異せる大廈は街を壓して、並立し往來頻繁にして百貨輻湊し、其繁華なるは。絶海の孤島中にあるを疑はしむ。

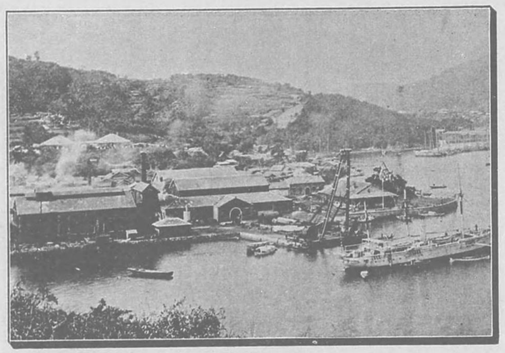


（琉球）那覇市街遠望

Town of Naba, Lyūkyū.

（琉球）那覇遊廓

Public Houses at Naba; Lyūkyū.



（肥前）長崎海岸

Nagasaki Bund; Hizen.

角兵衛獅子

Kakubejishi, Street Contortionists.

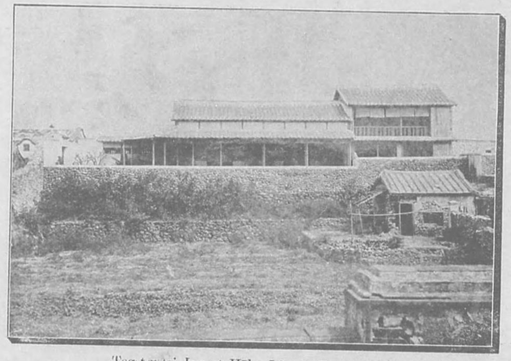
（日向）宮崎神社

Miyazaki Shinto-Temple; Hyūga.

（肥前佐賀）松原神社

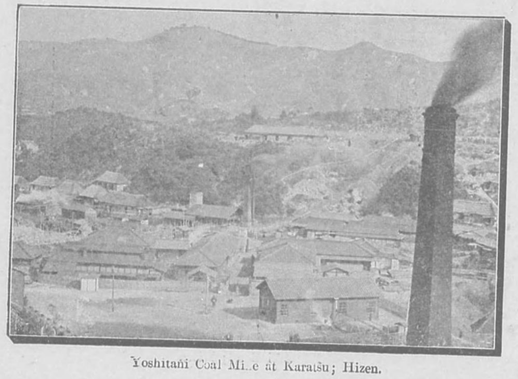
Matsubara Shintō Temple at Saga; Hizen.

（臺灣）澎湖島吐月亭



Tog-tsu-tei Inn at Hōko Island; Formosa.

（肥前唐津）芳谷炭坑



Yoshitani Coal Mine at Karatsu; Hizen.

宮崎八幡宮（日向）

宮崎郡大宮村に鎮座まします官幣大社にして、皇祖神武天皇を奉祀す、この宮の勧請は遠く神代の時にありて、筑紫の鎮守たりし神八井耳命の御子、天健磐龍命、皇祖父の宮居し玉ひし故趾に一社を建立し、其神靈を安んじ玉ひしを最始とすといふ。境内は、老杉古松茂りに茂り合ひて、日光洩れず蒼苔滑に、其幽邃にして神寂ひたるを、詣者をして。神代の昔に在るを覺えしむ。社殿は、奥院、本殿、拜殿、神樂殿、神饌等數棟あり、就れも神聖にして神々しきといふはかりなし、宮の近傍は、神代に於ける宮崎の宮趾と稱せられ、古陵十數基今も現存し、往々に、田畝の間に古器物を發掘するとありといへり。

松原神社（肥前）

佐賀市松原町にあり、明治八年の勧請にして、舊藩の遠祖鍋島直正を奉祀し、縣社に列せらる、社前には、老杉樹々として晝も尚くらく、境に入れは、地清潔にして塵をとゞめず、景趣自ら神寂ひたり、社殿は、宏壯偉麗にして金碧燦然たり、社の南方に神園あり松樹參差として枝を連らね、梅樹亦た多し、小池あり、清水岩間より湧きいでゝ、清漣風に搖き、鯉魚悠然として游泳する狀、いかにも清趣あり、池中に奇石の峙つあり、傍に噴水ありて、龍口より珠玉を迸らす。境内の一隅に、直正の勳功を記せる碑文あり、高さ丈餘、人のこの園に遊ぶもの、これを讀んで氏の偉績を慕ひ、社殿の方を顧みて襟を正さゝるはなしといふ。

澎湖嶋吐月亭（台灣）

三千年來の歴史を有する日本帝國が、海岸に版圖を披きしは、實に、臺灣島の割取より始まる。台灣の要地たるは。識者の説くところにして、この要地と清國福州とを分つ海峽に孤立し、支那沿海の咽喉を扼するものは、實に澎湖島なりとす、されば、この島の將來は我日本にとりて忽諸にすべからざるものにして、東洋の海上權の消長が、その埠頭に在りといふも過言にあらず、故に、新占領となりし以來、具眼の士が、本島に渡來するも頗る多く、吐月亭は、これ等の旅客の爲めに、安息と利便を與へん爲に設けられたる、同島一の好旅館なり、諸般の準備整頓して、不便なる孤島に在りて、而も其不便を知らざるは尤も世人の賞賛を存する所以にして、其業務益盛大を加へつゝありといふ。

清水寺（肥前）

人烟輻湊の長崎市を出でゝ、東方に向へば、風頭山の中腹に、堂塔の影參差として相連なり、風景の自ら塵埃と遠ざかれる境を見るべし、こは、附近に名高き清水寺の靈地なりとす、鐘磬の音絶ゆる時なうして、香烟常に堂に滿ち、老若男女群をなして參詣し、觀音菩薩の御名を唱へて、大慈大悲の恩德を祈らざるはなし。境内は、清淨にして閑雅、加ふるに、土地高さが故に、吹き來る風も塵を含まず、前方には、稻佐岳の巍々として天を摩するありて、眼下に長崎市街の大半を望むべく堂邊に立ちて四觀すれば、心氣爽然として六根自ら清淨なるを覺ふべし。

長崎舊居留地（肥前）

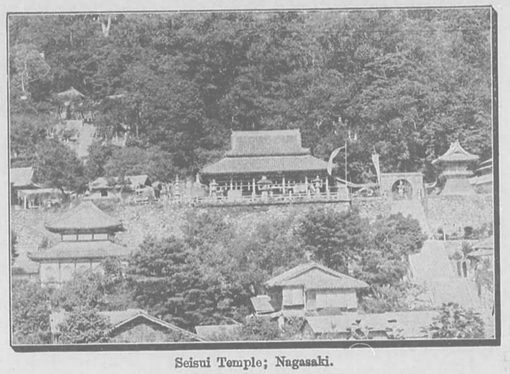
市の南端にあり、數多の市坊を有して、大廈巨屋軒を接し、頗る繁華の市街たり、長崎は其開港の年月久しきを以て、居留地の規模も自ら他と異なるところあり、和蘭人の出島町、支那人の梅ヶ崎町に於けるは、已に寛永年間に開かれたるものにして、目下、尤も廣濶なる場所は、概ね維新後年月を經て開かれたるものなり、現今の區域は、出島、新地、廣馬場、梅ヶ崎、常盤、大浦、松枝等の市坊をふくみ稅關、郵電局、警察署、等の諸官衙もこの域内にありて、街上常に賑へり、大浦町の後方なる丘上には、鎭西學館、活水女學校、スチール學校あり、梅ヶ崎町の後丘には、町名を冠せる女學校あり、孰れも外國人の設立にかゝるものなりといふ。

圓山寄合町（肥前長崎）

長崎市の東隅の丘上にありて、此地第一の遊廓地として世に名高し、山の口より登りて、右方に折れて更に左方に廻れば、百餘の青樓坂路に沿ふて相連なるを見るべし、後方には招魂場あり、前面には、長崎市街の大半を望み、大德寺の伽藍と縣立病院は右方に隣りし左方は、谷を隔てゝ風頭山の翠巒呼へば膺へんとす、各樓は、構造壯麗にして、白堊粉壁相映じて立ち、其景狀まことに九州第一の錦金窩たるに背かず、隨陽亭、大壽樓、花月樓は尤も高壯なるものにして、就中、花月樓は、名儒山陽の書きたる屏風と、唐の楊貴妃の用ゐしてふ「鶴の枕」を藏せりとて、夙に風流の士の間に其名を知られたり。

三菱造船所（肥前長崎）

船に乘りて長崎港に入れば、左手の小丘を負ひたる一大建築物あるを見ん、烟筒の煤煙天に冲して、機械運轉の音水にひゞき、一見して其壯大繁盛なるを想はしむ、こは、三菱造船所にして、近年、六千噸の常陸丸を造りいだせしところなり。同所に於ける船渠は數個ありて、以て船舶を入るゝに足るも、今や、益々其歩を進めて、一万噸以上の船艦をいるべき大船渠の構造に從事しつゝありといへり。日本に於ける私立の船渠にして、これに及ぶものなく、規模の大にして、營業の活潑進取に向へる、まことに、日本大富豪の工業場として、世界に誇稱するに足るものあり、現任の所長は、三菱の老將として雷名高き莊田平五郎其人なり。

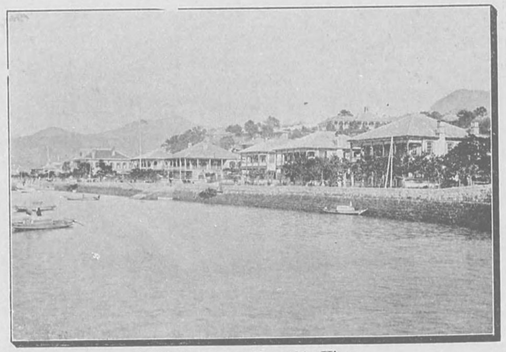


（長崎）清水寺

Seisui Temple; Nagasaki.

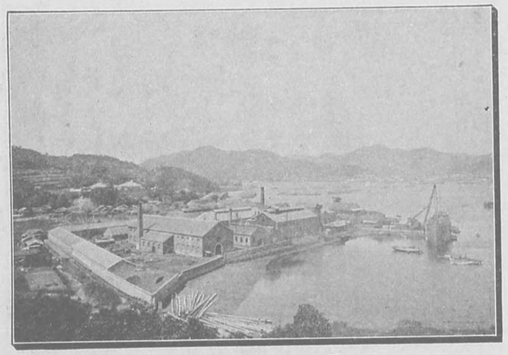
（肥前長崎）丸山寄合町

Moruyama at Nagasaki; Hizen.



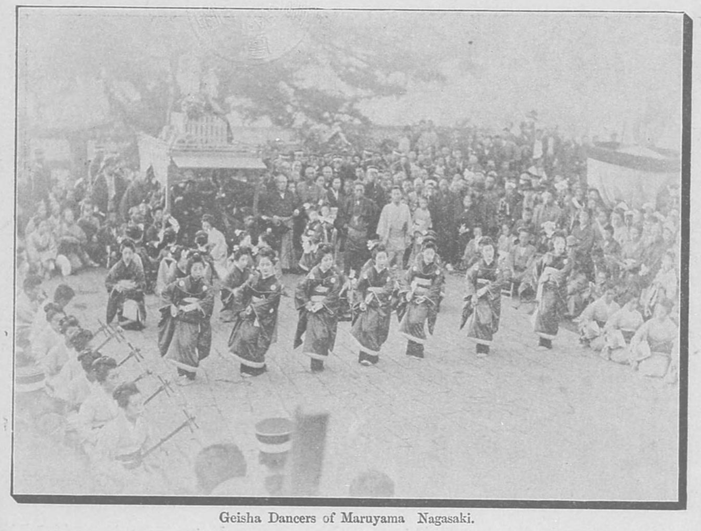
（肥前長崎）舊居留地

Old Settlement at Nagasaki; Hizen.



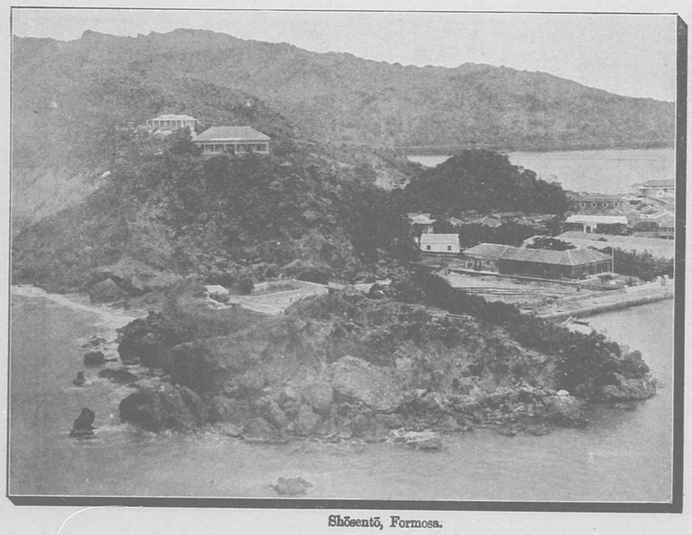
（長崎）三菱造船所

Mitsubishi Dock yard, Nagasaki, Hizen.



（肥前）長崎丸山の藝妓踊り

Geisha Dancers of Maruyama Nagasaki.



（臺灣）硝船頭全景

Shōsentō, Formosa.

丸山の藝妓踊り（肥前長崎）

長崎市が、船舶の交通はげしきより、自然と足を留むる人多く、隨ふて、花街柳巷の地亦た歌吹の海をなせり。この海に泛ふ嫖客の寄るところとして、長崎の名よりも名高さは、實に丸山の鎖金窩とす。絃聲歌聲常に絶ゆるときなく、越妃呉姝紛として客を迎ふ。丸山の踊りは、この廓の校書が、歌舞を演じて客を誘ふものにして、大妓謠ひ、小妓撾鼓し、妙齡の美妓長袖を揭げて舞ふ、紛々錯綜して蕩子の魄を褫ふものありといふ。かの頼山陽先生が、

盈々積水隔音塵。穿眼來帆知那邊。
自慰吾濃勝纖女。一年兩度迓郎船。

といひしは、まさに外船の客を待ちし當年の妓女を寫したるものなり。

打狗硝船頭（臺灣）

打狗灣は臺灣の西南端に在り其灣口に一の小海峽ありて、其幅員は、約六七十メートルに過ぎず、海岸より、奇岩磊々として聳へたち、其景狀甚だ壯觀なり、山上には、英國の領事廳ありて、其左の山頂上には、打狗砲臺の設けあり、領事廳の下方に小家屋ありて、それより左方の海岸に沿ひて又小砲臺の設けあり、形勢の雄偉にして、港門を扼せるさまの險要なるはいふまでもなく、風景の佳絶なるとも、自ら人目を爽にするものありて、臺灣に於ける名勝の一として算ふべし。

The Bay of Takao.

The entrance to this bay is a narrow strait said to be only sixty or seventy metres wide, though within there is good anchorage for large vessels. On either side of the strait, the cliffs rise abruptly. On the right, there is a large fort and not far away the British Consulate. On the left, there is another, but smaller fort. The port is one of the most important in Formosa.

鄭成功木像（台灣）

鄭成功が、明の末路にあたり、孤忠を盡し、台灣に據りて其正朔を奉せし事蹟は、夙に史家の賞讃するところにして、台灣の土民は、其德化に感き、其歿後、祠を立てゝ木像を安置し、四時の奉祀今に至るも廢せず、その木像は、廟内奥深く繡帳の中にあり、決して人目に觸るゝを許さず、之を犯すものは、兩眼の明を失すと云でに畏憚せられたりしが、台灣が本邦領土に歸するに及び、はじめて之を公に示すことを得たるものにて、台灣土人を驚殺せしものなり、像は、衣冠儼然として面目活けるか如く、仰き視るもの、蕭然として渴仰の念を禁ずる能はざるものあり、廟は台南にあり、開山神社の號を賜ふて、この地の縣社に列せらる。

諏訪神社より市中を望む（肥前長崎）

諏訪神社は、市の東南なる高丘の上にあり、石階を拾ふて登りつくせば、長崎の全景一目の下に集まる。櫛比せる市街の間より、伊良林神社、愛宕山、願成寺等の祠堂塔宇屹として聳ゆ、白堊粉壁の大屋高樓の屋瓦、爍として日光に閃めく南方大浦の居留地を隔てゝ、名高き平遊所を望むべし、港内には、千艦萬船の帆檣、烟筒、林の如くに並びたち、烟波遙けき灣口には、白帆の影鮮なるさまなど、附近の山光水色凡て眼界に入り、風光の絶佳なる比すべきものなく。一度び、この社頭に立たば、身は、大パノラマの圖中に在る感あるべし。

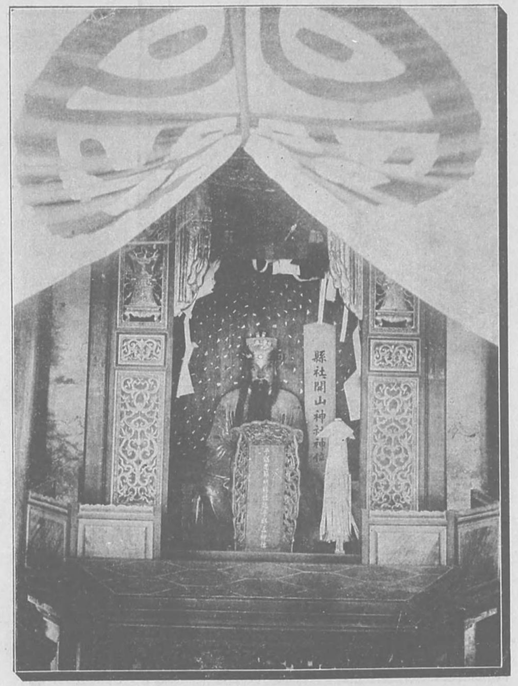
Teiseikō.

Teiseikō was an ardent supporter of the Min dynasty of China. After the fall of that dynasty, Teiseikō, with certain fellow patriots, retired to southern China. About the year 1660 he went to Formosa, hoping to find there the means of reinstating his master's family; but he was unsuccessful. After his death, a temple was built in his honor, and the statue shown in the picture was placed therein. This statue was, until Japanese occupation, carefully concealed by curtains. It was currently believed that whosoever should draw aside the veil would lose his sight.

Suwa Jinsha.

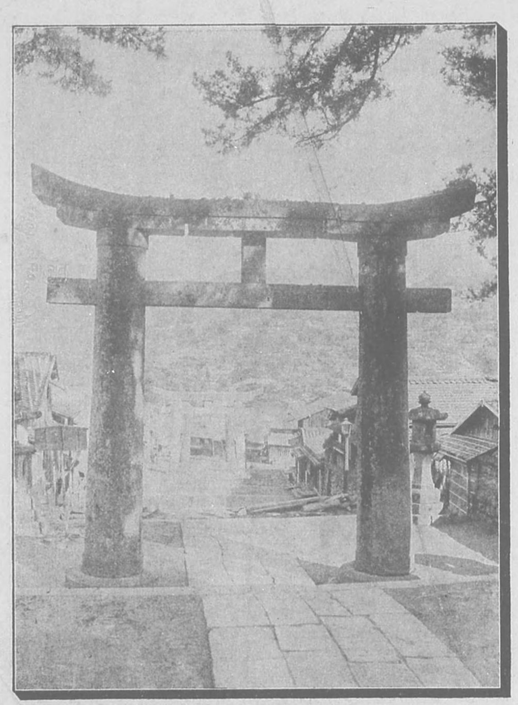
Suwa Jinsha, that is Suwa Temple, is a Shintō shrine situated at Nagasaki. It stands on high ground and affords a wide view, including the city and harbor of Nagasaki. The grounds are maintained as a public park.

（臺灣）開山神社鄭成功の神体

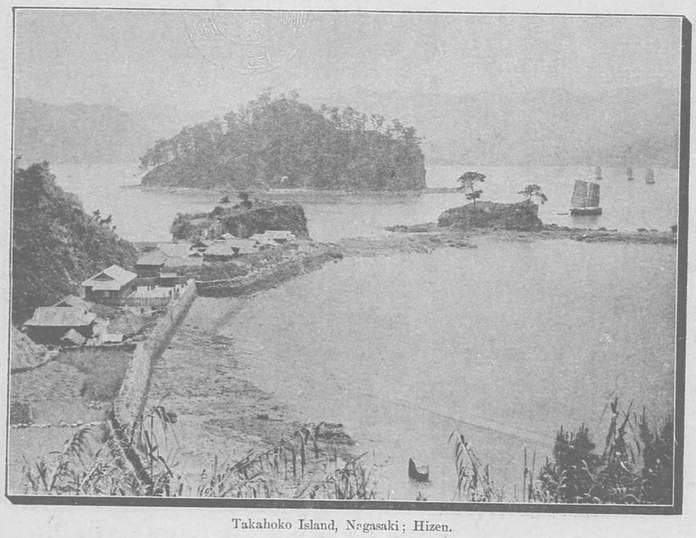


Ima e of Teiseikō in Kaihʌi jinshʌ ; Formosa.

（肥前長崎）諏訪神社境内より市中の遠望

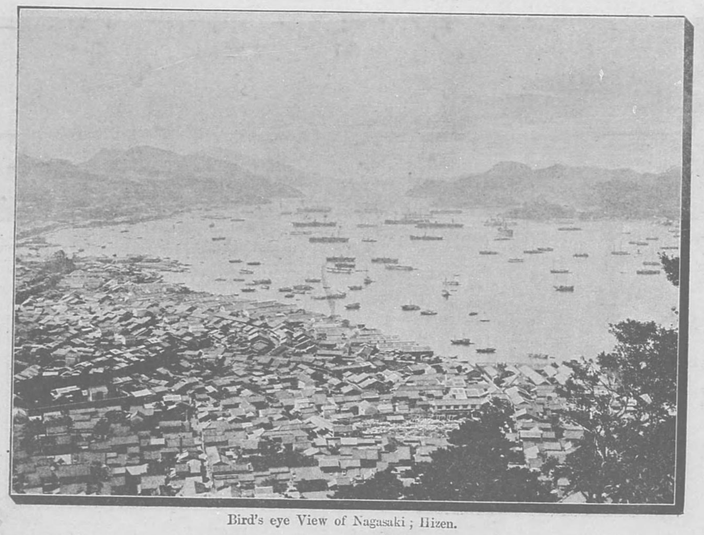


View of Nagasaki From Suwa Shintō-temple ; Hizen.



（肥前長崎）　高鉾島

Takahoko Island, Nagasaki; Hizen.



長崎港全景

Bird's eye View of Nagasaki; Hizen.

東京彫興舍寫眞製版

高鉾嶋（肥前長崎）

汽船に乘じて、玄海灘の浪を破り、五嶋近海の風に送られて漸く長崎港口に近づけば、一個の仙嶋、温容を以て前に迎ふるものあるべし、こは、風景を以て名高き高鉾嶋なりとす。嶋は、長崎港を去ること一里餘の海上にありて、船舶の入港するものは、必ず其附近を過ぎざるはなし。嶋上の眺望は甚だ開豁にして、近く硫黄嶋の焙臺を望み、遠く高嶋炭坑の烟を眺め、海に泛ぶ船舶の影一々指顧の間に點在す。海岸は砂白く水碧にして、風波の怒ること少なく、夏日の海水浴場として。尤も適當なるものなり、現今は、高樓巨屋の建築せらるゝもの數戸ありて、旅客の爲めに避暑觀風の便に供すといふ。

Takahoko-jima.

This is a small island near the entrance of Nagasaki Harbor. Because of its beautiful scenery, this isl and has become a popular summer resort, and a number of hotels and tea-houses have been built for the accommodation of visitors.

長崎港（肥前）

一灣深く陸地に凹入して、一帶の小丘其後方に列なり、水深く波穩にして、帆檣林立し、烟筒の烟簇々として起る。こは有名なる長崎灣なりとす。長崎は本邦開港場の最始のものとして知られ、其最初の入港船舶は、葡萄牙國の商旗を飜へせるものにて、實に元龜年間にあり、爾後和蘭人との交通尤も頻繁にして、長崎なる港名は、尤も早く西洋人間に知られたり。市街は東南北の三面に山を負ひ、西南は海に面す。蓋し五港の中にて、尤も古き歴史を有するは、この長崎港なり、故に日本に於ける海外貿易の沿革を知らんと欲せば、必ず、先つ眼をこの地に着けざるべからざるなり。

Nagasaki Harbor.

The port of Nagasaki was opened to the Portuguese in 1571, by Hideyoshi. Later, the Dutch received permission from Iyeyasu to establish a trading station here. Nagasaki was included in the five ports opened by the treaties of 1858. The people of the city are said to live in closer relation to the resident foreigners than elsewhere in Japan.